Vol. 66通巻764号

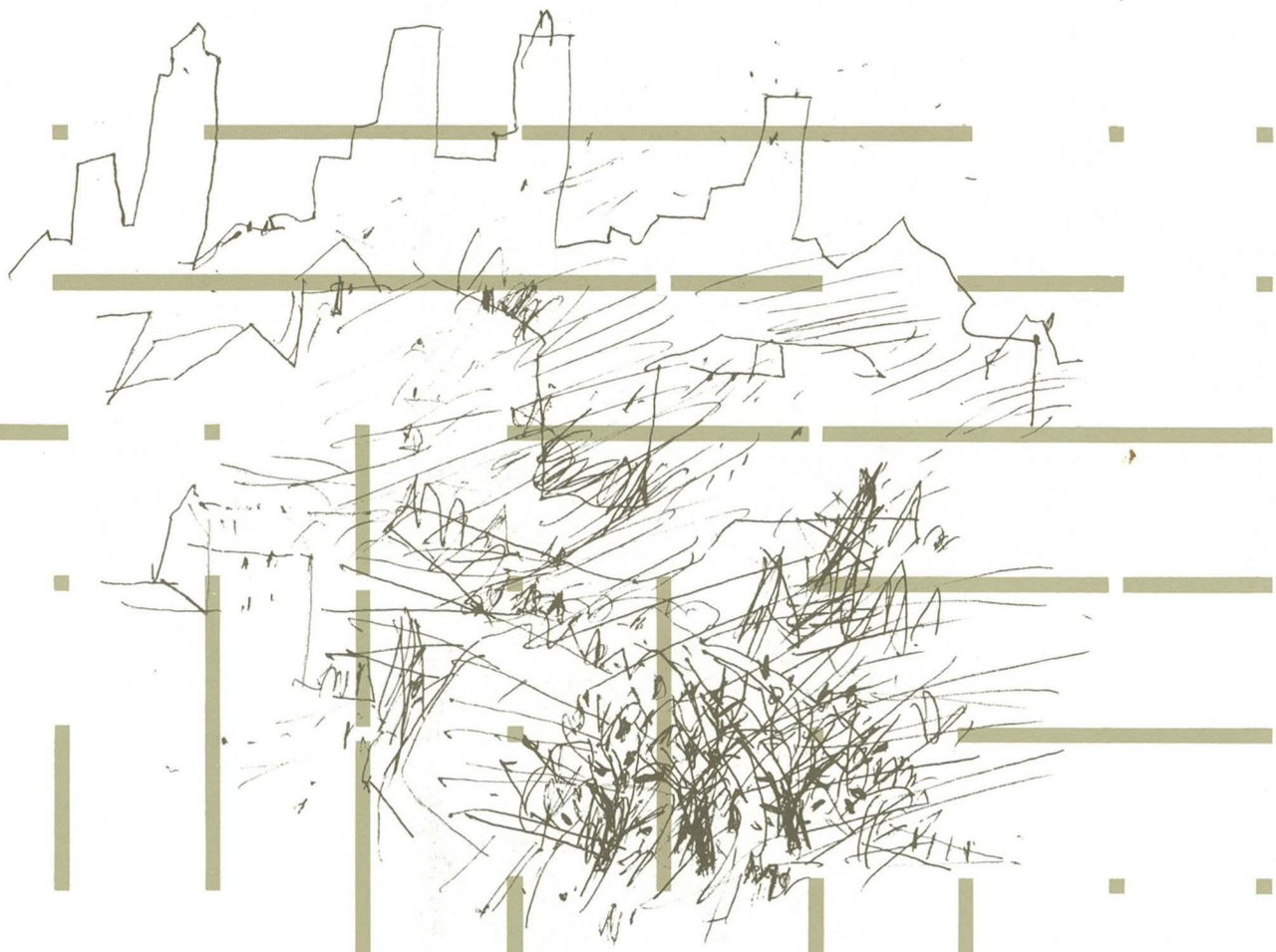
昭和60年11月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建　築　と　社　会

ARCHITECTURE AND SOCIETY 1985 11

特集●村野藤吾の一断章

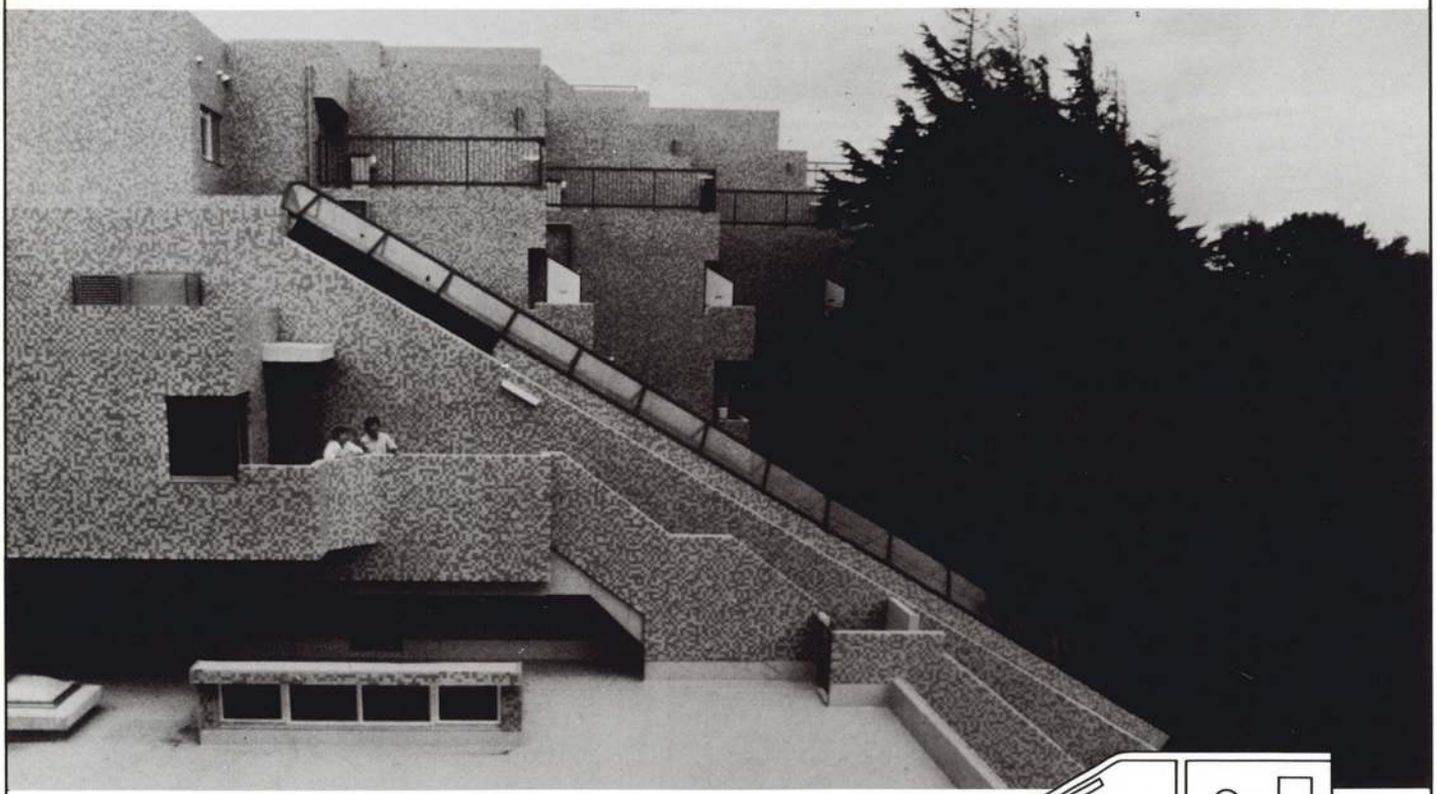
●伊勢湾をめぐる東海の諸問題



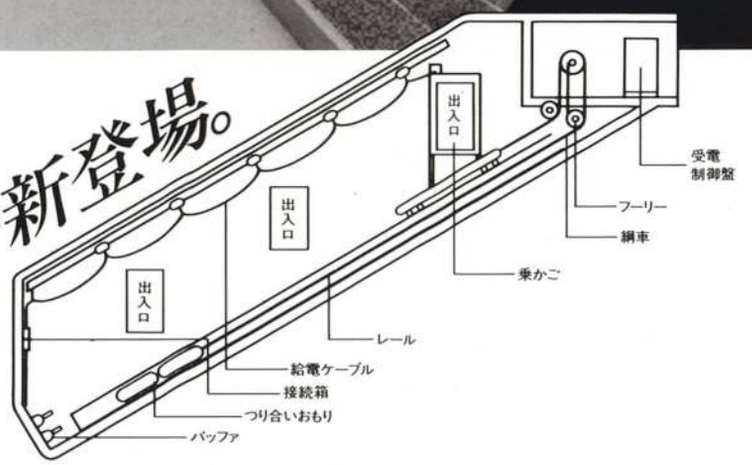
日本建築協会

技術にこころをこめて75年

HITACHI



傾斜地に新しい道を拓いた、日立斜行エレベーター新登場。



最近、豊かな自然環境にある傾斜地を活用したマンションやホテルなどの建設が脚光をあびています。しかし、斜面活用という面から解決させなければならない大きな問題が交通手段で、そこで必要となったのが斜行エレベーターです。エレベーターの動きを「タテ」から「斜め」へ……一見簡単なことのようですが、そこには数々の技術的課題がありました。日立は、いちはやく斜行エレベーターの研究塔を完成させ、研究を重ね、豊富な実績と先進技術で解決。安全性、信頼性の高い斜行エレベーターを完成しました。

日立斜行エレベーターの特長

- 動きもなめらか、乗り心地は快適です。
- 気分もゆったり、ラクラク乗れます。
- 建築基準法で規定されたエレベーターの安全性・構造・機能をすべて満足しております。
- 保守サービスもきめ細かに提供します。
- 機種バリエーションも豊富です。

日立斜行エレベーター

資料請求券
斜行エレ
建築と社会

株式会社 日立製作所

お問い合わせは 機電事業本部／営業本部 〒101東京都千代田区神田駿河台4-6 電話 東京(03)258-1111〈大代〉 または最寄りの支店へ……大阪(06)261-1111
福岡(092)741-5831・名古屋(052)251-3111・札幌(011)261-3131・仙台(0222)23-0121・富山(0764)33-8511・広島(082)223-4111・高松(0878)31-2111

都市住宅を考える（第10回）

◀「芦屋文化村」――その歴史と意義（見学と講演会）

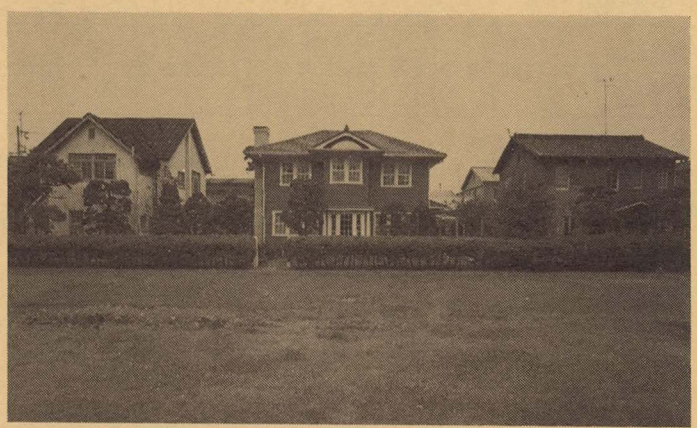
都市型低層住宅地計画におけるさまざまな計画課題のなかで、「コミュニティ形成」、「住宅地景観の形成」は極めて重要な位置を占めていますが、それへの対応手法のひとつとして、コモン・スペースを計画的に確保していくことをあげることができます。

独立住宅地計画におきましても、数戸単位でコモンスペースを確保する試みがなされつつあり、実生活上の長所・短所についても、いくつかの実例を通じて明らかになりつつある状況です。

ところで、今をさかのぼること60年も前に、写真に示すような、10戸余りの洋風住宅群で、中央部に約400坪のコモンスペースをもつ、通称〝芦屋文化村〟が、ある夢多きアマチュア・プランナーによって構想され、実現に移されています。しかも、この夢多き施主――建築家――住人の三者のコンセンサスが、今日までそのコミュニティに受け継がれ、個性豊かな環境保持に脈々と生き続いており、実に希少価値の高い歴史的実例となっています。

今回は、比較的知られていないこの〝芦屋文化村〟を広く知っていただき、その今日的意義について考えていただくべく、見学会と講演会を企画しました。

ゲストには、芦屋文化村の成立過程を調査された山形政昭氏（大阪芸術大学）と、同村に深い関心をいだかれ、かつ日常業務として住宅地計画に取り組まれている大海一雄氏（神戸市住宅供給公社）、および神戸の街並み保存などの運動に力を入れておられる都市計画家・小林郁雄氏をお招きする予定です。また、現地見学においては、主な洋風住宅の見学も予定していますのでご期待下さい。
多数の方のご参加をお待ちいたします。



日　　時　12月11日（水）　集合13：30（厳守）→解散17：00
集合場所　阪神電鉄「芦屋」駅・南出口付近・目標会旗。
ただし、大阪より芦屋まで阪神電鉄片道190円・所要約20分。

講演会場　芦屋市民センター・2階・203室
（兵庫県芦屋市業平町8－24　TEL0797－31－4995）
〔備考〕講演会場へは見学終了後、移動の予定。当日ご案内図をお渡しします。

ゲ　ス　ト
―50音順―
大海一雄 氏（神戸市住宅供給公社調査役）
小林郁雄 氏（株式会社都市・計画・設計研究所代表取締役）
山形政昭 氏（大阪芸術大学芸術学部建築学科講師）

定　　員　50 名

参加会費　会　員 1,200円
会員外 1,500円
} 当日受付にていただきます。
※この催しに参加された方には、「大阪の近代建築ガイドマップ」を差し上げます。

申込方法　電話にて受付をいたします。12月4日(水)までに氏名・勤務先名・連絡電話番号・参加証送付先・会員、会員外の種別をお知らせ下さい。定員超過の場合は抽せんにて決定の上参加証をお送り致します。
（日本建築協会事業課　TEL06－348－0633）

◀会員の受賞

このたび、下記会員の方々は永年に亘る建設界への功労によって受賞されましたので、ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

勲五等双光旭日章
新井　辰一 氏（株式会社新井組）
細野　松雄 氏（三友工業株式会社）

勲五等瑞宝章
浅海　正雄 氏（浅海電気株式会社）
佐野　春吉 氏（森井電業株式会社）
佃　　忠夫 氏（財団法人文化財建造物保存技術協会）

黄綬褒章
中西　　孝 氏（株式会社マンテン）
中道　朝男 氏（株式会社中道組）

藍綬褒章
奥村　武正 氏（株式会社奥村組）

◀青年技術者特集は12月号掲載へ

「第32回青年技術者」は、応募者が32名あり、9月24日の青年技術者選衡委員会の結果、16名が選衡されました。

16名の青年技術者の作品と経歴は11月号で掲載する予定のところを、編集上の都合により12月号に順延いたしました。内容等には一切変更ありません。関係者各位にご了承をお願い申しあげます。

'85建築関係団体合同忘年懇親会ご案内（再掲）

日　時　昭和60年12月13日(金)　6時～7時30分
会　場　太閤園ダイヤモンドホール（ビュッフェ・スタイルのパーティ）

※※※

◀「建築と社会」誌バックナンバーのおしらせ

バックナンバーがそろっております。購入ご希望の方は日本建築協会まで(電話06—348—0635)お申し込み下さい。バックナンバーは特価以外¥ 750(58年4月号以降は¥ 950)です。なお、郵送料は実費いただきます。年間購読のお申し込みも応じます。

＊印は欠号

巻＼号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和41年(47集)	＊都市住居	地下街	空気調和設備	建具金物	建築法規	国立京都国際会館	第13回青年建築家	1970年万国博会場計画	＊造園	最近の地下工法	市街地改造	公害と都市・建築
昭和42年(48集)	＊国立劇場	建設機械	日本建築協会50周年記念号	社会と建築	都市と流通空間	住宅と設備	生産施設	モントリオール万博	建設資金	最近の外装	第14回青年建築家	建築と生命
昭和43年(49集)	都市生活	都市のいこいの場	＊50周年記念事業記録号	＊幼児施設	＊教育施設	＊医療施設	都市交通施設	都市供給処理施設	群としての住居	都市のアクセサリー	第15回青年技術者	新都市計画法の諸問題
昭和44年(50集)	＊建築産業の構造と方向	鉄筋コンクリート構造耐震設計の再検討	計画と住民—中部からの報告	＊老人とすまい	建築史の方向—現代によみがえる過去—	建築行政に期待するもの	転換しつつある住宅生産	＊解決をせまられる公害問題	＊海洋開発	＊民家の系譜と保存計画	＊第16回青年技術者	＊九州からの報告
昭和45年(51集)	現代社会とは何か	建築と安全	＊日本万国博と技術開発	＊設計のシステム化	＊グッドデザイン運動	高層建築問題	欧米における契約	建築家の課題と責任	＊工事計画	ディベロッパー	第17回青年技術者	＊山陽・山陰からの報告
昭和46年(52集)	住宅—60年代の総括と70年代の展望	都市エネルギと無公害化ビル	建築基準法	都市生活とみどり	＊企画と設計のプロセス	解体工学	都市と港湾	転換期のニュータウン	＊軟弱地盤と震災	変貌する建築生産	第18回青年技術者	＊自然とレジャ空間
昭和47年(53集)	冬季オリンピックと札幌	600号記念号	インテリアデザイン	＊都市交通問題	＊水利用	量産住宅の設備	＊一般号(柱中学)		都市住環境へのアプローチ	＊都市防災	第19回青年技術者	北陸の新建築
昭和48年(54集)	建築教育	＊泉北ニュータウンのコミュニティ設施	＊大阪大林ビルディング	＊レジャーと施設	＊大阪国際ビルディング	＊老人コミュニティ	住宅—建築家のすまい	＊新用途地域制と環境	構造と施工	仕上と材料	第20回青年技術者	＊ヨーロッパのまちづくり
昭和49年(55集)	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか	保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギ化	高層プレハブ住宅の構造設計	＊みどり	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年(56集)	図書館	＊東海の新建築	＊インテリア	PC板を使用した工業化住宅	＊社会・建築・法	都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	＊人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	＊集合住宅の設備
昭和51年(57集)	証言'76—建築デザインの動向	＊建築基礎構造の問題点	医療施設	＊床工法と材料	＊建築防災と法	＊市街地整備	工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	集住体のハードとソフト	＊結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	設備からみた建築の問題点
昭和52年(58集)	＊デザインの動向—部分と全体	兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	＊日影規制と法	＊身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年(59集)	デザインの動向—新旧のコントラスト	＊水	医療施設—病院建築と情報システム	外壁塗装材料	＊電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD—設計とコンピュータ	＊一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年(60集)	＊転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制	ホテル建築と情報システム	＊農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年(61集)	80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望	＊●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	＊●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	最近の防水工法	＊都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年(62集)	職能論	中国の論文—北京の都市計画	＊ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法—安全な環境をめざして	都市住宅—住まい手からの発想	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集	住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年(63集)	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設—地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観—まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎(第1期)	音とホール建築	大スパン構造	＊昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年(64集)	＊関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	＊多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト(鉄筋)コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年(65集)	21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う——	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展—	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル(アバンティ)	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年(66集)	大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール—それが生みだす文化—	建物の表情—最近の外壁材料	大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	都市と健康スポーツ	●接合 ●日建設計作品	●村野藤吾の断章 ●東海特集	●第32回青年技術者

雑誌の大きさは第48集からは現行のA4判変形、それ以前はB5判

1917創刊
1985
第66集
11
通巻
764

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

特集●村野藤吾の一断章
●伊勢湾をめぐる東海の諸問題

SPECIAL FEATURES ON A FACE OF CHARACTER Arch. TOGO MURANO
SPECIAL FEATURES ON THE PROBLEMS OF ISE BAY.

「芦屋文化村」－その歴史と意義（見学と講演会）．会員の受賞．青年技術者特集は12月号掲載へ．… 1
松山商科大学御幸キャンパス……設計監理：日建設計大阪本社　施工：清水建設四国支店松山営業所… 4
都ホテル大阪……設計：村野、森建築事務所　監理：近畿日本鉄道建設改良区・村野、森建築事務所…
施工：大林組・大日本土木共同企業体 8
修学院の家II（木下邸）－高松伸建築設計事務所－…… 12
最近竣工した新建築９点（No.1909～1917）〈東海の新建築〉…… 82
三浦啓子（ステンドグラス）／聞き手・黒川省二…… 16
上田信也氏（日建設計設計部長）を訪ねる／インタビュア・広田和正…… 15
受託試験における骨材の品質試験に関する調査報告…… 17
大阪府建築基準施行条例の改正／大阪府建築指導課…… 21
レミファルトT／元木貞次…… 18
マスタープラン／嶋田勝次．いい仕事／生田喜一郎．
心の眼／土肥耕一　新聞に描かれた線／狩野忠正…… 22

村野藤吾の一断章

南大阪教会のスケッチを通じてプロセスをみる…… 24
村野藤吾と大阪／水谷穎介…… 41
村野藤吾の思い出
・村野藤吾と粘土模型－三浦栄次郎／インタビュア・出江寛…… 47
・村野藤吾と照明－横田隆／インタビュア・狩野忠正…… 50
・宇部の「架け橋」／小川正…… 54
・心のともしび／懸山良雄…… 46

伊勢湾をめぐる東海の諸問題

三重県立鈴鹿青少年センター……設計監理：石本建築事務所　施工：西松・戸田・浜口ＪＶ…… 64
豊田産業文化センター……設計監理：豊田市・東海設計　施工：大成建設・矢作建設ＪＶ… 66
愛知県稲沢保建所……設計監理：伊藤建築設計事務所　施工：中村工業…… 68
愛知県立港養護学校……設計監理：伊藤建築設計事務所　施工：鴻池組・三洋建設…… 70
日生ＵＭビル……設計施工：大林組…… 72
日土地名古屋ビル……設計監理：日建設計／名古屋　施工：清水建設…… 74
日本車輌製造本社……設計監理：伊藤建築設計事務所　施工：熊谷・竹中・大成ＪＶ… 76
津センターパレスビル……設計施工：熊谷組・竹中工務店ＪＶ…… 78
神宮東パークハイツ……設計監理：大建設計・安藤建設　施工：安藤、熊谷・戸倉ＪＶ… 80
座談会・伊勢湾をめぐる東海地方の現在と近未来…… 83
上野洋／つばたしゅういち／渡部勝／中島一
伊勢湾から都市をみる〈ルポルタージュ・伊勢湾クルーズ〉／盛田輝勇・高橋大善・
福田泰造・山本正直・中村裕明…… 93
ルポ・東海の建築地場産業
和紙－小原－／河合達雄…… 97
美濃焼－多治見－／後藤博…… 98
石－岡崎－／加藤正彦…… 99
精密木工－浜松－／大澤稔…… 100

免震構造のすすめ（その２）－免震構造の問題点－／多田英之…… 101
VAV空調システム／西沢敏夫…… 102
ホール・イン工法－鉄骨埋込形柱脚の施工法－／高橋泰彦・柏原康則…… 104
日本建築協会月間の動き（昭和60年９月分）…… 106

会告
作品作風
■表紙デザイン
吉引顕久（竹中工務店）
記憶の断片－逆光に沈んで
－サン・ジェミニアーノ
■特集予告
12月号／第32回青年技術者
これからの住空間
1月号／屋根
Gallery－まち・建築・ひと
スケッチブック
この人
設計者のプロフィール
日本建築総合試験所だより
法令コーナー211
新建材紹介コーナー
建築の眼
特集 1
2
3
特集
作品作風
本文 1
2
3
構造の頁135
設備の頁133
施工材料の頁133
月報

会長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
松村雄二・薬袋公明
編集委員会（昭和60年度）
編集委員長
◎井上　滉
編集理事
井上　滉
今井潤之介
金井　弘次
金多　潔
木内　清三
竹中　錬一
武田　恭一
長谷部朔郎
松村　慶三
渡辺　恵
編集委員
（特集小委員会）
■計画分科会
足立　啓
岡田　信幸
奥村　礼子
金澤　成保
杉本　章子
田附　尚
＊田中　直人
中山　徹
藤田　治彦
舟橋　國男
本多　友常
山根　勝利
■構造分科会
日下部　馨
阪本　隆敏
田中　茂樹
西田　理
＊真塚　達夫
俣野　博
山田　裕治
■設備分科会
磯田　憲生
＊遠藤　進
加賀和伊久男
柿内　隆雄
川戸　敏雄
河津　隆之
久須美高朗
中尾　信之
桑　學
■施工材料分科会
荒木　弘之
田中　光紀
西牧　恵吉
前田　松和
＊水口　譲
横井　征夫
■法令分科会
押川　兼宏
＊広江　雅樹
松田　洋三
南出　和延
（投稿規小委員会）
赤井　富弘
伊藤　郁郎
小林　正純
○中馬　博良
永原　守
堀畑　裕一
（作品作風小委員会）
荒川　朱美
浦山　哲
大泉　研二
小椋　豊久
加藤　俊明
菊池　稔
○北村　恭一
黒川　省二
浜崎　彰
松村　孝治
湯地　龍一
（広告企画小委員会）
○伊藤　敬祐
池渕　俊男
大墨　正
木原　幹雄
北村　潤
鳴田　聖二
中井　進
原田　常介
平等　一之
広田　和正
藤田　孝吉
山下　修司
⊗吉田　健次
○渡辺　恵
○副委員長　⊗副委員長代行　＊幹事

編集人　松井昭光
印刷　昭和60年11月20日
発行　昭和60年11月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06－348－0635
振替口座　大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06－606－1111㈹
大信印刷株式会社
電　06－451－7631
定価　950円（送料共）

松山商科大学御幸キャンパス

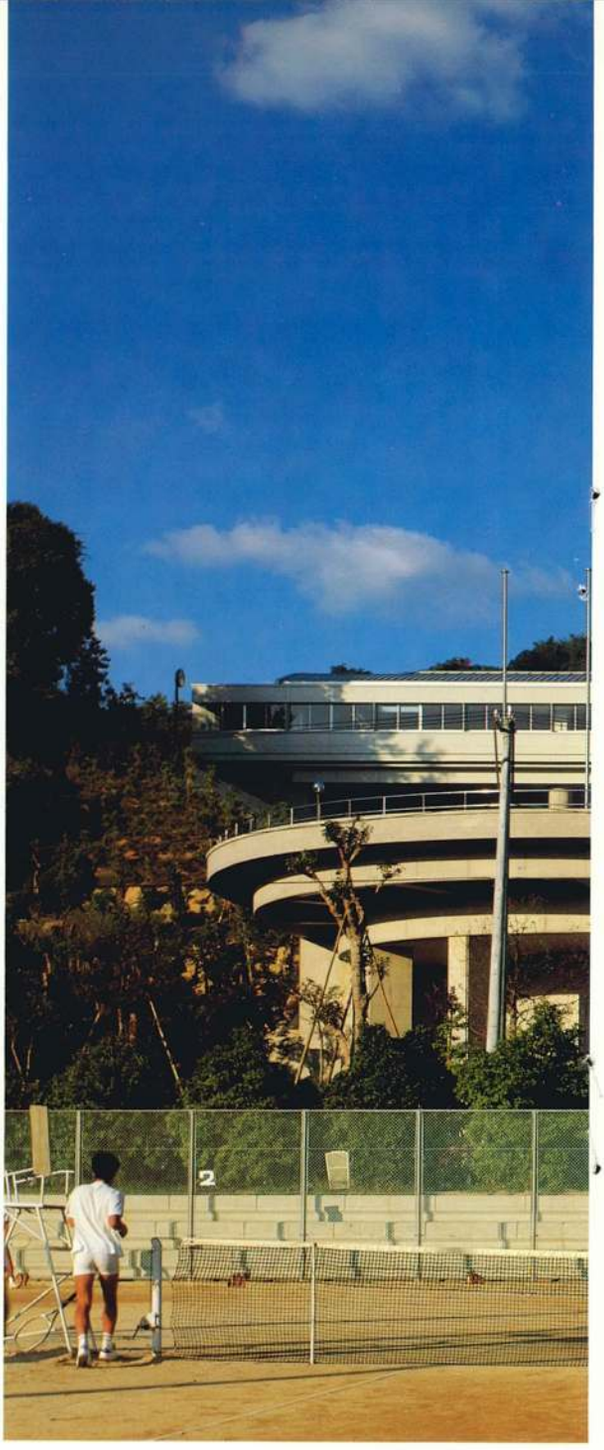
設計監理　日建設計大阪本社

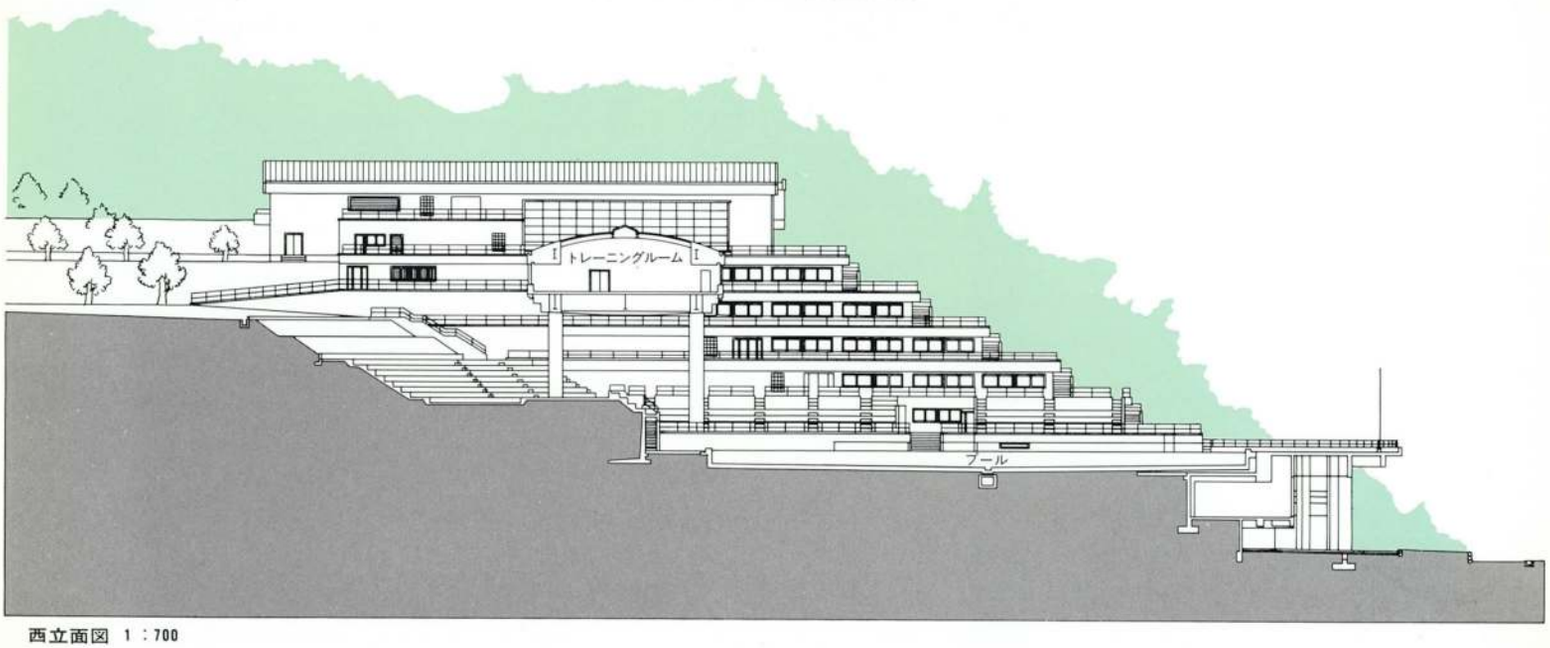
施　　工　清水建設四国支店松山営業所

撮影　岡本公二



西側スタンドよりプール、部室棟を見る

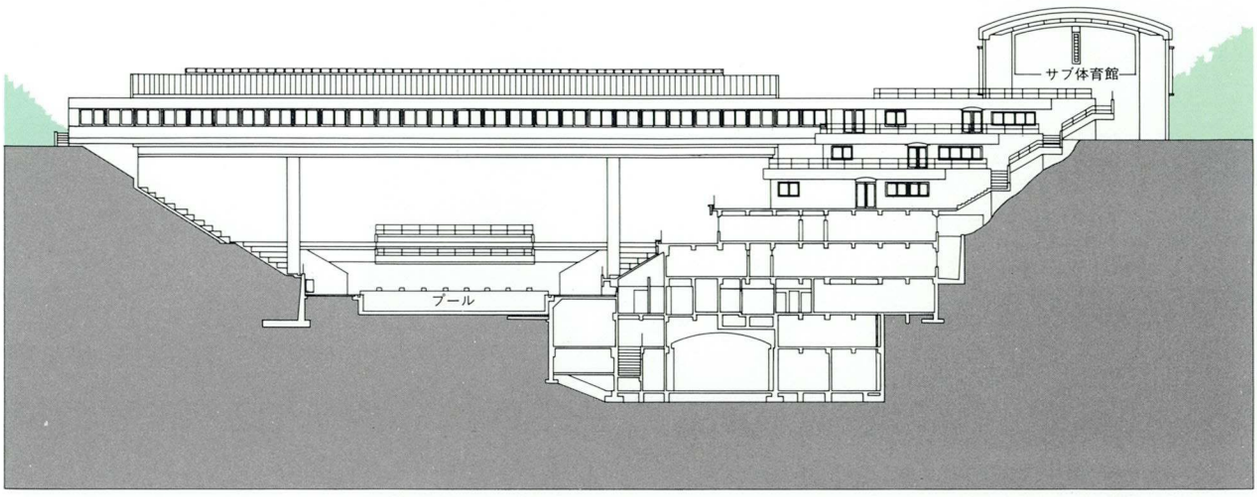




西立面図　1：700

正面全景

屋根：アスファルト防水押コンクリート、特殊カラー鉄板瓦棒葺 t0.5
外壁：コンクリート化粧打放し、アルミパネル t2.0加工、ABE仕上



断面図　1：700



部室棟上部南面



部室棟斜め吹抜け階段

所 在 地　愛媛県松山市御幸１丁目513－１
敷地面積　26,293.62㎡
建築面積　 4,754.556㎡
延床面積　 9,796.624㎡
構造規模　ＲＣ造（一部　PC、PRC、S、SRC）
　　4階建10層
工　　期　昭和59年２月～昭和60年３月
最 寄 駅　予讃線　松山駅

こころなき人の手によってＶ字形に削り取られた荒れた山肌が我々に大きな命題を与えてくれた。

松山商科大学は松山城を南に仰ぎ緑豊かな丘陵を背負っている。しかしこの由緒ある丘陵も、いつの頃か土取り場として土が削り取られ、松山城を囲む山々の中で唯一バックリと傷口をあけたようであった。松山の人々はもとより、松山商科大学の人々はこの光景を永年のあいだ堪え難い思いでながめ、なんとか修復利用できないものかと考えていた。本校地から300ｍ程離れた松田池跡地に数年前つくられた“御幸グラウンド”に隣接し、学生のスポーツ・自主活動ゾーンの一角として建設されたこの施設は、こうした大学当局の思いから出発したのであった。

配置計画としては、谷間に置かれた50ｍ公認プール、谷に沿った西側のスタンド、山の陵線に沿うように斜めにセットバックした部室棟、さらに東西の山を繋ぐトレーニング室を持つブリッジ棟、地形を利用した野外劇場で構成され、自然のダイナミックさをそのまま活かす空間構成をねらっている。

またスタンドは危険な法面を保護することになり、下に音楽練習室、中ほどにプール関係諸室、上部にサブ体育館を持つ４階建10層の部室棟は不安定な崖地を押さえる役目も果すことになる。

斜めに連なる各階への動線としては、斜行エレベーターと、それに平行するトップライトを持つ“斜め吹抜け階段”を計画し、ともするとじめじめしがちな空間に自然採光を取り入れ、その“斜め吹抜け”を通しての自然通気が図れるようになっている。

仕上面でもコンクリートを初めとしてほとんど素材のままとするなど、周辺環境との調和に全力を注いだつもりである。

いずれにしても難しい設計・工事であった。大学当局の精力的な情熱無くしては不可能であったろうし、行政面から工事関係に至るまでの関係各位の理解の上にやっと実現したものである。

（本　耕一／日建設計）



ブリッジ棟内部より



プール下

都ホテル大阪

設　計　村野、森建築事務所
監　理　近畿日本鉄道建設改良区・村野、森建築事務所
施　工　大林組・大日本土木共同企業体



エントランスアプローチ

撮影　東出清彦



2階ロビーより吹抜ホールをみる

都ホテル大阪

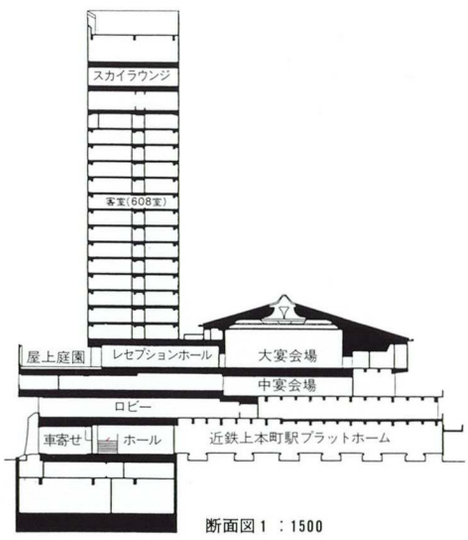
屋根：アスファルト防水軽量コンクリート押え
　　一部着色石綿スレート葺
外壁：アルキャスト変性アクリルイソシアネート樹脂塗装、
　　一部耐候性鋼板ポリエステルイソシアネート樹脂塗装、
　　大理石張りスチール枠パネル



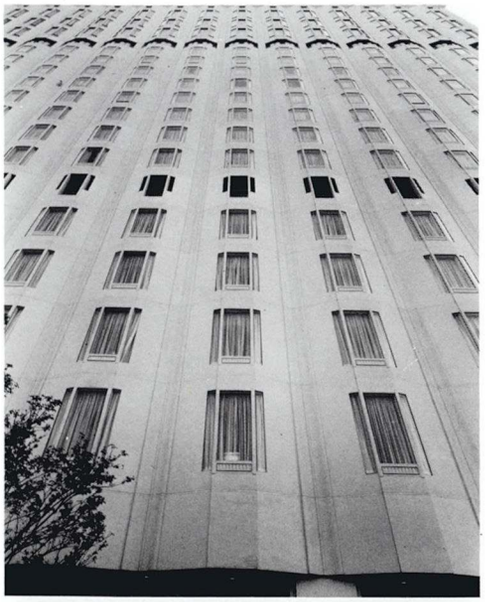


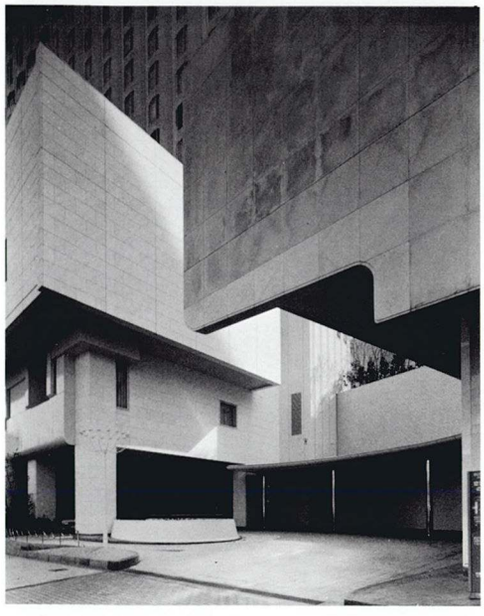
近畿日本鉄道の上本町ターミナル整備計画の一環として計画された、この「都ホテル大阪」は、西の百貨店と南の近鉄のターミナル駅と有機的に連関している。
高層部（ホテル）と低層部（宴会場等）に分かれているが、ホテル棟は西から東へ低く、それがひとつのスカイラインを構成し、立面は波状に形成されている。外装はアルキャスト、大理石の白い外観となっている。
低層部は、ロビーに沿って車路となっていて、ピロティで上階を支えているが、このピロティ柱の間に、７本の細分した円形断面の給排気筒をつけ、独得の村野調ともいうべきアクセントを構成している。
１階ロビーの天井には、山沢英子作の写真がアブストラクトな色面を拡げている。これは村野先生の発想によるものであるが、先生はこれを見ることもなく他界された。
大宴会場では、天井の照明の意匠に外光をとり入れた点がユニークである。天井のＦＲＰ製成型板による照明は、シャンデリヤなしでひとつの大きなボリューム感ある空間をつくりだしている。

写真上：千日前通りよりの外観、右手近鉄百貨店
写真下：給排気筒のデザインを含む１階



断面図１：1500

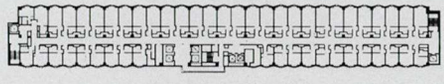




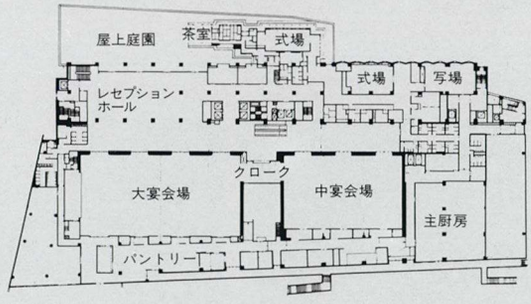


写真右上：4階屋上庭園より
上：高層ホテル棟見上げ
下：1階車寄せより

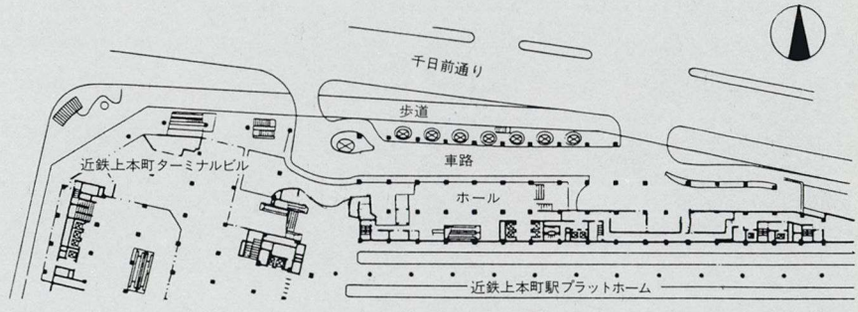
所 在 地　大阪市天王寺区上本町6－1－55
敷地面積　27,399.55㎡
建築面積　24,907.35㎡
延床面積　165,086.18㎡（新設ホテル部分63,700㎡）
客 室 数　ツイン357室、シングル236室、他15室
構造規模　SRC造（B2～5F）、S造（5～21F）
　　B2、21F、3P
工　　期　昭和58年7月～60年10月
最 寄 駅　地下鉄谷町九丁目駅・近鉄上本町駅



ホテル基準階



4階



1階　1：2000



Gallery

修学院の家II（木下邸）

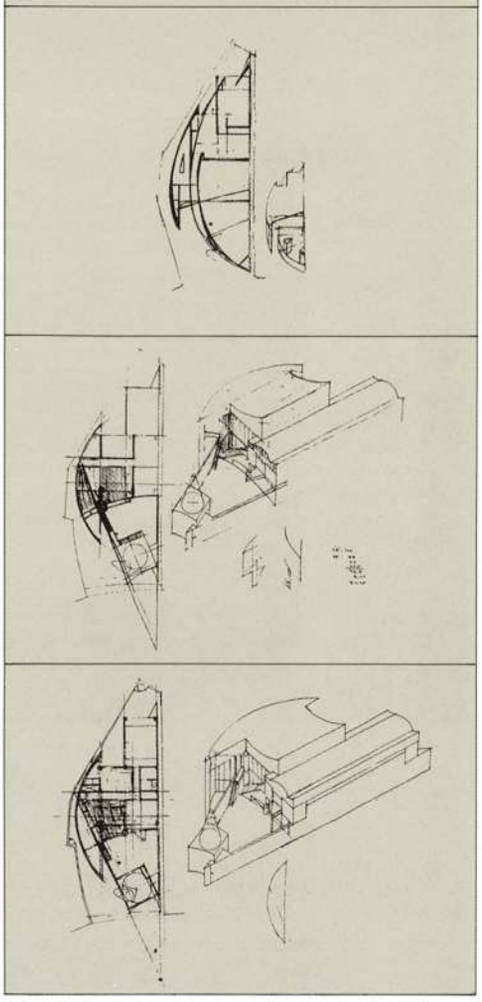
まち・建築・ひと



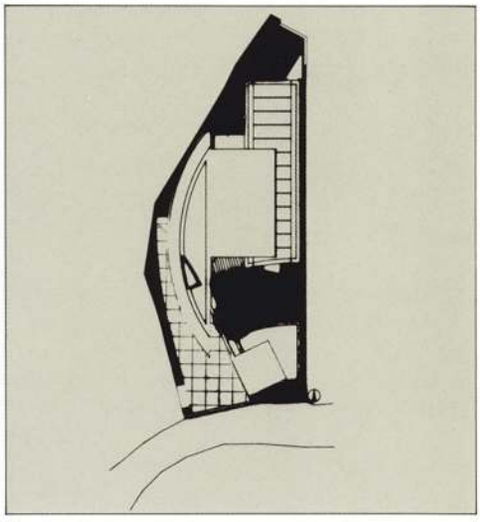


たとえばこの町を撮るとしたら日光写真でも充分だろう。電子制御起高速1/4000秒シャッターの一眼レフカメラなどはスペースシャトルの写真と共に床の間に飾っておけばいい。時や歴史を確認するために人は天を仰ぎ、事物の所在を確認するために人はそこから光を呼び寄せる。わずかに湾曲した球体の傷口、数億年の時間に鍛えられたほの白くなめらかな隕石。思いもかけず不当にも発見されてしまった古代の刃…。この木下邸はそんなふうに粗雑な乾板を露光するに違いない。

西側のギクシャクとした境界を整除する遠い円心を持つ一本のそり返った線分によってこの建築は始まる。まるでこのふつつかな座標の斥力に煽られて様々の曲率を持つ屈曲線が唐突にざわめき

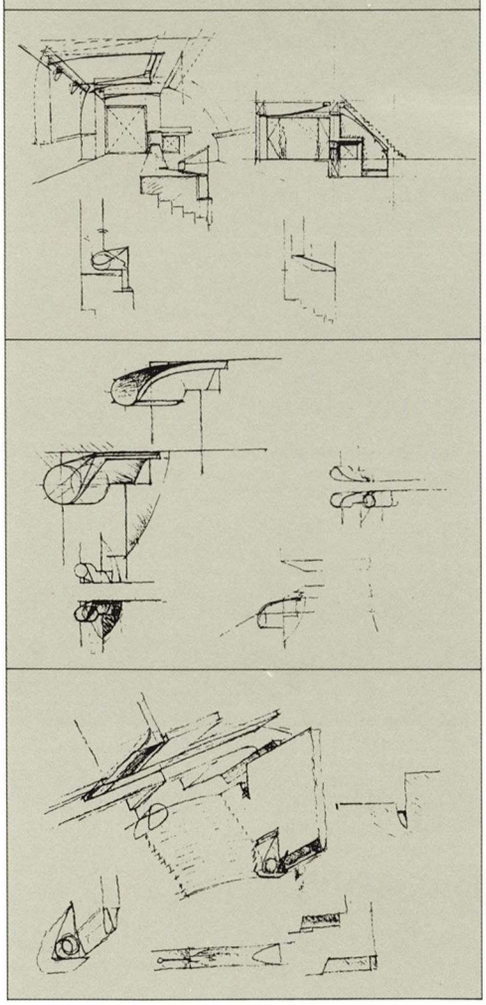


高松伸氏のプランとアイソメのスケッチ

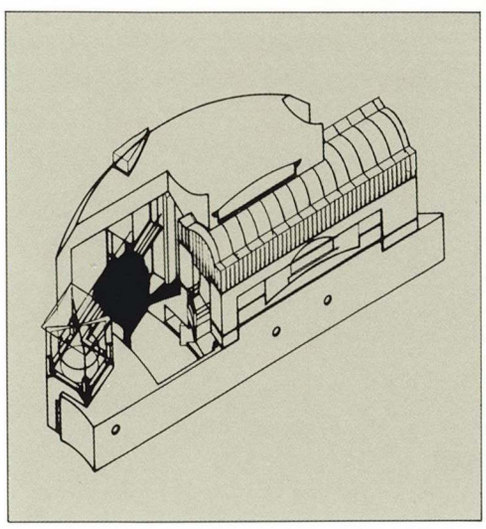


始める。深度のないグラフ。喪失にゆらぐ曲率の海。そんな華やぎに満たされたふつつかなる祝祭を幾つかのオブジェ達がそこここで粛清する。いわば所在のない典儀にもかかわらずふいに漂白されてしまった快楽だけがここでは許されてあるのだ。予期せぬ光に感光してしまったこんな空間で我々に必要なのは、精度という罠を失ってしまった太古の網膜、間断ない酷薄に耐えうる視力以外のなにものでもない。棲むということは過剰な労働によってのみ開かれる。「テクストは怠惰な機械である。いわば白紙のまま、既に語られた、あるいは語られていない空間を満たすために、重労働を要請する。」(ウンベルト・エコ)

文責・萬野光雄



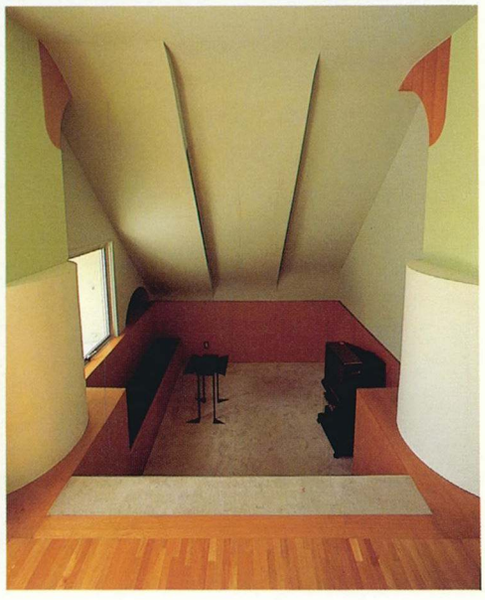
インナースケッチ





建築主	木下茂森	所在地	京都市左京区修学院鳥丸町
設計監理	高松伸建築設計事務所 高松伸、窪田由秀、萬野光雄	敷地面積	266.67㎡　建築面積　131.94㎡
		延床面積	207.11㎡　構造規模　RC、2F
構造	山本・橘建築設計事務所 山本敏明、橘外志	工期	昭和59年9月～昭和60年6月
設備	建築環境研究所　阿部成人	企画編集	作品作風小委員会　浜崎　彰
施工	山田工務店　田中博一、栗山敬二	写真	古館克明







使用製品名「不二のオーダー・ノックダウン等圧カーテンウオール」　　内田洋行大阪支店　設計　日建設計

マリオン方式ノックダウン構法で、とくに雨仕舞については等圧理論を駆使した等圧排水機構を導入し、高水密性能を確保するとともに非常用進入口の竪軸回転窓の改良に力をそそいだ。

従来の回転窓の欠点である開閉作動時のかたさや、水窓・気密材に兼用しているヒレゴムのへたり等を解決した面タッチ方式を採用し、水密ラインと気密ラインの分離をはかり、下記性能を充分に確保し建築設計の初期の目的を充分に達成することができた。

カーテンウオール性能

水密性能：150kg／M²

気密性能：1 m³／hm²

強度性能：240kg／M²

さらにカーテンウオール全面に熱線反射ガラスを使用しているためガラス面の映像調整をカーテンウオールスパンドレル部まで行い、映像調整には万全を期した。

アルミ材の表面仕上は、長期にわたって変化の少ない安定した美しい外観を保つようウレタン樹脂焼付塗装を施し、初期性能を長期にわたって維持し続ける、**「不二のオーダー・ノックダウン等圧カーテンウオール」**である。

不二サッシ

大阪支店　〒541　大阪市東区本町4丁目4番地の1
TEL　06(262)2541

設計者のプロフィール　40　関西の昭和生まれの建築家

上田信也

日建設計

聞き手・編集委員　広田和正（大　林　組）
プロフィール撮影　島　修一（STUDIO A・T）

略　歴　うえだ　しんや

生年月日	昭和15年7月26日（45歳）
出身地	兵庫県
最終学歴	京都大学大学院修士課程昭和40年修了　カリフォルニア大学（バークレイ）大学院修士課程昭和42年卒業
職場	日建設計大阪本社設計部長
事務所所在地	〒541　大阪市東区横堀2－38
教職	明石工業高等専門学校非常勤講師
おもな受賞	建築業協会賞、大阪建築コンクール、大阪都市景観建築賞（大阪城ホール・1985～1986）
代表作品	住友生命京橋機械事務センター（大阪市）　鹿児島市民文化ホール（鹿児島市）　大阪城ホール（大阪市）　内田洋行大阪支店（大阪市）
好きな空間	ハドリアヌスのヴィラ





鹿児島市民文化ホール



大阪城ホール

確かな構成

みるからに柔和な物腰から一語一語、丁寧に語る口調に誠実さがうかがわれる。若い頃、アメリカに留学し、ジョセフ・エシュリックに師事し、アーバンデザインを学んだ。しばらくSOMに勤務し、のちオクラホマ州立大学で教鞭もとっている。「建築を実利的な生産行為だけでなく、芸術的創造活動としてみなし、クライアントと単純に迎合しないで、徹底的に議論を重ね、建築的に高い段階に昇華していく。そういう建築家たちの態度に強い感銘を憶えた」と、アメリカでの体験を語る。

その頃、イタリアを二度ほどおとずれ、ローマ郊外にあるハドリアヌスのヴィラをみた。「夕やみの中でヴィラにたたずんでいると2000年のタイムラグを超えて、自分にせまってくるものがあった」このヴィラが氏のいちばん好きな空間である。「いくつかの軸をもち、段階を経て建てられた建物のマスターピースです」このヴィラに寄せる想いは、たんなるノスタルジーではなく、巧ち果ててもなお残る構成のたしかさゆえの共鳴である。「建築を日常の5～10年でみるのではなく、500～1000年のサイクルが自分の中でどのようにかみ合うかを考えていきたい」学生の頃、歴史に興味をもち、一時は建築史をやりたいと思ったこともある。

若いときは、かなりギラギラして、建築デザインに凝っていたときもあったが、ある時期から、建築は、そこにあるという存在そのものがひとつの機能である。それも、たんに物理的にあるのではなく、そこにふさわしくあるというのが建築の究極の目的であり、そのためには、もとからある風景との融和ということを考えなくてはいけない、と思いはじめた。こういう風景に対する考え方は、作品にもあらわれている。石垣と銅板で構成され、景観になじませた大阪城ホール。桜島に対峙し、明快な軸線をもつ、鹿児島市民ホール。対照的ではあるが、風景に対する思い入れが如実に現われている作品といえる。

旺盛な探究心は、構造にもおよんでいる。「自分自身、構造をさわるのが好きで、建築を規定するのは、構造が大きな要素を占めると思っている。なぜなら建築物は風化してしまっても、最後に残るのは構造体なのだが、建築を建築とさせるギリギリの要素はそれを構築する柱や梁であることは、多くの歴史的な遺物が証明している」と語る。昔の建物から学ぶ面はまだ幾つかある。「月」をみてその仕組と詮索する分析的な行為は日常的業務とは不可欠であろうが、「月」が「月」とわかるだけで十分な直感力が畢境（ひっきょう）その建築の運命を決めると考える。そのもっとも明確な例が土地との関係を定める建物のあり方である。

それゆえみずからが、設計でいちばん執念をもやすのは、ブロックプランである。「色彩やディテールを重視する考え方もあるが、建物の置き方、在り方で、デザインの運命が決定する」と断言する。歴史に対する造詣や、景観に対する思い、あるいは構造への関心、あるいは配置計画への執念、これらすべては、氏のいうところの、構成のしっかりした建物をつくりたい、ということに結びつくのではないだろうか。

趣味はオペラ。その劇的な展開に興味がある。「建築もいってみれば実利的な論理よりも、日常的でない別の論理を適用する世界であり、人間社会の複雑な論理ができる前から、構築物の論理は存在するものである。そういった意味で、非日常的な、まさに劇的な世界が面白い」といい。「人生の中で、常にドラマチックな感動が欲しい」と、熱っぽく語る。

日建設計の若きリーダーとして、みずからの所属する組織のこれからを、内部での横のつながりがもう少しルーズな関係になっていくだろうと予想する。しかし、「そのためには、チーフ的なデザイナーが、カラーポリシーをますますしっかりと確立していかなくてはならない」と語るその言葉から、構成あるいは骨格の太い建築を目指す、静かな、しかし確かな決意を感じることができる。

〔次号の登場者は谷山　隆氏（コンコード建築設計事務所）〕

この人11　三浦 啓子　ステンドグラス

ちょっとおじゃまします

聞き手　黒川省二(竹中工務店)

「この人」シリーズの連載にあたって

建築にかかわるあらゆる分野の人々を訪問し、その人と仕事を紹介しています。読者のみなさまから、いろいろな「この人」を募集していますのでよろしく。

ロクレールの世界

まだ暑さの残る初秋の午後、大阪日航ホテルの屋上テラスに三浦さんの個展を訪ねた。明るい午後の太陽は白いガラス塊を通して幾条もの輝きとなって、快い衝撃を残した。

ロクレール――輝く光のようなガラス塊――は厚さ25㎜という厚手のガラスをエポキシ樹脂で固めて創るガラス芸術の世界である。一般に描くステンドグラスのイメージは、〝甘い〟、あるいは〝柔かい〟、そして〝美しい〟、ガラスによる絵画的世界である。だが彼女の作品を見て最も強い印象を受けたのは、光の強烈なきらめきであった。それは単にカラーコーディネイションによるガラス絵の限界を超えた、もはや光そのものとのふれあいである。長谷川堯氏は彼女の世界について〝光を鍛えようとしている〟と表現したが、それ以上に彼女の作品を的確に表現する言葉を見つけることができない。

強く精神性を感じさせる彼女の世界は、キリスト教のバックグラウンドによる。後女自身の得た神の啓示とは〝戦慄を覚えるような鋭いシャープな光、これこそ神との出会いであり、私の生きる証しとして共鳴を呼ぶ〟ものであったそうだ。その啓示を人々に具現させたいという気持ちが、今日の彼女の世界への出発点となった。それを可能とする表現を求めて、ついに捜しあてた世界が彼女独自の技法ロクレールとして結実したのである。

数多くの大作を通して感じるのだが、彼女の作品には〝完成された世界〟と〝挑戦している世界〟が激しく同居しているように思われる。帝国ホテルの〝光の間〟に代表される作品群、これは彼女のオリジナリティとして、シグニチャーとも言ってよいものである。だが、個性の創出が芸術家としてのアイデンティティの確立であったとしても、恐らく彼女にとって、それだけでは充分条件とはならないのであろう。彼女の世界は、ガラス芸術の可能性を追及してやまない。大阪日航ホテルのサンクンガーデンの〝春を待つ〟にみられる技法は、もう一つの挑戦の新たな結実であろう。

失礼を覚悟で、彼女の戦々拡大の本意をうかがってみた。彼女にとって個展は、〝建築家に自分の作品をみてもらい、三浦啓子がどんな世界を目指しているのかをまず知ってもらうこと、それが建築家といっしょになっていろいろな世界に挑戦するきっかけとなれば良い〟のだ。完成された世界にとじこもっていることに満足せず、常に枠から跳び出そうとする姿勢こそ彼女のもつ、うらやましい個性ではないだろうか。

とはいうものの三浦さんのパーソナリティは、鉄のような固さ、気むずかしさとは正反対のものだ。最近、追突された車の相手と、もめるどころか、話しているうちにすぐに意気投合してしまうようなエピソードをもつ、気さくで人なつっこい人なのである。

目神山にある自宅兼工房は、はるかに阪神間の街並を見晴らす静かな住宅街にある。御家族、お弟子さん達、愛犬に囲まれた創作の場は、柔らかさの中に緊張を感じるものがある。

世界中を文字通り東奔西走する彼女のタフネス、バイタリティーに触発される建築家も多いことであろう。インタビューの中で、創造の世界では〝うまく生きようとしてはダメヨ〟といわれた一言が、今も私の心に強く残っている。



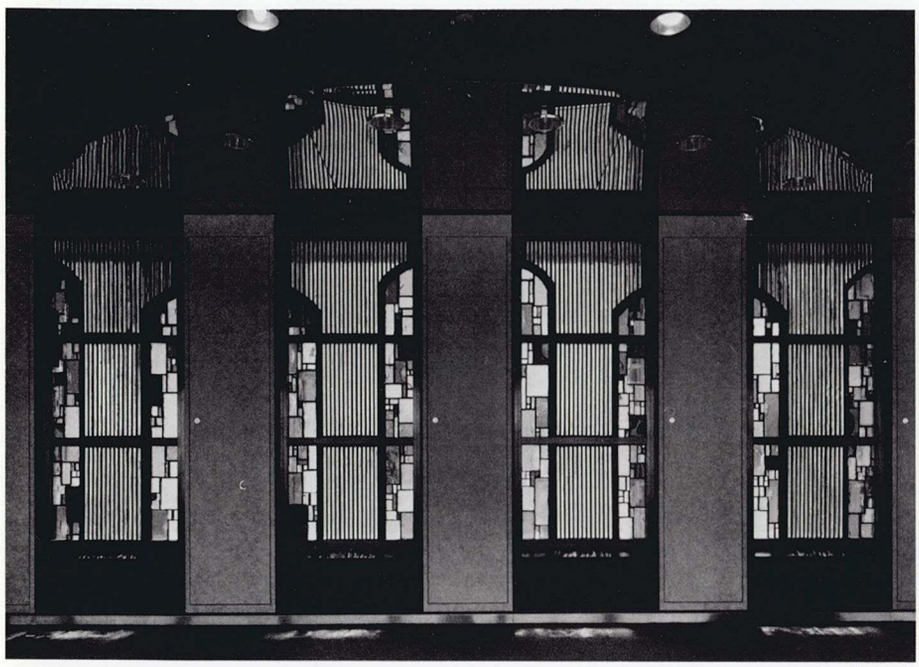
みうら　けいこ

1968年　ハーバード・アートスクールでステンドグラスを学ぶ。
1972年　ガラス材質の美しさを独自の技法で表現。「ロクレール」(輝く光のようなガラス塊)と名付ける。
1982年　国際グラスアート・シンポジウム(西ドイツ)にて講演。ロクレール作家として世界の注目を集める。
1984年　「三浦啓子ロクレール作品集」(春秋社)を出版。

最近の主な作品

1985年　国立総合児童センター(こどもの城)・東京
　　尼崎市立教育障害福祉センター
　　加古川総合文化センター
1984年　北網圏総合文化センター・北海道
　　兵庫県南庁舎
　　和歌山勤労福祉センター
1983年　アクティ大阪27F
　　帝国ホテル光の間・東京
1982年　江戸川総合文化センター
　　フラウナガラス美術館・ドイツ共和国

三浦啓子　ロクレールプロダクション　アトリエ
西宮市甲陽園目神山町1－700　☎0798－73－0878



アクティ大阪27F



国立総合児童センター(こどもの城)

受託試験における骨材の品質試験に関する調査報告

1．集計対象

集計対象とした骨材は、当試験所で昨年度（昭和59年４月～昭和60年３月）の一年間に受託した普通骨材で、細骨材については全数を、粗骨材については最大寸法25㎜以下（ただし、ふるい分け試験は最大20㎜のみ）を対象とした。また、集計対象とした試験項目は次に示すものである。

(1)ふるい分け試験、(2)洗い試験、(3)単位容積重量試験、(4)比重および吸水率試験、(5)安定性試験、(6)粘土塊量試験、(7)塩分試験、(8)比重1.95に浮く粒子の試験、(9)有機不純物試験、(10)すりへり試験、(11)軟石量試験

なお、試験方法はJISまたはJASS５によった。

2．集計方法および集計結果

集計は、それぞれの試験結果を、骨材の種類および産地別に分類し、データ個数（試験件数）：n、平均値：$\bar{x}$、最大値：xmaxおよび最小値：xminを求めた。

集計対象とした試験項目の内受託試験件数の多かった粘度塊量試験および塩分試験の集計結果を**表―1.1、1.2**および**図―1.1～1.3**に示す。

3．まとめ

3．1 骨材の種類および産地別の比率

骨材の種類および産地別の比率を図―２に示す。

受託試験からみた骨材の種類の比率は、細骨材では海砂が全体の半分の51%、山砂が24%、その両者の混合されたものが８%となり海砂と山砂で全体の83%を占めている。粗骨材では砕石が全体の89%を占め、次いで山砂利７%、川砂利３%となっている。また、産地別にみれば、細骨材では海砂が室木産、山砂が城陽産と最も多くこの傾向は調査を開始してから変わっていない。粗骨材の砕石では高槻20%、茨木11%、赤穂５%、和泉山系(山中溪、打田、信達等)18%、家島諸島（家島、西島、男鹿島等）10%となっている。

3．2 骨材の品質

集計結果の概要を表―1.1、1.2および図―1.1～1.3からまとめると、

枯土塊量：細骨材について、海砂では平均値0.38%で、約96%の試料がJASS５のⅠ、Ⅱ級の規定(1.0%以下)を満足し、山砂では平均値0.49%で、約95%の試料がⅠ、Ⅱ級の規定（1.0%以下）を満足している。粗骨材の砕石では平均値0.12%で、95%の試料がⅠ、Ⅱ級（0.25%以下）を満足している。しかし、現行の粘土塊試験方法では、海砂では貝がらに付着している細砂、微粉末になった貝がら等、山砂では骨材に付着している微粉末、砕石では骨材に付着している石粉や泥分を含めて粘土塊量の試験結果として扱うという問題点があり、集計をみる上でその考慮が必要である。

塩分量：細骨材について、海砂では平坪値0.010%で、約98%の試料がJASS5のⅠ級の規定値(0.04%以下)を、100%の試料がJASS5のⅡ級の規定値（0.1%以下）を満足している。

4．あとがき

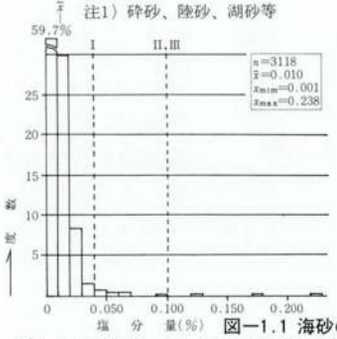
骨材の種類および産地別に傾向をみると前回までと同様に細骨材では海砂および山砂が、粗骨材では砕石が代表的なコンクリート用骨材として使用された結果となっている。また、試験の内容は粘土塊量試験と塩分試験に集中（細骨材では粘土塊量、塩分試験が全体の88%を、粗骨材では粘土塊量が全体の81%を占めている）している。骨材の品質については、細骨材および粗骨材とも前年度に比べ粘土塊量試験、塩分試験の試験値の平均値が低くなっており（粘土塊量試験の山砂を除く）JASS5のⅠ、Ⅱ級の適合率においては前年と同率あるいはそれを上回る結果となっていた。　なお、その他詳細は当試験所機関誌**「GBRC40号」**を参照されたい。　（近澤一弘）

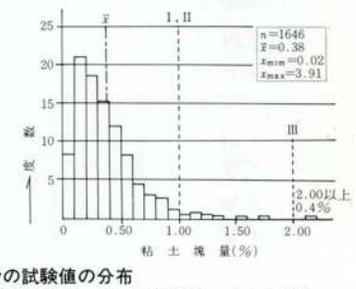
種類および産地		粘土塊量（%）				塩分量（%）			
		n	$\bar{x}$	xmin.	xmax.	n	$\bar{x}$	xmin.	xmax.
海砂	室木	643	0.36	0.02	1.97	1,118	0.010	0.001	0.142
	日比	285	0.46	0.04	2.39	552	0.009	0.001	0.135
	大槌島	94	0.36	0.07	1.08	217	0.012	0.001	0.110
	豊島	112	0.30	0.02	2.19	210	0.005	0.001	0.067
	その他	512	0.38	0.04	3.91	1,021	0.011	0.001	0.238
	合計	1,646	0.38	0.02	3.91	3,118	0.010	0.001	0.238
山砂	城陽	904	0.50	0.02	5.02	814	0.001	0.001	0.001
	枚方	56	0.37	0.20	0.62	55	0.001	0.001	0.001
	その他	63	0.53	0.11	1.63	68	0.001	0.000	0.008
	合計	1,023	0.49	0.02	5.02	837	0.001	0.000	0.008
混合砂	城陽+室木	352	0.35	0.04	1.47	406	0.005	0.001	0.033
	城陽+日比	39	0.28	0.06	0.89	43	0.003	0.001	0.125
	その他	481	0.34	0.01	2.54	685	0.006	0.001	0.050
	合計	872	0.34	0.01	2.54	1,134	0.006	0.001	0.125
川砂合計		53	0.34	0.02	1.38	86	0.003	0.001	0.065
その他1）		20	0.38	0.07	2.81	31	0.005	0.001	0.047

表―1.1 細骨材の集計結果（粘土塊量試験および塩分試験）
注1）砕砂、陸砂、湖砂等

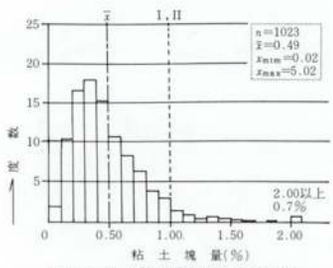
種類および産地		粘土塊量（%）			
		n	$\bar{x}$	xmin.	xmax.
砕石	高槻	594	0.13	0.01	1.06
	茨木	342	0.10	0.01	0.46
	赤穂	137	0.07	0.00	0.54
	和泉山系1）	545	0.11	0.00	1.71
	家島諸島2）	301	0.11	0.00	0.90
	長尾山	109	0.13	0.04	0.54
	その他	497	0.14	0.00	1.99
	合計	2,525	0.12	0.00	1.99
山砂利合計		77	0.18	0.00	5.86
川砂利合計		20	0.17	0.07	0.40

表―1.2 粗骨材の集計結果（枯土塊量試験）
注1）山中溪、打田、信達等
2）家島、西島、男鹿島等

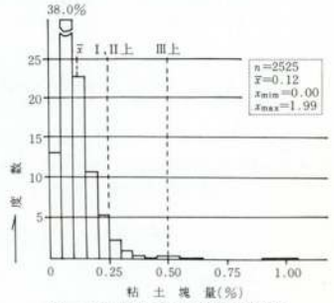




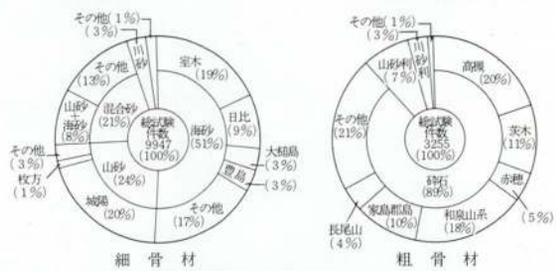
図―1.1 海砂の試験値の分布
注）１．図中のⅠ、Ⅱ、Ⅲは、JASS５に規定するⅠ、Ⅱ、Ⅲ級の値で、上は上限値、下は下限値を示す。



図―1.2 山砂の試験値の分布
注）１．図中のⅠ、Ⅱは、JASS５に規定するⅠ、Ⅱ級の値で、上は上限値、下は下限値を示す。



図―1.3 砕石の試験値の分布
注）１．図中のⅠ、Ⅱ、Ⅲは、JASS５は規定するⅠ、Ⅱ、Ⅲ級の値で、上は上限値、下は下限値を示す。



図―２ 骨材の種類及び産地別、受託試験の比率

本試験所●所在地……〒565 吹田市藤白台５－８－１（阪急北千里駅より北西約１km、国立循環器病センター西隣）
●電　話……(06) 872―0391(代)
●営業時間……平日：午前９時～午後５時、土曜日：午前９時～正午

日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

あなたの「声」をお待ちしています。

○紹介建材、掲載内容に対するあなたのご意見・要望をお寄せ下さい。
○(社)日本建築協会建材委員会　Tel 06－348－0635
〒530 大阪市北区梅田 1－1－3－2100
大阪駅前第3ビル21階

《新建材紹介　No.125》

床下防湿・防白蟻兼用建築材料
「レミファルトT」

日本舗道株式会社

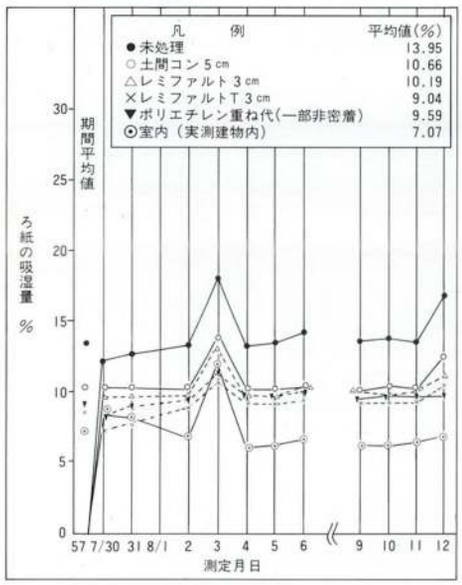
本　　社　東京都中央区京橋 1－19－11　Tel　03－563－6732
関西支店　大阪市東区船越町 2－23　Tel　06－942－6121

1.はじめに

最近、木造住宅の省エネルギー化のため各種断熱材がもちいられ、快適な居住性が得られるような断熱構造化が推進されている。この結果、家屋躯体内の隙間の減少により床下の通風性が低下し、地盤面から発生する水蒸気により床部位が多湿となり、この湿気はシロアリや木材腐朽菌であるナミダタケの格好な生活環境となるため、建物の耐久性低下を招く主原因となっている。

ここに紹介する日本舗道㈱は、この対策として、我が国初めての画期的な床下防湿、防白蟻兼用の建築材料として「レミファルトT」を開発した。レミファルトはもともと道路の簡易補修材料として、昭和40年に同社が開発した常温舗設型のアスファルト混合物であるが、アスファルトが防水、防湿性に優れていることに着目し、これに防白蟻薬剤を組み合わせることにより防湿効果と防白蟻効果を兼ね備えた優れた特許出願中（特許公報、昭和57－20983）の製品であり、また、社団法人日本木材協会で非木質系床下防蟻被覆材として認定された優良建材である。（認定番号C－4003）

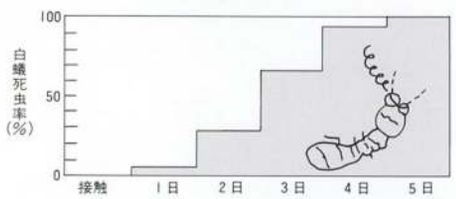
表－1　ろ紙の吸湿変化



表－2　透湿抵抗試験結果
（財団法人建材試験センター）



表－3　レミファルトTの防蟻効力試験結果
（東京農大林産化学研究室）



表－4　所要量

材料名	荷姿	所要数量 1㎡当り	所要数量 1坪当り	摘要
レミファルトT	30kg／袋	2.0袋	7.0袋	ポリフィルム入紙袋
レミファルトT	40kg／袋	1.5袋	5.0袋	ポリフィルム入紙袋
テラミゾル	9ℓ／缶	0.5ℓ	—	ポリ缶入

2.レミファルトTの品質特性は次の通りである

①防湿効果

実験の結果、**表－1**のろ紙の吸湿変化にみられるようにレミファルトTを舗設すれば約10～20%程度相対湿度を低下できる。尚レミファルトT（3cm厚）にアスファルト乳剤0.5ℓ/m²を塗布した透湿試験では**表－2**の如く、200m²．h．mm Hg/gの透湿抵抗が得られたが、これはコンクリート壁20cm厚より大きい値である。

②防蟻効果について

イエシロアリを対称とした諸実験の結果、**表－3**の如く、一般の土壌処理と同等の防蟻効果があることが認定された。

③環境汚染について

レミファルトTは、特殊加工法で混合処理されているため、床下浸水などで水にさらされても薬剤溶出の恐れはなく水質汚染の心配は全くない。

④居住者の安全性について

（社）日本木材保存協会で薬剤の揮散試験を依頼した結果、薬剤の揮散は、クロマトグラムからは検出されず、居住者に対して安全であることが確認された。

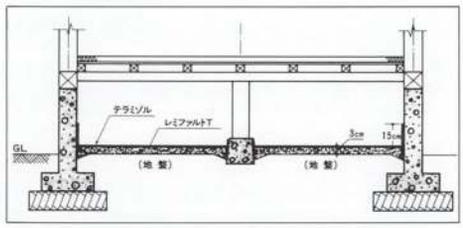
尚、レミファルトTによる床下地盤の処理には、白蟻損害賠償保険により、新築に限り10年間（5年再契約）の保証と300万円の保険がつく。

以上のように、レミファルトTは床下防湿、防白蟻だけでなく、環境汚染対策や安全性等の社会的な要請に対応した新しいタイプの建築材料といえる。

3.施工法

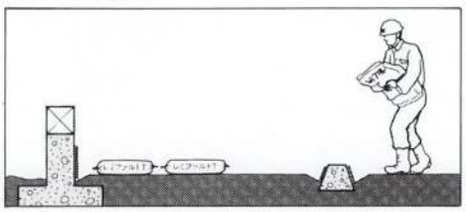
この標準施工断面は**図－1**に示すとおりで、施工は①清掃②整地③地盤締固め④テラミゾルの塗布⑤レミファルトTの配置⑥仝敷均し⑦仝締固め⑧テラミゾルの散布または塗布⑨空袋の処理の順序で行う（**図－2**）。

図－1　施工断面図

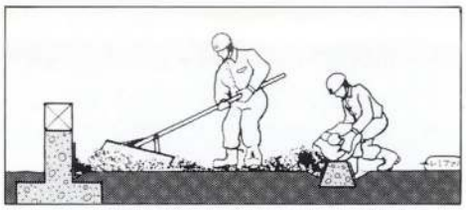


図－2　施工方法

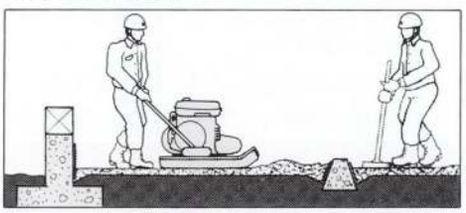
レミファルトTの配置



レミファルトTの敷均し



レミファルトTの締固め



施工上の留意点として

①標準仕様としてレミファルトT厚み3cmと指定されているが、既存家屋の床下に施工する場合は、その既存の地盤の軟弱、平滑度、防鼠コンクリートの有無等により施工法に配慮すること。

②白蟻の侵入が外部からも予想される場合は、布基礎の外側にもレミファルトTの舗設が望ましい。

③白蟻の蟻道阻止のため、布基礎及び束石の回りはVカット、テラミゾルの塗布を特に念入りに施工のこと

レミファルトTの材料の所要量は**表－4**の通りで、この施工は、材料買いの上、建築業者に施工させられるが、できれば、日本舗道㈱に責任施工させることが望ましい。

建材委員／元木貞次（東洋紡エンジニアリング）

金属を通して空間を創造する。



都ホテル大阪、カーテンウォール（耐候性鋼板）・1Fステンレス建具・排気塔（キャストアルミ）・屋上手摺（スチール）等

建築の内外空間に有用で美しい金属製品を造りつづけて60有余年〈田島〉は、その長い伝統をふまえた価値ある技術と人間精神の復活を金属に託して来ました。ここに培われた〈田島〉の技術と精神はいま、日本と世界の新しい建築の場に役立ちたいと望んでいます。

Tajima

金属製建具・カーテンウォール・内外装金属製品・美術工芸品

規格金属製品 ●外装・カーテンウォール ●タジマステンレスカーテンウォール ステラ ●タジマウォールパネル エクセル ●タジマフロンティア18-8 ●エントランス・スクリーン ●タジマエントピア18-8 ●タジマアバンシアSS ●タジマロンドア ●タジマアールドア ●タジマフレンドア ●タジマF・1ドア ●内外装部材 ●タジマスカイライトS ●タジマACルーバー ●タジマACパネル ●タジマポスターケース18-8 ●タジマメイルボックス

株式会社 田島順三製作所 本社 〒100 東京都千代田区永田町2-14-3 TEL 03-581-6291(大代)

仙台・横浜・名古屋・大阪・福岡・ロサンゼルス・タイペイ・ホンコン・シンガポール・クアラルンプール・マニラ・シドニー

規格品のカタログをご希望の方は、お気軽に本社・特販部までお申し込み下さい。



「カベを飾る」、という気分。
TOTOインテリアタイル。



ヴァレンティノ・ガラヴァーニ



ハルオ・宮内



デビッド・ハミルトン

TOTOの新インテリアタイルは、「芸術空間」のコンセプトから生まれました。ただ単に空間をカラーコーディネートする次元を越えて、空間を彩るアート装飾へ。つまり「カベを飾る」気分。世界の著名アーティストによる内装タイルです。新発売のTOTO外装タイルもご注目ください。

良いものだけを作りたい

TOTO
インテリアタイル

■東陶機器株式会社　大阪支社……〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 ☎(06)364-1181

日本建築協会法規委員会
編集委員会法令分科会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

●出版ニュース

日本建築学会建築計画委員会の「建築関係法令の研究・14」は建築法規の解釈を中心にまとめたもので、建築法の簡素化に関するアンケート回答の逐条検討も、「研究・13」に引き続き収録されている。定価1,900円、送料300円で頒布されるので、お申し込みは日本建築学会近畿支部（電話　06－443－0538）へ。

211

大阪府建築基準法施行条例の改正

大阪府建築基準法施行条例は、建築基準法の条例による制限附加規定に基づき、建築物の敷地、構造または建築設備に関する制限の附加、敷地と道路などに関する制限の附加、日影による中高層の建築物の高さの制限対象区域の指定ならびにこれらの制限に違反した者に対する罰則を定めたものである。

昭和25年に制定されて以来、法改正や社会情勢の変化、建築技術の進歩などにより、昭和46年に全面改正され、その後２回の一部改正を重ねて、現在にいたっているが、今回、社会情勢の変化に対応して、つぎのような改正がなされ、昭和60年10月28日に施行された。

第６条（長屋）

現行条例は長屋の各戸の主要な出入口は道路に面することを原則とし、各戸の主要な出入口が道路に面しない場合は、敷地内通路の幅員、敷地の奥行等敷地条件をきびしく制限しているが、良好なまちづくりの一手法である一団地の総合的設計（法86条）によって建築する場合に限り、６条１項１号の規定を適用しないこととした。

第50条（自動車の出入口）

自動車車庫等の自動車の出入口は、幅員６ｍ以上（150㎡以下は5.4ｍ以上）の道路に接して設けることとしているが、同一敷地内の建築物の延べ面積合計の1/3以内の附属車庫に限って、50条１項１号の規定を適用しないこととした。また、橋、横断歩道橋からの自動車の出入口制限について、駐車場法との関連において整備した。

第52条（構造及び設備）

地階に自動車車庫等を設ける場合に定めている機械換気設備の設置について、換気上有効な開口部を設けた場合には、適用を除外した。

第58条（自動車車庫等の敷地と道路との関係）

規定整備により削除した。

（文責・大阪府建築部建築指導課）

大阪府建築基準法施行条例（新）	（旧）	大阪府建築基準法施行条例（新）	（旧）
（長屋） 第６条　都市計画区域内の長屋は、次の各号に定めるところによらなければならない。 一　各戸の主要な出入口は、道路に面すること。ただし、長屋及びその敷地が次のイ又はロに該当し、かつ、各戸の主要な出入口が道路に通ずる幅員３メートル以上の敷地内の通路に面する場合は、この限りでない。 イ　敷地の奥行が35メートル以内であり、かつ、床面積の合計が300平方メートル以下のもの ロ　耐火建築物又は簡易耐火建築物であるもの 二　外壁（道路、公園、広場その他これらに類するものに面する部分を除く。）と敷地境界線との間に、幅50センチメートル以上の空地を設けること。ただし、近隣商業地域又は商業地域内においては、この限りでない。 三　桁行は、25メートルを**超えない**こと。ただし、耐火建築物又は簡易耐火建築物である場合は、この限りでない。 **2　前項第１号の規定は、法第86条第１項の規定により特定行政庁が安全上、防火上及び衛生上支障がないと認める一団地内に２以上の構えをなす長屋については、適用しない。**	（長屋） 第６条　都市計画区域内の長屋は、次の各号に定めるところによらなければならない。 一　各戸の主要な出入口は、道路に面すること。ただし、長屋及びその敷地が次のイ又はロに該当し、かつ、各戸の主要な出入口が道路に通ずる幅員３メートル以上の敷地内の通路に面する場合は、この限りでない。 イ　敷地の奥行が35メートル以内であり、かつ、床面積の合計が300平方メートル以下のもの ロ　耐火建築物又は簡易耐火建築物であるもの 二　外壁（道路、公園、広場その他これらに類するものに面する部分を除く。）と敷地境界線との間に、幅50センチメートル以上の空地を設けること。ただし、近隣商業地域又は商業地域内においては、この限りでない。 三　桁行は、25メートルをこえないこと。ただし、耐火建築物又は簡易耐火建築物である場合は、この限りでない。	**道を含む。**）から５メートル以内の部分 四　路面電車の停留場、バス停留所、安全地帯**又は踏切**から10メートル以内の部分 五　公園、小学校、養護学校又は幼稚園その他これらに類するものの出入口から10メートル以内の部分 2　自動車車庫等の敷地から道に通ずる自動車の出入口と門又は自動車車庫等の用途に供する建築物の出入口との間には、前面の道の通行を見通すことができるように、幅１メートル以上の空地又は空間を設けなければならない。 **3　第１項第１号の規定は、建築物に附属する自動車車庫で、その自動車車庫の床面積の合計が同一敷地内にある建築物の延べ面積の合計の３分の１以内のものについては、適用しない。**	四　路面電車の停留場、バス停留所、安全地帯、横断歩道橋（地下横断歩道を含む。）、踏切又は橋から10メートル以内の部分 五　公園、小学校、養護学校又は幼稚園その他これらに類するものの出入口から10メートル以内の部分 2　自動車車庫等の敷地から道に通ずる自動車の出入口と門又は自動車車庫等の用途に供する建築物の出入口との間には、前面の道の通行を見通すことができるように、幅１メートル以上の空地又は空間を設けなければならない。
（自動車の出入口） 第50条　自動車車庫又は自動車修理工場（以下「自動車車庫等」という。）の用途に供する建築物の敷地の次の**各号のいずれか**に該当する部分には、自動車の出入口を設けてはならない。 一　幅員６メートル（自動車車庫等の用途に供する部分の床面積の合計が150平方メートル以下の場合は、幅員5.4メートル）未満の道に接する部分 二　勾配17パーセント以上の道に接する部分 三　道が交差し、**若しくは屈曲する箇所又は横断歩道橋（地下横断歩**	（自動車の出入口） 第50条　自動車車庫又は自動車修理工場（以下「自動車車庫等」という。）の用途に供する建築物の敷地の次の各号の一に該当する部分には、自動車の出入口を設けてはならない。 一　幅員６メートル（自動車車庫等の用途に供する部分の床面積の合計が150平方メートル以下の場合は、幅員5.4メートル）未満の道に接する部分 二　勾配17パーセント以上の道に接する部分 三　道が交差し、又は屈曲する箇所から５メートル以内の部分	（構造及び設備） 第52条　自動車車庫等の構造及び設備は、次の各号に定めるところによらなければならない。 一　床及び**地溝は、耐水材料で**造ること。 二　汚水排除の設備を設けること。 三　地階に自動車車庫等を設ける場合にあっては、令第20条の２第２号又は**第３号**の換気設備を設けること。**ただし、窓その他の開口部を有する場合で、その開口部の換気に有効な部分の面積がその自動車車庫等の床面積の合計の10分の１以上であるときは、この限りでない。** **第58条　削除**	（構造及び設備） 第52条　自動車車庫等の構造及び設備は、次の各号に定めるところによらなければならない。 一　床及び地溝は、耐水材料をもって造ること。 二　汚水排除の設備を設けること。 三　地階に自動車車庫等を設ける場合にあっては、令第20条の２第２号又は第３号に定める換気設備を設けること。 （自動車車庫等の敷地と道路との関係） 第58条　自動車車庫等の用途に供する建築物（当該用途に供する部分の床面積の合計が、50平方メートル以下のものを除く。）の敷地は、幅員６メートル（当該用途に供する部分の床面積の合計が150平方メートル以下の建築物にあっては、5.4メートル）以上の道路に接しなければならない。

けんちくの眼

嶋田勝次
神戸大学工学部建築学科助教授

生田喜一郎
大阪市都市整備局営繕部設計課長

土肥耕一
東畑建築事務所設計部長

狩野忠正
竹中工務店大阪本店
設計部副部長

7月号から12月号まで上記の4氏が担当

マスタープラン

21世紀を目指した都市の総合基本計画（マスタープラン）の策定作業が盛行している。私自身現在、神戸市・西宮市・加古川市・姫路市などの各都市の計画に参画して各都市の特色をクローズアップしながら将来の都市像をどう描き出すかのむつかしさを感じてきた。

各都市の原案作成の企画担当の当事者それぞれが、10年後、20年後の都市の姿をイメージすることに、大変なとまどいに直面していると思うからである。

未来はばら色とは、描けなくても、明るい方向がほしいので、やはり開発による極楽絵によってアプローチしたい願いはあるが、開発一辺倒にはできない悩みも大きい。といって逆に地獄絵を対比的に描いて見せるというわけにもいかない。

マスタープランは都市の将来を示しながら、その目標に向かって政策を展開する基礎とするものであるが、多様な内容に一貫したコンセプトが望ましいし、さらに計画に目玉を求めたいが、それらを組み立てるむつかしさにいらだちも生まれてくる。

各都市それぞれの未来のイメージへの個性も大切だが、その前に共通の広域的方向の意識がまず大事であり、その基盤の上に特色ある花が開くことを期待したいのである。（K・S）

いい仕事

最近プロ野球でチャンスにタイムリーヒットを打って勝利打点をあげたり、ファインプレーでピンチを脱した時など、試合後のインタビューで選手が、「今日はよい仕事をすることができた」という言葉がよく使われる。これは選手がプロとして最高のプレーを、ファンの方々に見て貰った時に使う言葉であるとともに、自分のすぐれた技能に対する自負のあらわれでもある。

サラリーマンは、一般には組織の一員であるため、いろんな分野でそれぞれの仕事に全力投入をしているのが普通である。仕事がうまくいっても野球選手のように目だつことはあまりない。しかし本当のサラリーマンとは目立たないところでファインプレーをしてこそ会社がまた仕事がうまくいくのではなかろうか。我々の仕事である建築においては、設計にしろ、工事にしろ多く人の協力によって仕事をしていく点では、一般のサラリーマンと異なるところはない。しかし建築物をつくるということは、その成果品が眼に見えるのは勿論のこと。いつまでも残るという点では野球選手以上に脚光を浴びるともいえる。この点はサラリーマンとしてうれしい反面、建築物の寿命を考えれば、人々の批判を長くうけなければならない点を考え、さらによりよい仕事をするためのいっそうの努力が必要である。（K・I）

心の眼

タイガースフィバーもクライマックスシーンを迎える。私も中学時代からのファンだが、この迫力と影響力はたんなるファン心理をこえて驚きというほかない。この現象を社会学者は、高度産業社会の病理と分析している。折りも折、労働衛生週間で「心の健康」をスローガンに掲げており、新聞論調は「サラリーマン精神健康調査」や、「アルコール依存症と心の健康」をとりあげ、精神医療の貧困を訴えている。

しかし問題は、適者生存が原則であり、そのために偏見を通し差別を押しつけて、弱者の生命を軽んじたり無視してきた社会の因習がまず取上げられるべきであろう。心の問題についていうならば、日常平隠に暮している時は目をそむけているが、心の健康が身体の健康以上に微妙なバランスの上にかろうじて支えられており、人生の四苦（老死病苦）が今もなお厳然たる事実である以上、そのバランスを崩すきっかけは不断に存在しているのであって、心の病を蔑視していることが問い直さるべきである。むしろ心の病を癒しうるものとして、独創性と知恵をはたらかせることが精神的存在たる人間に求められている時がやってきている。「人間の条件」を看とる心の眼を培いたい。（K・D）

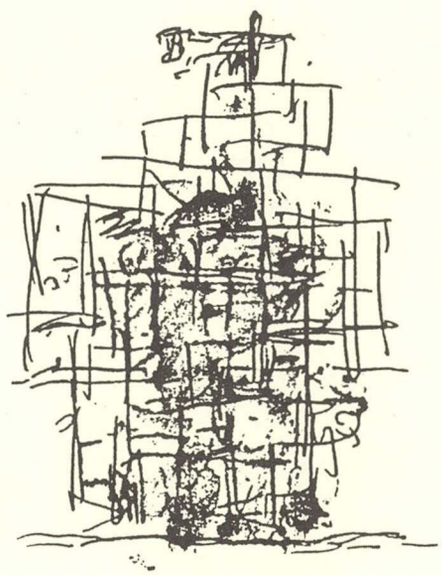
新聞に描かれた線

口をあんぐりと開けた隙間から下歯がのぞいている。歯に押しあてられたハブラシの新聞一頁大の広告。この写真から受けるイメージは、美学という俎上にはおおよそ乗りにくい。建築家村野藤吾は、このハブラシから、宇部全日空ホテル玄関の照明を思い浮べた。新聞紙の上にサーッと引かれた筆の勢は、デザインの気がのりうつった絵である。新聞の活字と描かれた線は同じような色調である。筆の線の方が繊細で、広告記事の中に埋められている。しかしぐっと眺める中に、今まで煩わしく見えた活字が影をひそめ、隠れていた筆の線が浮び上がる。白紙の上に描かれたよりも強い線を感じるのはなぜか。新聞という日常のものでありながら、自然体の中から生まれたからよけいにイメージが強烈である。

亡くなられる1ヶ月前のインタビューの時、話されたことが、今だに印象深く残っている。建築家には、たえず手による修錬が大切である。それしかイメージをつかむことができないと——。（T・K）

特　集

村野藤吾の一断章



南大阪教会のスケッチプロセス

村野藤吾と大阪
村野藤吾と粘土模型
村野藤吾と照明
宇部の「かけ橋」
心のともしび

特別編集幹事（順不同）：村野 漾・水谷頴介・辻野純徳・出江 寛・狩野忠正

南大阪教会のスケッチプロセス

南大阪教会の旧会堂は、村野先生の処女作であり、自身が「いわば私の長男」と呼ぶほどに、思い出の深い建物であった。それだけに旧会堂をとり壊して新会堂を建てるという、この仕事に対する先生の情熱には並々ならぬものがあった。当時、会堂建築委員会はさまざまな人々の集まりで成り立っており、旧会堂の塔の処置や、実現されている丸い形の案などについての先生の見解が、必ずしも全面的に受け容れられたものではなかった。が、そのことがかえって、先生のこの小さな教会に対する情熱を増大させていったようにも思える。旧会堂の塔は、先生にとっての記念碑というより、むしろ旧会堂建設に当たって苦労された教会の先輩方の記念碑でもあり、また、南大阪教会の歴史でもあるので是非共残したい、というのが先生の考えであった。あまり多くを語らぬ先生であったから、自分の考えを少しでも多くの人々に理解してもらいたいという気持ちが、これほど多くのスケッチを描くという無言の行為に置き換えられたようにも思える。

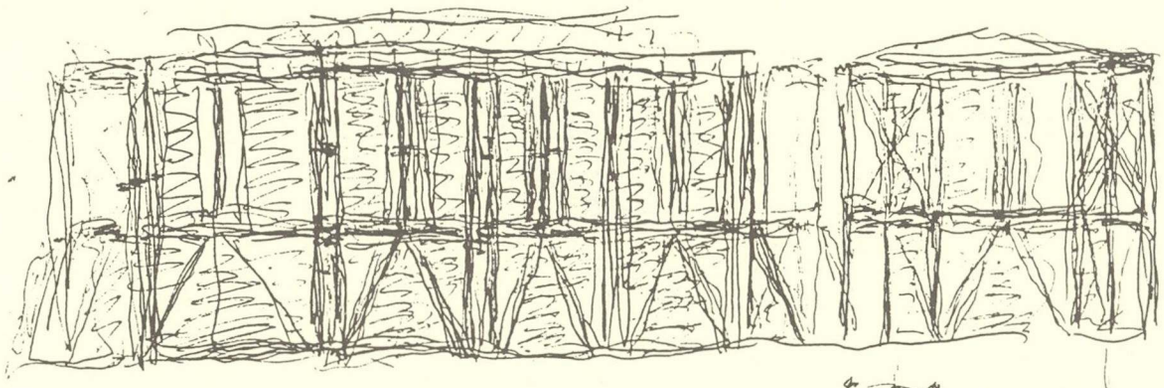


1980年2月4日付のスケッチ(現寸)



1980年3月4日付のスケッチ(現寸)

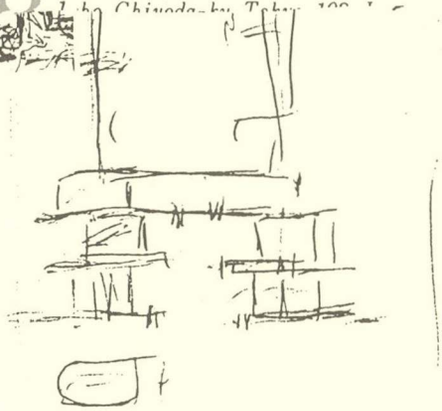
1980年春頃に描かれたスケッチの数々、同じようなものがさまざまな紙の上に繰り返し、描かれている。(すべて現寸)



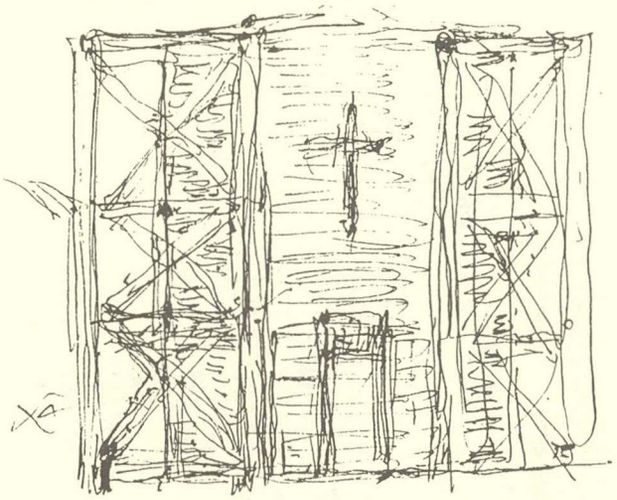


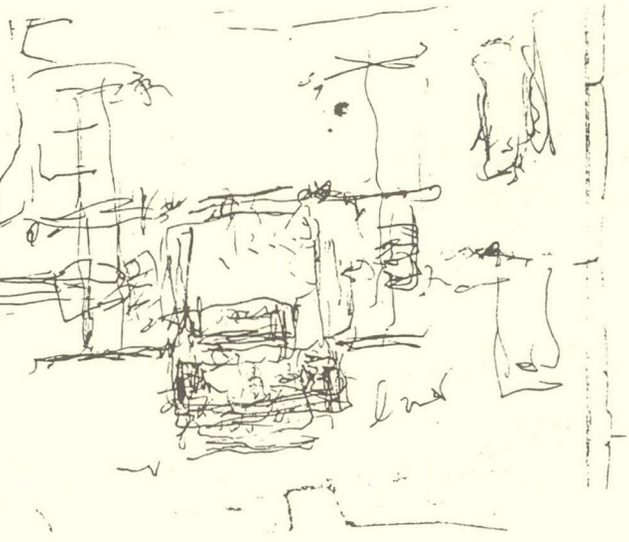


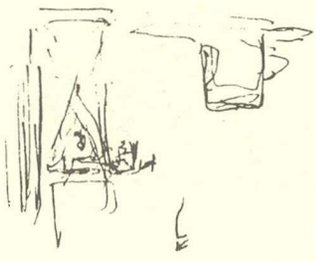


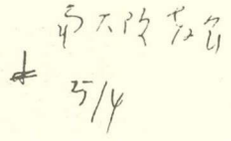




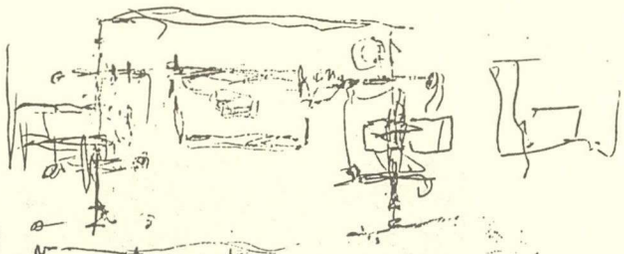


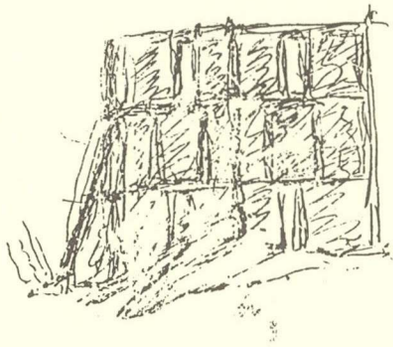




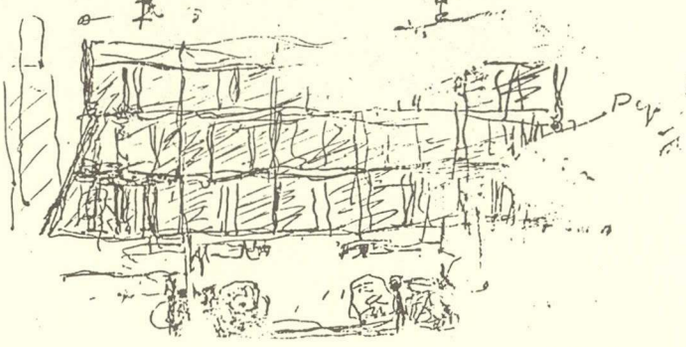




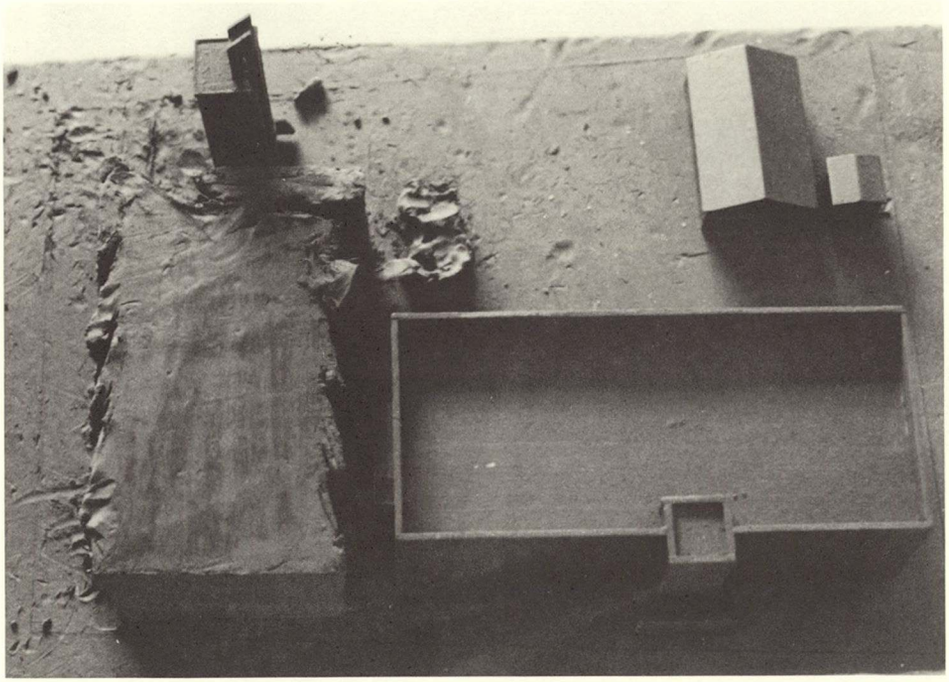


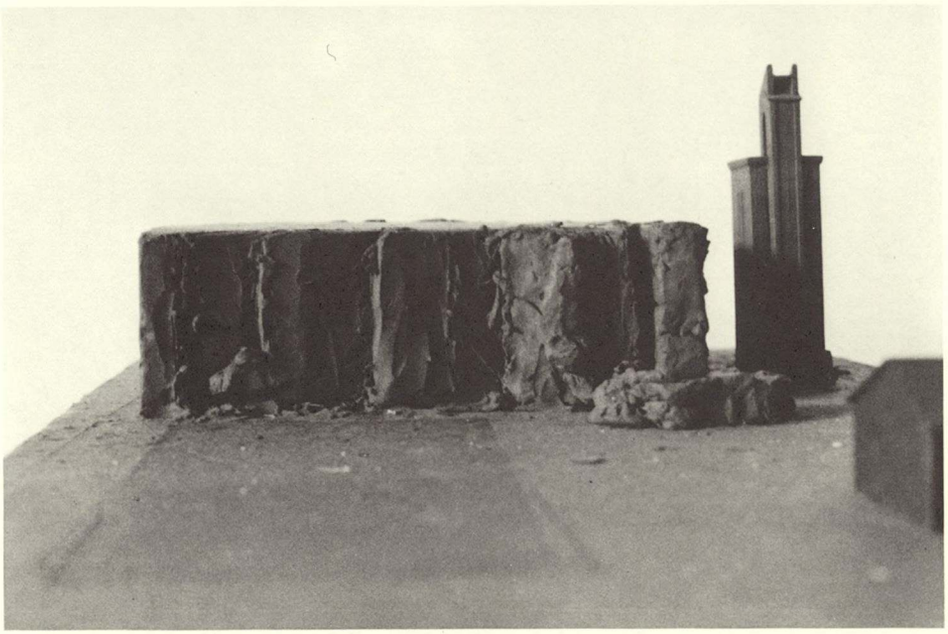








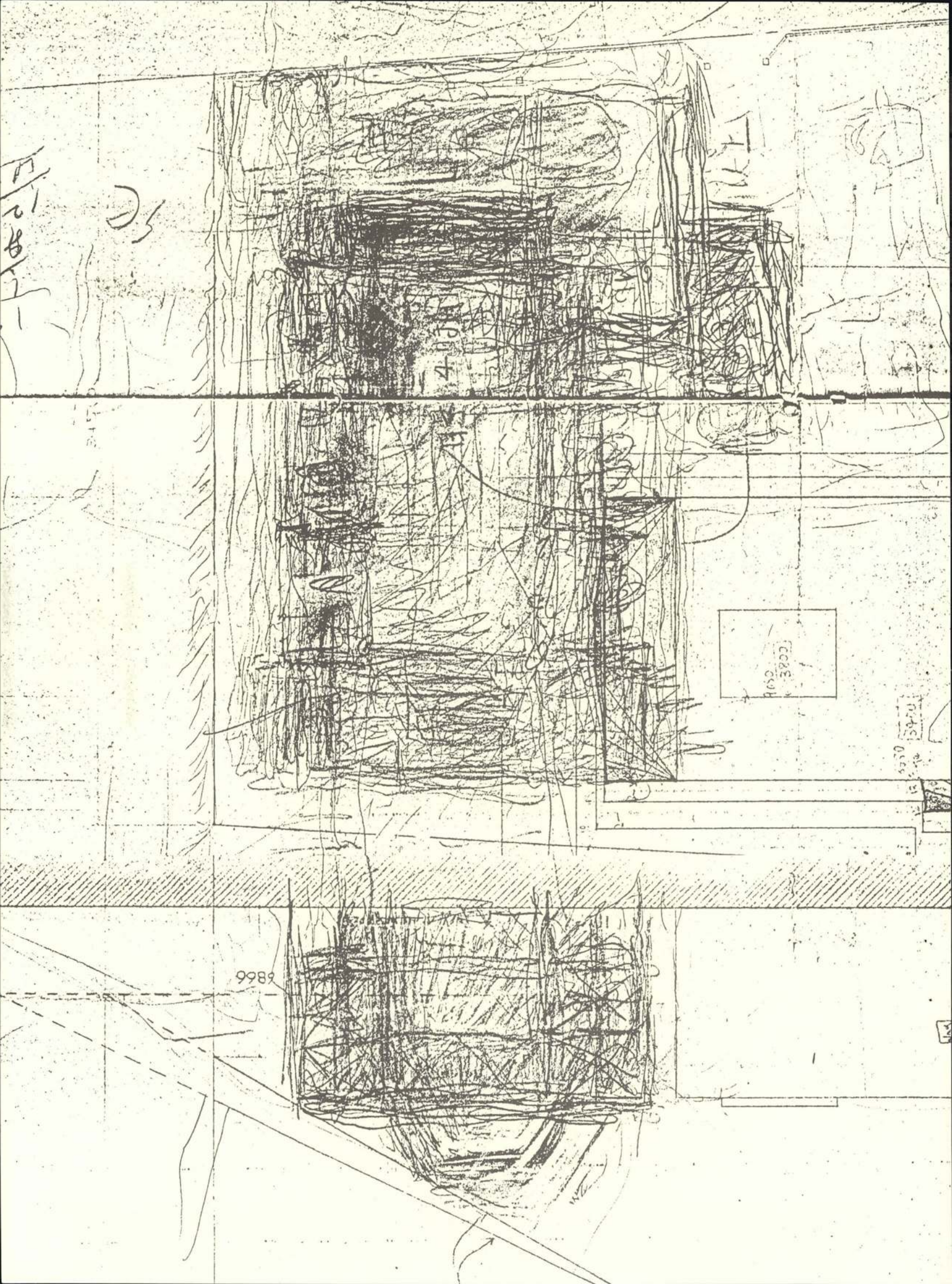


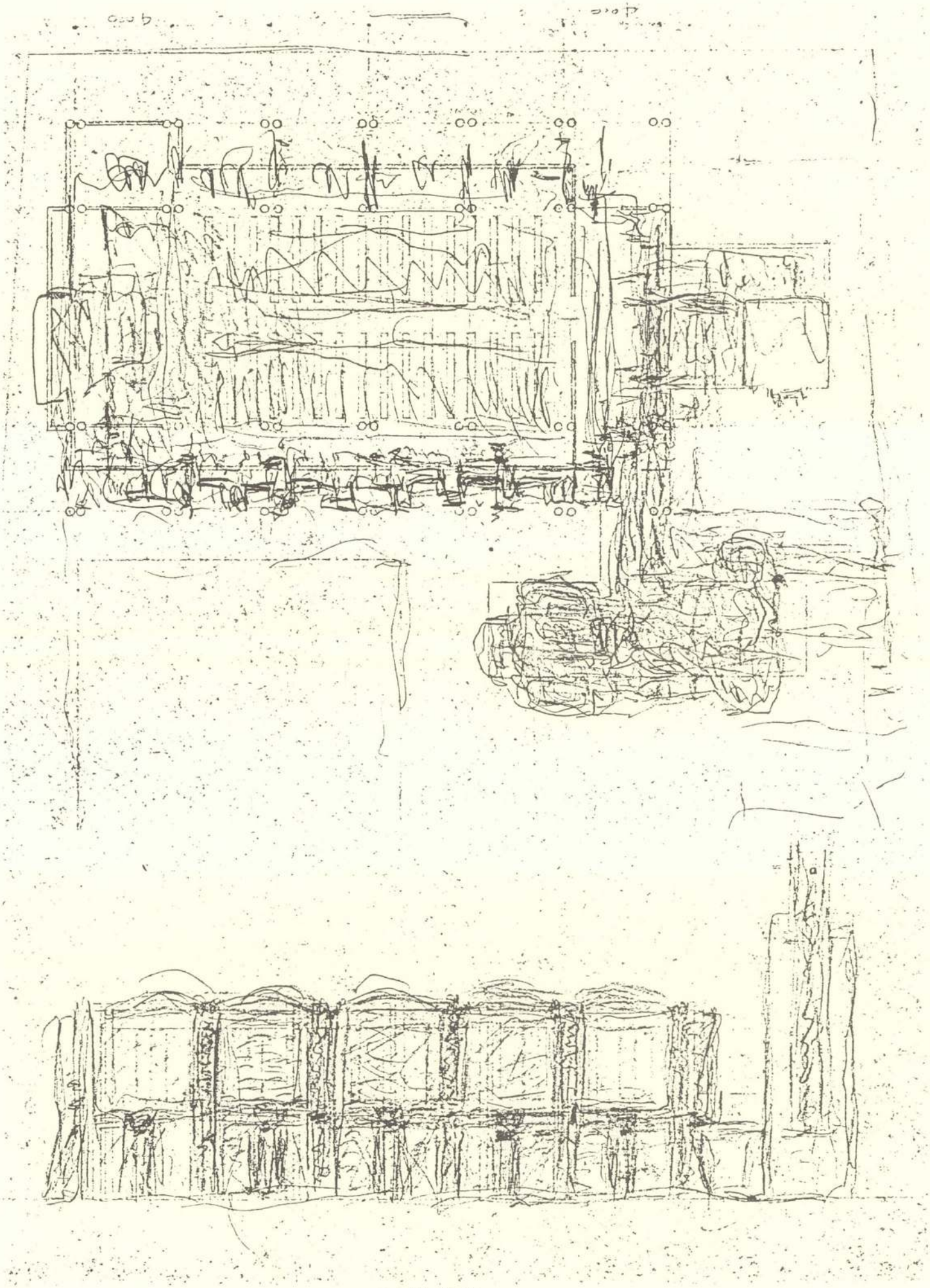


建物の形を決める際、通常は、基本的な要求事項を考慮した上で、それらを満足すべく大まかな輪郭線が決められてゆくという手順を踏むのであるが、今回の場合は、すこし事情が異なり、まったく純粋なイメージを先行させて設計を進めている。このような進め方にも、先生の力の入れようが窺える。前の頁に載せられたスケッチの数々は、すべてノンスケールであり、イメージスケッチの類である。

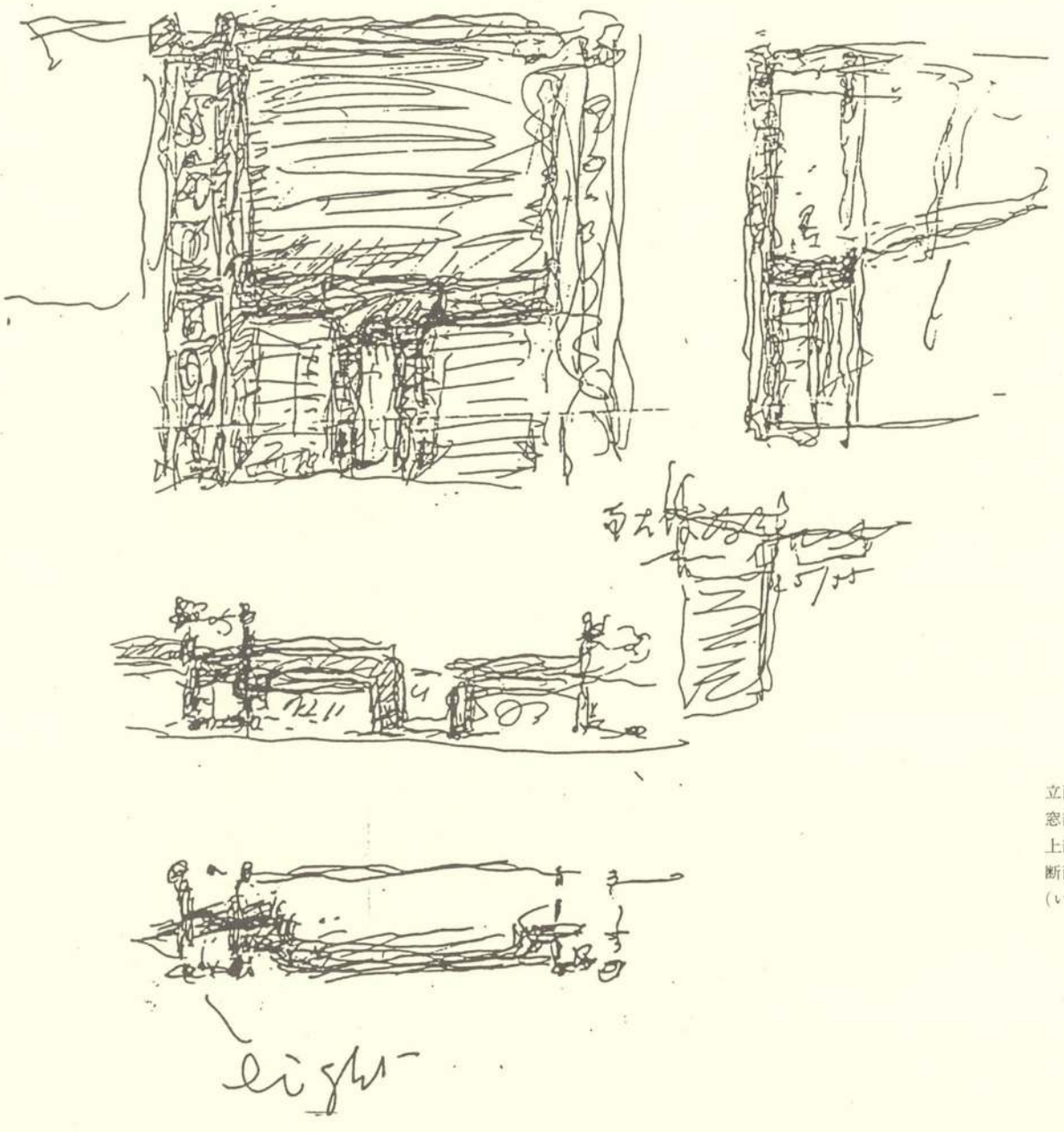
この頁のスケッチもノンスケールであり、そのイメージを初めてスケールに合わせて模型化したものが、左の写真である。これは、まず所員に直方体の粘土の固まりだけを造らせ、それに先生自身が刻み込んだものである。矩形波状の壁面構成は（ここにわれわれはモンドリアンや、Johon Johansenとの関連性を察するのであるが、）これに先行するスケッチ群の流れを汲むものと思われるが、列柱、梁などのスケルトンの表現はここでは不明である。

先生自らの手による最初のスタディ模型（中、下）と、それに符合すると思われるスケッチ（上)(いずれも現寸)
敷地図面の上に加筆されたスケッチ1/200(現寸)(右頁)

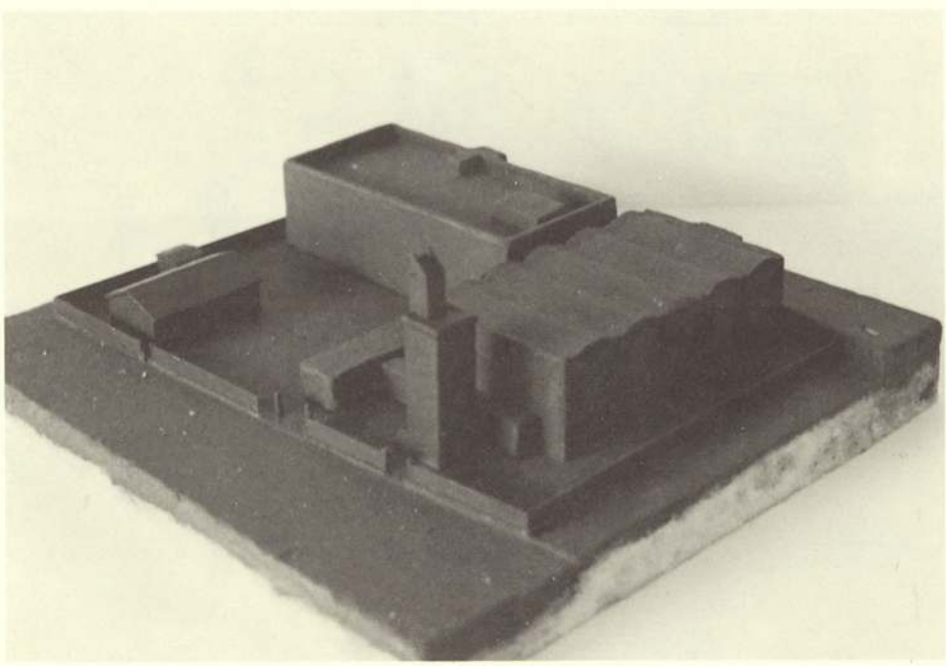




バシリカ形式状の案
平面図(上)と立面図(下)1/200(現寸)



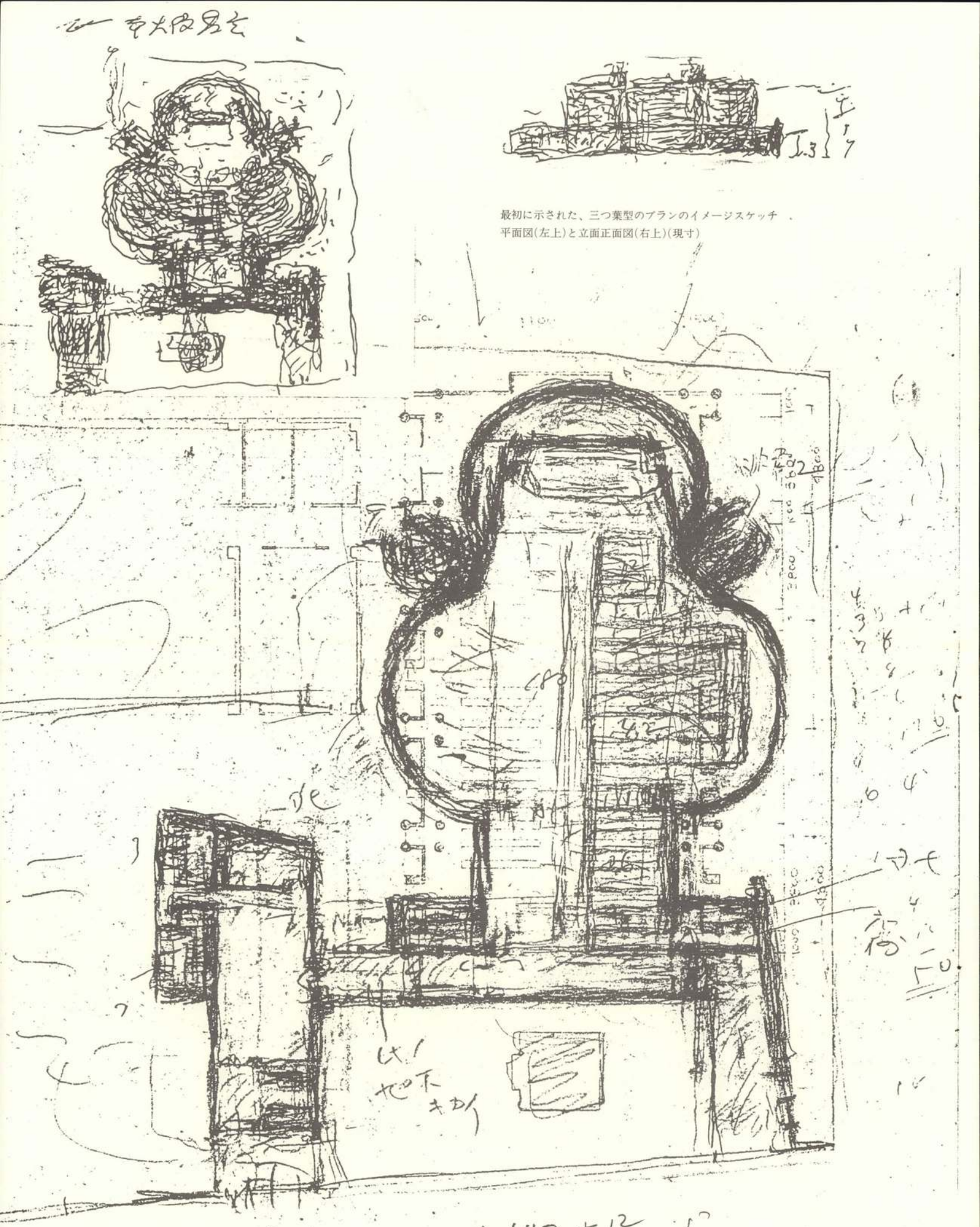
立面詳細スケッチ(左上)
窓部平面詳細スケッチ(左中)
上部平面詳細スケッチ(左下)
断面詳細スケッチ(右上)
(いずれも現寸)



バシリカ形式状の案の完成模型

前々頁のスケッチあたりから、除々に具体化され、日影などの法的な検討も行なわれて、図面上でのやりとりが始まる。

前頁のスケッチにより、これまでのさまざまな構想が一応、ひとつの形に収斂して、ペアコラムの列柱による、バシリカ形式状のプランができあがった。

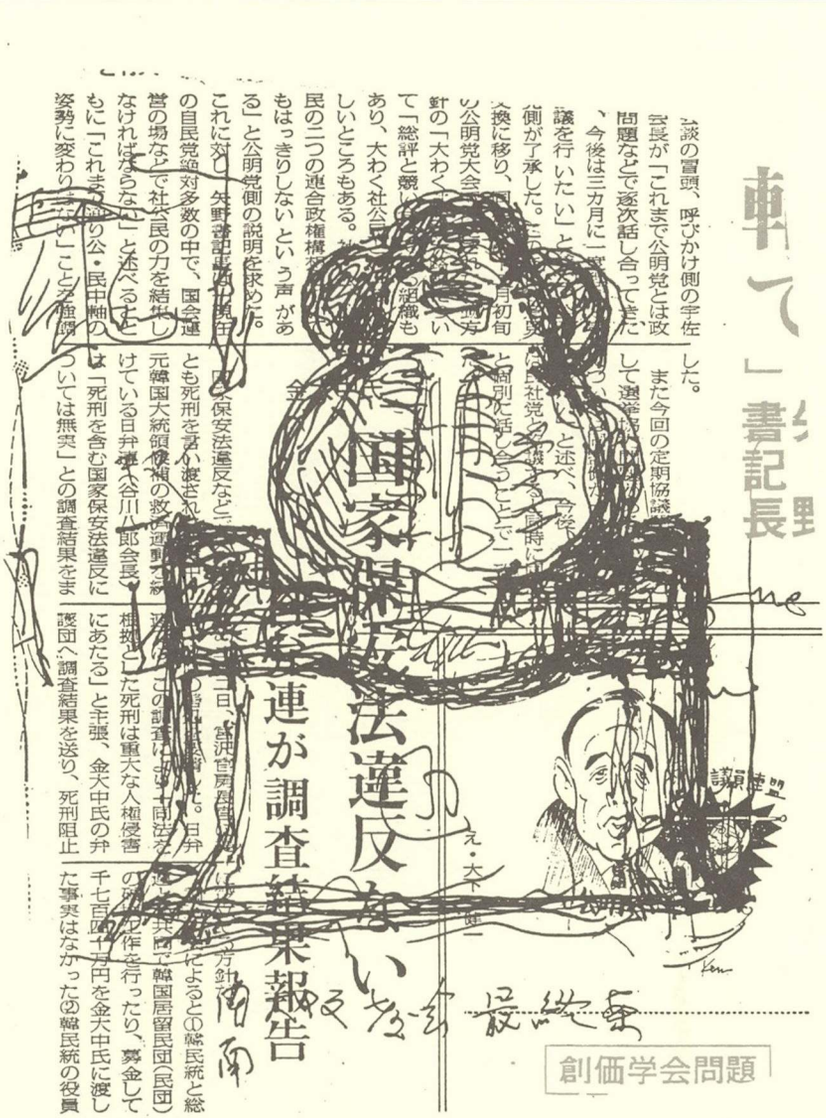


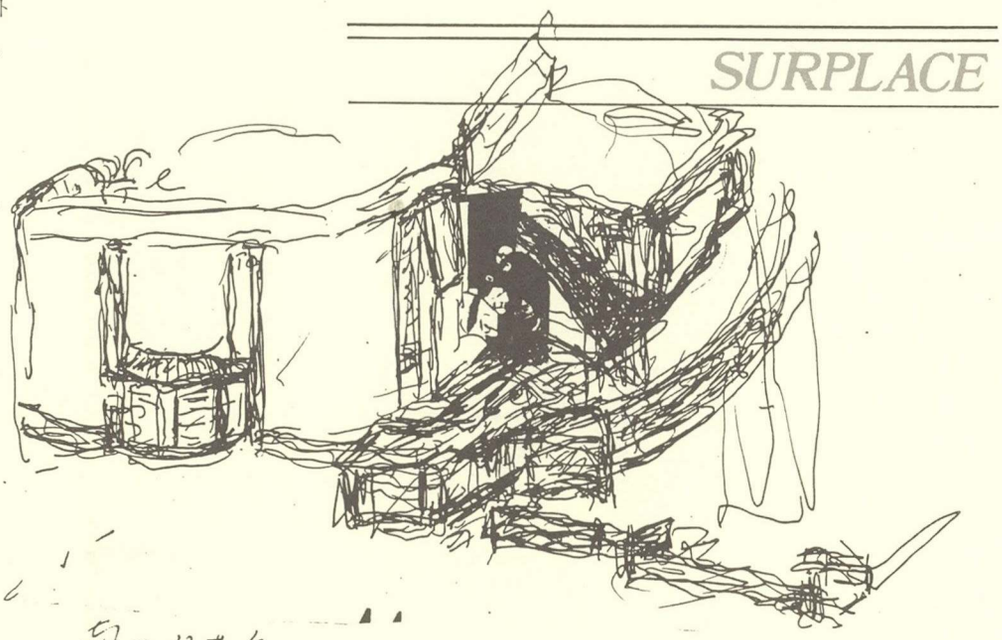
最初に示された、三つ葉型のプランのイメージスケッチ
平面図(左上)と立面正面図(右上)(現寸)

バシリカ形式上の案の平面図の上に描かれた
三つ葉型プラン1/200(現寸)

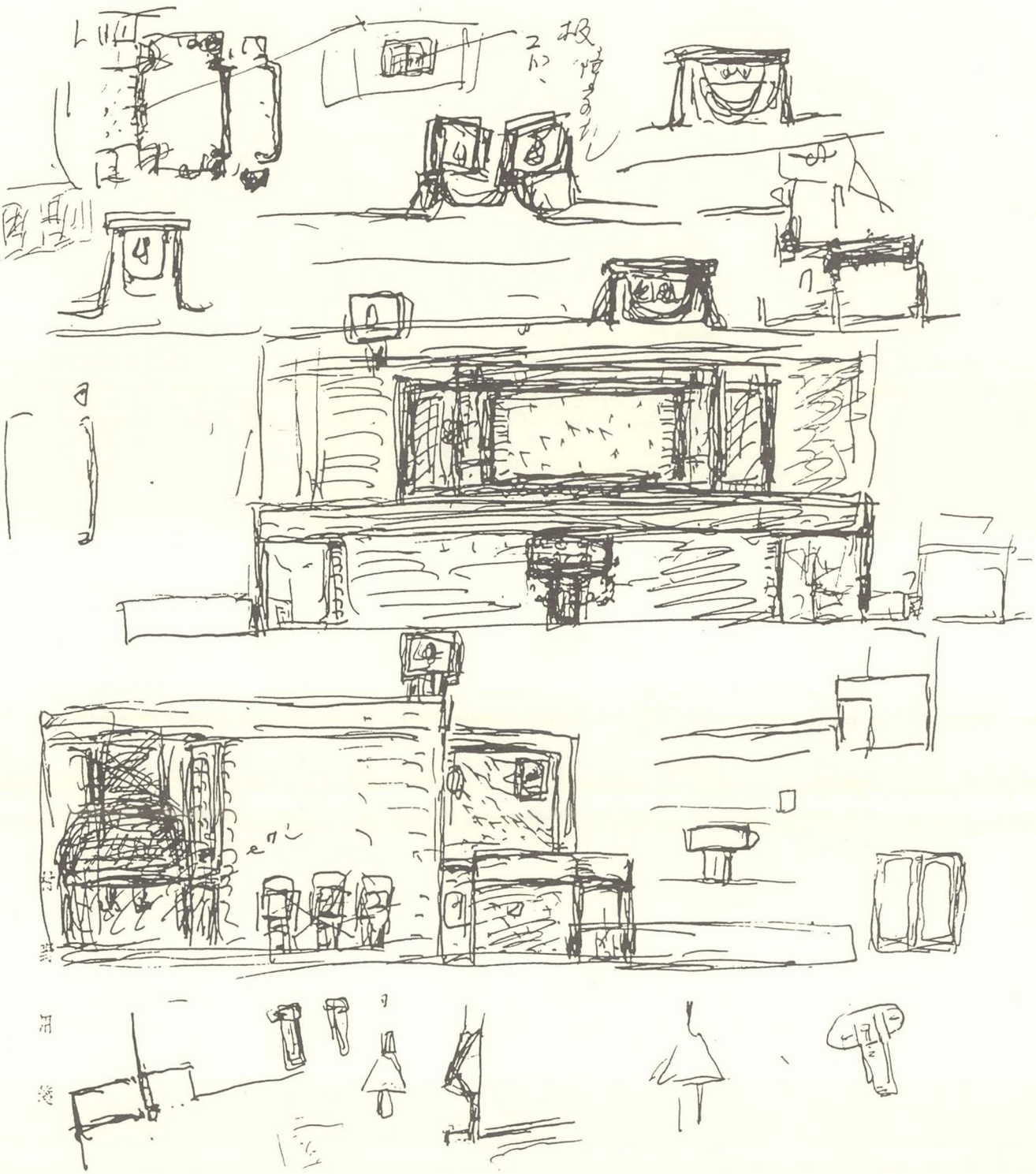
突如として三つ葉型のプランが出現する。この当時梅雨時になると、先生は殆ど毎年のことのように海外へ旅行する習慣だった。この異変が起きたのは、先生が帰国した矢先ではなかったかと思う。どういう訳で、突然丸いものへと変わったかを訊く者もいない。敢えていうならば、伝統的なラテン十字型プランと集中式プランとの融合だともいえるが、またそれが直接の動機であると断定するのもどうかと思う。竣工後のことになるが、先生は周りの環境を配慮して丸くしたという事をある処で述べている。すなわち、敷地一杯にかけて建物を建てる場合、丸いものにして隅などに空間を残しておく方が近隣の人々にたいして圧迫感を与えない、という意味である。

最初に描かれた三つ葉型のプラン（前頁）の時点から、設計者側としての最終案が示される迄の半年の間に、約十段階の変更が為され、その都度、規模の縮少が繰り返されてきたのである。南東に張り出された玄関棟にあたる部分（前頁スケッチ参照）は、少しずつ北へ移行し、高さは段階を踏みながら合計して1.5ｍ下げられ、地下階を取り止め、二階部分を縮少し……という具合である。その中でも最も大きな変更がなされたのは、第七段階目のものである。（右図）三つ葉の頭部が細分割され、牧師室、納骨室を本堂に附属するアプス状の空間として、規模の縮少を図ったものである。（祭壇を囲んで牧師室、納骨室と続く空間は、更に押し進められた形となって、この教会竣工直後に設計が始められた澤田政廣記念谷村美術館の中に見ることもできると思う。）二階への階段部分の屋根は傾斜し、更にそれが捻られて、この建物の外観のうち最も特徴的な部分を形づくる。これに伴って入口ホール部分の屋根も傾斜し、トップライトも決められて最終案がまとめられていった。



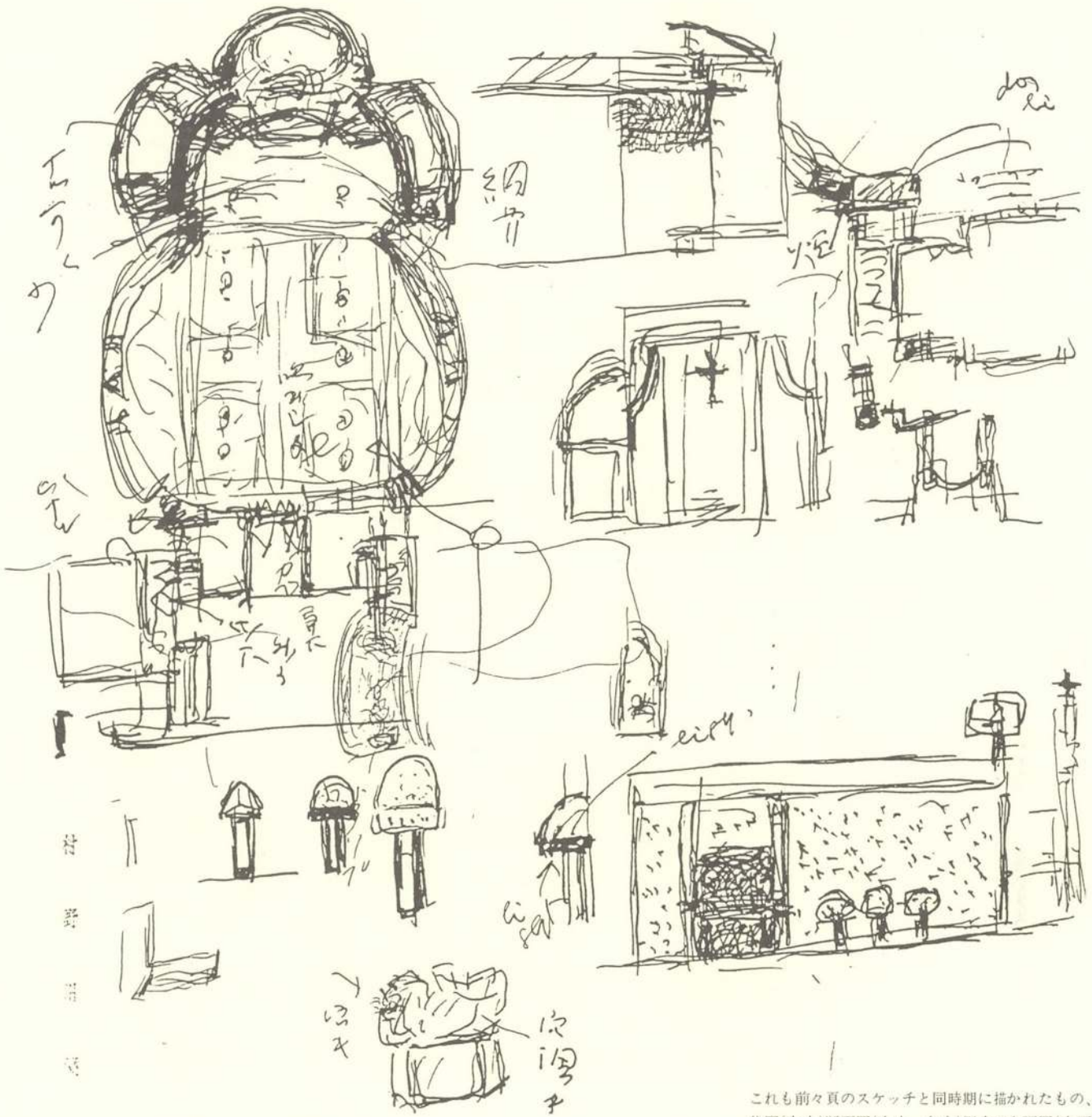


三つ葉型の頭部を細分割する時のイメージスケッチ
平面図（上）と外観図（下）（現寸）



前頁のスケッチと同時期に描かれたもの。正面図(中)と側方の立面図(下)の周りに窓や、カリヨンらしきものの詳細のイメージが描かれている。(いずれも現寸)

この時期は、先生が大阪にいる間は毎日のように、しかも殆ど一日中、この教会の設計に時間をさいていた。朝は大抵11時頃である。先生は階段を一段一段ゆっくり上がってくる。その足音のテンポ、時にはそれに交じって聞こえる咳払いに、所員は先生の気配を察する。とたんに、設計室の中は、しんと静まり返り、換気ファンの微かな音だけが残って聞こえる。張り詰めた空気の設計室の真中をゆっくりと突き進むと、所員の注目をよそに、まず教会の模型を睨みつける。先生の日課は、まず最初に、その時一番関心のある建物の模型を睨みつけることから始まる。そしてそのまま模型でのスタディに1、2時間を費すこともあれば、いきなり設計主任や担当者を呼んで打合せをすることもある。打合せといっても先生が黙々と図面を修正し、所員はそれを傍で見ているだけである。間に内容説明が入ることもあれば、それもなく無言のままに数時間が過ぎることもある。図面への描き込みが終わった所で変更内容の説明が始まるが、その説明を聞いてもまだ理解できない箇所が残る。模索中であるが故に曖昧な表現を採っている場合と、意図の本質が呑み込めない場合との両方がある。どちらにしても、不明な点はしばらく日を置かないと解決されないことが多いのである。



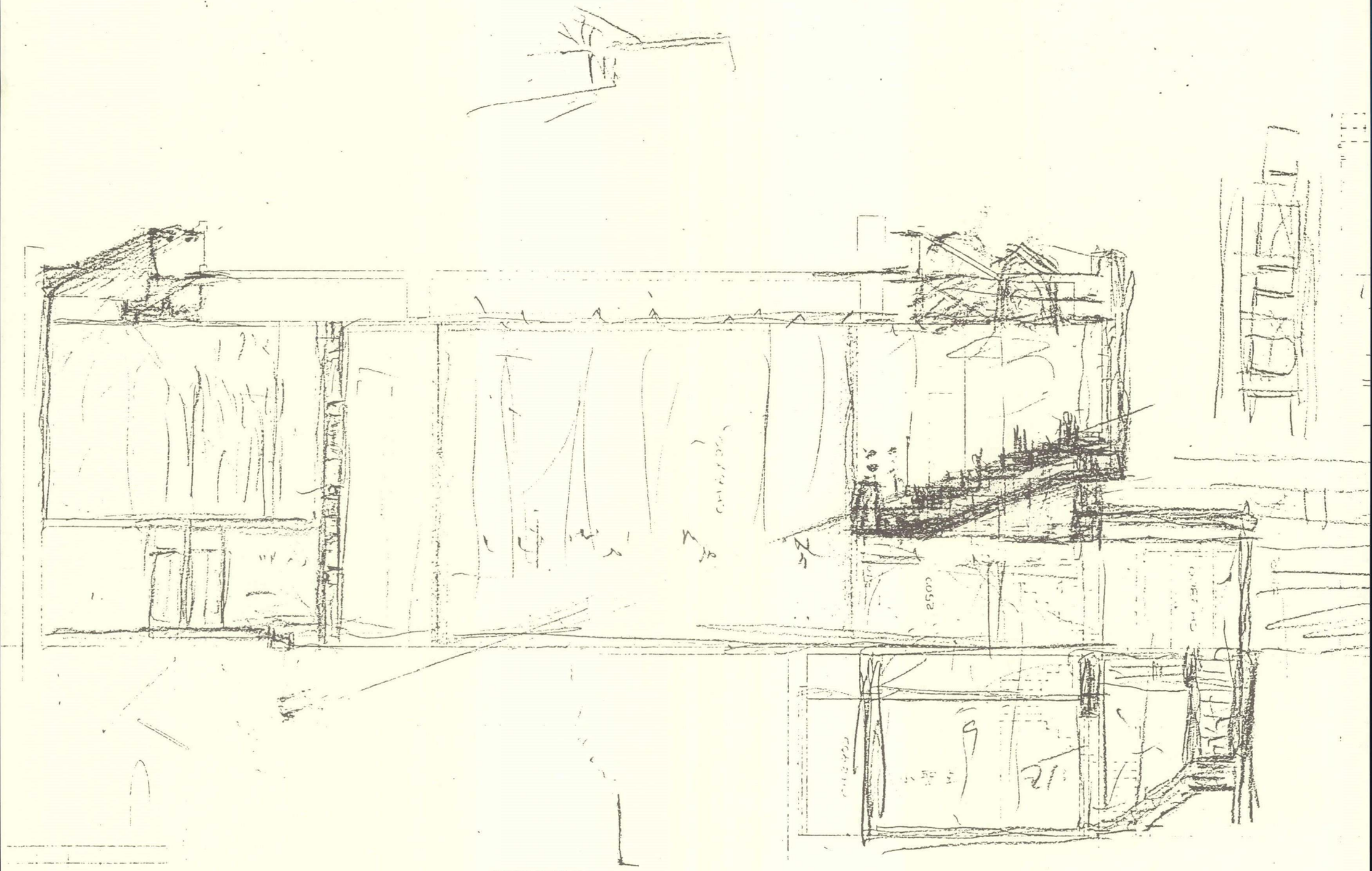
これも前々頁のスケッチと同時期に描かれたもの、天井伏図(左上)断面図(右上、右中)側方の立面図(右下)(いずれも現寸)

工事に入ってから、先生は現場へ、頻繁に足を運んだが、全体のコンクリートが打ち終った頃に来て一言、「きれいすぎるよ。」という。丸い建物だから、見る位置をずらしていけば、すべての壁が鉛直のアウトラインになる。型枠の多少のあばれが、正直に目に入ることになる。

現場の主任は、「あれは先生が厭味を言われてるんでしょうか？」と頭を悩ませる。数日後に、再び、同じ言葉を先生が口にした時、その真意を聞いて見たが、それは言葉通りの意味であった。打放シ用ベニヤ型枠では表情が硬すぎるのである。因みに、後の谷村美術館には小割板の型枠を使用している。

内装で先生が一番力を入れていた部分は、会堂内壁の仕上であった。木毛板を湿らせて湾曲させた上にパーライトモルタルを木鏝で摺込み、更にラフトンを吹き付けるというものである。木毛板、モルタル、仕上塗料各々に幾種類かの候補があり、それらの組合せによる見本を揃えた上で決定している。施工の難しいものではあったがそれなりの効果は得られたとして、先生自身も少なからず満足していたように思われた。この内装もまた、谷村美術館に違った形で用いられている。

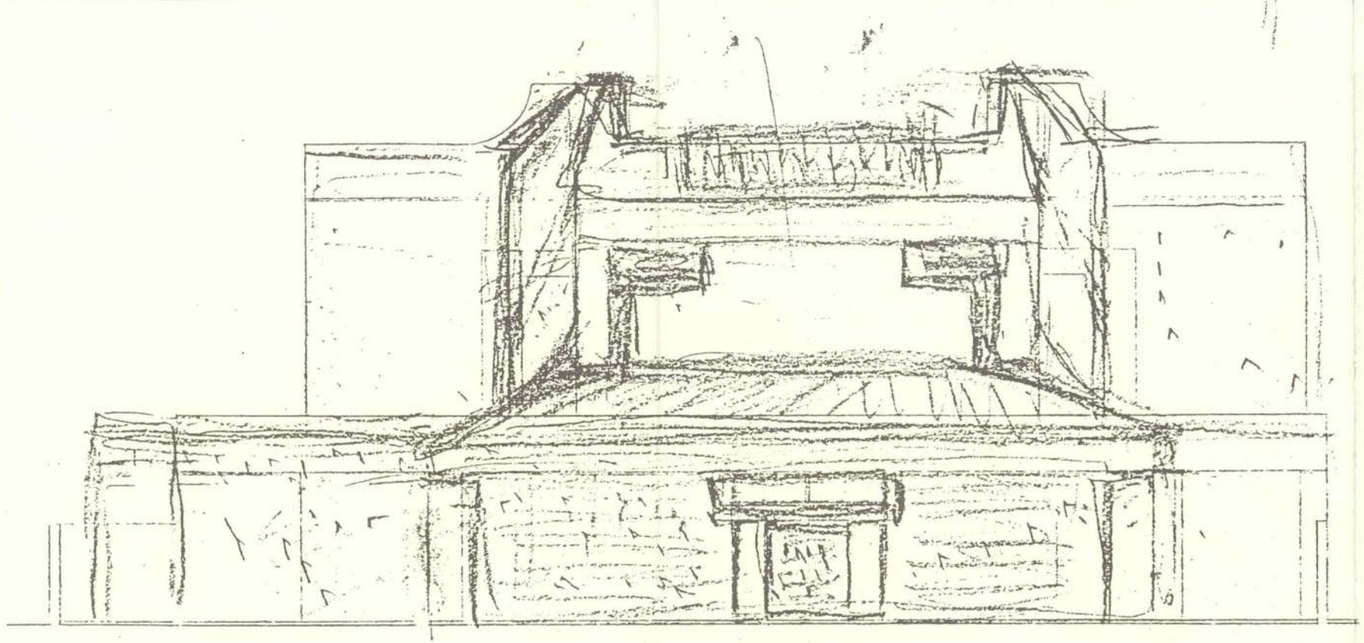
塔の補修に際しては、教会の方々の御理解も得られ、施工に当たられた方々の努力により、古さを維持する、という難解な作業も遂げられて、先生の趣旨は実現されることとなった。こうして、素材面や思考面などいろいろな点に於て、まだこれからの発展性を含んだ、一種の若さを備えた新会堂と、それよりも50年前の設計となる塔とが並んで建つことになった。この二つの建物が、今後、南大阪教会会堂としての任を果たしてゆくことを所員として心から願うのであります。



断面図1/100(現寸)

三つ葉の頭部がまだ細分割されていない時期のものであり、地下に小聖堂が置かれている。

一階平面図1/100(現寸)三つ葉の頭部が細分割された後、二段階の変更を経たもの。入口ホール上部の屋根は、この段階ではフラットである。



正面立面図(上)と側面立面図(下)共に1/100(現寸)入口ホール上部の屋根は勾配屋根となり、最終的な形がほぼ決められる。

南大阪教会のスケッチから

村野藤吾先生が亡くなられてはや一年、先生を偲ぶ特集号に、すでに数多くの作品集や「村野藤吾――建築とイメージ」展で注目を集めたスケッチ、それも未発表のもので飾ることは大きな期待であった。しかし限られた紙面では、そのすべてを明らかにすることは難しく、他にスケッチ集発刊の企画もあるとき、ご令息村野漾氏のすすめで、地元大阪、それも異例の数多いスケッチが残され、規模的にもその全貌が捉えやすい、南大阪教会に焦点を絞った。イメージの発生から建物の完成まで、村野先生の一断章を知る手がかりとなれば幸いである。なおスケッチはすべて現すのまま用いた。

この南大阪教会の計画は、昭和3年の村野藤吾先生の処女作ともいうべき木造の会堂が、傷みはげしく、鉄筋コンクリート造に建替えたもので、昭和54年秋に計画をはじめ、56年末に竣工した。当初、本編集のために寄せられたスケッチは、ひとつを除いて所員の作図の上になぞらえて描かれたもので、順を追って見ると、設計の過程が克明に読みとれ興味深いものであった。

しかし、いざスケッチ集として見たとき、大きな図面の部分に手の加わったものが多く、散漫になるおそれがあった。ところが、まとめの段階になって、設計担当者も知らない、図面化される以前の、心の形(Thought Form)ともいうべきノンスケールのイメージスケッチが続々あらわれ、様相は一変した。そこには、この計画に注がれたエネルギーの大きさ、順次イメージを重ね展開してきた数多くのスケッチ、そのすべて覆えしあらたにする柔軟な発想の転換など、あの巨匠がと目を見張らざるを得なかった。

壁を重ね、屋根をかぶせたクラシックな型から、隣地への配慮という、三位一体とも思えるプランまで、すべて塔を意識し相対し、外光を導入して光と影を演出し、当初のレンガ壁から今のモルタルガン吹付仕上まで、形とテクスチュアーに経済性を加えた、葛藤がのぞき見れる。詳しくは、この仕事に携った近藤正志、笹木篤の両氏に思い出をメモしていただいた。

延床面積415㎡、工費約1億円、村野先生にとっては、処女作の建替えとはいえ、直接手がけなくてもよいとさえ思えるこの仕事に、何故このようなエネルギーが注がれたのであろうか。カトリック系の教会とは異り、儀式を重んじることの少ないプロテスタント系教会では、シンボリックな宗教的空間より、安く早く使い勝手のよい実利的空間を求める方が、よりピューリタニズムと考えることが多いように思える。

さらに日本基督教団に属する教会の運営は、牧師と役員信徒の合議制によるので、最大公約数的な実利的考えに一層の拍車がかかることは、同系の信徒として育ち、役員も経験してきた私にとっては想像に難くない。このような中で、献金など少ない予算にあわせ、塔を残し補強し、祈念の空間を生み出すことは容易ではない。90歳に近かった村野先生は、夕方から夜10時にまで及ぶことも珍らしくなかったこの役員会に出席し打合せを行うことを常としたという。ここで生じたであろう言葉での対立を、論ずるよりすべて形で証すること、これは神が建築家村野藤吾に与えた使命と信じ、エネルギーを注がれたとしか考え難い。

処女作から終焉ともいうべきこの計画まで、南大阪教会は神の見えざる糸に導かれた、村野藤吾先生の大きい献物である。　　(辻野純徳　記)



日本キリスト教団南大阪教会

設計　村野藤吾

施工　奥村組

所在地　大阪市阿倍野区阪南町一丁目30－5

地区・地域指定　住居地域、第二種住居専用地域・準防火地域

建ぺい率　60%

容積率　300%

敷地面積　2,045.355㎡

建築面積　362.67㎡（新築部分のみ）

延床面積　415.41㎡（　〃　）

構造規模　ＲＣ造、一部Ｓ造、地上２Ｆ

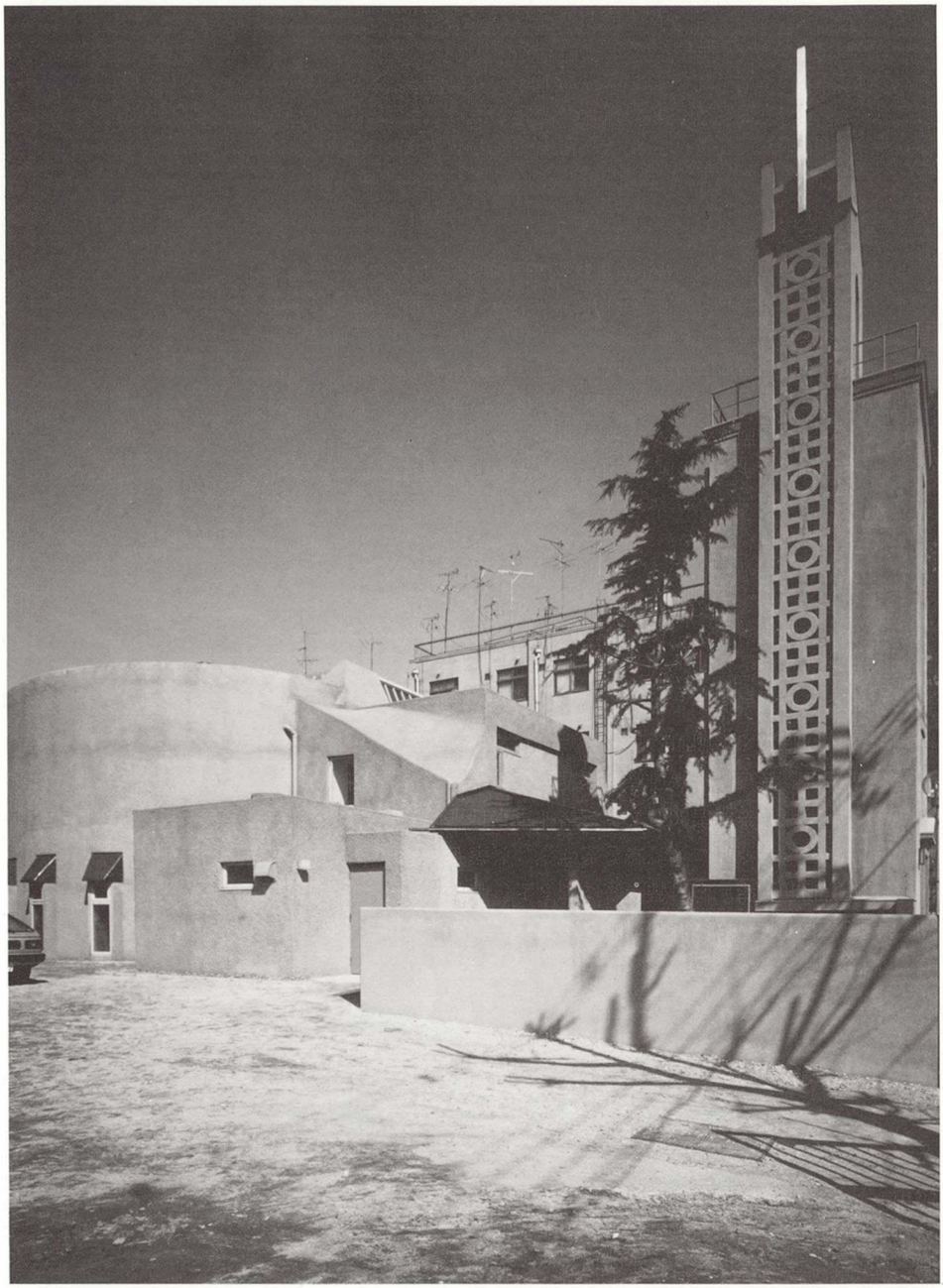
収容人員　聖堂 250人

（礼拝堂218人、母子礼拝室13人、聖歌隊20人）

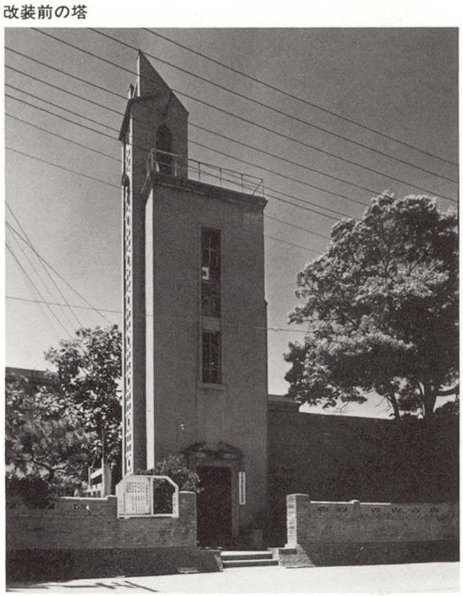
小集会室 20人　計270人

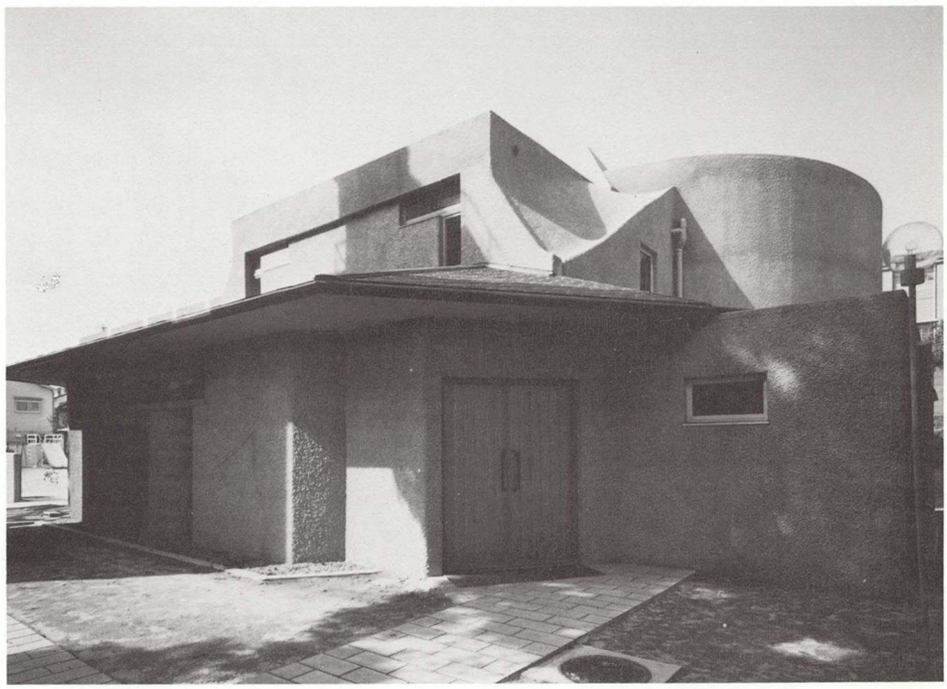
工期　昭和56年５月～56年12月

最寄駅　地下鉄昭和町駅（御堂筋線）、文の里駅（谷町線）



改装前の塔







南大阪教会内部



写真（外観・内部とも）　村野、森建築事務所提供
外観2点撮影　三島叡
外観1点内部2点　多比良敏雄

村野藤吾と大阪

水谷頴介

大阪との66年

村野先生が早稲田大学を卒業して、渡辺節建築事務所へ入所し、大阪にやってきたのは、大正７年（1918年）である。大阪に来たことについて、

「大阪に来て、まず喜んだのは、親が一番喜んだ。私の若い頃の東京と大阪というのは、九州からの親近感が違うわけです。（略）大阪を選んだもう一つの理由は、大阪はその頃から多少自由でした。東京はどうしても様式的な建築が支配していました。大阪は、その頃から自由な建築が、二、三建っていました。私はそれらに非常にひかれ、建築的には、大阪の方がいいなあという気になって、大阪に来たのが直接の動機です。その大阪に住んでみると、友人などが船場あたりにおった関係もありますが、大阪の良さがわかってきます。（略）大阪の庶民性に私は非常に興味を持ちました。後から気が付いたのですが、東京はいろんな格式とか、なにか勲章がついていないと重く見られない傾向があります。つまり、形式的です。

ところが大阪では、実力があれば、本当に力があれば、独立が出来る。あるいは、もっと大きく言えば、財をなすことが出来るというような気風がありました。大阪の歴史が物語る通り、糸へんの会社が中心でした。この建物（綿業会館）がその一つです。こういう風に自分が苦労して自分の道を開いていく、そう気運が大阪には残っています。つまり実力主義といいますか、腕があれば、腕とその人に誠実さがあれば、とにかくなんとかやって行ける。これが、私が大阪にひかれた最大の理由の一つでしょうね。それに大阪というものが、つまり、大阪・京都を含めての文化的な問題も、私が大阪に根をおろした理由と申し上げて、よろしいかと思います。」

「大阪へ来る前は、大阪は自由だなあて気がした。昔、旅行をしたから、私は東京の気風は肌に合わないと思った。今は東京と大阪、日本国中、みんな同じで同質になってきた。当時は、今ほど東京と大阪は近くないしね。大阪は商業の文化が町に満ちているし、おやじが九州ですから、身近に感じている。そんな点もあります。それから、大阪にひかれたのは、前にも話しました。設楽さんが設計した北浜の有沢医院の建築でしょうね。」（「建築をつくる者の心」なにわ塾叢書）」と語っている。

村野先生の生まれ故郷は、九州・唐津である。かつてその唐津でスケッチ展が開かれたが、そこで、「設計にあたって数知れぬスケッチを書きつづけるという自分の行為は、生まれくる子供によい影響を与えるようにと母親が心や行いを正しくするという胎教と同じ気持ちだ」と語っている。建築家は母親と同じ立場であり、建築は子供で、愛と慈しみをもちつづけなければよい建築は生まれないし育たない、とも話した。

写真家の多比良雄さんの吉田五十八賞受賞を祝って、福島の小料理店で集まった時、村野先生も森さんとつれだって気楽に参加してくださった。先生の若い時代の話やソ連旅行の話題がでて、「モスクワは東京、大阪はレニングラードですね」との問いに、「そうだよ、レニングラードのように大阪はもっと風格をもたねば……」と大阪への想いを語られた。



大正10年～昭和２年頃の阿倍野と上六界隈

また、「私はやったことは、日本的だとよくいわれますが、自分ではわかりません。自然にそれが出てくるというのか、私が関西に席をおいたということから出てきているのではないかと想像しています」（新建築6605）、「ひとつは船場・島之内の青畳があって、薄暗いお座敷ですね。これが非常に魅力的なものとして記憶あります。船場・島之内の奥深い生活の仕方といいますか、外に向かって門戸を張らないで、奥へ行くほど豊富な生活をする。これはひとつは、庶民階級が諸大名から無理をいわれるのを避けるために、そういう生活の仕方になったんだろうと思いますけれどもね。

島之内の家はみんな中庭ですからね。幅が５間から、広くて７～８間ぐらいですか。それで中庭だからどうせ光線は少ない。まして外に面しては格子でしょう。だから畳が焼けないで、しょっちゅう青畳、歩けば畳の音しかしないようなやさしい歩き方でしょう。これが船場・島之内の品のいい人の生活ですね。これが私の頭に今もこびりついているんです。東京みたいに門戸を張るとか、功なり名を遂げたので豪壮にするということはかつての大阪にはなかったですね。私が日本間をやるとそのようなことが自然に出てくるんです。

で、西洋館をやるときそれがなくなるかというと、やっぱり西洋館をやるときだって、それがついて回る。」（新建築57．3「松寿荘の語るもの」）と話している。

こういった話を聞いて、想い重ねるのは、村野先生より五歳上で、村野先生より５年遅れて大正12年（1923）に関西移住した谷崎潤一郎のことである。

周知のように、谷崎も関西を知ることによって、谷崎文学を大きく開花させ、関西での生活と文学がもっとも充実し、重要な位置をしめた。関西での生活を10年体験して、谷崎が「陰翳禮讃」（昭和８年《1933》）で書いた世界を読みすすめていくと、村野先生が感じた大阪の生活風土と同じものを知ることができる。また、一方、谷崎潤一郎は「陰翳禮讃」に固執したのではなくて、自ら設計した本山村岡本梅ヶ谷の中国趣味を加味した自邸別棟などでは、きわめて衛生面を重視したといわれているし、西洋に影響されながら知的健啖ぶりを発揮して文学の美的写実性や千変万化する文章スタイルを編みだしていった。こういった側面でも、谷崎文学と村野建築は、同質であり、偉大だということができる。関西を知り、そして町と生活の明るさを港町神戸や瀬戸内海と連続してもち続けている阪神間に両者が定住したことも、〝華やかなうちにも寂びのある風情（きれい寂び）〟が身についたのだと思っている。永年にわたる村野語録は、いわば谷崎の「文章読本」に比しての「設計読本」とでもいってよい。

村野藤吾先生の遺作である都ホテル大阪が、昭和60年10月３日オープンし、隣りあう村野・森建築事務所が設計した上六ターミナルビル（昭和48年）の近鉄百貨店で開催された「生誕100年記念谷崎潤一郎・人と文学展」を、昨年の神戸そごう展に続いて観賞しながら、両者の生前の面談が実現していたならば、いかに有意義な対話が生まれたかと考えめぐらしてもみた。

ところで、村野先生が大阪にきた大正７年は、中之島中央公会堂が完成し、阪神電鉄や阪急宝塚線・箕面線は走っていたが、阪急神戸線は走っていなかった。村野建築事務所が創設された昭和４年（1929）には、大阪鉄道（現・近鉄）の阿倍野橋――吉野間が開通し、そのあと４年たって、昭和８年（1933）に、城東線（現・環状線）大阪――天王寺間や地下鉄（梅田――心斎橋間）が走り、御堂筋の全線が開通したのは昭和12年（1937）である。「大阪百年史」（大阪府、昭和43年）の付録年表によると、昭和４年は〈世界大恐慌により大阪の経済界に大打撃を受ける。農業恐慌始まる〉とある。また、〈内務省、失業者30万人と発表「東京行進曲」流行〉とある。

村野先生は、渡辺節事務所時代は近鉄沿線の小阪に居住し、事務所創設は、阿倍野の松崎町の借家で、そして、昭和６～７年に現在の場所に移った。当時のことを、

〈私が事務所を持つときに、渡辺先生が「お前たちは（事務所を持つなら）自分の家でやれ」と言われた。それは、経費をかけるなと言うことです。その頃、うちの事務所も〝そごう〟をやったりして、どこか便利な所を借りたかったけれど、事務所に堅実な者がおって、「先生それはやめなさい」……それで今の事務所にしたわけです。

１番最初はね、私の家の台所を改造して、そこで図面を引いていた。阿倍野の今の事務所の途中に泉岡宗助さんから借家していた所ですが――泉岡さんとのかかわりはそういうところです。そこで、台所の所に増築して、塀の所まで庇をつけて、塀より低くして――増築ですから、規則に関係するからですが（笑）――ある者は二階ベランダで西陽のあたる所でやってました。今でも、その当時の生き残りがいますがね、石原君とか近藤君とか、いま自分でやってますが……。そのように、先生に言われた通り金をかけないで、自分の家でやっていた。

そのうちに泉岡さんが見かねて、「おれのところを貸すから、お前そこで事務所をやれ」と言ってくれました。それで、ビルディングを借りることはやめました。考えてみると、あんな小さな事務所でも、家賃が相当かかるわけで、現在は、借りなくてよかったと思ってます。つまり、経費をかけなければ、次のチャンスを待つ力があるわけですから、無理しなくてすむ。〉（「建築をつくる者の心」）

と、50年も経過しているのに生々しく回想している。事務所創設後２年の昭和６年（1931）の作品が、東京の森五ビルと玉出の大阪パンションと神戸の大丸舎監の家である。

この昭和６年に、ブルーノ・タウトが来日し、５月10日、日本建築協会主催のもとに朝日会館で「新興建築講演会」が開かれた。竹腰健造の開会の辞につづいて、中西六郎、瀧沢真弓、村野藤吾が講演し、そして、ブルーノタウトが上野伊三郎の通訳で「日本建築と西洋建築との関係に就いての第一印象」を語り、池田実の閉会の辞で終っている。村野先生の題は、「日本に於ける折衷主義建築の功禍」だった。

村野・森建築事務所は泉岡氏から長年の月賦で譲り受けたという当初の土地から移転せず、昭和45年に改築されて現在にいたっている。現在はラブホテルや飲食店に周囲を囲まれた下町の中である。創設の場所であり、永年の愛着の地から離れがたいということだろうが、普通だったらより便利な都心へ移転してしまうのが常だ。

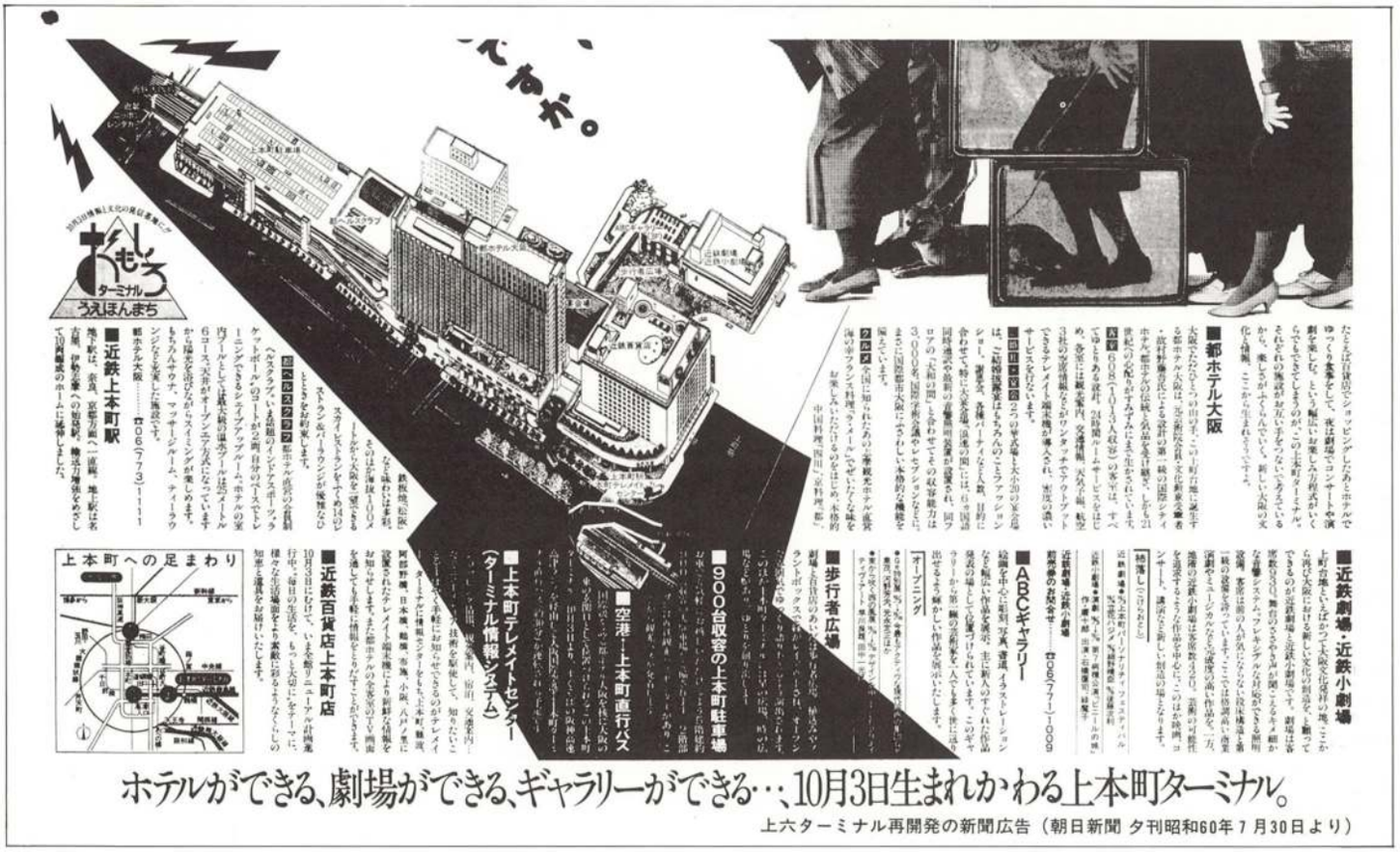
泉岡さんへの恩義もふくめて、自己形成の場への義理固い村野先生の心がしのばれる。昭和15年にお住まいは、尊敬していた長谷部鋭吉の住んでいた宝塚荒清山に移った。大阪の北郊から都心を通り抜けての南との行き帰り、戦後もずっと後のことだが、私も何回か地下鉄で、先生が雑誌を見ながら黙々とスケッチをしていられる光景に出会う機会があった。

大阪、阪神間、関西

村野作品と大阪の町のかかわりを、しっかりと形成しているのは、阿倍野と上六、御堂筋――中之島や道頓堀、千里山である。

阿倍野は、事務所発祥の地であり、南大阪教会（昭和３年）、大阪パンション（昭和６年）は、その地縁圏にある。南海鉄道に沿って西成地域や北畠や帝塚山の住宅地化は始まっていたが、まだ周辺は大部分農地の頃だった。南大阪教会の東に、山城隆一、早川良雄ら大阪のデザイン界活性化の一翼を荷なう人材を後年多く生んだワイマールの工芸学校を模した現在の大阪市立工芸高校（大正13年）がすでに建築されているという土地柄でもあった。玉出も旧勝間村の集落の東にできた新興地区だった。

戦後になってからだが、阿倍野には、近畿映画アポロ劇場（昭和25年）、近映会館（昭和29年）、阿倍野ビル（昭和30年）、阿倍野センタービル（昭和45年）など、つぎつぎにという印象だった。上六は、村野先生が渡辺事務所時代、小阪から通っていた頃からの因縁ぶかいターミナルである。大阪電気軌道ビル改装（昭和11年）、戦後になって近鉄会館（昭和29年）、近鉄上本町ターミナルビル（昭和44年、昭和48年）、近鉄新本社ビル（昭和44年）、そして、今回の都ホテル大阪である。私ももう15年も以前になるが、近鉄側からお招きをうけて、上六再開発構想について意見を求められ、森さんとも同席させていただいたことを思い出しつつ、新しいホテルと上六界隈を見学させてもらった。ここまで至るのにこれだけの永い年月が必要だったのだなと感慨深くもあった。近鉄劇場や近鉄小劇場に生まれかわった近鉄会館の改築設計が村野先生自身の手によらなかった



上六ターミナル再開発の新聞広告（朝日新聞 夕刊昭和60年７月30日より）

のは残念だが、大和文化の玄関口であり、大阪文化発祥の地・上町台地のキタ・ミナミに競合しての新しい出発がこれからの楽しみである。

御堂筋ということになると、まず戦前の名作十合百貨店（昭和11年）から始まる。ガスビル・安井武雄設計（昭和８年）は、すでに建築されていた。その〝そごう〟のお話、

「その時に二つのいい例ですが、経営者のものの考え方がおもしろい。

〝そごう〟の時は心斉橋という、なかなか良い所在地の店です。元は京都ですがね。それが、〝大丸〟も帰ってきたから、〝そごう〟もすぐにやらにゃいかんと言うので、すぐ〝そごう〟の設計にかかった。〝大丸〟はああいう立派な建築ができている。それに対して、〝そごう〟が後からやる。そうするとね、依頼者の心構えとか、経営方針というものが反映するんです。期待は、両者とも違った意味で同じだと思います。

〝そごう〟の場合は、重役が「私は、建築家に対し６割依存しているんだ」とおっしゃるわけです。６割ということは、自分は４割になる。その時私はこう言った。「それは逆でしょう。４割が建築家で、６割が経営者側にあるのではございませんか。」

一設計者に大変な金を掛けてやろうとするのは、自分達は大変な思いでやっているわけでしょう。恐らく、金融その他いろいろな苦労があったのではないかと想像するんですがね。

それから、その時彼は、「建築の中に柱が見えない方がいい。」見えないということは、柱を目立たないようにしてくれということです。柱なしの建築ができるわけがない。それ位建築に無理な要求があるが、それだけ建築家に依存しているわけです。それを、私はあの歌舞伎座の場合と同じように、非常に感激しました。

「何か大衆にアピールする形というものがないか」、それを私は考えた。のるかそるか、向こうものるかそるか。自分の建築的生命を打込んでもよいから何かやろう。

そうすると、その時、蓄音機かラジオのデザインで、横縞を主にしているのがあった。「これだ！」と思った。「縦縞で行くんだ。それで大衆にアピールさえすればいいんだ。」

縦縞というのはそこから出てきた。これは横から見るといいが、正面から見るとまずいでしょう。

ところが、その時、御堂筋はそんなに大きくなくて狭かった。だからこんなに広くなることを想像しなかった。横から歩きながら見る建築だなと直感した。そうすればリブがあった方がよい。理由はもう一つあって、陽が差さないようにしなければいけないということもあった。

しかし表面は大変です。デコボコになっているから金がかかっている。しかも最初はトラバーチン（大理石の一種）の予定だったんです。トラバーチンの色ってのは、一番百貨店向きだが大変な事なんです。それでも構わない。縦縞というのは、ラジオか何かの横線を縦にして、大衆にアピールして大丸を圧倒しようと言うのが私の狙いだった。

その時私は、これで建築的生命がなくなるかもしれないが、構わないと思った。依頼者がそれだけ一生懸命なら、それで討ち死にしよう。それ位の建築家の心構えを、今日は特別だから、皆さんに申し上げる。〝そごう〟はまだまだ使ってますから、まだやっぱり一歩踏み止どまったんだな、と自分では思っています。しかし、〝そごう〟も、もう改装しなきゃならない時期ですからね。いつかはねえ……。」（「建築をつくる者の心」）

この建築家６割に対して、同時に設計していた神戸大丸は箱でいいといわれ窓でデザインした話、この二つの百貨店設計のためにアメリカの百貨店の経営と建築の多様な実状を研究した話をうかがうと、村野先生が建築の型に対して既成概念をもたず、じつに自由に対処される姿勢に感心してしまった。それに対して、東京のアカデミズムが、病院はこうだ、学校のプランはかくあるべし、理想の市庁舎は、といった姿勢でプロトタイプを追いかけ提示することで目標を終えるのは間違っていると考えるようになった。建築も文学のように、おのおのの主体性と個性的内容と表現をもつことからはじまるという道理から離れてしまいがちの風潮に対して、もうひとつのサゼッションが、新歌舞伎座（昭和33年）だと位置づけたい。新

大阪ビル（昭和33年）は、阪神高速道路が走る以前は、堂島川に美しい立面を写していた。千日前グランド劇場（昭和28年）、ドウトン（昭和30年）、プランタン（昭和31年）、富田屋（昭和32年）、大成閣（昭和39年）、戎橋プランタン（昭和40年）が並んでいた頃は、心斎橋――ミナミはまだ元気だった。

昨今は、アーケードやカラー舗装のつくりかえを対象とした心斎橋コンペが企画されてリフレッシュを図ろうという動きがでてきた。

千里山の関西大学のキャンパスには、大学院・大学ホール（昭和26年）以降からの数多くの学舎や研究施設が、車にわずらわされないで、あちこちに樹立ちをもち自由に歩きまわれるひとつの町といった風情で並んでいる。「関西大学の建築群をめぐって」（中　真己「近代建築」昭和39年１月）をひもときながら散策すれば、村野建築のさまざまな作法を学ぶことができる。昨年後輩の要望で建築学科の卒業設計指導におもむき工学部研究棟（昭和44年）にはじめて入ってみて、ＲＣラーメン学舎でも、あちこちの国公立版とは、まったく異なるディテールと空間であることがわかって身を正してしまった。ただ、ここでも残念なことに、キャンパスの心臓部ともいうべき第１グランドの中に、どかりとした塊りの総合図書館が、村野建築の柔かさと異質なかたちで投げこまれてしまった。その設計者の言葉に、先達への敬意のひとことさえないのは、とんでもないことだ。図書館とはこれだ、というきめつけの気持のあらわれなのだろう。

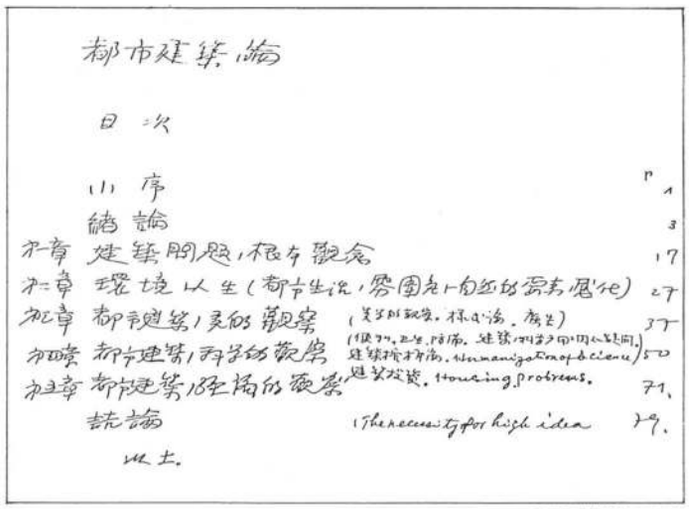
住まいをもった阪神間でも、地域社会に密着したコミュニティ・アーキテクトとして活動されたことを、村野先生を語るうえで大切な側面だと考えている。これまた、日本の建築家の大部分がビジネス中心や権力へのつながりの中でしか生きてこなかったことと対比的である。戦前の大庄村役場（昭和11年）をひきついで、尼崎市庁舎（昭和37年）、さまざまな住宅、甲南女子大学と甲南女子中・高等学校、西宮商工会議所や宝塚カトリック教会や西宮トラピスチヌ修道院、そして宝塚市役所などがある。

さらに、神戸、京都、奈良、志摩と村野建築は関西に、また全国に広がっているわけだが、それらの作品が、近鉄、出光、宇部、西武といった興産家と建築家村野藤吾の交流によって創られたという特色こそ重要だと考えている。

都市建築のプレゼンチスト

早稲田大学の卒業設計は、「マシーン・ショップ」であった。運河に沿った機械工場といった都市建築で、資材や製品を積む艀（はしけ）をそのまま各階につりあげていれ込むという発想だった。また、卒業論文は「都市建築論」（大正７年４月28日）である。ともに「村野藤吾――イメージと建築」展（昭和57年12月18日――58年１月30日・兵庫県立近代美術館）のお手伝いをした時、拝見させていただいた。論文の内容は描図のとおりである。

論文の緒論が〈私は一個のBuilder であることよりも一個の社会改良家でありたい〉という言から始まり、結語において、〈要するに都市建築の死命を制するものは、人間のいわば人道的観念社会道徳観念である。ゆえに都市建築の振興はこの観念の勇躍を意味するものである。ここに建築家の活動がoriginate するのである。……我々が建築家は、あまりにもTechnical であった。また、あまりにもScholorship であった。しかして吾輩が一切の任務は其の有する権利と義務の聖い天職を提げて筆に口に、市政に国政にはかり社会


都市建築論
目次
緒論
都市建築論の目次

の極面に禅の議論と抱負とを披露して以って市民の都市的観念を喚起せしむること焦眉の急であることを敢えて提言したい。……〉と記している。

この論文は、大阪に来た翌年発表したあの有名な「様式の上にあれ」（「建築と社会」大正８年５月号～８月号）につながり、また、その第５章などが、のちの「建築の経済的環境」（「建築と社会」昭和１年１月号）などに展開されていったと考えてよいだろう。「様式の上にあれ」が「建築と社会」（昭和47年１月号）に復刊掲載されたのにあわせてのみずからの読後感で、早稲田高等予科時代の安部磯雄先生からの人生観に決定的な感化を与えられたこと、建築のことも好きだったが政治思想的な方面のことも好きだったこと、ラスキンやウィリアム・モリスに傾倒したことなどを述べている。

先日、村野先生より一歳年上で同じ去年亡くなった富田砕花さん、ホイットマンの「草の葉」の訳者でもある詩人で、ともに大正デモクラシーの時代に生きてヒューマニステック（人道主義）の思想をとおし兵庫県に定住した、のおもかげを書いた「人の花まず砕けたり」宮崎修二朗を読んでいたら、こんな対話があった。

「私はむしろこの――先生のお嫌いな文学論になっちゃったけれど――革命というもの、世の中を作りなおすということが、先生の時代の民主主義的文学というのは、人間一人ひとりの自覚自立をうながして行く形でございましょう？ところが、あとのはね、とにかく世の中ぶっこわしちゃえば、なんとか人民はついてくるものと思いあがりがあったこと自体が、今度はプロレタリア文学が、結局ダメになっちゃったっていうことなんでしょうが……その弾圧がひいては第二次世界大戦にたやすく流れこむ結果も招いた、と。……（宮崎）」

「様式の上にあれ」の

「私は厳格なるプレゼンチストである。現在に生の享楽を実感する現在主義者吾等に、過去と未来の建築様式を与へんとすることは不必要である、寧ろ罪悪である。……

私は将来と云う言葉が甚だしく独断的限定的であると思う者である。併し若し、吾等の努力と修養とを以て、追求し、憧仰して止まない理想が将来を意味するなれば、それは私に取りて幸福である。吾等の事業を遂行する唯一のモチーブである。私はこうした理想を考へない現在論者でないことを悦ぶ。

凡そ吾等に取りて最も必要なるものは、総て完全なる今日である。之れに依りて吾等は生の満足を実感し、理想への躍進を生命ずけられるのである。過去は総て骨董であり、将来は総て眩影に過ぎない。共に私に取りて、そは、感情の浪費であり、空虚なる必要に過ぎない」

と重なる時代精神をふかく感じた。

村野建築のスタートは、森五商店にしても、大阪パンションにしても、そごうも、まさに都市建築である。その後もずっと、行政機

関や財閥の様式建築から離れた場所に身をおいた、まさに都市建築のプレゼンチストとしての生涯をつらぬいたわけである。

「村野藤吾――建築とイメージ」をお手伝いしたとき、先生じきじきの解題をうけたまわりながら、資料や本をみせていただいた。一つ一つが先生の生涯を語っている大切なもので緊張した。古典から現代にいたる数多くの経済書、土地経済や都市経済の書、その中でも、岩波文庫版「資本論」（向坂逸郎訳）の１頁１頁に、頁によっては長い長い附箋までつけて、ぎっしりと書き込まれた研究ノートつきとでもいってよい各巻を拝見した時には、驚きの気持だった。これがあの神話のごとく聞いていたもののまさに実物かと。その後、村野先生と向坂さん（大牟田出身）の対談を企画してみたが実現できなかった。また、戦前から続けている自からの実態調査であるニューヨークのNassauと心斎橋の地図や分析結果もうかがった。

そのとき、もう一つの興味あるお話をうかがった。大阪から宝塚へ向う自動車の車中だったと思うのだが〈都心に高層ビルが集中し、郊外に延々とベッドタウンが広がっていく都市ではなくて、かつての大阪の下町のような住まいと仕事場が共存して連続していく都市でありたいですね。そう、サンフランシスコの最近のゴールデン・ゲイトウェイ・コモンズ、赤いレンガ色の４層のがあるでしょう〉という話題だった。スカイスクレーパーへの根本的疑問や、これまた「様式の上にあれ」の初期からの〈多くの人間の血と肉とを下積みとして、只一人の資本家は微笑み、冷酷なる科学者は己が計算に誤くと誇って居る。かの「マンハッタン」の奇観こそ得た煩悶せるに現代建築の産める邪道である〉の思想と結びつき、先生御自身の基本的な都市観にふれるお話だなと理解すると同時に、老齢にもかかわらず、真新しい町の変化をじつに丹念に見ていらっしゃるのだな、とほとほと感心してしまった。その後、この下町都市構想を、村野事務所の創立50周年記念に永年お世話になった大阪へのプレゼントとしてやろうという作業を進めておられたことを聞いた。対象地区は、大阪の港区・大正区・此花区であり、〝大阪臨港部・都市生活回復への試論〟とでもいった目標だった。

港と運河をもつこの地域は、卒業設計であった「マシーン・ショップ」と同じ条件である。

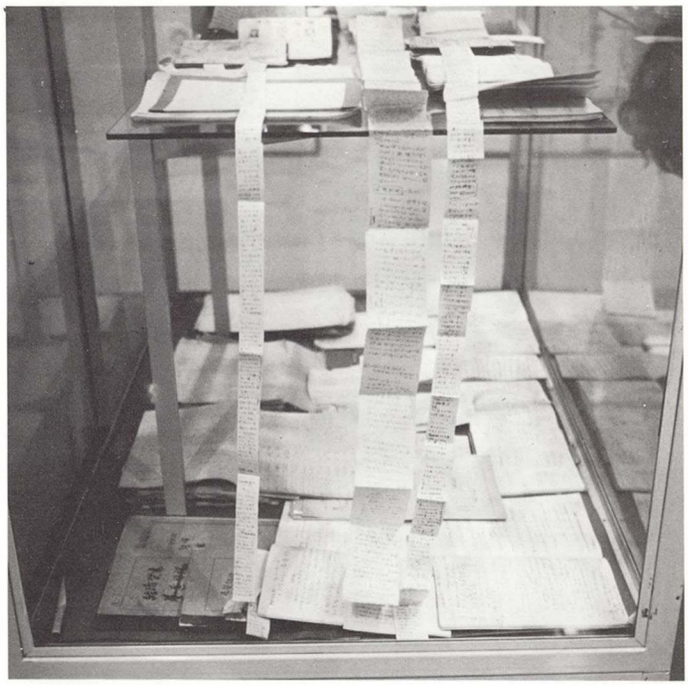
従来はどちらかというと、村野藤吾は都市や経済への視点やとりくみを外して、意匠を楽しんでいる村野建築という認識が多かったが、卒業論文からはじまって以後、今日までの数々の談話や研究ノートを知れば、まったくそれが間違った評価だということがわかる。建築原論への深い洞察と、

> 「時流に乗るな、多数派になるな、多数派に巻き込まれたら脱皮して、必ず少数派になれ、少数派とは独孤に耐えて自分をまもる努力がなければ、純潔は保てぬだろうし、そのようにしなければ芸と名のつく仕事はできないのではないか。いわば在野精神に徹することができないようではものにならぬ」（昭和46年日本建築学会賞・大賞受賞有感より）

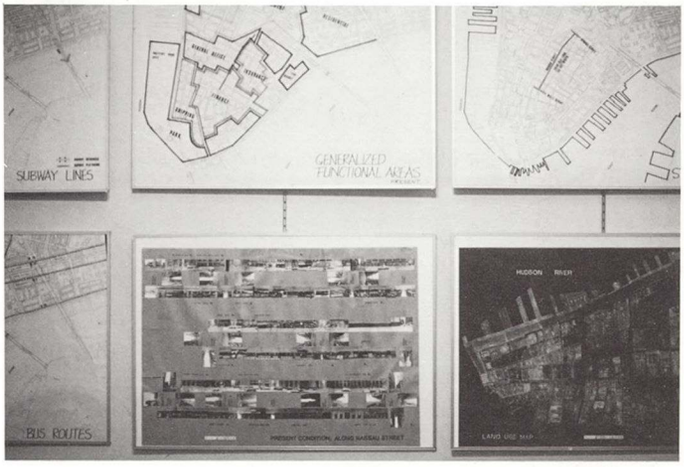
に裏づけられてこその村野建築である。

つい先日、村野先生がお亡くなりになった時そのままの状態が保たれているという村野・森事務所の書斎と設計室のテーブルを見せていただいた。書斎にも多くのデザイン書にまじって、戦前以来の経済書に並らんで、最近の土地経済、地価経済や都市計画系の新刊書がかなり所蔵されていた。また、設計室のテーブル枠にも、経済書、都市系の書が数冊置いてある。スケッチのあい間に静かに読書していられたそうである。音楽を聞きながらといった我々若輩の世代とは違って、先達は〝固い〟読書によって精神を高めかつやすらぐといった日々だったのだろう。

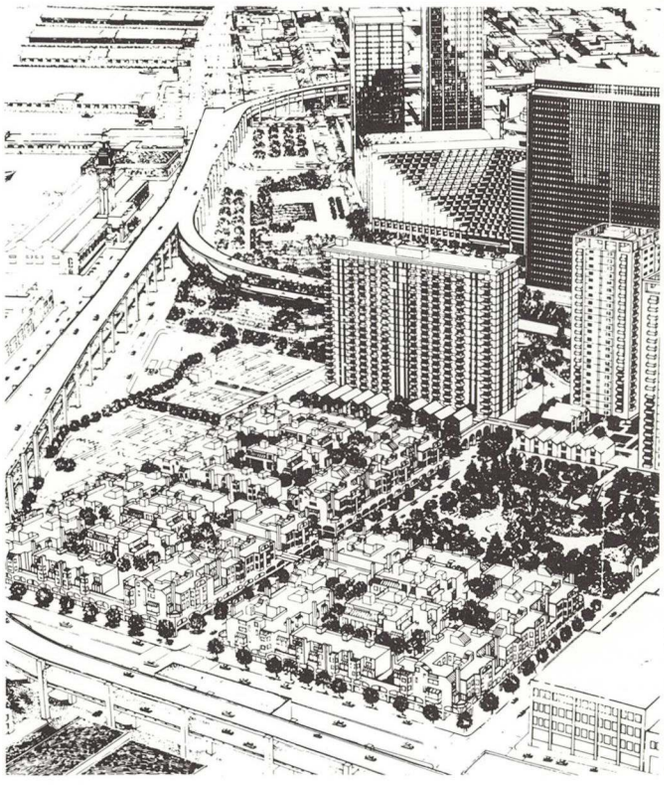
（みずたに　えいすけ　水谷研究室）



「資本論」の頁に貼られた長い長い付箋（村野藤吾――建築とイメージ展より）



ニューヨーク・ナッソウ研究のパネル



ゴールデン・ゲイトウェイ・コモンズのプロジェクト

村野藤吾の思い出

心のともしび

懸山良雄

村野先生に永遠のお別れを申し上げてからはや一年がすぎ去ろうとしております。先生はきっと遙か天国のアトリエで、「やっと第三の世界を見極めたぜ」とよろこびに浸りながらスケッチの筆を走らせておられることと思います。

あくまで生産性を第一義に追求する現代、ややもすれば冷酷な、画一化の波が押し寄せる世界の中にあって、先生の最後の最後まで、毅然として建築の真髄を見極めるために、許される期限の限度に追われながら、諦めず、諦めずに推敲に推敲を重ねられた数々の作品が今もなお珠玉のような光芒を放って生き続けているのです。そうしてあとに続く求道者たちへの灯台となって、あたたかい心のともしびを投げかけてくれるのです。

近鉄の志摩観光ホテルの施工を大林組にご下命いただいたとき、職責上、たまたま私が担当者として村野先生の窓口をつとめさせていただくことになってから、かれこれ30年、幸いにも数多くの機会に恵まれて、よきにつけ悪しきにつけて先生の馨咳に接することが出来ましたことはほんとうに幸せなことでした。そのことが私の社会的人生の総てであったと申しても過言ではないと思っております。許されることであれば先生の作品の一つ一つを掌の上に取り上げて眺めたい。撫でながらその肌触りの感触を確めたいという衝動に駆られることもある私です。いま、この思い出の記を綴っている私の机の上には、先生からいただいた織部の花入れと、先生にお伴をしたゴルフ会でいただいた、いかにも村野好みの純銀のカップともう一つ立派な楯が飾られております。これらの品々を眺めるにつけ、なつかしい思い出が次から次へと走馬灯のように駆けめぐります。

「村野好み」のめざすところが「利久好み」のそれであったか、「織部好み」のそれであったか、ということは私にはよく判らない。焼物の世界とは違って、建築は建築としてのさまざまな大きな制約の下に成り立っていることを認識されて、その制約の下でどうやってまろやかな人間味を表現することが出来るかを模索し続けられたに違いない。先生はいつも「吾々は、生産力に頼らなければ生きて行くことが出来ない世界に生きているのだ。その製品をそのまま素直に受け止めて実現するか？そうではない、待てよ、もう一つ何かがあるのではなかろうかと、考えることによって工業製品を使いこなすことが出来るのではなかろうか？」と話されていた。それにつけて思い出したことがある。それは、30年くらい前、建築界はサッシュとガラスを規格化しようという時代であった。大阪の有名な外科医の岩木先生が病院を改築されることになって、森先生を通じて村野先生にご相談になったとき、私は工事の生産性を追求するがままに、サッシュはレディメードの中から選んでいただきたい、とお願いしたことがあった。そのことはあとで私の友達から、「お前は村野先生にレディメードのサッシュをおすすめしたそうだがあきれたものだ」と叱られたことも思い出すのだが……。そのとき先生は私の申し入れを快よく承知されて、「それでは、カタログのBとEを組み合せてその間にGを挟んでくれたまえ、それでよろしい」とのこと。これならばた易いご用である。そうして出来上った建物を見たとき、これが私のお願いしたレディメードサッシュかと目を訝るようないきいきとした連窓が取り付けられていたのです。画一的なものも「工夫」すればこんなにも生命を与えることが出来るものであることを無言のうちにお教え下さったのである。

先生は建築の勉強を始められる前に、機械科の勉強もしておられた関係もあってか、近代建築として欠くことの出来ない建築設備に対してもご堪能であったことは、お打ち合せの間に機械室の広さが十分に取れないとき、機械の配置をご自身であれこれ移動されて「これで納まったな」といわれることから十分察知することが出来たし。最新の設備システムについての知識もよく吸収されていた。先生の最後の作品となった都ホテル大阪では客室の空調システムを先生独自のご提案が採用されて、そのシステムによって平面計画もファサードも方向づけられていることは見逃がすことが出来ないことである。世の中が分業化されるに従って建築設備を知らない建築家が多くなっているときに、先生の姿は建築家としての真のあるべき道を示しておられた。

先生の作品を「つくる」ことの苦労は現場を預かった者でなければ表現しつくすことは出来ない苦労の連続であったと思うが、施工現場と設計者との橋渡しの役を勤める私は進退きわまる思いの30年間であった。施主と設計者の「こころ」をこころとして「つくる」ことのこころはもっていても、現実の社会はあまりにもきびしすぎたのである。先生が望まれ、先生が心に描かれたイメージの果してどれだけのものを「つくる」ことが出来たのであろうかと考えるとき、私はほんとうに罪深き存在であったのではなかろうかと、改めて先生の遺影の前に額づかねばならない。ただ、工事の進行中はあれこれと思考を重ねられ、気の済むまで変更もされることがあったけれど、いざ竣功となれば一言のお小言も聞いたことはなく、よくやってくれた、よく出来たと先生ご自身も喜こんでいただいたことは私どもつくる者の立場からはほんとうに救いであった。このことで、数々の苦労もすべては懐しい思い出と変り、村野藤吾先生のお仕事にたずさわることが出来た、という誇りに置き換えることが出来るのです。

村野先生。ありがとうございました。この上は先生なきあと先生のみこころを継承されて、ご令息村野漾様はじめスタッフの皆様のご健斗をお祈り申し上げるとともに、先生の残された作品の投げかける心の灯を慕って寄り集まる同志の輪がますます拡がりますよう念じつつ私のささやかな思い出をとどめたいと思います。

（かけやま　よしお　大林組顧問）

村野藤吾と粘土模型

三浦栄次郎(三浦模型)

インタビュアー
出江　寛(出江寛建築事務所)



談笑する三浦栄次郎氏(左)と出江寛氏

材料わけの着色

出江　おひさしぶりです。お元気そうですね。

三浦　出江さんも有名になりはって、昔はここで、コンペに出しはるいうて、一緒に粘土模型をつくったときもありましたな。

出江　あのときは、えらいお世話になって。ところで、今日は模型づくりの話をとおして村野さんの思い出を聞きにきました。

三浦　今日みえるって聞きましたよって、村野事務所にもっていく模型（粘土作り）を置いときましたんや。これは1/100のもの(京都都ホテル)と1/20のもの(東京銀行宝塚クラブハウス)で、検討用の模型です。これで村野先生はいろいろ考えられるわけです。完成模型は石膏でつくりはるんです。窓もみなまっ白で、家具を置いたりすると映えるし、長年おくには、その方がええらしいんです。

出江　プラスチックはいやがられるんですか。

三浦　そうですな。着色するときも、うすいうすい色をつけます。植木にもです。

出江　検討用は、色をつけるわけですね。

三浦　材料わけの色をつけるんです。私もようわからんのですけど、実際に使う色は塗らんのです、極端な色を使われるわけです。村野先生の場合は。

出江　僕の推察だけれど、村野さんが建築にいつも使う色は、微妙なものでしょう。ところが、材料わけの程度を自分にはっきりいいきかせるために、激しい色の対比を模型には使われるんでしょう。

三浦　めちゃくちゃ強い色です。

出江　材料わけで、材料の組みあわせを自分に解らせるために、赤、青、黄などのはっきりした色を使うわけです。どこでどう材料が変っていったかをしるために。これは大事なことですね。

三浦　お施主さんのところにもっていく模型やないですさかいにな。どっかで同じ材料を使いすぎてないかを解るためでっしゃろな。よその事務所では、あまりこんなことはしませんな。それと先生は、模型の上に、ちょこっと粘土をおいといたりしはる。私らが何んやろと思って、それをとったりすると、後でえらい怒られます。

出江　大きさの感覚をみるために置いておかれるんでしょうね。ここに模型を見にこられることはありましたか？

三浦　めったにないですな。先生の具合が悪ければ、宝塚の自宅に模型をもっていきます。ここから近いんですわ。家では背の曲がった小さなおじいさんやけど、事務所では、しゃきっと背を伸ばしてはりましたな。先生が模型を見られたり、いじったりしはる。デザインの世界でも、ちょっとさわったらようなることもあるんでしょうな。

出江　そら人間の顔でも、目、鼻、口、同じようについてるけど、ちょっとの違いで、ずいぶん変ってくるのと同じですね。

三浦　ええと思って、図面に描いてみた後で、こうしたらよかったのになあと思うことがおまっしゃろ。そやから描くまでに粘土模型で、こんな形にしたらと考えるわけですな。

裾広がりの優しさ

出江　形は、きちんと造られるわけですか。

三浦　模型は、ていねいにやらなくても、ざっとしたものでよい

わけです。

出江　最初は、精度がざっとしたものでよくても、あとの方は、こまかく造られるわけでしょう。最初のイメージは、ざっとしたもので、だんだん精神が凝縮してくると、ディテールに入ってくるわけです。手摺の巾とか、細かいところまで精度が要求されるわけです。

三浦　（京都都ホテルの模型を指しながら）これも戸が出たのと、ひっこんだのと両方つくってるわけです。これをこさえるときも、どないでもできるように造ってます。

出江　どないでもできるというのは大事なことです。

三浦　もっとひっこめといわれると、ざっと斫って、ひっこめられるようにしてますのや。

出江　この模型は、村野さんのスケッチをもとに造ってはるのですか。

三浦　関係してはりましたな。とにかく二つと同じ形はなかったです。その模型を大きくしたり、小さくしたり、粘土をひょいひょいとのっけたり、これもまだこれからいらいますよ。長いこと仕事をさせてもろたんやけど、先生が亡くなりはってからも、残りの仕事が、ぎょうさんあるんでね。

出江　部分だけのディテールの模型もあるんですか。

三浦　あります。装飾物とか、現寸模型で。千代田生命のマリオンとか、岡山の高島屋など。最近、年齢がいったんで、現寸模型、現場で足場組んで、もうよう造らんいうたら、先生から電話があって、「自分の息子みたいな年齢(76歳)でなにゆうてんのや」とえらいしかられましてな。(笑い)

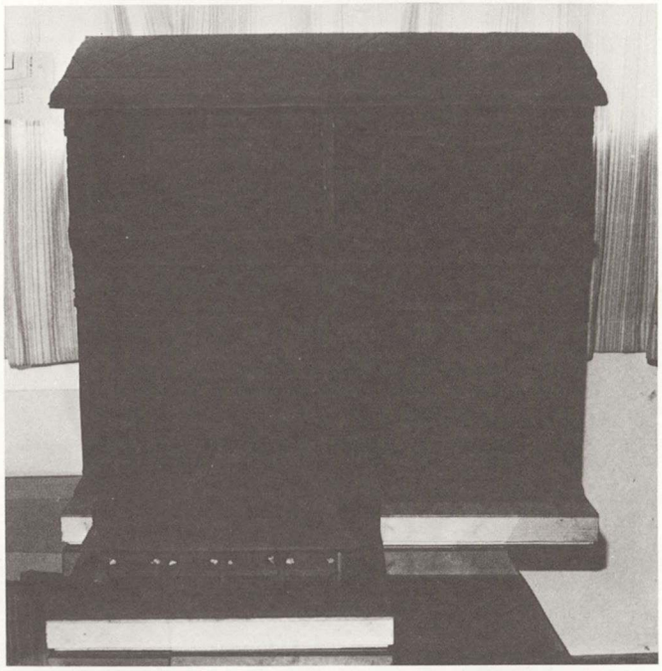
出江　現場模型は、なにでつくられるんですか。

三浦　粘土でつくるんですよ。現場で足場を三段くらい組んで、スタイロフォームをはって、アールの現寸の図面で形ずっとひいて、それに石膏かけて、雌型とって、それを切って、図面にアールをだしたり、建築でもおとなしいみせなアカンいうことで、アールもコンパスでひけるようなものはありませんわ。だから、模型で型をとって、逆に図面に描いたりするわけです。新高輪プリンスのバルコニーの手摺をとりに行ったとき、なんにも東京では、こしらえてないんですわ。スケッチにいくつもの面が描いてあるんで、どの面にするか解らないんで、近藤先生にどないするか聞いても解らない。それで勝手にやっといたら、先生がみにきて、「これでいい」といいはって。

出江　いくつもこしらえて、最後に決定する面はどういうところで、村野さんは決められるんでしょう。

三浦　どの面を選ぶか、ヒントはあるんです。先生のこれまでやっておられた建築からみて、建築をやるとき、裾をまるうするんですわ。土の中から、はえてきたような。本でみたら、土人の家は、下はみなまるいですわ。あんなんを、先生は現代にもってきて、つくってはるのと違いますか。スケッチをみて、壁をまるう造っといたら、後で先生がぎょうさんまるうしはる。たしかに、まるうしとったら壁は汚れませんわ。それと、定着感がありますわな。裾広がりは。

出江　優しさみたいなもんですか、優美になります。元録時代の女性の着物をみていても、裾ですっと広がってます。ああいう美学ですな。



粘土模型2点　東京銀行宝塚クラブハウス(手前)と京都都ホテル

きめこまかい配慮

三浦　先生独得のもんですね。それと先生は、かなり神経こまかおますな。東京へ仕事に行ったら、泊まる段取りまで決めてくれる。自動車をここにおいて、ここで泊まって、どこで仕事をしなさいとか。

出江　デザイナーは、いろんなところに気がつくんですわ。優しさ、こまやかさ、日常のいろんなことに気がつくのは、建築に対する優しさに繋がるんですわ。いい話です。泊まるところまでの配慮は、さすが村野さんだからできるんで，田舎者は、そこまで気がつかない。野暮な人間は、いばるばかりで、そんなことせえへんでしょう。本当にいいデザイナーは、そこまで気を配って、デザインがちゃんとできるから、機能を失なわないで、いいものができる。野暮天がやると、デザインだけが先走る。優れた建築家は、人間の使われ方——機能みたいなものを、生まれながらにきちんと把握して、手配できる。細かいところまで気がつく、そういう人でないといいデザイナーにはなれない。

三浦　そうでしょうな。あの人みたいに細かいとこに気がつく人はいないでしょうな。先生がワラビ採りに、おこしになったんですわ。ワラビの小さなものは、可愛そうだからと採られないんです。優しいとこもあるんやなと思いました。こわいばかりやないんやなと。（笑い）

出江　建築をつくるときの少しの妥協も許さない厳しさは、造る方にとってこわさでしょうね。優しさと厳しさは、紙一重でつながっているんですね。

三浦　あんだけぎょうさん造りはったけど、同じようなデザインは、ひとつとしてありませんね。

出江　違うんでしょうけど、村野さんがつくったという作風があって、村野風という、それはいいことでしょう。

三浦　昼休みも日曜日もあの先生にはなかったですね。しじゅう、

ものを考えてはったみたいですね。自動車の中でも、本を読みはったり、考えごとをしてはったりで。あんな年齢になるまで、あないに仕事せなくてもええのになあと思っていたが……、お金もようかかったけど、あんなにいい建築をつくりはって。それにあの事務所には、孫を連れて、仕事にいける雰囲気があった。先生が子どもをつかまえて、「大きくなったら建築をやりなさい」といったりして。もう少し生きておられたらよかったのに……。

出江　93歳まで生きてはったのは、立派なもんですよ。それとこの模型をみると、右と左では、えらい違うもんですね。図面で描いたら、ちょっとの違いやろけど、模型でやると、えらい違う。村野さんのところでは、どの作品でも模型をつくられるんですか。

三浦　模型をつくらないのは、おかしいといいはります。別にきれいな模型をつくらなくてもええんですよ。寸法をみるだけですから。

情念が建築に浸透する

出江　寸法がきちんとして、模型で何回もスタディしていくわけですね。

三浦　先生がさわって、コテコテになっていてもいい。模型だけやなしに、岩なんかも、現場でセメントでつくっています。セメントの岩でも、写真に写ったら、本物の岩みたいにきれいになってます。それに、さっきの裾の話ですけど、糸魚川の谷村美術館や、宝塚のカトリック教会でも裾が全部、まるうまってますね。

出江　村野さん独得の美学ですよね。手づくりのよさを出して、アール・ヌーボー的といってもいいですね。工業製品と手づくり製品の混合したよさなんやろね。

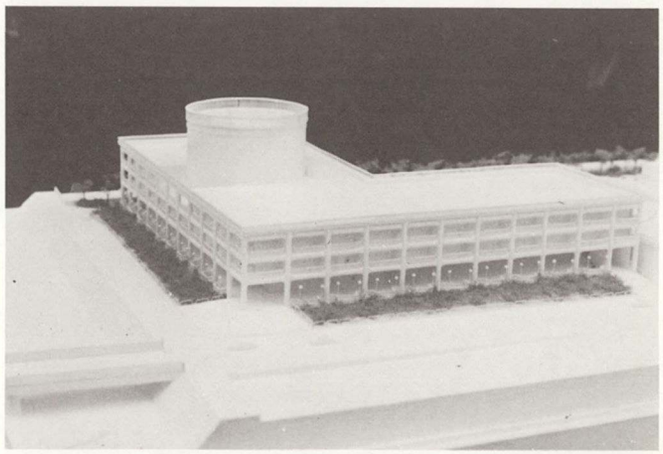
三浦　出江さんなんかやったら、こんな話よう解るんやろうけど。

出江　ふつうの建築家は、機能美と経済性だけしか考えへんからね。村野さんみたいに情念が建築に浸透しない。

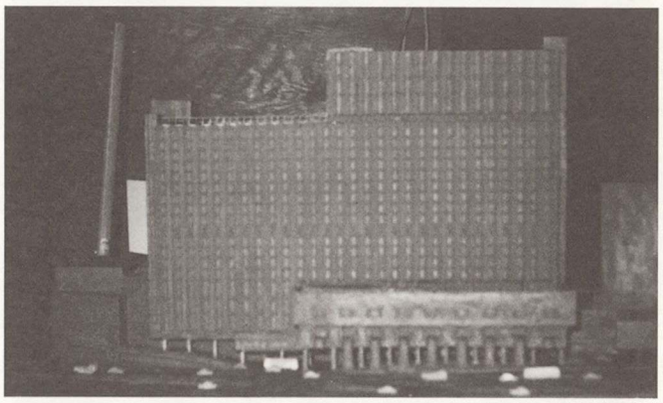
三浦　村野さんのは、最初は粗いが、だんだん細かくなる。四角か三角か素人目には、どっちでもよいものでも、こまかくやりはるから。千代田のマリオンのついたのでも何種類もつくった。京都のプリンスホテルでも三案こさえました。よその事務所では、やらんことですわ。人によれば、お施主さんに模型をみせるのに、粘土はきたないという人もいてはります。

出江　そうですね。お施主さん用のは、イメージが暗くなるいうんでしょうな。一方、村野さんは、自分用やさかいに。粘土模型を事務所で僕らがつくろうと思ても、ヘラさばきがへたなんで、イメージが汚ない。ヘラさばきの差が全然違う。やはり、三浦さんに頼まんとええものはできん。さっき、村野さんがプラスチックに色つけたのは、きらいやいう話があったでしょう。模型に美しい色をつけすぎるとプロポーションを忘れてしまうのやね。材料と材料の接点を村野さんはみておられたと思うのですね。とくに箱根のプリンスホテルは、それがうまいわけですよ。間合いのとり方などが、卓越しているのです。違った材料を組み合わせると、かえってどぎつい色を使って問題点をクリアにするんでしょうね。

三浦　難しいことは、よう解りませんけど、よく所員に色紙はらして、検討してはりました。



宝塚市庁舎の模型



都ホテル大阪の模型

出江　淡い色で仕上がってると、美しさに酔ってしまって、プロポーションの欠点を見失うわけです。御影石とか、アルミニウムとかステンレスになっていると。そうした材料の美しさに惚れこんで形態を見失うのやね。どぎつい色の模型を縦横無尽に駆使して、形態や接点の問題点をはっきりさせようとするのは、村野さん独得のやり方ですね。

三浦　先生は年齢とってから、模型に白の塗料をベタベタ塗りはる。塗りたくって、模型をコテンコテンにしはる。どう考えてはったんですやろ。谷村美術館のときは、模型の上から、ライトをあててはったから、おそらく自然光線の入り方をみてはったんでしょうな。仏さんにどうしたら光があたるか、1/20の模型を、あっちやりこっちやりしてはったんです。実際でき上がった建物をみると、下からの光線と横からの光線がとけあって、仏さんがぼんやり浮び上がって、ほんとにありがたそうにみえます。

出江　広島記念聖堂は模型をつくられたんですか。僕はあの作品が好きでね。

三浦　つくりました。広島の土でレンガをやいたんです。先生の作品は何年たっても古い感じがしませんね。

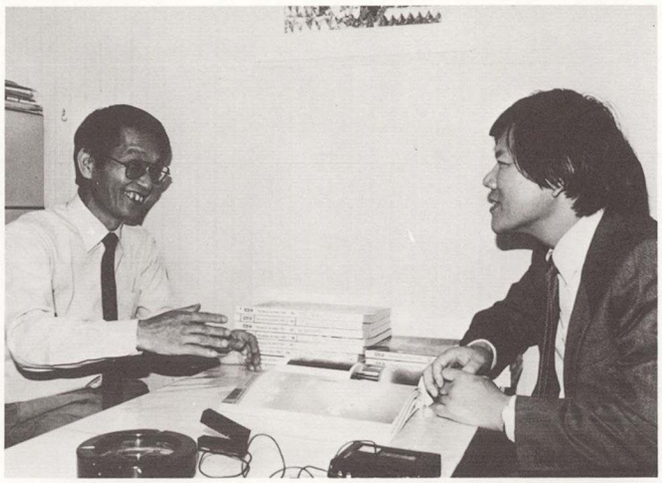
出江　モダンなんですよ。古くさいとモダンというのは別なんです。何年たっても、よさが変らないのです。いまの「そごう」みたいなもんですね。これだけの作品を自由自在にデザインする人がいなくなったのは、ほんとうに惜しいですね。今日は、いい話をきかせていただきありがとうございました。

（昭和60年10月3日　於宝塚市の三浦模型）

村野藤吾と照明

横田　隆（横田電器製作所代表取締役）

インタビュアー
狩野忠正（竹中工務店設計部副部長）



インタビュー中の横田隆氏（左）と狩野忠正氏

時間との闘い

狩野　村野事務所の照明の仕事が多いといわれていますが、今日は、村野さんの思い出、とくに照明にまつわる思い出話を聞きたいと思います。村野さんとの仕事のきっかけは、いつごろからですか。

横田　亡くなった父が、村野先生に大変可愛いがってもらっておりました。仕事のきっかけは、大阪の「そごう」の時からですので、昭和10年ごろと聞いております。戦争中の一時期を除いて、ずっとやらしていただいてます。私が、学生時代（大阪大学工学部構築学科）のとき、徹夜でやっている照明器具の取付けの手伝いに、歌舞伎座などに参りました。大学を卒業したころに父が亡くなりまして、私が家業をひきついだわけです。

狩野　スタディするのに、模型をつくられるのは聞いているんですが、その前の段階はやはりスケッチですか。

横田　まずお話があり、スケッチがでて模型をつくられます。私どもは、村野先生から直接、お話をお聞きするのは少のうございまして、通常は近藤先生からご説明いただいて、現寸図面なり模型は近藤先生に提出します。ただ東京の作品の場合は、村野先生が直接おやりになってましたので、そのときは、先生からお電話があり、説明をお聞きするケースが多うございました。

狩野　その打合せは、図面によるものですか、模型によるものですか？

横田　当初は、スケッチ段階から始まりまして、簡単な図面を起こすと同時に模型をつくる作業をやる場合と、図面を本格的につくる場合があります。ふつうは、模型を発泡スチロールか粘土でつくって、現寸図面とで見ていただくケースが多いですね。

狩野　材料はいろんなものを使っておられるようですね。

横田　結局、時間的な問題や予算上のことなどいろいろございますが、私どもの場合、竣工時には、絶対ついとかなきゃいかんものですから、やはり時間的な制約をうけることが多いですね。どうしても、設計上、照明器具はあとまわしにして、周りの空間の色をお決めになる。そうすると時間がなくなってくる。本来、ガラスでやりたいところを時間がないので、プラスチック、ＦＲＰなどを使うようになってきます。昔は、ガラスでいろいろやっておりましたが。

狩野　時間的な問題と、コストの問題などで選べる材料が少なくなるということですね。FRPの型はなんでつくるのですか。

横田　原型は粘土でつくり、成型段階でシリコンゴムの型におきかえるというかたちです。模型兼用の原型を先生にみていただいて、そこで表面の仕上げとフォルムを指示いただくわけです。粘土模型も三浦さんに当初つくっていただいたわけですけど、三浦さんもよくご存知なんですが、先生は粘土模型の手直しばかりなんです。それと、はじめ見ていただいて、手直ししたものを再度、先生にみていただく間が一週間、二週間と長いものですから、時間的な問題がありまして。

狩野　東京都ホテルのロビーの照明器具はかなり大きいのですが、どのくらいの模型でスタディしたのですか。

横田　村野事務所で点燈実験までやっていたのは、1/20の模型です。それから周りの部分、天井など仕上げ部分をつくりまして、やりました。

狩野　それ以上の大きさの模型はつくらないのですか。

横田　現寸模型までは、つくりませんでした。現場であれこれ指示をうけて、当初、ひょうたん型をしておりましたんですが、予算の問題や先生のお考えがありまして、結局、ああいう形になりました。

狩野　どのくらいの期間をかけてスタディしたんですか。

横田　ほぼ１年少しじゃなかったでしょうか。スケッチをいただいて、最終的に現場で仕上るまで。

狩野　何回くらい先生との打合せがありますか。

横田　スケッチをいただいて、進める間が遠いのですよ。１ヶ月に１回くらいしかお会いできないですし、ディテールとかフォルムについての先生のお考えがまとまらないと、いくらわれわれが行ってもダメなわけですからね。やっと先生がつかまったとお会いしに上がると、ほかの話をされる。そんなようにずるずると時間はたってしまう。現場はどんどん進んでいく。それに従って、照明器具の方も、取合い関係の図面がないと建築が工程上、難しくなるのであわててまたお願いに上がるという状況で……。

狩野　照明の位置がかわることは、あまりないと聞きましたが。

横田　位置が極端にとぶことはありませんね。

狩野　形が最終的に決まるのは、竣工の何ヵ月前ですか？

横田　だいたい三ヶ月前くらいでしょうか。

狩野　それは大変ですね。私も自分の経験上、よく解るんですが、とくに村野さんは照明に凝ってて、照明器具が重要な場所にでてくるので、苦労がよくわかります。

横田　なかなか先生のお考えが解らないんですよ。私どもと考える次元が違うこともあるんでしょうが。

「どうして光らないんだ！」

狩野　東京都ホテルの場合、形がひょうたん型から変ったと聞きましたが、どういう風な照明でいきたいという、形が決まる前の話がありましたら、お聞きしたいのですが。

横田　材料が最終的にアルミとFRPの組み合わせになったのですが、先生は当初、全体に光が乱反射してボーッとなったものをつくりたいと思っておられたようですね。直接、光源が目に入るものであってはいかん、ただし、材料が光らないといかんという話がありまして、そうすると内にランプをいれて、反射光で形をつくっていくものを光らせた方がいいんじゃないか、反射板にどうした材料を使うかを考えて、先生がアルミのエンボス板でいこうじゃないかとおっしゃいまして、光をあてる実験をやりながら進めていったわけです。最終的に現場で先生のご指示で組み立てて、取付け、テストを行うと、いちばん底の部分が影になるのでどうしても光らないんです。先生が「どうして光らないんだ！」と怒られまして。私も「光るはずがございません」といいまして。(笑い) 最終的にはスポットをあてて光らせまして、逃げたわけです。

狩野　箱根プリンスホテルのレストランの馬の形をした照明器具ですね。非常に天真らんまんな感じがして楽しいんですけど。

横田　先生が北欧に行かれたとき、人形の馬を買ってこられて、「僕は、これで照明をやりたいんだ」とおっしゃいまして。私どももはじめは、これをデフォルメしたものをスケッチいただくと思ってまして、よくお聞きすると、馬そのものを使われるお考えで……。(笑い)図面で大きさを決めていただいて、発泡スチロールにおきかえて、FRPでつくりました。その上に飾りつけをどうするかということで、先生が家から布地をもってこられて。

狩野　もうひとつの羽毛のついた照明ですが。

横田　羽毛のは、顔をつくるということで先生が「美大の学生を雇ってやらしたら」とおっしゃいましたが、先生のおっしゃる意味が解らないのにつくれません。(笑い)近藤先生が顔をつくってくれはったんですが、先生がそれをみられて、こんな美人ではダメだとおっしゃって。

狩野　照明器具の羽毛は？

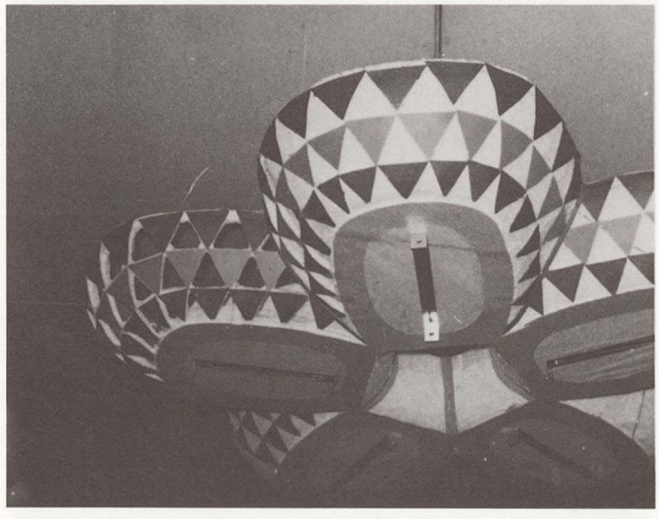
横田　輸入品で、宝塚のレビューなどに使われているものをお使いになって。

狩野　先生は宝塚でお住まいなので、宝塚のレビューをみられたのかなあ。宝塚レビューの世界をほうふつとさせる作品がありますが、先生にはそうしたものに憧れがあるのかな。(笑い)

横田　フリルのついたものがお好きだったですね。



横田電器製作所で都ホテル東京の照明器具の模型をつくる故村野藤吾氏



上の写真の完成模型

狩野　それと樹木園の方ですが。

横田　花の形のセードだけやりました。

狩野　花びらはなんですか。

横田　アクリに粉をまぶしたものです。プラスチックの型で整形したものの上に加工したものです。先生は花がお好きですので、花をモチーフにしたものが多いですね。日曜日には庭や温室でよく花いじりをされておられました。

狩野　先生は家の方でも照明のテストをされていたのですか。

横田　いえいえ、ご自宅は、ふつうの電球です。先生のお宅の電灯は、ほとんどうちでつけさしていただきました。父の代からです。

狩野　スタンド照明なんかもやっておられるのですか。

横田　スタンドもやっております。上六の都ホテルでもやらして

いただきました。

狩野　東京都ホテルの部屋のスタンドもいいですね。ベースの焼きものの色がいい。

横田　スイートルームのスタンド以外は、信楽で焼きました。

狩野　あの色を出すのは大変だったでしょう。

横田　信楽で焼いた見本の中から選んでいただきました。

狩野　あの形なんかも原型をつくられたのですか？

横田　図面で検討いただいて、試作品をつくりまして、先生に見ていただきました。

曲がって進む光

狩野　つくる上で、いろいろ思い出があると思いますが。

横田　とにかくよく怒られたことばかりです。(笑い)箱根プリンスホテルでは、時間的に間に合わなくなって、先生を現場まで追っかけまして、箱根ハイランドホテルに泊まられたのを朝つかまえまして、お聞きするとえらく怒られまして、「どうしてきたんだ！」と。そのまま帰った覚えがあります。竣工間際で、照明器具の顔の粘土の部分を先生がウンとおっしゃらないので、なかなかできないんです。そうこうしていると先生から電話がまいりまして、「どうして間に合わないんだ！」と。私が「先生が決めていただかないんでできないのです」と申し上げて、先生と押し問答していると「誰が悪いのかね！僕が悪いのかね!!」とおっしゃるので、「はい、そうです」(笑い)と申しますと、「それじゃ、今夜やるから来たまえ」と大阪に帰ってこられたのです。食堂で先生が粘土で4～5時間かかって顔をつくられました。それをもって帰って型どりして、竣工までにやっと六台のうち二台だけ間にあったのです。徹夜でつけた覚えがあります。

狩野　それは竣工の何日くらい前ですか。

横田　一日前です。(笑い)

狩野　一日前！(笑い)　ところで村野さんの照明は、光源が見えないですね。

横田　ランプイメージが出るのをいやがられますね。そうかと思えば、バンとついていてもいいときがあります。そのあたりがよく解らないんですが……。それとよく私どもに先生のおっしゃるイメージでは、光が曲がっとかなアカンのです。(笑い)

狩野　それは面白いですね。まっすぐに進むはずの光線が村野流に曲がって進むというのは。(笑い)

横田　いつかいわれたのですが、「君、現在はもう照明器具をつくっていく時代じゃないよ。光をつくっていく時代だよ！もっと勉強したまえ!!」。先生はいろんな意味でいつも考えておられ、和室の照明のこと、建築と一体化した照明を考えられていましたね。

狩野　建築の中に一体化した照明は、村野さんは多いですね。新高輪プリンスホテルの屋上にある茶室もそうですし、東京都ホテルの地下の「三弦」もそうだしね。照明器具のメンテナンスに対する先生のご意見はどうでした？

横田　やはりメンテナンスのことを気にされてまして、私どもの発想と違う方法で考えられます。一昨年やりました宇部興産の外部にとりつけている照明をどうして掃除をするか、大変気にされておられて、初めは柱のとこにスプリンクラーみたいなものを設けて、ゴミを流せないかといわれたりしました。

歯ブラシのイメージ

狩野　宇部興産の照明器具はスケッチから初められたのですか。

横田　初めは、歯ブラシの新聞広告をみられて、イメージをわかされ、そこにスケッチをされてました。考えがまとまってから、1/20の模型にして、それを1/6の粘土原型にしてFRPにおきかえて形をまとめました。

狩野　現場にもっていって、ピシャッと納まりますか？

横田　先生に作業場まできていただいて、見ていただきました。

狩野　村野さんは、ずいぶんヨーロッパを見てこられているのに、照明器具はまったくヨーロッパ調に影響されない。

横田　先生がお好きなのは、チェコのシャンデリアだけですね。

狩野　「飛天」のシャンデリアも横田さんがつくられたのですか？

横田　はい、川島織物さんに教えてもらって、東京の渋谷のレオタード屋さんのキレ地を使いました。アールの角度を決めるのに、粘土模型を何度もさわられて、先生はとくに粘土をさわると時間が経つのを忘れられて。

狩野　村野さんは、照明器具を特別に研究されておられたんですかね？

横田　そうですね、先生にご指示をうかがうとき、夕方みていただいて、了解をえて帰りますね。それから車の中でスケッチされたり、家に帰って寝床の中でも考えておられるようですね。次の朝、先生から電話があると「あ、また変ったな」(笑い)と思いますね。宝塚市庁舎の外灯をつくったとき、アメリカから速達がきまして、「少し、ストップしてくれ」(笑い)。結局、つくりかけていた作業を全部、中止させました。

狩野　照明がいちばんモノをいうからですよ、建築では。

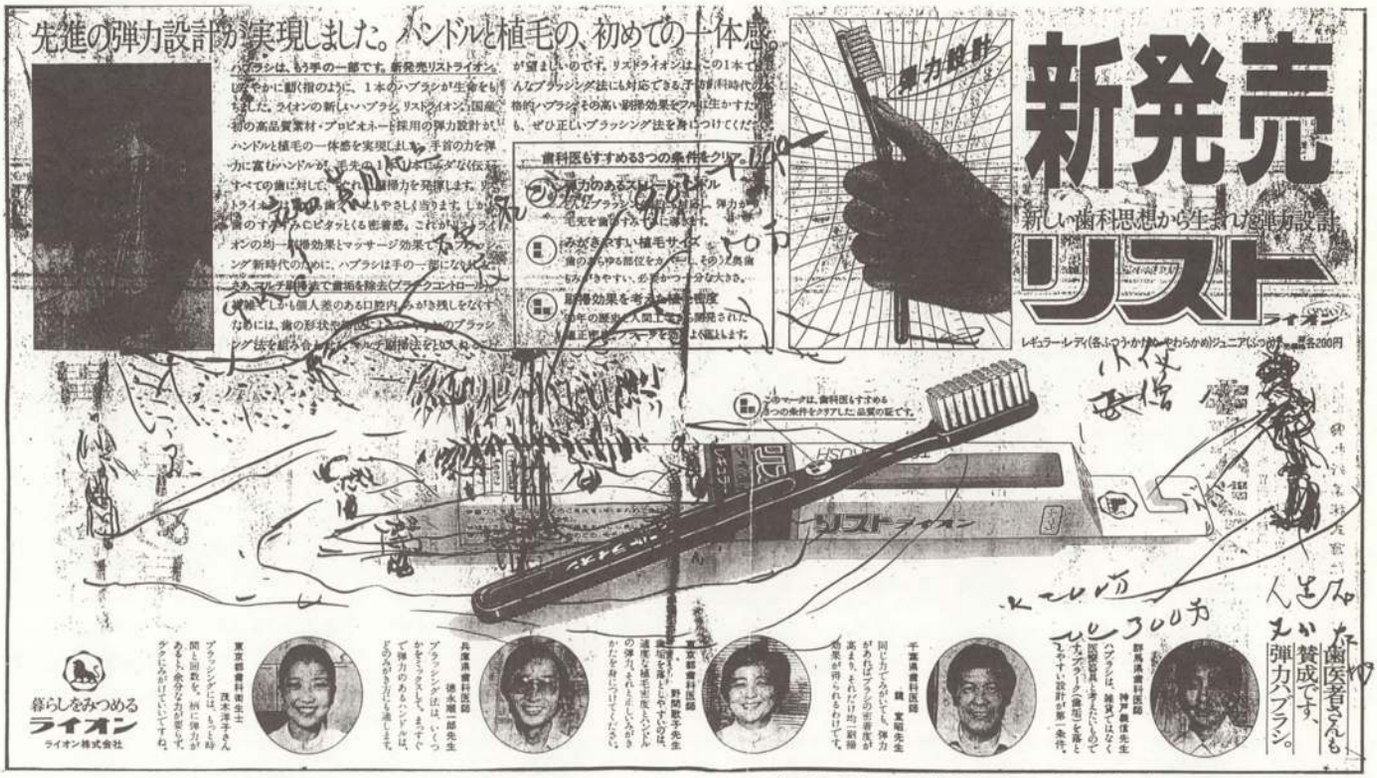
横田　そのときは、外灯がこわされたらいけないので、亀甲模様の金網をつけようという先生のご意見だったのです。それが「アメリカでは、そんなものつけていないよ」でまた変更になった。(笑い)当時は割れないようにポリカーボネイトのグローブをメーカーに研究させたりしました。

狩野　既成の照明器具は、全然つかっておられませんね。ダウンライトまで特別につくっておられるわけですか。

横田　ええ、下にクリスタルをつけられたり、既成のものと違うのは、フレームの形なんですね。標準品は、取付けがしやすいようにメンテがやりやすいようになっているわけです。フレームがペタッとした形なんです。それを先生は嫌らわれるので、どうしても特注になるんですね。

狩野　照明器具の予算はどうなっているわけですか。決められるときに呼ばれるわけでしょう。

横田　はじめ呼ばれまして、スケッチをみせられて、どのくらいかと聞かれるのです。ただスケッチもないときがありますので。(笑い)お話を聞いて、これくらいですとお答えしておきます。あとで電気工事会社が入ったりしますので、私どもにはなかなかお金がまわってまいりません。(笑い)代理店が入ったり、流通が複



宇部興産ビルの照明器具のもととなった歯ブラシのイメージのスケッチ

雑なんですよ。先生は、お金に厳しかったので、よく怒られました。「そんなに高かったら、とても施主にいえないよ！」とお施主さんに気をつかっておられました。私どもは、長年お世話になっておりますので、先生が本当に怒っておられるのか、立場上怒っておられるのか解る時もあったのですが。

狩野　しかし、いろんな材料をお使いになってますね。

横田　建築の図面をいただいたとき、いちばん悩むのは材料ですね。イメージがなかなかつかめませんですから。

狩野　南大阪教会の照明器具は新しくつくられたのですか。

横田　改装されたとき、ペンダントとブラケットをつくられたように覚えてます。あれはアルミの打ちものでやらしていただきました。一時、部分的に暗いといわれまして、まいりましたことがありますが、とくに暗いところもなくて……。

狩野　村野さんの作品は全般に明るいですね。とくに箱根以降、そうですね。もちろん壁や床も明るくイメージされてますが。

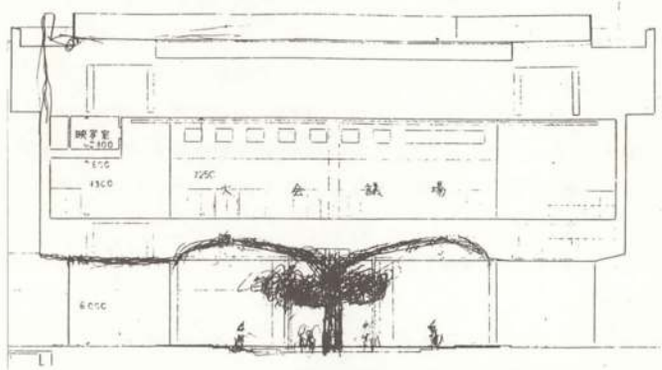
横田　そのころから村野先生は、お眼が悪くなられまして、打合せなどの図面でもご不自由されたようで、つねに明るくしろとおっしゃられ、私どもからみれば明るすぎると思っていても……。

狩野　最後に村野さんのお仕事をやっておられてとくに印象は。

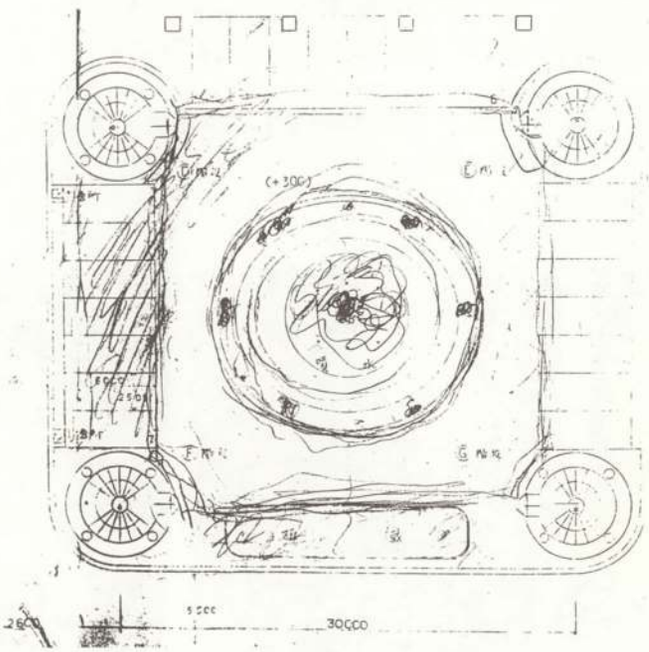
横田　そうですね。村野先生とこの仕事をさせていただいてますと、照明器具はそれ自体が個として存在するのではなく、常に建築空間と一体となっております関係上、いろんな取り合い関係があるわけで、さまざまの業種の方々と知り合える、また、そうした出会いの中で大変勉強をさせていただけることが多いわけです。先生のすばらしいお仕事の一端のお手伝いをさせていただけることの幸せと、その流れの中で色んな方々から未知の世界のお話しを聞かせていただけるのは大変ありがたいことと思います。

狩野　今日は、興味深い話をおうかがいしましてありがとうございます。

（昭和60年10月7日　於横田電器製作所）



宇部興産ビルの断面図に描かれたスケッチ



宇部興産ビルの平面図に描かれたスケッチ

宇部の「架け橋」

小川　正

仲秋の宵、幻想的なアプローチを廻って、全日空ホテルに着いたのは既に８時を過ぎていた。

一目で村野調と判る、15階の酒場は、よく行届いて、港に向って大きな硝子面、酒瓶は窓台に低く無雑作に並べてある。嵌殺しの窓を通して点々と明滅する舷灯の忙しい行き来が美しく映える。

室内の照度、演奏もひかえ目に、静かな宇部の夜であった。

宇部市渡辺翁記念館は、新川の寒村から、一大工業都市に発展させた、渡辺祐策翁の遺業を記念すべく、翁の主宰された、沖之山炭坑を中心とし関係各社が資金を集め、昭和12年７月（1937)、故村野藤吾先生46才のときに設計された記念的建造物である。

当時70万円の巨費をかけ完成の上、宇部市に寄贈されたものと聞いた。

その頃はインターナショナル、合理主義などに対してファッシズム、ナチズム的表現など国家主義的、論議が軍国主義の昂揚に煽られたときであったが先生は近代建築の精粋を考究、見聞されて、この記念的建築の表現は永遠の日本のこころの信念であった。

渡辺翁を象徴する長方型の低い記念碑を中心に、沖之山炭坑など６社を表現するコンクリートの列柱は、左右３本づつ対称に並び力強く、黒褐色の塩焼タイルの会館の大きな曲面に映え、ゆるやかな円型階段によって大らかに見切られている。この記念的空間に立ちつくし、この完成の年に初めて、建築の世界に踏込むことの出来た自らを顧み粛然として身の引締まる想いであった。

1750席のオウデトリアムは当時極めて珍しい逆スラブ構造で、平面部を天井面に利用し、中央部の一列のみを上部スラブとし、間接照明のふところが充分のゆとりがとれている。

場内音量分布と残響は極めて良好であり、佐藤武夫早大教授の指導によったものである。

列島を西下するおもな楽団は、大阪フェステバルホールから宇部渡辺記念館での演奏が常のコースとなっていた。この街が西日本の文化都市として、戦前、戦後を通してその地位を保ちつづけた所以でもある。

舞台の両袖壁は縦格子の堅木と金属の透しの列があり、その上に飛び文様で、ナチスのマークのイメージのバッチが取付けてあるのに気がついた。先生の欧州での強い当時の印象が、詳細に入っていささかご苦労されたことが判るようである。

ゆとりある２階、ロビーも白黒市松文様のテラゾー床に力強い円型の大理石柱で支えられ、大きな円いハンチには淡い彩色が掛られている。彩光は煉瓦型のガラスブロックが明快に使用されている。

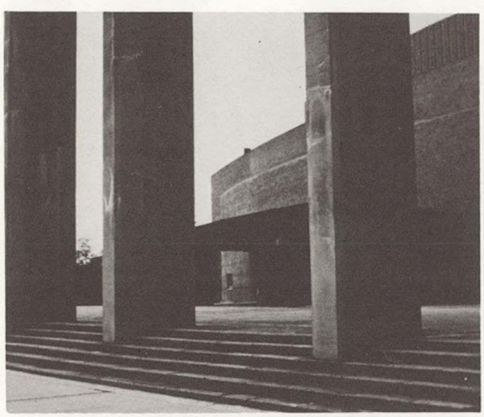
渡辺翁記念室はロビー左手に簡素に設けられ翁の肖像と例のペンダントが印象的である。

日常管理も市の直轄であり、訪れた当日も公演はなかったが、照明、音響の整備が入念に実施されていた。

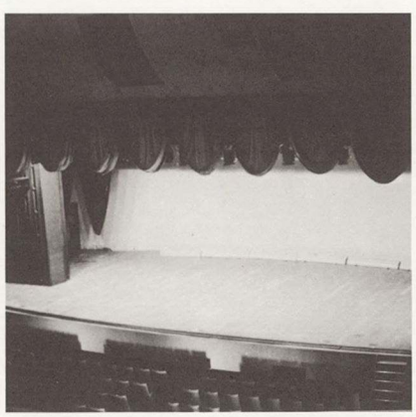
かつての炭坑、煤のまちといわれた宇部市は、大正12年(1921)誕生して以来、すでに50年をへて「緑と花の産業都市」いわれる香り高い文化都市に生長した。

これを記念して、渡辺翁記念館に隣接して、市民の零細な寄付を集め、宇部市文化会館は当時の経済事情を乗り切って、昭和54年（1979）10月に竣工した。

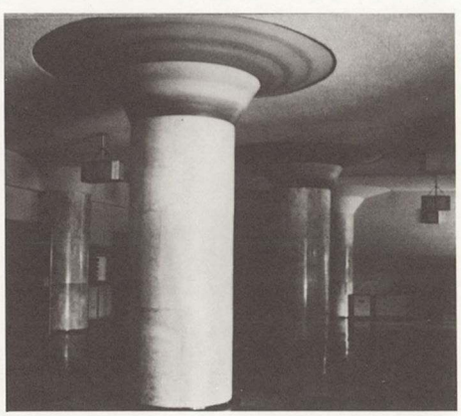
ここの会館の構想も素晴しい、記念館と同色の二丁掛けタイルを使い、その大きな曲面と対して、美しい竹の中庭を介して小きざみの壁面をあつめ、しかも奥の最高部文化ホールの軒高は、渡辺



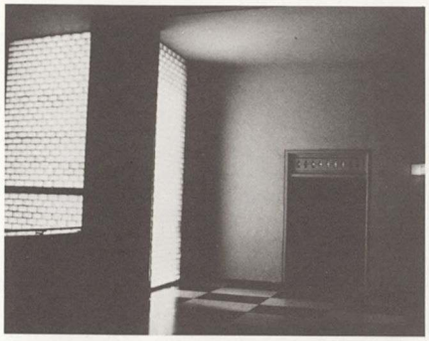
渡辺翁記念館　正面列柱



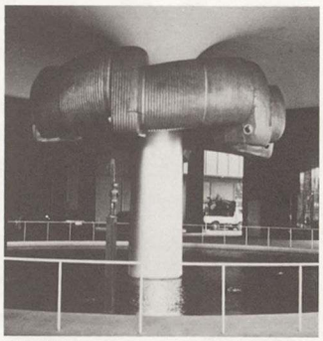
渡辺翁記念館　舞台

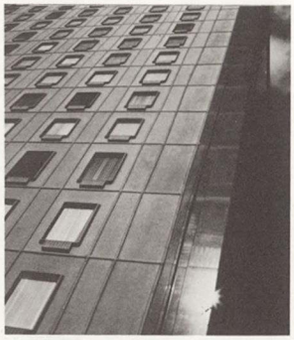


渡辺翁記念館　２階ロビー円型列柱


渡辺翁記念館　渡辺翁記念室前(ガラスブロック採光)


文化会館中庭　(多田美波作(双極子)


宇部興産複合ビル　アプローチ(国際会議場下部中心)


宇部興産複合ビル　高層棟外装プレキャスト構成

翁記念館の舞台の屋根と高さをそろえ、同じ意匠の妻飾りを取付けてある。

両館の造型はあくまで調和であるが、先生はむしろ旧作、記念館に対する愛情からもこの引立役の配慮が窺えた。人の入らない竹の中庭に面した曲折の廊下を進めば、多田美波作の硝子の彫刻「双極子」が予想外に光っている。

唯一の記念館とのつたいが中庭を渡っているが、何気なくまとめられた中にも静かな日本の場があった。

宇部興産複合ビルは昭和57年３月（1982）より58年10月(1983)の工程で、ちょうど、新高輪プリンスホテルと平行した工程の中で、地下２階、地上15階、28,700㎡の複合建築を１ケ年半の工期で、しかも地方都市に完成されたことはまったく驚異である。

産業都市宇部は既に第２種空港をもち、東京へは１日４往復のジェット便があり、１時間半の行程である。

それにしても当時の村野先生の精力的な行動力には、まったく敬服のほかはない。飛行中に座席で書かれた線の多いデザインのイメージが時にはあり合わせの広告の上に走っているのを拝見したことすらあった。

初めて上層のツインに１泊した、この室の浴室には浴槽と便器の間に、ステンレスパイプの肘掛けが壁面から、ヒンヂで回転してくる。今まで東京のホテルにも見かけなかった、身障者用の親切な施設である。

低層部の約1000㎡の国際会議場は３階にあるが、その付属室を含めて完璧なものである。

マホガニレッドの大理石の巨体を非難階段を取巻く四本の土俵柱で力強く支えている、その安定感はまったく見事である。

また中央の床スラブの撓みを防ぐために中心の柱に取付けられたオブジェは、このホテルの寄付きの強い印象である。チューブから出る歯みがきのイメージから発展したといわれる、鉄骨で補強されたＦＲＰの経７ｍの構成でやわらかい照明が入っている。

円形の浅い池と、円鍔勝三作の水人形の彫刻は平和と優しさが周辺の圧力をゆるめ、ほっとする安堵感である。

高層の事務所、ホテル棟の外装は一連の流れに相応しい色調のアルキャストが大量に使用されている。

先生の窓に対するご関心は鋭く、浅くすることで建物を大らかに見せると教わった。アルキャストには硝子のサッシュが不要で、空調のファンコイルユニットのスペースを窓下中央におさめる努力はまさに先生の「工学と芸術」の接点である。

また予算がなくなったからといって国際会議場の天井の構成照明器具などを設計変更をされたと聞く。

これもよくＴＶスタジオに用いられる、天井と照明のイメージから発展したものかと類推したが、新高輪プリンスの「飛天」とはまったく好対照である。

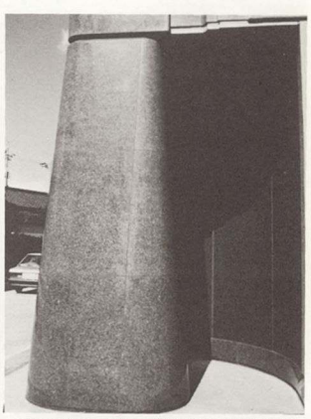
事務所棟の１階、両角の柱の扱いは、裾をまくり力強い脚を突張る、力士のようなユーモラスな表現と、会議場四本の円柱の巨大さとともに宇部の市民の信頼に力いっぱい応えられたのである。

半世紀に渉る間の宇部の「架け橋」は敬愛された渡辺祐策翁から、三代目の中安会長に受けつがれ、当時46才の建築家村野藤吾先生があの端正な渡辺翁記念館から92才の晩年に宇部興産複合ビルの奔放な力強さと、見事な実績と評価をもってこの永かった宇部の「架け橋」を渡り終えられたのであった。

（おがわ　ただし　元　竹中工務店顧問）


宇部興産複合ビル　国際会議場天井構成

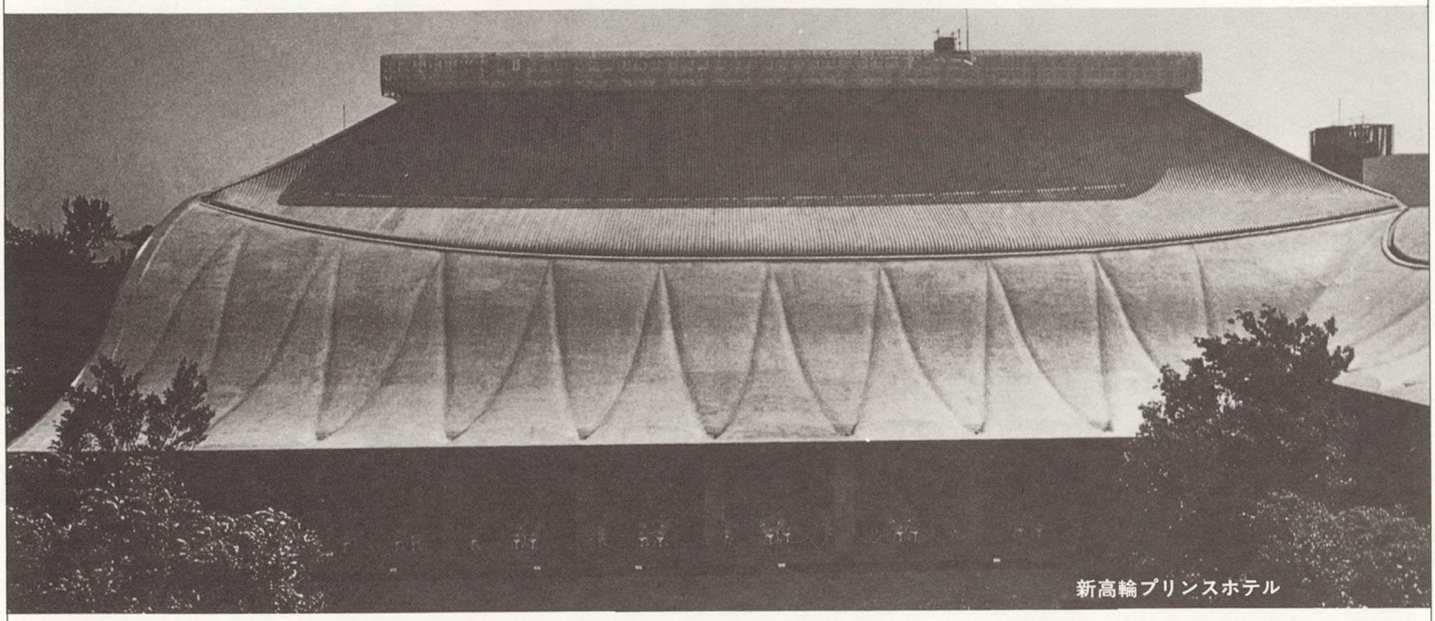

国際会議場四本柱詳細


宇部興産複合ビル　事務所棟1階隅柱詳細

（写真はいづれも筆者撮影）

銅屋根

新設・葺替　全国出張　責任施工



新高輪プリンスホテル

株式会社 小野工業所

本　　社 東京都墨田区石原４－12－１ ☎ 03(624)2261㈹・FAX 03(623)8714
大阪営業所 大阪市淀川区西中島３－20－９ ☎ 06(304)0654㈹・FAX 06(304)3782
静岡営業所 静 岡 市 南 町 12 － 22 ☎0542(86)0105㈹・FAX0542(83)5709

Quality & Creation

常に一歩、時代をリードする新空間づくりをめざします。

髙島屋 装飾事業部

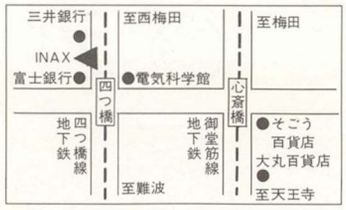
関西装飾部 〒542 大阪市南区難波5-1-5 TEL(06)632-3191
関東装飾部 〒103 東京都中央区日本橋2-4-1 TEL(03)211-4111
事業所●京都・広島・福岡
出張所●札幌・盛岡・秋田・仙台・新潟・名古屋・金沢・神戸・岡山・
高松・長崎・鹿児島

inaの伊奈製陶株式会社は、株式会社INAXに社名ならびにシンボルを変更いたしました。

“X”のひと文字を加えて、
INAXは大きく飛躍します。

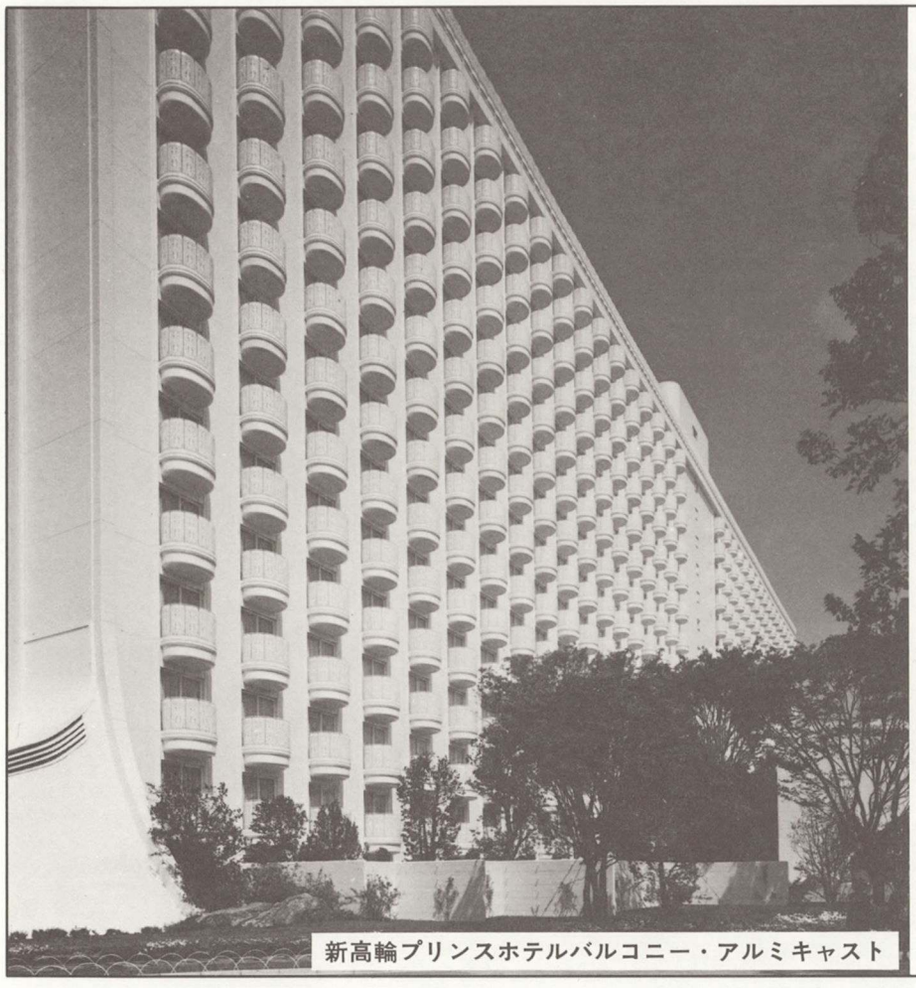
INAXは、ina+X。60年の歴史をもつこれまでのinaに、未知数Xを加えて、新しい価値創造ができる企業を目指します。Xはたったひとつの文字ですが、このひと文字にいくつもの決意がこめられています。INAXが世に送り出すすべての商品が、都市空間で、あるいは生活空間で美しく機能し、文化的完成度の高い環境美を提供することもひとつ。たえず最新の情報と知識を吸収し、先進的開発力をもつこともひとつ。ユーザーの方々の価値感を重視し、時代の要求に真摯に応えながら、未知の可能性を発信し続けることもひとつです。これらは、いわば来るべき21世紀へ向けるINAXの「あるべき姿」。まだはっきりとしたカタチにはなっていないその姿を模索しながら、「日本のINAX」から「世界のINAX」へ羽ばたきたいと考えています。

INAX



ショールーム・ギャラリー
●TEL.〈06〉532—4001●営業時間:AM10:00～PM6:00●休館日:年末年始・夏休み・毎月第一火曜日

株式会社INAX 大阪支店／〒550 大阪市西区新町1丁目7番1号 TEL.〈06〉532-6081(代)


新高輪プリンスホテルバルコニー・アルミキャスト

Metal Engineering

私たちにとって
メタルエンジニアリングとは——
それはお客さまのニーズに合致した
作品を生みだすことにあります。

●カーテンウォール
●外装リフォーム
●スクリーン・扉
●壁・天井
●グリル・オブジェ

ブロンズ
ステンレス
アルミニウム
耐候性鋼
キャスト

キクカワ
菊川工業株式会社

本　社●東京都墨田区菊川2－18－10 ☎03(634)3231(代)〒130
大阪営業所●大阪市西区北堀江2－9－20－102 ☎06(535)4381(代)〒550
白井工場●千葉県印旛郡白井町白井工業団地7 ☎0474(92)0141(代)〒270-14

ドア・サッシの総合メーカー

各種オーダードアからサッシまで

村野・森建築事務所御下命工事施工例

ホテル工事……都ホテル大阪・都ホテル東京・新都ホテル東京・名古屋都ホテル・京都都ホテル・志摩観光ホテル
商業ビル工事……上本町ターミナルビル・近鉄本社・近映レジャービルアポロ・大阪府船員会館

製造 近畿車輛株式会社

販売 近畿工業株式会社

代表取締役社長 奈 波 美 文

本　　社　〒540 大阪市東区谷町2丁目1番地(近鉄大手前ビル)　TEL 大阪(06)943－5500(大代表)
支店・営業所　東京・名古屋・福岡・横浜・京都・東大阪・神戸・広島・札幌・仙台・所沢・高松・徳山・北九州・熊本・鹿児島



未来をひらく英知と技術

三協アルミは、価値ある製品づくりをモットーに、ビル用サッシをはじめ、カーテンウォール・取替サッシ群・内外装材なども豊富に取揃え、快適な暮らしとよりよい環境づくりに貢献しています。

あらゆるニーズに応える

ビル用建材

三協アルミ

三協アルミニウム工業株式会社　〒933 富山県高岡市早川70 建材販売部第一部 ☎(0766)20－2201(代)

お店のムードと機能性を一挙にシェイプアップ……　SUZUKI



通商産業省選定
グッドデザイン商品

クリスタルグリル

●デザイン・採光性・遮音と防風の安全性を考え、しかも防火性能を有するニュータイプのグリルシャッター。
●たて、よこの枠はアルミニウム材、枠の間はガラスまたは合成樹脂はめこみ。
●開閉は電動巻上げ方式、及びプッシュアップ式。
●開口巾は最大7mまで。
●網入りガラス入りは建設大臣認定防火戸956号。

防災ひとすじ82年

鈴木シャッター工業株式会社

本社　〒170 東京都豊島区南大塚1-1-4 ☎(03)944-1111(大代)

全国に展開する営業網　—24時間フルタイムメンテナンス・サービス—

●札　幌☎(011)241-4546	●川　越☎(0492)23-1362	●横　浜☎(045)641-7066	●豊　田☎(0565)28-0770	●広　島☎(082)293-1293	●熊　本☎(0963)83-4125
●仙　台☎(0222)93-6111	●立　川☎(0425)25-9117	●神奈川☎(0463)95-3252	●金　沢☎(0762)65-5135	●高　松☎(0878)34-8211	●鹿児島☎(0992)58-1261
●新　潟☎(0252)41-8418	●千　葉☎(0472)46-9325	●川　崎☎(044)511-9176	●大　阪☎ (06)371-4151	●松　山☎(0899)75-3230	●長　崎☎(0958)24-4894
●水　戸☎(0292)31-8381	●取　手☎(02977)2-0675	●静　岡☎(0542)54-2641	●神　戸☎(078)611-7971	●福　岡☎(092)291-9175	●大　分☎(0975)32-1820
●埼　玉☎(0488)22-1153	●東　京☎ (03)944-1111	●名古屋☎(052)571-3311	●岡　山☎(0862)24-7001	●北九州☎(093)521-1427	●沖　縄☎(0988)62-9772

内はめ 内はずし引違い窓

あんしんシリーズ

外には はずれないサッシ
室内に はずすサッシ
はずれ止め装置付網戸

つくりあげます セフティ環境

学校・マンション・オフィスビルに最適の安全窓です。

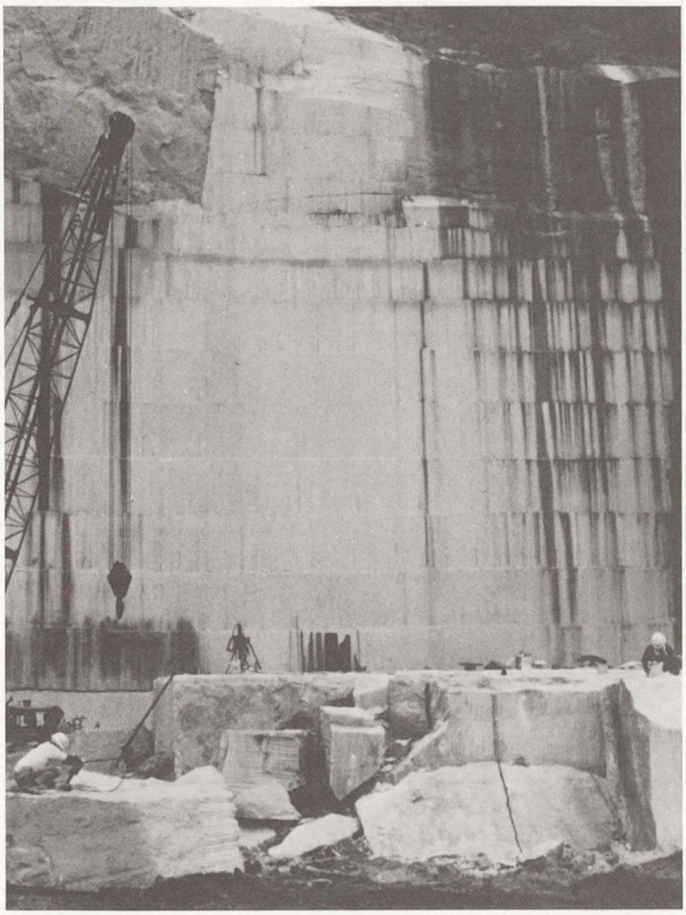
学校をはじめ、マンション、オフィスビルなどでますます高まる“安全”へのニーズ。これに応えるのが“内はめ内はずし”引違い窓・あんしんです。住友ウォールシステムの高度な技術が、いま、セフティ環境をつくりあげます。

○標準タイプ　SA-70HS
○防音タイプ　SA-70HSB
○網　戸　SA-70MS



住友ウォールシステム株式会社

本　社　〒101 東京都千代田区神田美土代町1 TEL.03-294-8511(大代表)
大阪支社　〒541 大阪市東区南本町5－14 TEL.06-252-1881(大代表)
支　店　横浜／名古屋　営業所 札幌／仙台／広島／福岡　出張所 加須　高松



関ヶ原石材株式会社

本　　社	503-15	岐阜県不破郡関ヶ原町２６８２番地	TEL (05844)2-1234
営 業 所	１０４	東京都中央区明石町５番２７－２０１	TEL (03) 545-3921
	５３４	大阪市都島区都島本通４丁目２０番２６号	TEL (06) 922-7661
	４６４	名古屋市千種区高見２丁目１３番４号	TEL (052)761-5286
出 張 所	０６５	札幌市東区北二十条東２丁目１５番地	TEL (011)731-3181
	９８０	仙台市八幡２丁目１４番１９号	TEL (0222)75-3101
	２３１	横浜市中区長者町7丁目5-5長者町ビジネスマンション	TEL (045)651-0523
	９２１	金沢市中村町２６番５０号	TEL (0762)43-3855
	７３０	広島市中区東平塚町８番２２号	TEL (082)243-1241
	８１０	福岡市中央区今泉町1丁目14番10号	TEL (092)771-4231
連 絡 所	９５０	新潟市上所１丁目１２番１９号	TEL (0252)47-7430
	４２０	静岡市人宿町１丁目３番地	TEL (0542)55-6110
海外事務所		マリーナ・ディ・カラーラ・イタリア	TEL (0585) 633385

豊かな経験と最新の技術で
美しく安全な街づくりに
ご奉仕をつづける…

東洋シヤッター

TOYO SHUTTER CO., LTD.

防火・防煙シャッター
その他各種シャッター
オーバーヘッドドアー
各種防災・避難用装置

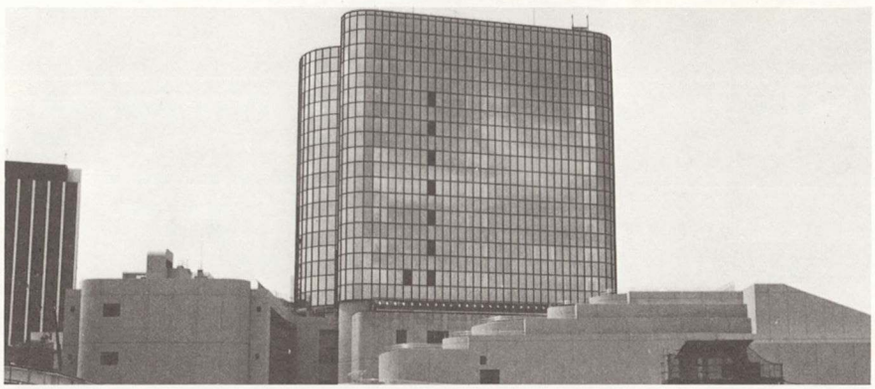
東洋シヤッター株式会社

大阪市東区両替町1-12 日本生命谷町ビル ☎(943)6571
東京都港区六本木6-3 第一地所麻布ビル ☎(479)2911
横浜・水戸・仙台・静岡・名古屋・富山・京都・神戸・岡山・広島・高松・福岡他全国主要都市

感性のパーツ。

日軽カーテンウォール

時を超えて異彩を放つ建築物、時代の文化を
凝縮し未来へ輝きを残す。

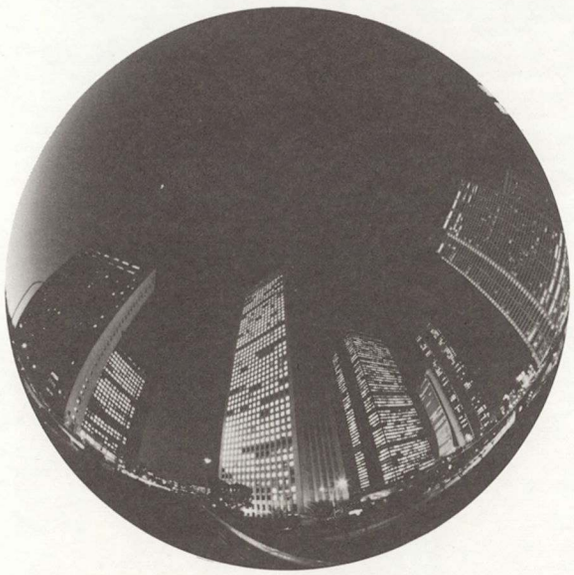


日本軽金属
建材事業部

本　　社／東京都港区三田3-13-12 ☎03(456)9444
大阪支店／大阪市東区高麗橋5-1　☎06(223)3572

扱い品目
- ●オーダーメードカーテンウォール
- ●スタンダードカーテンウォール
- ●オーダーメードサッシ
- ●スカイライトシステム　他、

超高層ビルから住宅まで開口部をクリエートする日本シャッター



■省エネルギー時代のニューシャッター
高速シャッター"トップ8" 目的に合せて、準高速・高速・超高速の3タイプ

■非常時シャッター開放装置
パニックオープナー 消防庁認定 認定番号:81B1022

■政令の基準にもとずく
防煙シャッター 日本建築センター 認定番号:BCJ-SS-17

■火災時に発生する煙の拡散を防ぐ
防煙壁(レール収納式) 日本建築センター 評定番号:BCJ-防災-159

株式会社 日本シャッター製作所

大　阪　本　社／大阪府大阪市淀川区田川北３丁目２番４号　〒532 電話(代)06 (300)1141
大　阪　工　場／大阪府枚方市招提田近１丁目７番地　〒573 電話(代)0720(57)4535
東　京　工　場／神奈川県川崎市中原区新丸子東３丁目1159番地　〒211 電話(代)044(411)6325
高　崎　工　場／群馬県高崎市中大類町６２８－１　〒370 電話(代)0273(52)8674~6
九州支店・工場／福岡県粕屋郡粕屋町仲原字明神９８４－４　〒811 電話(代)09293(8)4661
鹿児島工場／鹿児島県姶良郡蒲生町大字北陣平2177　〒899-53 電話(代)09955(2)1125

SINCE 1901

YABASHI

内外産 大理石、花崗石 ＹＭストーンパネル工事

株式会社 矢橋大理石商店 大阪支店

取締役支店長 山 崎 勝 治

〒541 大阪市東区高麗橋２の56東栄ビル
電 話 大阪０６－２０２－４９０５代表

安全、快適なビルづくりに
ＹＫＫアルミ建材



シンガポール/アーケディア・ガーデン

海外でも使用されているＹＫＫビル用アルミ建材は、独自の完全一貫生産によりJIS、BL、DK(優良断熱建材)などの認定を受け、さらに厳しいテストを行い安全と省エネルギー化に応える製品を送りだしています。

YKK
吉田工業株式会社
本社:〒101 東京都千代田区神田和泉町1
☎03(864)2190
支店:〒540 大阪市東区両替町1-2
☎06(945)0568

特集　伊勢湾をめぐる東海の諸問題

作品作風

- 三重県立鈴鹿青少年センター
- 豊田産業文化センター
- 愛知県稲沢保健所
- 愛知県立港養護学校
- 日生ＵＭビル
- 日土地名古屋ビル
- 日本車輌製造本社
- 津センターパレスビル
- 神宮東パークハイツ

スケッチブック

最近竣工した東海地方の作品９点



座談会

伊勢湾をめぐる東海地方の現在と近未来

出席者：上野洋／津端修一／渡部勝／中島一

ルポルタージュ

伊勢湾から都市をみる〈伊勢湾クルーズ〉

参加者：盛田輝勇／高橋大善／福田泰造／山本正直／中村裕明

建築地場産業ルポ

５．和紙（小原）　６．美濃焼（多治見）　７．石（岡崎）　８．精密木工（浜松）

本特集企画：日本建築協会東海支部
特別編集委員会

委員長：中島一　委員：宮崎辰敬／一圓俊郎／盛田輝勇／太田信二／手塚二郎／高橋大善／長谷部利夫／森鉦一／小坂忠勝／加納正／広田外雄／桝林宏二／畑中啓助／広瀬敏郎／林金之／森口雅文（順不同・敬称略）

写真：名港西大橋　世界一の斜長橋　竣工1985年（名古屋港管理組合提供）

三重県立鈴鹿青少年センター

設計　石本建築事務所
監理　三重県総務部営繕課　石本建築事務所
施工　西松建設・戸田建設・浜口組共同企業体

外装　屋根：コロニアル葺
　　外壁：合板型枠打放し吹付タイル



外観：管理研修棟（手前）　総合研修館（奥）



宿泊サービス棟外観



総合研修館

撮影：加藤敏明（SS名古屋）

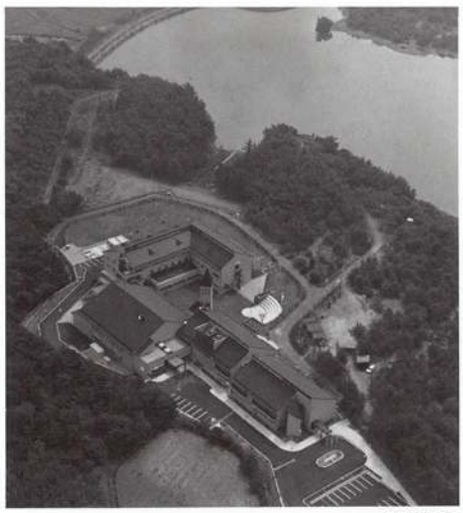
所 在 地　三重県鈴鹿市住吉町字南谷口地内
敷地面積　15,462.00㎡
建築面積　3,587.00㎡
延床面積　6,219.04㎡
構造規模　RC造、一部S造、3F
工　　期　昭和59年3月～昭和60年6月
最 寄 駅　近鉄白子駅前より鈴鹿サーキット行バス
　　近鉄平田町駅

本計画は恵まれた自然環境の中で、青少年が家庭や学校では体験できない集団宿泊を通じて、教師とのふれあい、子供どうしの友情、規律と自立心を育てることを目的とする。
このような基本的性格を理解し、青少年の“交流のひろば”づくりを目指すとともに、建設地の自然環境にマッチした建物となるよう計画した。
敷地は東に美しい伊勢湾をのぞみ、西には雄大な鈴鹿連峰をあおぐ緑豊かな県営都市公園鈴鹿青少年の森の一画にあり、高低差のある地形である。
寄り付きスペースから手前に、管理研修棟、総合研修館(多目的ホール)、宿泊サービス棟の3棟から構成され、各々が連続して結ばれるよう配置した。全体のほぼ中央に各棟により囲まれた中庭を“つどいの広場”と称し、朝のつどい、フォークダンス、屋外パーティーなど多目的な自由な屋外活動の場とした。一画のタワーは公園の中のランドマークとした。
建物は緑の環境にとけ込むよう低層（2～3層）の勾配屋根とし、ボリュームを極力抑えた。敷地の高低差を利用した施設配置、各棟間のスリット、つどいの広場に面した屋外通路、談話コーナーの吹抜、勾配天井など、室内外の空間に変化をもたせ、親しみやすいコミュニケーションの場としての、青少年の“城”にふさわしいたたずまいとなるよう計画した。

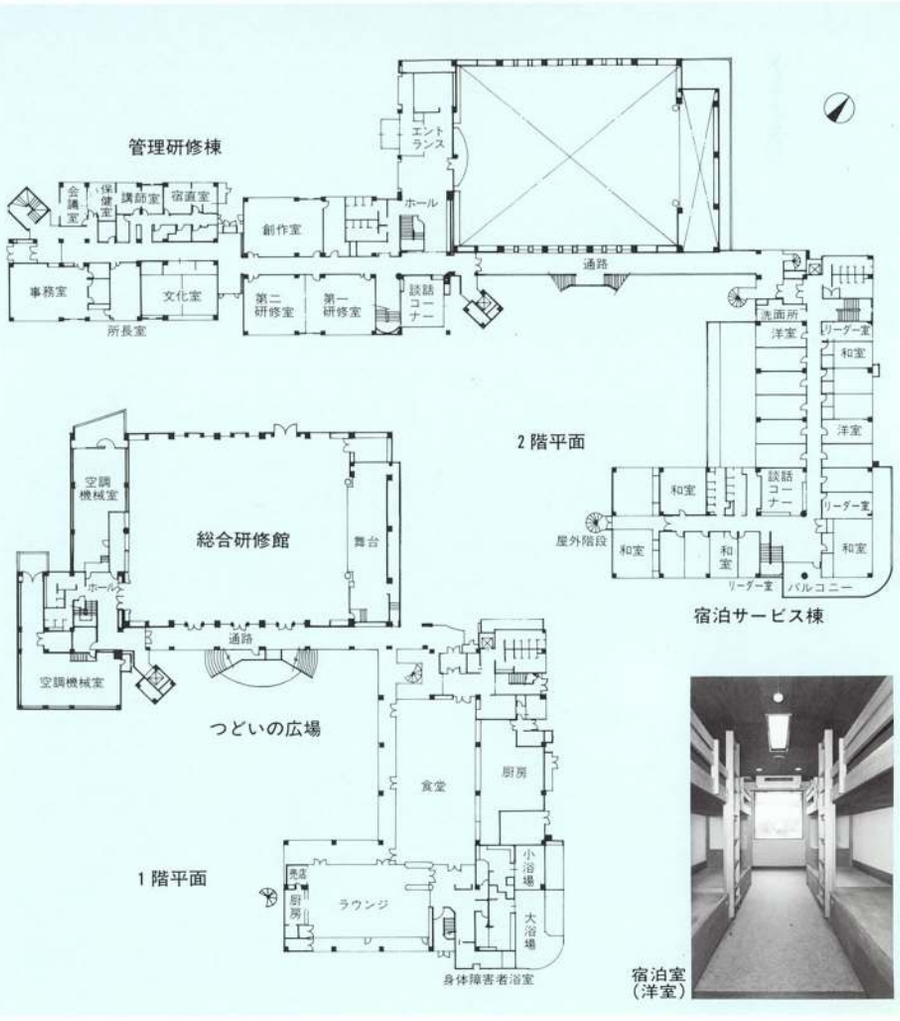
（石本建築事務所　名古屋支所）

つどいの広場





鳥瞰写真



主な業者(順不同)PR

電気設備	大阪電気暖房	TEL 052-251-7151
〃	近畿電気工事	TEL 052-581-9811
空調設備	新菱冷熱工業	TEL 052-261-1751
〃	理研鋼機	TEL 052-221-1666
エレベーター	三菱電機	TEL 052-565-3161
金属	ヤマキ工業	TEL 052-971-1885
金属製建具	三協アルミ工業	TEL 052-961-5651
シャッター	三和シャッター工業	TEL 052-583-9211
杭	東海コンクリート工業	TEL 052-661-1519
体育器具	セノー	TEL 03-292-5411

豊田産業文化センター

基本設計　東海設計（5社指名コンペ当選案）
実施設計　豊田市　東海設計
監　　理　豊田市　東海設計
施　　工　大成・矢作建設共同企業体

屋根：アスファルト露出防水カラールーフィング(断熱工法)
　　プラネタリウムドーム、ステンレスシーム溶接工法
外壁：特注ラスタータイル貼
建具：アルミ電解着色（黒）
硝子：熱線反射ガラス（ペアガラス）

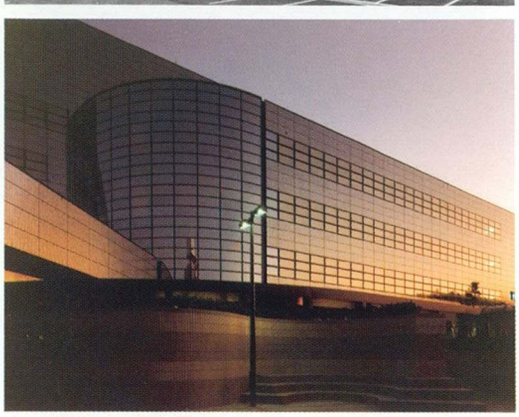


アプローチ

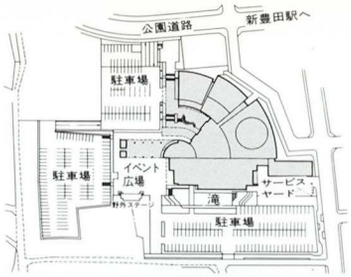


北側よりみる鳥瞰写真





上：南面　下：外観夕景



所 在 地　愛知県豊田市小坂本町１－25地内
敷地面積　22,069㎡
建築面積　 4,890㎡
延床面積　12,904㎡
構造規模　本館SRC、B1、5F、低層部SRC、2F
工　　期　昭和58年10月～昭和60年６月
最 寄 駅　名鉄豊田新線豊田市駅・国鉄岡多線豊田市駅

豊田産業文化センターは、豊田加茂広域市町村圏の産業・文化の振興と圏域住民のふれあいの場として建設された。

当地域は、自動車産業を中心に、21世紀への展望をふまえたメカトロニクス産業の発展が期待されている。それを象徴するように濃紺のラスタータイル・ハーフミラーガラス、プラネタリウムのステンレスドーム等メカニックでシャープな感じで表現した。

高層棟とそれを取巻く各棟を扇形の平面形によって配置し、豊田市を中心とする広域圏の形成を象徴的に表わし、機能との整合性を持たしている。

内部の機能は、くらしと産業との係わりをわかりやすく展示するサイエンスホールをはじめとして、プラネタリウム、最新の生活知識等の情報を提供する消費生活センター、商工会議所の経済団体室、文化教室、ふれあいの場としての多目的ホール・小ホール等の様々な機能がある複合施設である。それらの機能を一つにまとめお互いの機能の相乗効果をあげるとともに、施設運営面で経費の節減をはかっている。

将来計画として、特設展示場（産業会館的施設）温水プール等考慮されている。

このように多様な機能を持ち、利用層は幼児、小中学生をはじめ中高年令者、産業人から家庭の主婦までと幅広く、常時賑やかで活気のある施設となっている。

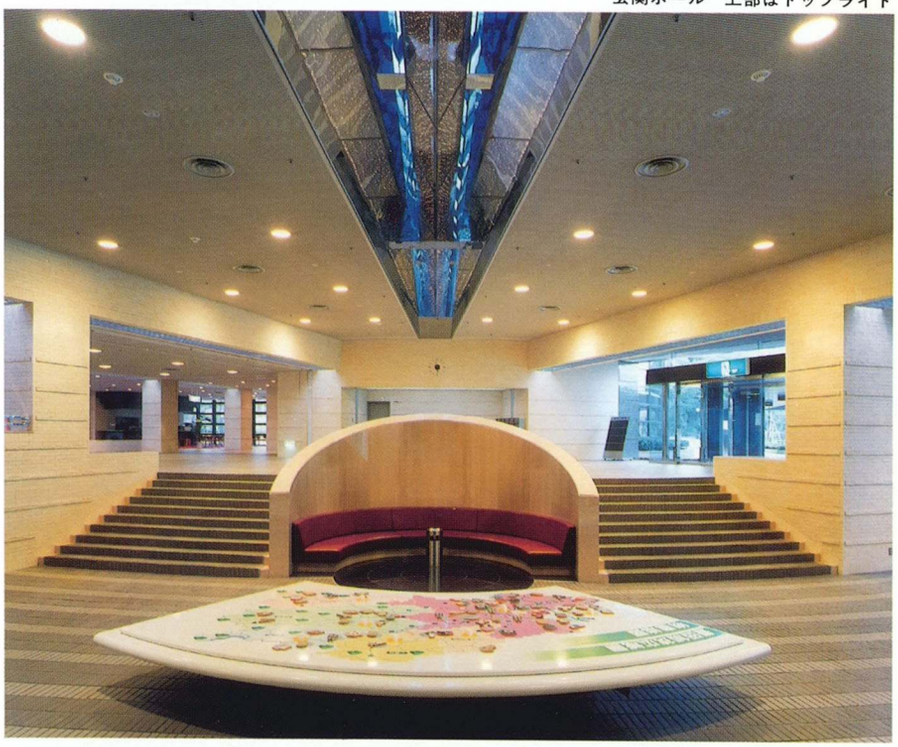
今年７月６日開館以来、予想以上の来館者があり、当施設が地域住民にとって誠に有意義なものであったと慶んでいる。今後とも永く愛され親しまれる施設であるよう望み、設計者のことばとさせていただきます。

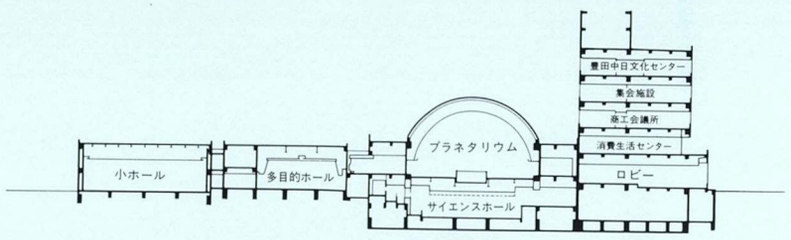
（東海設計／建築家・小坂忠勝）



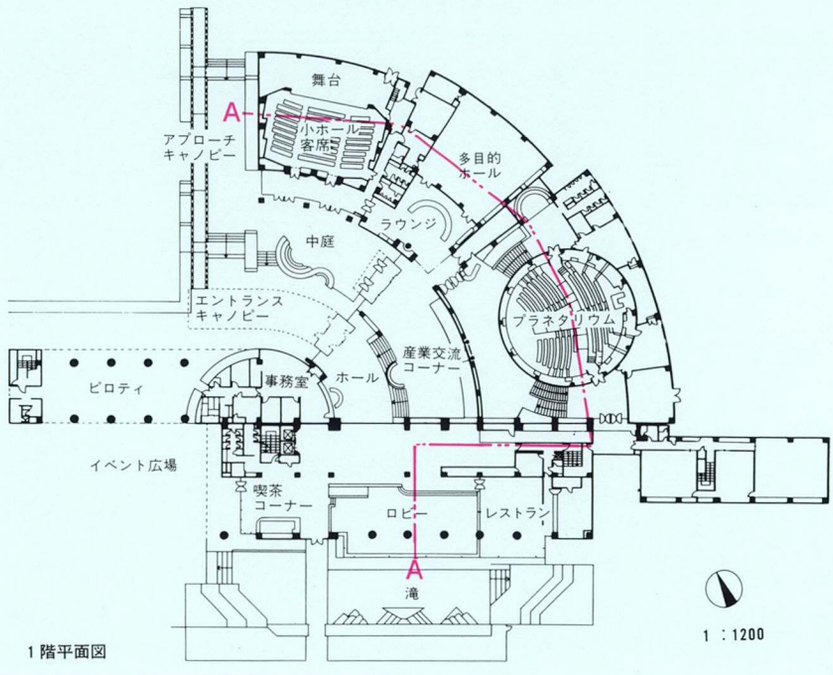
中庭をみる

玄関ホール　上部はトップライト





A-A 断面図



1階平面図

愛知県稲沢保健所

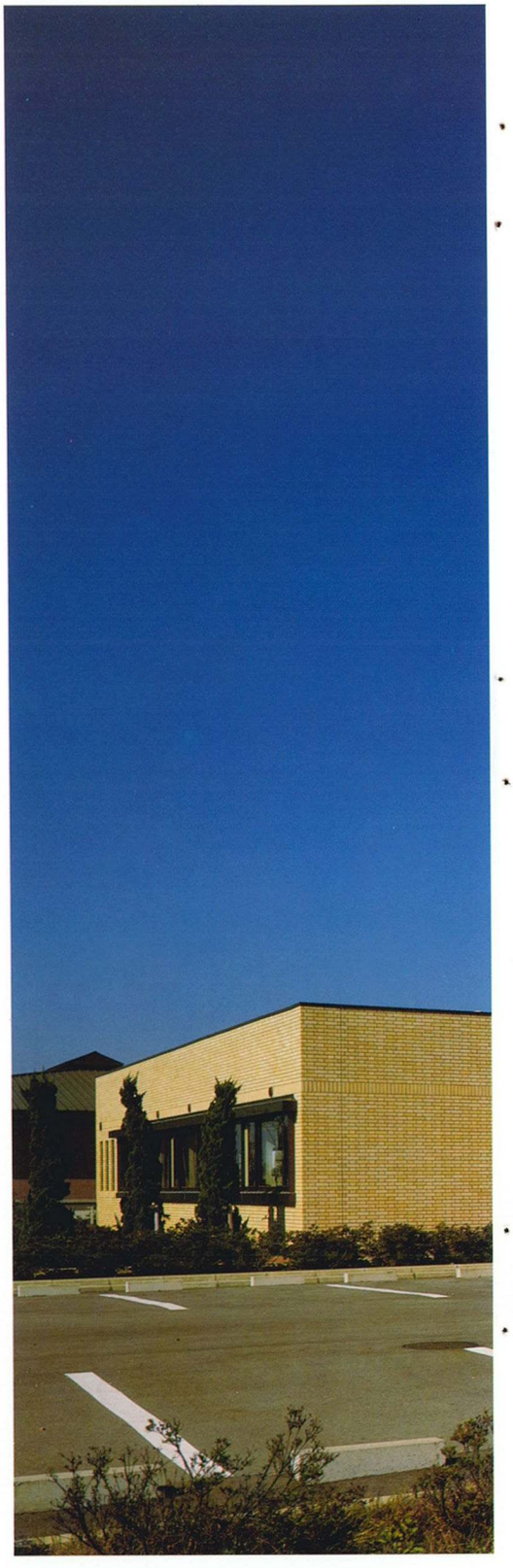
設　計　愛知県建築部営繕課　伊藤建築設計事務所
監　理　愛知県建築部営繕課
施　工　中村工業

稲沢は名古屋の北西約14kmにあり、植木や天下の奇祭国府宮の裸祭で有名な町で、最近では荻須高徳画伯の出身地として、荻須記念館を建設したことでも知られている。
この保健所は、稲沢市街の西方に、荻須記念建設を機に新しく整備された「文化の森」と呼ばれる緑地区域内に、荻須記念館、市町村保健センターに隣りあって建設された。文化の森の中に建設される施設として、周辺の環境や隣接する建物との調和をはかることと、特に市町村保健センターとはそのつながり方が大切な条件であった。市町村保健センターが、市民の一次的な健康診断の機関とすれば、当所は二次的な検査を受けもつ施設であることから、それぞれ全く別の建物ではあるが、両施設は配置、平面計画上のつながりに特別な配慮がなされた。
保健所の敷地の利用の仕方は、北に付属家や設備関係屋外機器の設置のためのサービスヤードを設け庁舎を中央に配置し、南側に十分なオープンスペースを設け、東半分は保健所専用のアプローチと駐車場に、西半分は直接市民の利用する相談室ブロックの前庭として利用している。敷地の周りは植栽による区分を原則とし、荻須記念館や市町村保健センターの敷地へは自由に通り抜けができるようにし、文化の森全体が一つの敷地として扱われている。
建物の平面は、中庭をとり囲んで、玄関ホール、相談室ブロック、検査ブロック、事務管理ブロックが配置され、極力通路部分を削減し、限られた面積の中でブロック毎に広さに余裕をもたせ、それぞれのブロックの独立性を高めながら、そのつながりを工夫し、判りやすい平面を心がけた。
周辺の緑に映え、土の暖かさを感じさせる炻器質タイルの外装により、健康で明るく、親しみやすい意匠としている。

（森口雅文／伊藤建築設計事務所）

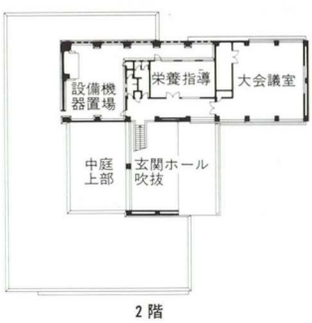


玄関ホールと中庭





1階　1：1000



2階

電気工事　安田電機暖房
管工事　名西給水
空調工事　大東空調工業

所 在 地　愛知県稲沢市大塚町
敷地面積　4,500.00㎡
建築面積　1,084.36㎡
延床面積　1,220.94㎡
構造規模　RC造、2F
工　　期　昭和58年7月～59年3月
最 寄 駅　名鉄本線国府宮駅



撮影　加藤敏明（SS名古屋）

東南面全景



愛知県立港養護学校

設計　愛知県建築部営繕課　伊藤建築設計事務所
監理　愛知県建築部営繕課
施工　鴻池組(本館棟)　三洋建設(校舎棟)

「一人ひとりの能力や特性をのばす教育をすすめ、障害を克服しながら社会の一員として、明るくたくましく生きぬく人間を育成する」という教育目標をかゝげ、今年4月に開校した養護学校である。肢体不自由児を対象としたもので、愛知県下では第6番目のものである。

現在生徒数は176名で、通学児童と訪問教育児童をあわせて、小学部17学級、中学部10学級、高等部4学級が設置されている。尚現在本年度工事として体育館棟が建設中である。

敷地は、名古屋市南部工業地域内の工場に併設された体育館とグランドの跡地で、敷地の東側は、都心と名古屋港とを結ぶ幹線道路国道154号線に面しているが、周辺は社宅や病院、一般住宅に囲まれ、工業地域とは云っても比較的静かな環境である。

敷地の形状はかなり不整形であるが、東側国道沿にグランドを、西側に校舎群を配置し、国道からの振動、騒音をさえぎり、校舎群の配置の仕方で周辺の住宅地の環境保全をはかりつつ、敷地の有効利用をはかっている。

施設規模の割には敷地が狭隘で不整形なため、校舎は二階建とし、エレベーターとスロープを併設し、生徒の発達的段階に応じた生活圏が確保できるように、小学部、小学部重複、中学部、中学部重複、高等部のブロックに区分している。

生徒のほとんどがスクールバスか自家用車による通学であるため、校内にはその駐車場を設けるとともに、昇り口はバス用と乗用車用とに分け、校内の動線の短縮をはかり、登下校時の混乱をさけている。スクールバスは、庇の下で直接プラットホームに横付けできる構造とし、雨の日でも安全な登下降を可能にしている。

クラスルーム（ＣＲ）は、原則として二学級を一単位と考え、間仕切壁はスライド式間仕切とし、学習単位を一学級から二学級に拡げることができるように配慮されている。クラスルームは、原則として南面させ、北側にはそれぞれの単位毎にホールを設け、集団活動や、遊びなど多目的な利用を期待している。

楽しい雰囲気の学校づくりをめざして、建設コストは特別にかけずに、在来構法を利用してすべての校舎の屋根を勾配屋根でまとめている。とくに昇降口から訓練ホール部には県下で産する陶器瓦を利用し、片流の大屋根をかけ当校のシンボルとしている。　（森口雅文／伊藤建築設計事務所）



配置図

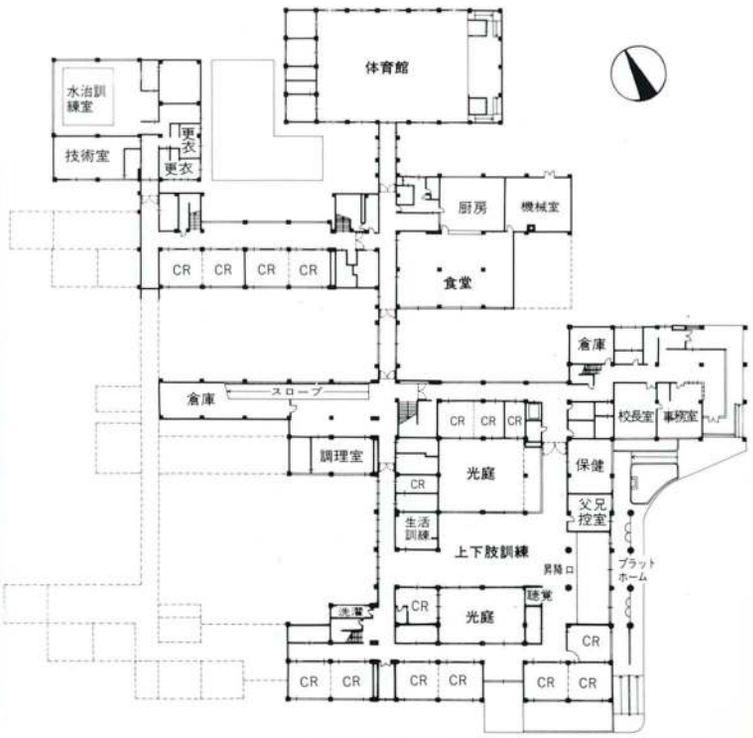


撮影　加藤敏明（SS名古屋）　　東面全景

所 在 地　名古屋市港区港明１丁目
敷地面積　24,793.44㎡
建築面積　 4,442.62㎡
延床面積　 6,402.96㎡
構造規模　RC造、２F、P1
工　　期　昭和59年７月～昭和60年３月
最 寄 駅　地下鉄名城線東海通駅



昇降口



１階平面　１：1200

日生UMビル

設計監理　日本生命保険相互株式会社不動産部　大林組
施　　工　大林組

外装：低層部・磁器45二丁掛タイル貼、一部吹付タイル
高層部・磁器45二丁掛タイル打込オムニヤ版



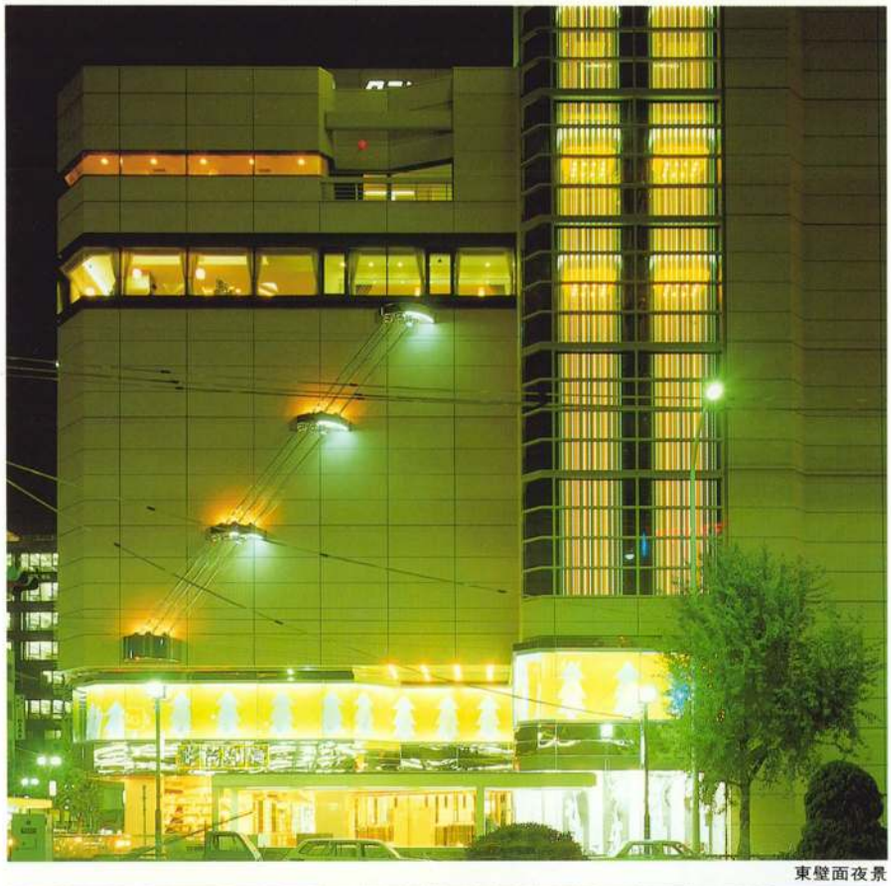
南東側全景

撮影　加藤敏明（SS名古屋）

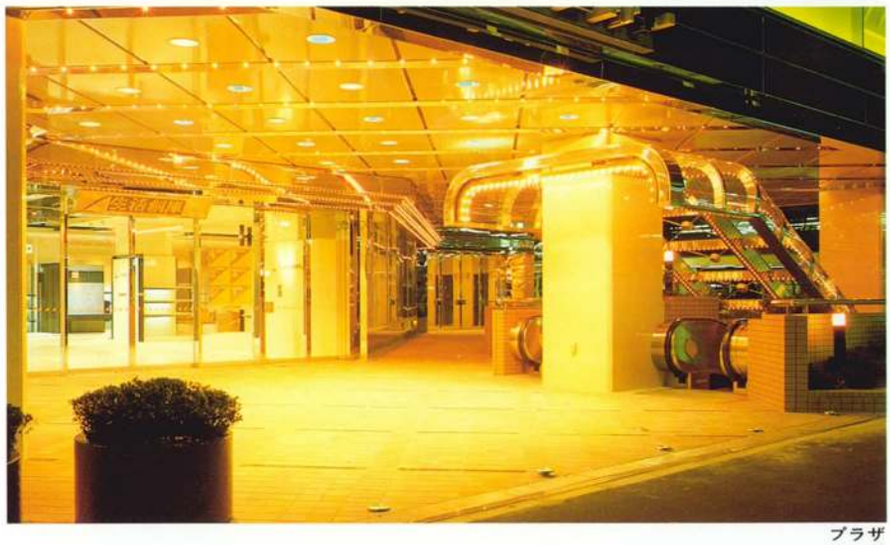
所 在 地　名古屋市中村区椿町６番９号
敷地面積　3,411.06㎡
建築面積　2,859.68㎡
延床面積　31,356.20㎡
構造規模　鉄骨鉄筋コンクリート造　Ｂ２・12Ｆ
工　　期　昭和58年11月～60年11月
最 寄 駅　東海道線（新幹線）　名古屋駅

名古屋駅西地区は、駅東地区に比して都市施設の整備も充分とはいえず、文化的、経済的ポテンシャルも低く、駅前でも雑然としたイメージが支配的な地域である。
敷地はそういったアメニティの欠落した地域の一角にあるものの、幸いにも新幹線名古屋駅に面し、三方を道路に囲まれた。建築計画上は比較的やりやすい立地条件下にある。
当ビルは、こういった状況のもと、当地域活性化の核として、また、新しい〝名古屋の顔〟として位置付けされた施設であり、Ｂ１～５階を物販店舗、６～12階をホテルとした複合商業建築である。ホテル、店舗とも各々の持つポテンシャルは高く、これらが複合することによる相乗効果のメリットをいかに引出すかがこの計画のテーマの一つでもあった。
平面計画としては、駅前地下街との連携による相乗効果を期待すべく地下街との接続を計り、敷地後方に控える駅西商店街への導入も兼ねて１階南部を大きく抉ってプラザを形成し賑い性を持たせて、ホテル、店舗のメインアプローチとしている。
立面計画上も、駅西商店街への導入ゲートとしての意味合いを持たすべく、高層のホテル棟、低層の店舗棟、シースルーＥＶシャフト部の、３つの大きなマックスで構成、ホテル、店舗それぞれの機能をそのまま表現した造形とし、既存の街並に新鮮なスカイラインを付加している。また外装にはベージュ系の磁器タイルを用い、プレーンな壁面構成により重厚さと軽快さを兼備した品格のある外観とし、さらには東、南の店舗階壁面に伊藤隆道氏の手による動くオブジェを配するなど、文化性の高い商業建築を目指しており、都市環境の向上にも寄与することを期待している。

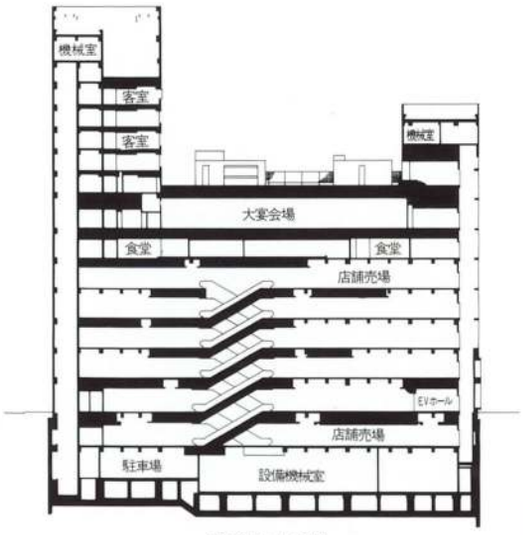
（横山國男・安井直行・星野一／大林組）



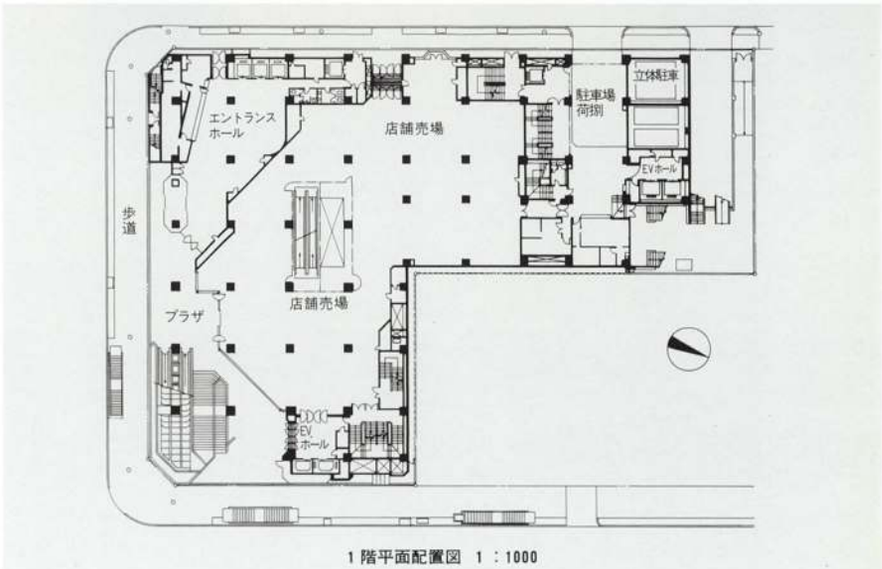
東壁面夜景



プラザ



断面図１：1000



１階平面配置図　１：1000



北西面

主な外装：リブ付焼器質タイル打込ＰＣパネル　　外部建具：ステンレスおよびアルミサッシ

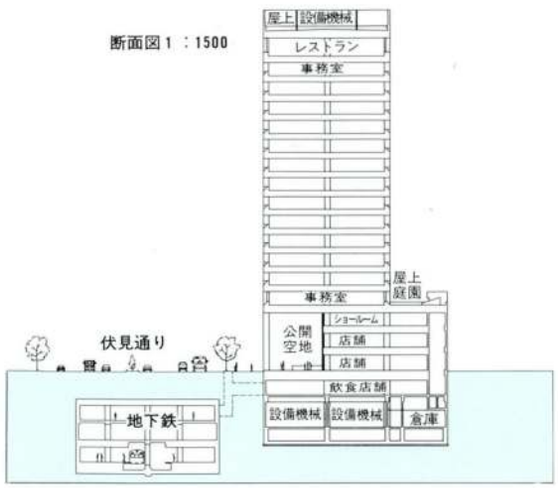
撮影　加藤敏明（SS名古屋）

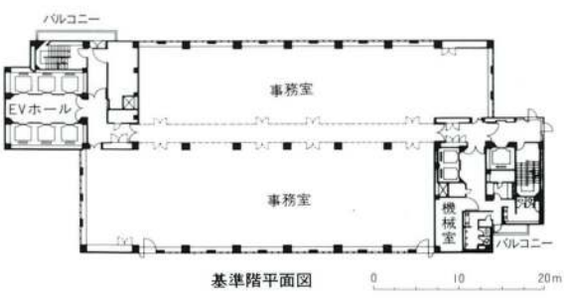
日土地名古屋ビル

設計監理　日建設計・名古屋
施　　工　清水・戸田・竹中・佐藤共同企業体

所 在 地　名古屋市中区栄二丁町１－１
敷地面積　3,351㎡
建築面積　2,680㎡
延床面積　29,860㎡
構造規模　高層部Ｓ造Ｂ2、17F、Ｐ1
　　低層部Ｓ造地下ＲＣ造一部ＳＲＣ造
工　　期　昭和58年11月～60年７月
最 寄 駅　名古屋市地下鉄東山線伏見駅

名古屋市の中心部、伏見交差点は、地下鉄３号線の完成により、一号線とのクロスポイントとなって、名駅地区・栄地区に次ぐ新都心となりはじめている。
この交差点に面して、伏見駅に接する敷地は業務上のみならず都市的な価値も高く、立地条件に恵まれており、土地の高度活用と魅力的な街づくりを両立すべき所にある。幸い建築主の意欲的姿勢によってこの両立がはかられて建物が生まれたが、設計における主な方針としては、
▷恵まれた立地にふさわしく、高度の土地利用をはかること。
▷都市空間への魅力的なインパクトを与える建物とすること。
▷総合設計制度を活用し、建物の容積増と高層化をはかり公開空地を積極的につくること。
▷地下鉄伏見駅との連絡路を公開空地につなげて、街区機能と建物の付加価値を高めること。
▷建物の低層部は商業施設、高層部は業務施設とし、商業的魅力と機能的効率を調和させること。
▷建築構造と設備における合理性、信頼性を高め、経済的な建築設計をすること。
▷高度情報化時代を予見した対応できる建物とすること。
等を重点テーマとした。
公開空地率は27%となり、大規模ピロティ方式とし、地下から２階まで立体的なつながりをもたせる空間構成とした。またこのプラザは、全天候型のイベント空間でもあり、都市の活性化をはかることを期待している。この活気を、鏡面仕上の天井が写しだすことを願って、プラザ　ミロワール〈鏡〉と命名された。　（南石周作／日建設計）

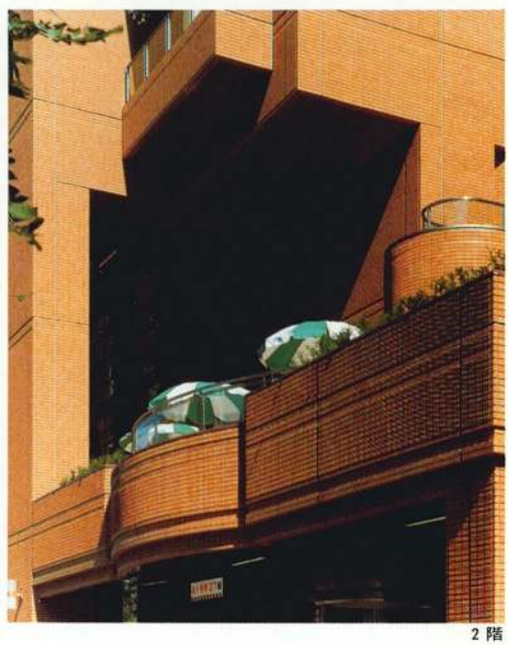






1階公開プラザ


鐘面仕上の天井を見る


2階

日本車輌製造本社

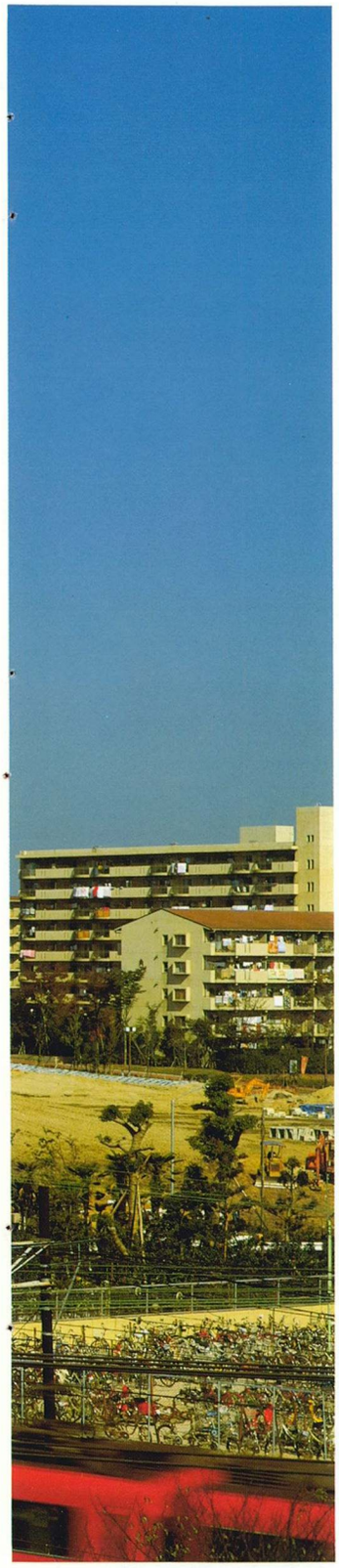
設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　熊谷・竹中・大成・共同企業体（建築）

設備　東海電気・中央電気共同企業体（電気）
高砂熱学・大冷工業共同企業体（空調）
北嶋工業（給排水衛生）
岡谷鋼機（三菱ＥＶ）（昇降機）



南西面外観

所 在 地　名古屋市熱田区三本松町
敷地面積　13,685.74㎡
建築面積　1,286.66㎡
延床面積　6,616.58㎡
構造規模　SRC造、6F、B1
工　　期　昭和59年3月～昭和60年2月
最 寄 駅　名鉄本線神宮前駅



日本車輌製造株式会社は、明治29年以来、鉄道用の機関車、客車、貨車の製造、販売を営み、やがて創立90年を迎えようとしている。「鉄道日本を支え、日本の鉄道車輌史は当社の歩み」と自負する実績をもっている。最近は、長年鉄道車輌製造で培われた技術を、橋梁、産業機械、電機、大型プラントに生かしている。

本社社屋は今年3月その発祥の地に完成したものである。この地区は熱田神宮の東、国鉄東海道線と名鉄名古屋本線に沿った、もともと日本車輌製造をはじめとした名古屋市南部の工場地帯であった。

この地区の市街化にともない、工場移転がはじまった時期に、昭和40年代から、民間主導で熱田神宮外苑の再開発の構想がねられてきたが、昭和54年には東京の木場地区、大阪の淀川リバーサイド地区と並んで、建設省より新しい制度による再開発地区に指定され、名古屋市と住宅都市整備公団による神宮東地区特定住宅市街地総合整備促進事業として、約10ヶ年かけて再開発がすすめられている地区で、現在は中期開発のおわりの時期にあたる。

敷地は当開発区域内の業務地区の一区画で、鉄道敷に隣接して南北に細長く、東側は公園に面している。南側の市の駐輪場との区画に必要な緑地を設けて社屋を配置し、北側は車寄と駐車場に、西側鉄道沿にサービスヤードを設けている。

敷地周辺には充分な植栽を施こし、住宅地区内の業務地区として、ゆとりのある配置と景観を心がけた。

建物は、本社社屋として平面のフレキシビリティをねらい、特別な階をのぞいて、大部屋形式をとっている。階段、便所、空調機室等と、書類等の保管スペースの集約化をはかり、スペースの有効利用をはかるとともに、均衡のとれた耐震壁の配置により耐震性の高い建物としている。

各階は原則として、南北の採光と通風をはかり、省エネルギーを心がけ、維持費の経済性を高めるように努めた。

維持のしやすい建物と云う条件があったこともあり、外装は鉄道の粉塵による汚染を考慮し、全面施釉磁器タイル貼とし、清掃性を高めている。とくに開口部廻りはステンレスの大枠を設け、役物タイルを一切なくし、施工性と竣工後の保守のしやすさをねらっている。彫の深い開口部は、この建物に本社社屋らしい荘重な印象をもたせている。

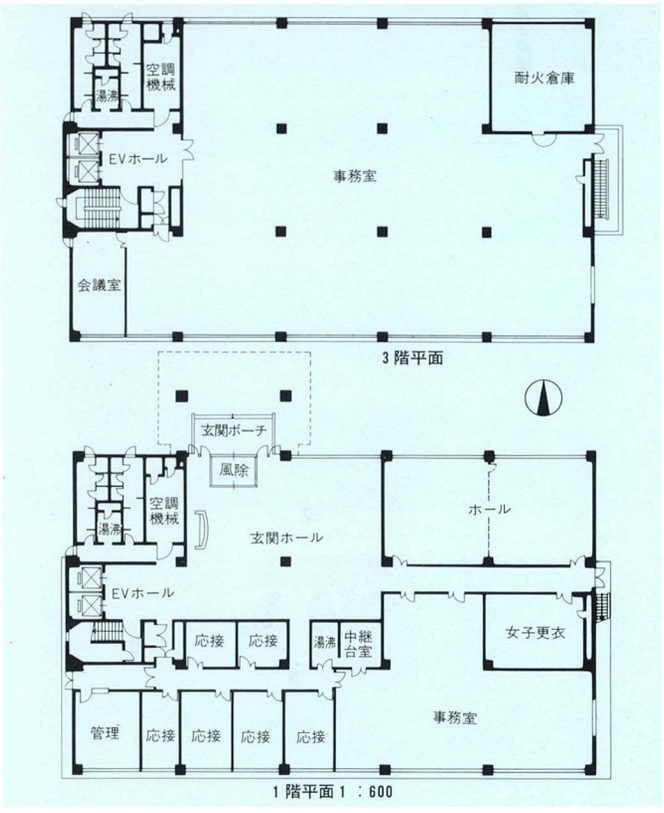
（森口雅文／伊藤建築設計事務所）



アプローチ



玄関ホール

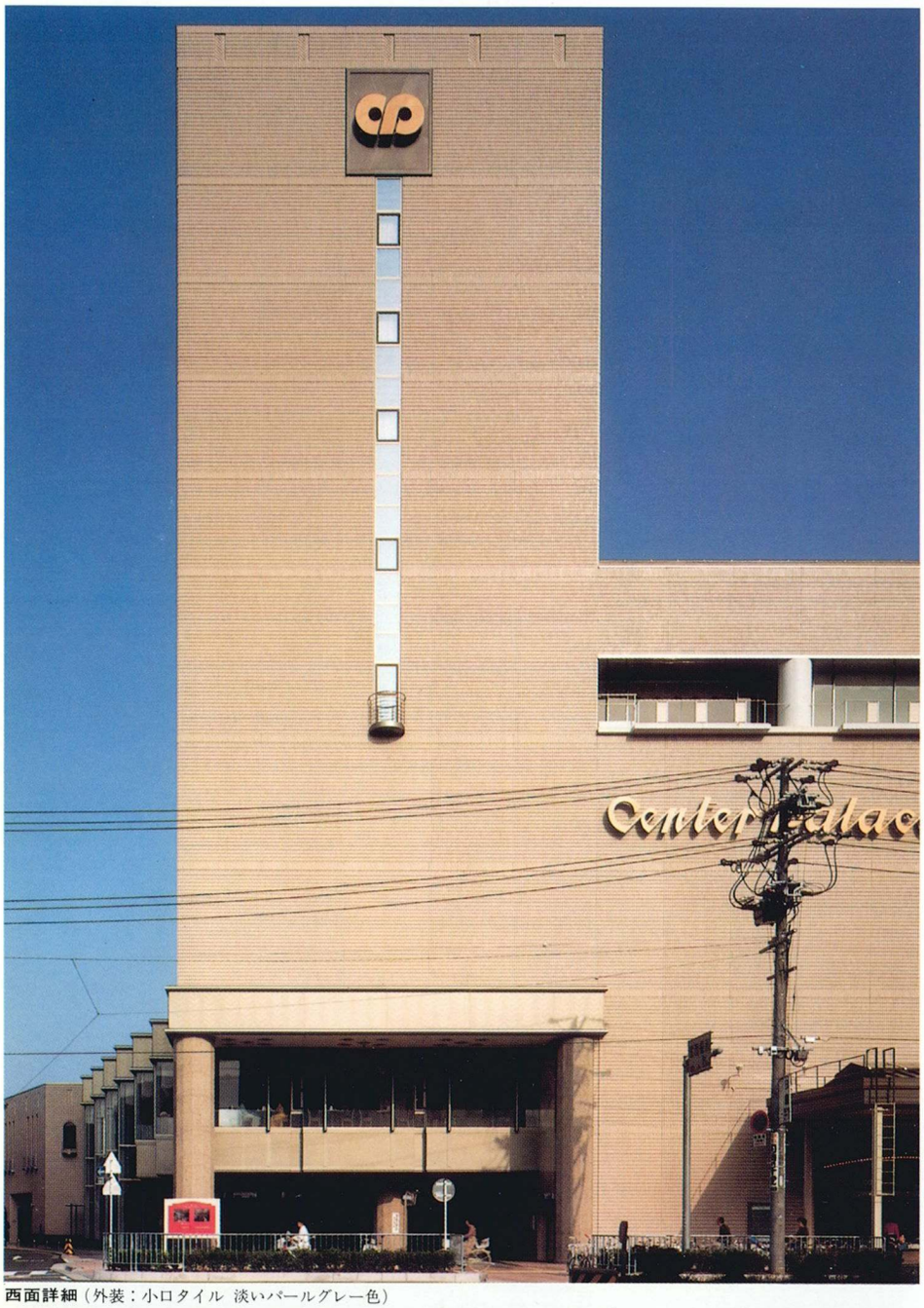


1階平面1：600

撮影　加藤敏明（SS名古屋）

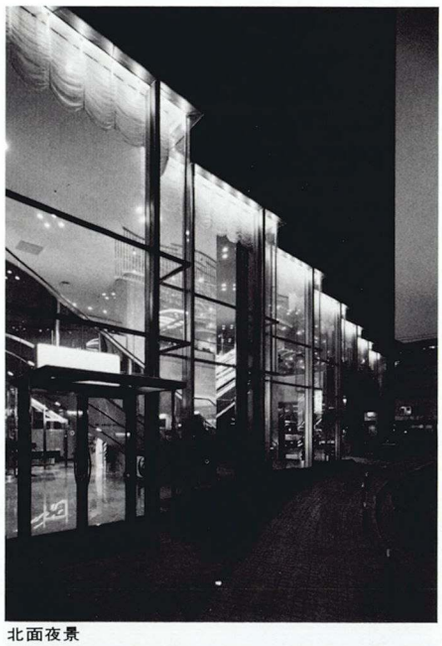
津センターパレスビル

設計施工　熊谷組・竹中工務店共同企業体

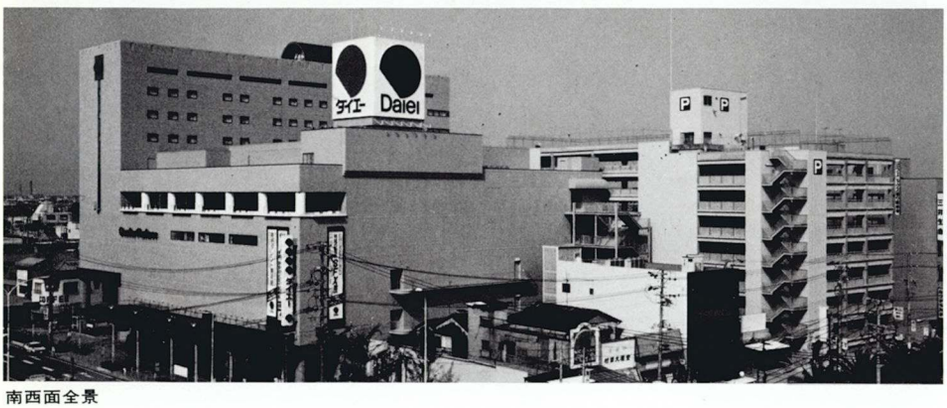


西面詳細（外装：小口タイル 淡いパールグレー色）

当計画地は、市役所の移転に伴う、跡地利用として計画されたものであり、地元商業者と協調、融合した大規模商業施設と、都市施設としての本格的シティーホテルを、地域者の参加による第三セクターにより、事業企画されました。
建物構成は、地下１階より３階に商業施設、４階にはカルチャーとイベントホール、５階に市民のための多目的ホールを、また、１、２階の一部と５階から９階にホテル施設を計画し、多機能を有機的に配しています。
建物景観は、高層棟と彫りの深いバルコニーを軸としたシンボリックな構成と、淡いパールグレー色の外壁タイルと、あいまって津の新しいランドマークとなっています。
津の新しいランドマークは、〝商業の活性化の核〟として、また、〝人と文化の交流の場〟として、地域社会に機能しはじめており、津の発展に大きなインパクトを、与えたと私たちは考えます。今後の津の活性化の発展を大いに期待するものであります。



北面夜景



南西面全景



西北面全景夜景

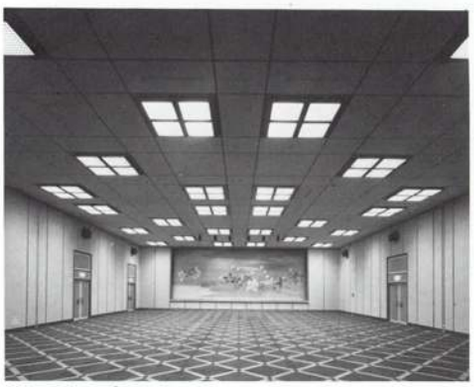
所 在 地　三重県津市大門７－15
敷地面積　4,915.73㎡
建築面積　4,167.26㎡
延床面積　24,411.99㎡
構造規模　ＳＲＣ、ＲＣ造、Ｂ１Ｆ、９Ｆ
工　　期　昭和58年10月～昭和60年３月
最 寄 駅　近鉄・津駅、国鉄・津駅


ホテルロビー


ホテル大宴会場


ホテルロイヤルルーム


プラザ


津センターパレスホール


店舗エントランス



全景　　↑16号棟　　↑ 9 号棟

神宮東パークハイツ(住宅・都市整備公団賃貸住宅)

9 号棟

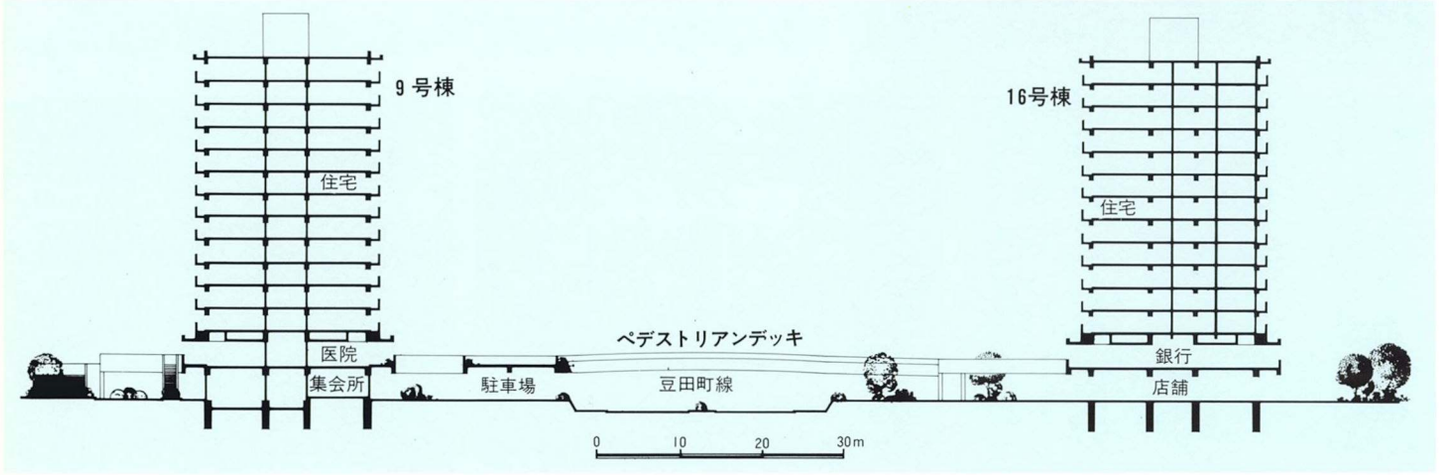
基本設計　大建設計
実施設計　大建設計
施　　工　熊谷組・徳倉建設共同企業体

16号棟

基本設計　大建設計
実施設計　安藤建設
施　　工　安藤建設名古屋支店

16号棟（手前）　9 号棟（向側）







神宮東パークハイツは特定住宅市街地総合整備促進事業として、昭和54年以来開発が進められている中の住宅・都市整備公団による住宅建設地区である。

下記の基本構想の基に約1000戸の住宅建設が行われてきた。

1) 中高層の高密度低建蔽率の開発により大きなオープンスペースを確保し、緑の多い豊かな空間を確保する。(公園住宅)
2) 日照条件の良い郊外型の性格をもった大型住宅を提供し、郊外へとスプロール化した人口を都市に呼びもどす。
3) 防災拠点としてのイメージを明確化するため、シンボリックな景観を有するデザインとすると共に隣接する地区公園と一体化した景観づくりを目ざす。

写真の塔状高層住宅は、豆田町線により南北ブロックに分けられた各ブロックのメインアプローチのシンボルとして計画されたもので、この低層部には店舗、銀行等の施設が設けられ、団地のセンターを形成し、南北ブロックをペデストリアンデッキで結び都市的な雰囲気をもった空間をねらったものである。団地全体は中高層住宅で構成されているが、シンボルの高層棟を頂点に周辺に近づくにしたがって低い住棟が配置されている。

16号棟

所 在 地　名古屋市熱田区六野２－６
建築面積　673.40㎡
延床面積　5,833.41㎡
構造規模　ＳＲＣ、14Ｆ、Ｐ１
工　　期　昭和57年３月～58年12月
最 寄 駅　名鉄線神宮前駅・国鉄線熱田駅
　　地下鉄線神宮西駅

9号棟

所 在 地　名古屋市熱田区三本松町102－６
建築面積　657.90㎡
延床面積　5,951.87㎡
構造規模　ＳＲＣ、14Ｆ、Ｐ１
工　　期　昭和55年３月～57年３月
最 寄 駅　名鉄線神宮前駅・国鉄線熱田駅
　　地下鉄線神宮西駅



16号棟全景



9号棟全景

凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積
e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



1909 サンマリーンながの

設　計：大建設計名古屋事務所
施　工：前田・北信ＪＶ

a．長野市大字豆島字川端向
b．16,795㎡
c．　6,358㎡
d．　8,695㎡
e．ＲＣ、Ｂ１、３Ｆ
f．昭和59年７月～昭和60年10月
g．国鉄信越本線長野駅



1910 アイシン精機㈱技術本館

設　計：富士工務店・清水建設名古屋設計部
施　工：富士工務店・清水建設名古屋支店

a．愛知県刈谷市八軒町５－50
b．14,300.0㎡
c．　2,904.1㎡
d．22,933.7㎡
e．ＳＲＣ、Ｂ１、８Ｆ、Ｐ１
f．昭和59年３月～昭和60年７月
g．国鉄東海道線刈谷駅、名鉄本線知立駅



1911 文溪堂本社屋

設　計：岬建築事務所
施　工：大林組・大日本土木ＪＶ

a．羽島市江吉良町字舟橋前2799－１
b．5,759.68㎡
c．　707.47㎡
d．5,499.50㎡
e．Ｓ、ＳＲＣ、ＲＣ、８Ｆ、Ｐ１
f．昭和59年４月～昭和60年９月
g．国鉄新幹線羽島駅



1912 関郵便局

設　計：東海郵政局建築部設計課
施　工：堀田建設

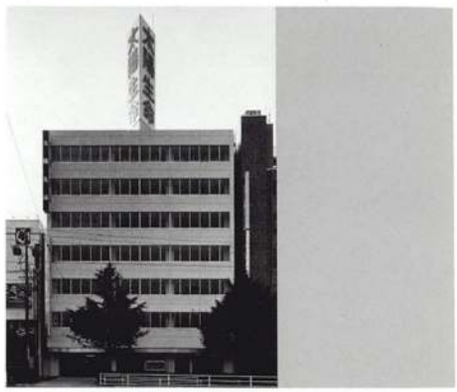
a．三重県鈴鹿郡関町大字木崎字御茶屋428－1.2.6
b．1,174.38㎡
c．　454.55㎡
d．　440.00㎡
e．ＲＣ、平家建
f．昭和59年３月～昭和59年10月
g．国鉄関西線関駅



1913 挙母コミュニティ会館

設　計：豊田市建設部住宅営繕課・伊藤建築設計事務所
施　工：大林組・加茂土建工業ＪＶ

a．豊田市昭和町２－46
b．1,772.53㎡
c．　606.53㎡
d．2,264.34㎡
e．ＲＣ、５Ｆ、Ｐ１
f．昭和59年10月～昭和60年６月
g．豊田市駅



1914 太陽生命豊橋ビル

設　計：大林組名古屋支店
施　工：大林組名古屋支店

a．愛知県豊橋市駅前大通３－53.54
b．　381.20㎡
c．　342.10㎡
d．2,436.60㎡
e．ＲＣ、Ｂ１、７Ｆ、Ｐ１
f．昭和59年12月～昭和60年10月
g．国鉄、名鉄豊橋駅



1915 東海銀行磐田支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：安藤建設

a．静岡県磐田市今之浦三
b．826㎡
c．382㎡
d．593㎡
e．ＳＲＣ、２Ｆ
f．昭和59年11月～昭和60年６月
g．国鉄東海道本線磐田駅



1916 桑名信用金庫駅西支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：清水建設

a．三重県桑名市大字東方字打上田115－３
b．723㎡
c．272㎡
d．356㎡
e．Ｓ、２Ｆ
f．昭和60年５月～昭和60年９月
g．近鉄桑名駅



1917 十六銀行西多治見支店

設　計：東海設計
施　工：清水建設名古屋支店

a．岐阜県多治見市若松町２－31－１
b．1,585.19㎡
c．　530.61㎡
d．　939.42㎡
e．ＲＣ、２Ｆ
f．昭和60年１月～昭和60年６月
g．国鉄中央線多治見駅

座談会

伊勢湾をめぐる東海地方の現在と近未来

出席者(50音順)

上　野　　洋（名鉄不動産(株)副社長）
つばたしゅういち（名城大学教授）
渡　部　　勝（名古屋商工会議所文化委員会／都市づくり専門部会専門委員／日本碍子(株)常務取締役）
（司会）中　島　　一（愛知工業大学教授／日本建築協会東海支部長）

中島(司会)　水のある生活というのは、人間が発生してから、人間生活にともなって非常に大切な意味があったと思います。ところで、伊勢湾と言いますと、東京湾よりも大きな湾でありますが、この伊勢湾を中心にながい歴史もあり、そして今、この伊勢湾をめぐる産業の開発はもちろん、社会環境とか文化環境などの整備と創造をしながら発展させていこうという市民の運動もあります。
きょうは、その伊勢湾の現状を分析して、それからじゃあ今後、近未来に向けて伊勢湾はどうあるべきかについてお話をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

失速した大型プロジェクト

津端　今、中部圏で伊勢湾問題というのはあまり話題になっていないんですよね。なぜそうなったのかよく分かりませんが、少なくとも昭和30年から35年の時期に三大湾への都市と工業の巨大集積が大きかったときには、いろいろの意味で関心が高かったわけです。さらに、昭和43年ぐらいから中南勢開発問題とか、伊勢湾大橋などを含めて伊勢湾開発への期待、見直しが大いに論議されてきて、その頂点が昭和45年、1970年のころなんです。昭和45年といえば、亡くなりました倉敷の大原総一郎さんを委員長にして、〈21世紀の日本〉のイメージを、日本を代表する7つチームにコンペで問いかけるということがありました。大阪、東京それに北海道のチームなどが参加していろいろのイメージがまとめられ、大阪万博のときに発表されました。中部も、大学・行政を一つにした40数人のチームをつくって提案をまとめました。そのころ伊勢湾問題は、21世紀の日本の中心テーマとして、いろいろなイメージの中で期待されたと思うんです。
ところが、それ以後、伊勢湾の汚染が問題になり、沿岸部の見直しをしなければならなくなりました。むしろ、環境問題に関心が強くなり、伊勢湾沿岸部の開発規制問題の方が表面に出て、伊勢湾問題はだんだんと日かげの話題のような感じになっていきました。
1970年という時期は、都市成長をテーマにした世界の大型プロジェクトが次々に失速する時期でもあったわけです。たとえば、1973年のロンドン第3空港白紙撤回。これは、成長するロンドンのシンボルプロジェクトでした。同じ年に、大ロンドン計画の中にプロジェクトとして40年間も検討してきたロンドンモーターウェイも白紙撤回。それから、英仏の国家的威信をかけて共同開発していたコンコルドの製作が同じころに停止になっています。アメリカでは、戦後、サンフランシスコを中心に人口が急増しました。4,100万人の湾岸都市がやがてできると考え、それを支えるために必要な湾岸新鉄道と言われる〈バート〉が、10年もたたずに全面的に見直しされることになりました。人口が期待したほどに伸びなくなったからです。それから、サンフランシスコの湾岸に4,100万の人が集まるから、大学の見直しを必要と考え、1960年に壮大なリエゾン委員会の提案が出されますが、それも徹底的に縮小されることになりました。
ともかく伊勢湾開発に相当するような大きなプロジェクトが、1970年を境にして世界中でおかしなことになっていくわけです。
1973年、79年の二度のオイルショックを経験して、70年から80年にかけてのこの10年間に、世界中で成長する大都市圏の計画はすべて混迷しているのが実情です。その混迷の中で、伊勢湾はどうなるのかという新しい論議がひとつもされずに、今日まで引き継がれてきてしまいました。

今、伊勢湾の海をどう見直すか

津端　そこで改めて、現代の中部圏問題を考える場合に、中部財界の方たちが関心を持って論議している〈東海テクノベルト〉といったスケールの小さい内陸産業開発問題だけでいいのかと心配になるのです。今、世界的に海の問題をどう見直すかが論議され始めています。恐らく、2年後にスタートする第四次全国総合開発計画では、内陸に向きすぎた三全総の軌道が修正され、海を含んだより大きな視野に立つ見直しが中心テーマになるだろうと言われています。
2年前には国土庁計画調整局総務課に海洋室も設置されました。内閣審議室にはすでに海洋開発開係11省庁連絡会議が設置されていま


上野　洋 氏


津端　修一氏


渡部　勝 氏


中島　一 氏(司会)

昭和60年10月17日　於名鉄不動産(株)応接室
オブザーバー　松井昭光(日本建築協会)

す。海を中心にした日本の国土政策の全面的な見直しが活発に論議され始めてきたわけです。フランスは、1960年からドゴール政権の時代に、南フランスの200キロの海岸線を全面的に見直す〈太陽のラングドック・ルシオン計画〉を進めてきました。それを日本がどういう形でお手本にするかという論議が、霞が関の中央省庁の間で活発化してきています。そういうときに、今から15年前にあれだけ熱心に論議された中部圏の伊勢湾問題が、現代的にどのように見直されようとしているのか。そのあたりの地元の関心に僕としては興味があるのです。

中島　ところで、概括的に伊勢湾を見ますと、たしか四日市の燃料敞跡が転換されて工場になり、それを契機に大工場に復活しました。このことが、四日市の公害問題として、非常に大きな問題を世間に投げかけたわけです。また名古屋港などの埋め立ての問題もあります。とにかく昭和30年ごろから、急激に伊勢湾のとくに産業開発というものが注目されてきたわけです。同時に、河川問題もそれに付加してきたわけですが…。

二眼レフから一眼レフの日本になって

上野　昔から関東文化圏、関西文化圏というときに、名古屋というのは東なのか西なのかというのがよく雑談的に出まして、たとえばサッカーの試合のときには西に入ったり、ラグビーでは東に入ったりということがあります。それをもう少し言語学的にというと難しいことになりますけれども、木曽三川の揖斐川が伊勢湾に入っていますね、揖斐川をはさんでアクセントが違うわけです。具体的に言いますと、言語学者の柴田武先生によれば、揖斐川をはさんで桑名市と長島町ではアクセントが違う。たとえば「イシガ」とか「アシガ」とかの発言をさせますと、東側の方は「シ」にアクセントがある。西側の方は「イ」や「ア」の方にアクセントが強いというので、ちょうどあの辺が言葉文化圏では境界だろう、これがひとつ。これは伊勢湾とちょっと離れますが、丸もち文化圏と角もち文化圏というのがあって、関西は丸もち、関東は角もち。ちょうどその角もちと丸もちはこの辺が境なんですね。もちろん東北のどこかで丸もちがありますけれども、そういったことで東西の接点というようなことが昔から言われているわけなんです。

そこら辺のことで、津端先生がおっしゃったように、かつてかなり伊勢湾が注目されていたと同時に、新幹線ができる、東名、名神ができるということで、日本二眼レフ論が盛んになって、二眼レフの真ん中にある名古屋がだめになるのではないかという話があったが、それがだんだん一眼レフになってきて大阪もだめ、そういうようなことになって、その関連でやっぱり伊勢湾があまり話題にならなくなったという理由のひとつではないかと思います。

ただ、そうは言いながらも、愛知県1県だけの工業出荷額を見ても、今でも日本一に間違いない。本当はトヨタがあるからそうなっているのかも分かりませんけれども、伊勢湾の機能は決して低下していない。しかしあまり議論にならない。

だれでも言うことなんですが、どうも外国から来たお客さんにとって、神戸の港、横浜の港といったら何となくいいんですが、名古屋の港に上陸したって何にもないということから、ポートビルができたり、それから南極観測船の「富士」ができて、ぼちぼちあの辺も少し活性化させようかというような話が出てきています。津端先生のおっしゃるような伊勢湾の見直しというふうな大所高所に振りかざした議論というより、もっとミニマムな町の活性化みたいなことは少しずつ始まっているような気がします。

中島　言葉というのは文化なんですね。すべての文化を表現するということで言葉は出てきたわけですけれども、その文化の違うものが中部圏でくっついている。

沈んだ〝伊勢湾問題〟への産業界のフォロー

中島　そういうものを経済的な面から一緒にしようという、あるいは現在一緒にしながらともに発展していこうということで、中経連が一生懸命やっているわけです。それは、産業を中心として、ヒンターランドとしての伊勢湾というものを考えて進んでおられるん

でしょうか。ねらいとしては、そういったことでうまく健全に発展していくだろうか、文化というのをもう一度見直さぬといかぬのじゃないかということで、あえてお聞きするんですが…。

津端　マルセーユの港は、町の中心部の旧港ですが、紀元前4世紀にすでに10万人の市民を集めたという地中海で一番古い港です。そこが、今は市民たちのヨットでいっぱいなんです。ニースあたりももちろんそうですけれども、イタリヤ国境からスペイン国境までつながる600キロのフランスの南海岸の約80ある港は、6万隻のヨットで溢れた〈市民の港〉なのです。豊かな市民の海の暮らしが海岸線にあふれてきて、それがひとつの新しい時代の活力をつくって内陸にある都市まで刺戟しているのに、日本では、依然としてほとんどが産業流通専門の港湾で、市民の港とは言えません。そして、さびれ始めています。

ところが、財界のいろいろな方たちとお話をしていても、豊かな市民の暮らしとは何だろう、家族を中心にヨットを持った海の暮らしはすばらしいという話はあまり出てきませんね。〈活力ある〉4,000時間労働の工夫には熱心ですが、それ以上はたてまえの論議しかないわけです。

そういうことを考え合わせると、伊勢湾問題がこれだけ低調になってきたという原因は、伊勢湾に産業的な施設配置が、環境・公害問題等を考えてある状況で飽和してそれ以上できない。そこで、それ以上の関心を産業界が見失ってしまったとも見られます。しかし、ヨーロッパでは、市民の港と見直して整備していったが、豊かな生活を求める市民たちが集まり、その活気の中で新しい都市がよみがえっていったわけです。

そういう意味で、日本の港湾を徹底的に見直そうという動きが、この2年間だけでも通産省(マリノポリス)、水産庁(マリノベーション構想)、運輸省(21世紀への港湾)、というような形で次々と出てきています。それを産業的にどういう形で、フォローできるかという話がなかなか出てきません。それが残念です。

中島　マルセーユにはローヌ川が流れているんです。この川はヨーロッパの北部とそして地中海を結ぶひとつの大きな文化の流れになったわけです。もちろん、これはすずを運んだり、あるいは宝石なんかを運んだわけですが、同時に文化も一緒に運びながら発展してきたわけですね。ですから水というのは私は文化の源泉をなしていると思うのです。

〝港・名古屋〟へ

渡部　輸出入の貿易額でとらえてみますと、横浜港、神戸港、名古屋港と、三番目に位置するわけですけれども、意外に知られていないことなんですが、取り扱いトン数は名古屋港がナンバーワンなんです。これはトヨタだけでなく、三菱、ホンダがございますから、自動車が出ていくということと、それから名古屋港の特徴的なことは、名古屋港の港域の中に石油の天然ガスの巨大な受け入れ設備があるということ。東京湾だと川崎だとか千葉だとかの港で石油は取り扱っておりますし、大阪でも堺港の方にいってしまうわけですけれども、名古屋港は全部込みになっているということです。

伊勢湾全体は、東京湾の2倍の広さを持っているんです。大小あわせて23の港湾が活動していますが、伊勢湾の中で貨物取扱量の60%が名古屋港、20%が四日市港、その他が20%ということになっております。原材料と製品の輸出入ということでは特徴があるわけですけれども、正直なところ、名古屋港はあまり魅力のない港なんです。そもそも無理があるんです。さかのぼってみると、徳川時代には東海道は熱田の宮の渡し、桑名の七里の渡しの間を旅人は舟で渡ったのですが、この港には小さな舟しかつけられない。五百石船、千石船はつけようがなかったというところに明治になってから港をつくってきたということで、港のでき上がった経過そのものが、神戸とか横浜とは違った歴史を持っているんだろうと思うんですが、旅客の取り扱いよりも、工業原料と製品の輸出入を主にしてきたということからきたんじゃないかと思います。

ただ、最近確かに変わってまいりましたよね。南極観測船をリタイヤーした「富士」が海洋博物館として来ましたし、それに白亜のスマートなポートビルができましたし、それから環状2号線の一部として、ツリ橋方式で、スパンが七五三(ナゴヤ)メートルという西大橋がひとつかかりました。

なぜ変わるかと言いますと、64年に迎える名古屋市の市制100周年にかかわってくることです。市制100周年の記念事業のひとつとして、中川運河とそれから築地口にかけての水際線ですね、名古屋市の海に向けての玄関口としての水際線の整備が取り上げられておりまして、識者を集めて、水族館をつくろうとか、そういったことも含めて全体像の見直しをしようという動きが出てきております。

それから、築地口の国鉄の貨物駅は、貨物を揚げて、そこから鉄道で出していたんですが、その10万ヘクタール以上ある貨物駅、これが遊休化してしまいました。それを含めて港の再開発をしていこうということになってきております。金城ふ頭に国際展示場がありますけれども、常にアクセスが問題になっております。地下鉄を延長するのか、あるいは貨物線(西臨港線)を旅客線にするのか、あるいは新交通システムなどを取り上げたらどうかという話も出ております。

上野　フィーダー貨物というのがあるそうですが、名古屋港の外国輸出の手続きの認証を取って伊勢湾から輸出するのではなく、その貨物をたとえば神戸へ持っていって輸出をする。それをフィーダー貨物と言うんだそうです。これが2割か3割あるということは、逆に言いますと、外国から来る貨物船が港・名古屋はあまりおもしろくないと、港・神戸、港・横浜に行ってしまうものだからそういうフィーダー貨物的現象が出てくるんじゃなかろうかなあということがまず第一点。

二番目に、さっき津端先生からいわゆる港湾都市が世界的に云々という話がございましたけれども、日本の場合だって京都を除けば大半のところは大体港湾に面する都市なんですけれども、じゃあロンドンはどうか、パリはどうか、ミュンヘンはどうかと言いだすと、これは必ずしも港湾都市ではないわけです。そこら辺で港と文化、港と産業というところもちょっと多少ニュアンスの違いがあるのではなかろうかという気もしないこともないんです。

〝50キロ圏・800万人〟の役割分担

中島　伊勢湾をずっと眺めてみますと、志摩半島ですね、あれは保養地としては非常にいいところで、それからずっと三重県を北上しますと、工業が非常に盛んになってきます。そして鍋田干拓とかというのがあり、それから名古屋、産業ですね。知多半島あるいは三河を見ましても、工業が中心であるわけです。やはり人間の生活というのは、働かなきゃなりませんし、休まなきゃなりません。ま

た、愉しまなきゃなりませんですね。伊勢湾をめぐるわれわれの人間生活の中での役割というのは、あまり明確にしない方がいいのかどうなんでしょうか。

渡部　最近割に問題が絞られて論じられていますのは、名古屋商工会議所がこの春提言として出した大名古屋都市圏構想ですね。そして、中経連が言っております環状都市帯構想―国土庁も環状都市帯構想ということを言っておるようですけれども―。これらが対象にしておりますのは、名古屋の中心部、多分栄かあるいは名古屋城か、そこからおよそ半径50キロ圏。生産・物流の面でひとつのエリアとしてとらえることができる。愛知・岐阜・三重の３県にまたがり、それぞれ自立性の高い40の市が含まれていて、多核重層型というのだそうです。

この50キロ圏800万人を連帯して、それを大名古屋都市圏と呼ぶのか、グレーター名古屋と呼ぶのか、環状都市帯と呼ぶのか、そこの基盤整備なり、加えて、文化環境の整備等も含めて考えていきたいということです。西の方では桑名、四日市、鈴鹿あたりが、それから東へまいりますと豊田、岡崎、蒲郡ぐらいまで、知多半島は常滑で30キロくらいですから、大体知多半島はすっぽり入ってしまうという感じです。

その中での名古屋港と四日市港の役割分担。それに欠けているものがあるとすれば、何を付加するのかという問題、これはこれできちんと詰めなければならないと思います。それからさらにそれの南に下がりましたところの伊勢湾の役割分担。「21世紀の伊勢湾のビジョン」の中には津だとかあるいは松阪、あの辺を工業地帯にしてということもあるんですけれども、ここでは私は違った意味での役割分担があるんじゃないかという気がするんですね。

これはもうすでに論議を尽くされておることですから、具体的に国の計画なりに組み入れてもらうということだろうと思いますけれども、港の魅力を増すには、具体的に言うならば、やっぱり道路網の整備ですね。名古屋環状２号線だとか名古屋環状４号線だとか、さらには先ほど申し上げました西大橋ができたんですけれども、名古屋港に中央大橋、東大橋をかけて、環状２号として完成させて、東名、名神あるいはその他の後背地の都市と結びつける。それから日本海側の富山に結ぶ東海北陸自動車道というのが計画されておりますけれども、これを港まで延長することなど、港と後背地、内陸部との道路網の整備という問題、それから国際コンテナ基地の整備の問題、なにしろ、愛知・岐阜・三重の３県で発生、集中したコンテナ貨物の約50％が大阪港へ逃げているのですから、これはまだまだやらなきゃならない問題だろうと思います。

拡散する都市の時代に、伊勢湾を生かした中部を考えたい

津端　そういうお話を聞いていると、すでにできた成長の時代の〈名古屋〉都市圏のイメージを、そのまま〈名古屋〉財界が後押しをして、大きな骨組は論議し尽くされているから、あとはだめ詰めをしていけばいいというふうな話に聞こえてくるわけです。

僕は、そうではないと思うんです。1970年を境にして、はっきり言いまして、世界の先進諸国の都市の構造が変わってきています。名古屋都市圏に800万の人口が集まって、さらに成長しそうだからそれを何とかうまくつなげばいいというような論議は、もう時代遅れです。ますます名古屋が心配になってきます。

成長・集中する都市の時代ではなく、拡散する都市の時代が始まっています。昭和35年から40年をピークに、三大都市圏に流入する人口は頭打ちになりましたし、その後45年まで減りつづけて、35年代に戻ってしまいました。しかも、地方都市への拡散はその後も進んで、私たちの都市・地方計画の領域では、三大都市圏に居住する市民たちの新しい〈居住地選択〉の動きが注目されているわけです。そういうときに、新しい拡散状況に対応する新しい高速交通ネットワークをどうつくるかという話題が、コミュータ航空フィーバーとなって全国的に広まってきています。この９月には、能登半島で北海道から長崎までの59の青年会議所を集めた理事長サミットが開かれました。新しいモビリティ（高速流動性）を日本海側の沿海部に取り戻すためにどうしたらいいのか、現代の北前船のネットワークを考えようという集まりです。そういうものに関心を示さない名古屋を中心にした論議が、心配なのです。ですから、名古屋中心・低位安定論が話の基調としてあるなら、〈なぜ、今伊勢湾なのか〉という論議はしにくくなりますね。

今までどおりでいい。あとはだめ詰めをすればいい。新しい発想による見直しを排除するようでは、中部も名古屋もよくなるとは思えないですね。産業・流通中心の港湾だけでは全国的に行き詰まってきていますから、結果として港湾全体の活力が失われてきているわけです。

日本の沿海部の全体を見ても分かることです。12海里の沿海部での漁獲量はこの15年間に２分の１になりました。200メートル以上の水深の海域のプランクトンの生産量は、沿岸部の25分の１以下と言われてます。とにかく、生産性の高い12海里の沿岸部の漁獲が半減したということはショッキングなことです。それだけでなく、かつて華やかだった工業の拠点開発さえ、臨海部でうまくいかなくなってきていますから、沿海部全体がだめになってきているのです。しかし、臨海部を活性化しなければと、日本の新しい政策の見直しを始めました。沿岸12海里を加えると、日本の国土は２倍になります。200海里を加えると、日本の国土は12倍になります。そのときに、日本の面積は世界で８番目になると言いますから、世界でも有数の海洋大国なのです。アメリカでは、去年、海洋開発元年を宣言しています。日本も、海洋大国としての政策を検討する段階にきているのです。今、名古屋のどこに問題があるかという話だけを論議するのではなしに、もっと根本的に伊勢湾を生かした中部をどうするのか、論議してほしいのです。北陸の沿海部を抱えた中部をどうするのかという論議が、中部圏に出てこないとおかしいと思うんです。

渡部　先生のご意見に私は反対じゃありません。過去に論議されてきていることの中で、伊勢湾の南の部分の役割分担というのはやっぱり産業基盤の整備であり、開発を分担するということであったわけです。けれども、私は、南の部分についてははっきりと観光資源を開発する、あるいは、漁業資源を開発する、そのためにこれ以上海岸線を悪くしないとか、先ほどヨットの話がございましたけれども、ヨットの基地もいいし、とても、東京湾、大阪湾では考えられないくらい、水が美しく、すきとおった海水浴場が沢山あるのですから、これらを生かして、もっと参加型、あるいは滞在型でも結構ですけれども、そういうレジャー基地としての開拓が考えられても良いのではないか。

それから、東京、大阪と転勤してまいりまして、名古屋へ来るとしじみ貝がおいしいんですね。これだけおいしいしじみ貝は東京、大阪にはございません。魚貝類が身近で安く、おいしいものが沢山食べれる、非常に豊富な魚釣りが楽しめる、これはやっぱりそれだけ漁業資源に恵まれているということだと思いますが、漁業資源を育てる、そういう役割分担に切りかえていくべきだと思います。

ただ、愛知県だけを取り上げてみましても、全国の5.3％の人口で、9.9％の工業生産を分担しておる。県別でいきますと、工業品出荷額第1位の地帯であることは間違いないわけです。さらに中部圏全域にひろげてみますと、全国の工業品出荷額の24％のシエアーになります。ところが、名古屋港、四日市港は貿易港としては10.3％のシエアーにすぎません。そういう中で、いろんな政治的な問題もあったと思いますけれども、基盤整備が遅れておる。その結果として、港の機能が十分果たされていない。このことについては地元や中央の理解を得ながら、積極的に事を進めていかなければいけないことだと思います。すでにあるものをさらに機能を高めるためにどうすればいいかということは、積極的に考えていかなきゃいけない課題であると思います。

上野　たとえば東京湾の大川端作戦に見られるように、あれは、もっとも東京湾というよりは隅田川ですけれども、堤防を直にずっとつくるのをやめて、斜めにしようじゃないかということが出てきておったり、あるいはＭＭ21ですか、横浜港未来21計画など、産業一辺倒以外の議論がずいぶん出てきております。

それをあえて伊勢湾で具体的にどこに求めるかと言いますと、ひとつは干潟をどう活用するかという問題。もうひとつは、知多半島側の今産業廃棄物処理場になっていますさらに先のところを、海浜公園みたいな埋め立てにして、自然のままほっておけば砂浜が復活するということを言っています。

ラングドック・ルシオン —施設集積よりも人材集積を—

中島　伊勢湾都市連合のことで、津端先生はいろいろ調査されましたですね。そういったもので、私は、実は先ほど伊勢湾をめぐる役割分担というのがあるんじゃないかということを提案したわけですが、津端先生の伊勢湾都市連合への問題について、あの当時発表されたのと今とでは多少変わっていますか。

津端　大きく変わった時代の背景としては、集中から拡散へと都市の成長の潮が逆転したことだと思います。拡散していく都市の全体を組織していくためには、新しいネットワークが必要です。このネットワークの論議の中にコミュータ空港の論議も出てきて、高速交通体系の見直しの問題があるわけです。そのほかにもいろいろな問題が出てきていますから、それに対応できる全体のネットワークをどのようにくみ上げたらいいか、そこで伊勢湾全体をあらためて見直す時期にきていると思うんです。

地中海沿岸の南フランスの、スペイン国境につながるランドック・ルシオン地方開発は、開発政策の視点を変換して注目されています。工業港、商業港といった、直接に企業収益に結びつくような施設集積よりも先に、優秀な人材集積をラングドック・ルシオン地方にどういう形ですすめることができるかを考えたのです。そこで、7つの海のニュータウン建設を先発させました。そこに行けば、現代最高の市民の豊かな暮らしが手にできる。そこで、ＥＣ（ヨーロッパ共同体）諸国の人たちまで、ニース、カンヌとは一味ちがったこのニュータウンをめざして夏のバカンスに続々と集まってきたわけです。そのバカンスの活発なモビリティに刺戟されて、海のニュータウンの周辺に活気が溢れてきて、必要な生活・定住の条件が熟していく施設整備が、進んだのです。フランス国土庁（ＤＡＴＡＲ）は、次々にプロジェクトを進めました。国立研究機関を、11も集めて立地させました。高速交通機関は、マルセーユまで延びていたフランス新幹線を、中心都市のモンペリエまで延ばしました。ジェット空港3つ、地方空港4つ、地域小型空港10も次々に整備し、高速道路、流通港湾のネットワークもつくり上げました。これが、北アとヨーロッパの新しい中心、〈太陽のラングドック・ルシオン、新国際科学技術都市〉だったのです。

ところが、今の名古屋論議は、今までのいろいろな産業集積を生かして、新しい産業構造への体質変換を図るためには、東海テクノベルト構想しかないと一辺倒です。フランスのように魅力のある人材の集結のためには、豊かな生活ができる環境整備が前提というような論議が、残念ながら出てきません。

そういう論議の中で、伊勢湾の北部は産業、南部は観光と役割分担しようということです。この観光の認識が日本的で、時代遅れで心配なのです。フランスの〈観光〉は、家族リクリエーションですが、日本の観光は、主力が〈団体旅行〉です。南フランスの海のニュータウンでは、〈団体旅行〉は見あたりませんでした。現代都市社会では、核家族からさらに単身生活者がふえて、家族の解体の危機感をふやしています。このままでは長持ちのしようもありません。経済社会の繁栄を失速させる都市〈家族〉社会の崩壊が問題になってきました。いくら産業集積をさらにすすめて、多少の景気がよくなっても、都市社会を変える〈人間〉の問題には迫れません。その立て直しのためには、〈豊かな生活〉を問い直しうる〈新しい家族像〉を、地域の中にどのように育てられるかが論議されなければなりません。ヨーロッパでは、産業革命以来200年の経済発展の中でいろいろな問題が出てきたので、サバイバルのために都市開発の〈視点〉を加えたのだと思います。そのシンボルプロジェクトがラングドック・ルシオン計画です。それを、もう20年くらい前から気がついてやっているわけです。日本は、急成長してきましたから、まだそれに気がついていません。ヨーロッパの港町が、一番いいところを〈市民の港〉として使っているのは羨しい限りです。横浜港でも、名古屋港でもありませんよ。あの神戸だって、〈市民の港〉はありません。日本中、どこへ行ったってありません。残念です。フランスでは、内港は〈市民の港〉に解放して、新しい産業・流通港はその外側につくっているのが常識です。そういう認識を、名古屋財界のリーダーたちが論議しておられるなら、伊勢湾近未来も明るいですね。

伊勢湾の水際作戦

上野　大阪でもかつては浜寺の海岸はみんなが遊びに行くような海岸だったが、今やそうでなくなってきた。さっきのラングドック・ルシオンにしても、それじゃあフィジカルな面から言って、伊勢湾でそういうことができる場所が果たしてあるだろうか。どうもなさそうな気がするんです。

広いということと、それからそのほかにいろんな意味があって、むしろラングドック・ルシオンみたいなものを伊勢湾に求めるとするならば、海に直接面するところじゃなく、もうちょっと上に上がったところくらいにそういうふうなものが、だんだんはりついてくるようなことにならないかなあという感じがするんです。たとえば知多半島なら知多半島、名古屋の湘南と言えばちょっと大げさかもしれぬが、フィジカルな面で見て、ラングドック・ルシオンみたいな、つまり地中海の北側のあのラインですね、日本で言えば白砂青松的なところというのは、残されたところではどうも伊勢湾にはないような気がして。さっきのおっしゃった一般の庶民がいわゆるグラン

デパールでおりてくるようなところがね…。

渡部　中川運河の再整備だとか、水際線の整備の問題だとかは、64年に迎える名古屋市制100周年記念事業として考えてみようじゃないかと、今行政を中心にして議論されているわけですけれども、私たちもその議論の中に積極的に加わっていきたいと思っているわけです。今から市民が総意をまとめて、名古屋港の水際線を魅力あるものにするにはどうすればいいのかという提案をすることは、十分時間的に間に合うことでありますし、またとないチャンスであるわけですね。

木曽川の河口に市民のためのヨットハーバー建設の計画があるとも聞いています。豊田商事の倒産で利権のからむややこしい話にまきこまれて、計画が一時ストップしているやに聞いており、残念なことではありますが、市民が身近に利用できるようなヨットハーバーなりを考えたらどうかというようなことはいろいろ議論されているわけです。財界がそういうことに全く関心なり理解なりを示しておらぬというようなことで決めつけていただくのは、僕はどうかと思うんです。

中部国際空港へのアイデアと目算

中島　そこで渡部さんにお尋ねいたします。中部地方でできる工業生産物をいちいち成田まで運んでいって外国へ輸出しているというのはつまらぬじゃないかということで、中部国際空港というものが位置づけの中に強く出ているように承っているわけですが、本当の中部国際空港をつくるべきだということで、どんなことが議論されているんでしょうか。

渡部　私自身直接タッチしておるわけじゃありませんが、関心はあります。具体的に提案があったのは、たしか昭和44年に中経連が国際貨物空港をつくるべきだといとのが始まりなんです。それから延々と今日まで尾を引いてきておるわけです。つづめて言えば今の基本認識は、新幹線の駅のない町はさびれると同じように、これからは第一級の国際空港のない地域は取り残されていくのではないかということの、危機意識があると思うんですね。世界の主要都市と結ばれた24時間運航可能な中部国際空港、そこに集まって来る世界中の人、物、情報、これが地域経済の活性化に与えるインパクトは大変なものであろうという期待もある。

港の機能というのはどんなものか、統計資料を見ておりましたら、おもしろいことに気がついたんです。輸出輸入を合計してのものですが、横浜港というのは、金額ベースで日本の全取扱量の14.9%を占めておりまして、神戸が10.0%、名古屋港が 8.3%なんです。成田の空港というのは7.5%あるんですが、伊丹空港は1.2%にすぎません。成田は輸出輸入とも非常にバランスのとれた、輸出で7.2%、輸入で7.8%、合計で7.5%という港。これほど貨物の航空輸送というもののウェートが高くなってきているのですね。

さしあたって国としては、羽田の沖出しの問題と、成田の第２期の問題と、それから大阪の関西空港、この３つに重点を絞っているわけですけれども、このつぎに国際空港をつくるところは、いつの時期かは別として、着手順位で言えば九州か北海道かあるいは中部かということになるわけです。名古屋港が第３位の取扱量を占めているということから言えば、航空貨物も絶対にあるはずなんです。名古屋に貨物輸送も含めて国際空港の整備をしなくちゃならないといったことは、これはもう必然としてあると思うわけです。

そのときに、なぜここに建設しなければならないのかということの意味づけをきちんとやっていかないと、これは名古屋がいかに燃えておりましても、国のバックアップを得ることはできないだろうと思うんです。低騒音型のエンジンが開発されて、新型のSST機がニューヨークあるいはロンドンから３～４時間で飛んで来る時代が15年先には来ると思っていますが、そのときには関西空港のバックアップとして24時間オープンしている空港がなるべく近くに必要となりましょう。

関西空港の一番大きな弱点は、金がかかり過ぎるということですね。５キロの沖出しの、あれだけのものをつくるんですから、普通なら3,000億か4,000億でできる空港に、１兆円をかけようということのようでありますけれども。成田空港の評判の悪いことのひとつはあそこの利用代が非常に高い、着陸料が高いことですね。関西空港もでき上がりますと、第三セクターでありますので、配当しなければいかぬそうですから、採算ベースでいきますと、利用料の非常に高い空港になってしまうと思うんですね。

そうすると、中部国際空港の具体化を考えていくとするならば、やっぱり安いコストでつくれる飛行場、利用料の安い空港ですね、とくに貨物なんかの取り扱いを考えた場合に、ここの名古屋におろして陸上輸送にもっていけば、はるかに安いランディングチャージあるいは取り扱いフィーでこなせるということがひとつの魅力たり得るだろうと思うんです。

その場合に、名古屋が恵まれておるのは木曽川、長良川、揖斐川の木曽三川がどっさり土砂を持ってくる。名古屋港は、しょっちゅうしゅんせつしていかなければいかぬわけですから、じっくり時間をかけて、名古屋港のしゅんせつ土量を利用しながらそこに空港をつくっていく。とりあえず3,000メーターの滑走路1本の空港をつくっておいて、20年30年かけていくと成田空港あるいは関西空港を追い抜くような、大体1,200から1,500ヘクタールくらいの、そういうものをつくって航空貨物の受け入れと荷さばきをする、というふうなことで特徴を出していくと、非常におもしろい空港ができるんじゃないか、これは私の全くの個人的なアイデアですけれども。

そういったときに、比較的名古屋の市街地に近いところにそれをつくることが可能である。今、候補地のひとつと言われております常滑沖でも栄から直線距離で30キロです。関西国際空港は新大阪駅から直線距離で50何キロあるんです。市街地を走りますと80キロくらいあるんです。常滑沖以外にも、鍋田干拓地とか、四日市沖とか、いろいろな候補が挙がっておりますけれども、都心部に近いところに港と空港を持ち得る場所があって、しかも都心なり、新幹線なり、あるいは東名高速道路、中央高速道路へも、非常に短い距離でアクセスができるということですから、特徴のある空港をつくることができるという気がいたします。

中島　工業の発展のためには、航空貨物を中心とした空港がぜひ必要だという、こういう理解の仕方でいいわけでしょうか。

渡部　将来ともに、自動車だとか、工作機械だとか、陶磁器だとか、かなり重量のあるものがこの地域の産業のベースにあることは間違いないだろうと思うんですけれども、しかし、この地域のものだけじゃなくて、貨物が安く取り扱えるということになりましたならば、ひょっとしたら関東、関西からでも荷がこっちへ引けるのじゃないか。京都の人は、名古屋駅から小牧空港までアクセスさえよければ、新関西空港を使うよりも小牧空港を使った方がはるかに時間的に便利になるはずだということを言っておられるんですね。貨物、旅客ともに特徴のある中部国際空港というのがつくれるはずだと思っております。

コミュータ航空のネットワークは中部地域を活性化する

津端　そのあたりが、名古屋中心の手前勝手な論議だなあという感じがするんです。

僕は、全国地域交通システム推進協議会の提言作成委員会(委員長)のお手伝いをしています。これは東京でやっていますが、その一方で関西新国際空港関連コミュータ部会（委員）もしていて、いろいろのことを聞いています。

関西の新空港は、確かに建設費が高いかも知れません。しかし、もうかる空港経営をするために、24時間のエアーポートサービスの新しい工夫にも非常に熱心です。また、乗り入れてくる将来の国際航空が、海運界と同じようにやがて恐らくは先進国産業よりも開発途上国産業に変わっていくだろうと予測しています。それを見越して、関西国際新空港の機能の中心は、開発途上国中心に運営される国際航空ネットワークに結ぶ国内航空網の再編成だろうという論議もあります。そのために関西新空港は、２府６県の近畿圏の中で考えてはとても採算がとれません。そこで、関西新空港は、乗り入れてくる国際便と国内便の間のジョイント・フェアー（乗継運賃制）の新しいシステムを考え、国際線（長距離便）からのリペートを魅力的な国内コミュータ航空ネットワークの育成に使いたいという論議もあります。そのためには、近畿圏の隣の、西瀬戸経済圏も考えています。これは、中国、四国、九州の７県が協議を始めている新しい1,400万人の都市圏です。そこのいろいろな要請も関西新空港で引き受けようと意欲的に検討し始めています。何となしに、国際線のすべてを引き受けているような成田空港とは意識的にはっきり袂別しまして、関西型合理産業による新しい空港経営を西日本の中で考えてみようと非常に意欲的です。

それに較べますと、中部国際新空港は、まず空港が欲しいという論議だけが先走っています。渡部さんがおっしゃっているような次元の論議は、今までどこの空港でもやってきたことなんです。名古屋では、これだけ安い空港ができるから、関西新空港と競争できるだろう、だからつくろうでは説明になりません。運輸省でも、関西新空港以後の新空港の必要を、日本のスケールで認識していますが、中部国際新空港とは決めきれないでしょう。むしろ、北海道への立地可能性が高いという評価も自然に出てきます。

ですから、中部圏全体の合意形成をまたずに、名古屋をもう少しよくするためにという関係３県１市の論議が先行した形で新空港が果たしてできるかどうか心配になるのです。中部は、拡散する都市の時代に対応した魅力的なネットワークの都市形成をしていて、それを活性化できるコミュータ航空のネットワークを組織しやすい。地方都市に新しいハイ・モビリティを与えて、地域全体を確かに活性化する大きな可能性を与えるだろう。新しいコミュータ航空ネットワークを組織するために、どうしても名古屋に新空港が必要だと、中部７県あるいはもっと広域の人たちがそれを支持する態勢ができれば、中部国際新空港もできるかも知れません。

それでも値打ちのある国際空港をじっくりつくりたい

津端　今の論議はあまり国際空港に閉ざし過ぎていて、このままいったら〈ロンドン第３空港〉の白紙撤回になりかねません。マープリン空港開発公社の解散と同じようになりかねないと、心配になります。アメリカのNASA連邦（航空宇宙局）のレポートでは、現在処理している輸送旅客量または荷物量の２、３倍は、技術革新で、現空港の規模拡大をせずに可能だと言っています。

今の小牧空港は、持っている能力の約３分の１しか使っていないと言われています。その空港の持っている能力を十分に引き出すようないろいろな工夫を一方に進めて、その上の論議をもう少し魅力的に構築しない限り、財界がいくら金を積んで調査組織をスタートさせても、マープリン開発公社解散の二の舞いをまぬがれません。今、ロンドンにある二つの国際空港では十分処理できて、最近話題になっている第３空港は、ストール・ポート（コミュータ機専用空港）ですからね。

渡部　経済性を無視した空港というのは、これから事業として成り立たないという問題があると思うんです。そういう点から言えば、貨物も集まるし、建設もかなり安いコストでできるし、アクセスの整備も比較的簡単にできる。関西新空港のアクセスの整備には２兆円とか３兆円とか言っているそうですが、名古屋では2,000億とか3,000億でアクセスの整備ができるのではないでしょうか。中部は意外に値打ちのある空港をつくれる可能性を持っているわけです。だから、これはすぐ認可を得ようというようなことではなく、航空需要というものはかなり増えてくることは間違いありませんし、旅客、貨物ともに時間をかけながら、そういう問題の整理をして、どうするかということのコンセンスを得ることは大事だと思います。

９月11日に世話人会が開かれまして、財団法人の中部空港調査会が発足することになりました。それは愛知・岐阜・三重の３県と名古屋市と民間団体が５億円據出をして、空港調査を始めるわけです。空港整備の必要性、地域開発とのかかわり、それから立地、施設、アクセス、経営等、さらに地域の合意形成等について今から調査をしようということです。しゃにむにどうのこうのという結論が出ておってということではなく、議論を今から始めようということです。中部の人間は、納得のいくこと、合意の得られたことについては、じっくりと腰を据えて物事を成し遂げていくという得がたい特徴がある。昭和21年にできた名古屋市の戦災復興計画が事業終了したのは、あれは56年ですか、35年の歳月をかけて、名古屋の都市計画というものを完成させてきたわけでして、それだけの底力を持っている、じっくり粘り型でありますから、20年先、30年先のことを議論しておくことは別にそう先の話だと思わないでもいいんじゃないですかね。

国際空港だけでなく、中部全体のネットワークに目を向けたい

上野　貨物空港の話で、僕は、あまり議論にならなくて不思議だなあと思っているのは、貨物の種類分けという議論がないような気がするんです。専門家の中にはあるのかもしれませんけれども。さっき津端先生のおっしゃったコミュータ航空でいいじゃないか、そういう言い方でもなかったんですが、コミュータ航空を発達させればかなりのことができるのではないかという、たとえばＩＣだとかシリコンとか、ああいう非常にバルキーやヘビーでないもの、今で言う軽薄短小のもの。あれだけ空港のそばにＩＣやなんかをつくる工場が立地しているということは、かさばって小さいですけれども金額がでかいから飛行機で運ぶ。あるいは外国から来るものもこっちから出すものも、もしバルキーやヘビーでないものがあれば、あ

るいはコミュータ航空でいいかもしれない。ただ、今の名古屋の空港の問題も、どうも貨物の種類分けをもう少し厳密にやらないと、議論にならないんじゃないかという気がしないでもないんです。

津端　大型の国際新空港か、小型のコミュータ空港か、という択一的な議論ではないんです。ハイ・モビリティの地域ネットワークを論議するのか、それともひとつの国際新空港を論議するのかが問題なのです。

はじめに全体のネットワーク構想があって、着実に空港が沢山できていけば、ハイ・モビリティを地域全体が持つことができます。市民たちも、企業も、多様な選択の可能性が出てくることに期待して、その計画への合意を組み立ててきた進め方が大人だと思うわけです。20年をかけて、そういうネットワークをつくろう、とりあえずは常滑沖に新空港つくろうという話ならまだ聞けます。それがないから、問題なんですよ。

三重県は、３年かけて県内合意をコミュータ航空問題に絞るために、⑴国際空港、⑵地方空港、⑶地域空港がどこにできて経営できるかと、調査研究してきました。安くできる中部的な空港で、しかも三重県経済力に無理な負担をかけずにできるものは何だろうと考えていったわけです。試算してみると、５つの地域空港しか現実的には考えられないことか分かりました。ひとつの国際新空港を愛知・名古屋につくるため、三重県と岐阜県は協力してほしいと要請されたら、三重県は地域空港ネットワークの５つの拠点を、その代わりにつくることに協力させようと、条件賛成の腹づもりです。それは、取引ではなく、堂々と空港問題の正面の論議としていいはずですが、出しにくいのでしょうか。

中部圏内のいろいろな地域の動きをリードしていかなければならない立場の愛知県、名古屋市がそれができず、空港の沖合につくれば安くできますよ、という話しかできないようでは、三重の期待にもこたえられません。大阪科学技術センターを中心にした関西新空港研究協議会の運営に較べると、勉強不足だなと思うんですよ。

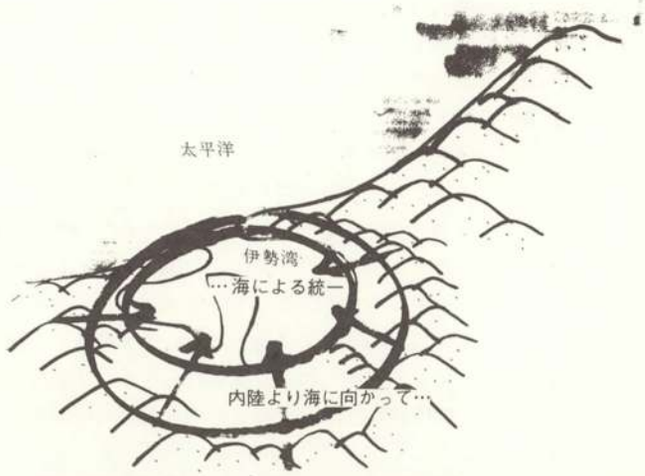
上野　おっしゃることはよく分かりましたけれども、ネットワーク論というのはあまり出てきていないんですよ。だから、おっしゃろうとするコミュータ航空論と一緒にやらないと、少なくとも日本全国ネットワークにはならないですよね。

中島　この座談会は、大きい意味の伊勢湾というものを中心にしたこれからの東海三県はどうあるべきかということがテーマでして、ネットワークというものを通じて、この地域の発展を期待するためにどうしたらいいのか。むしろ中部国際空港にしても、そういったことに期待されるだろうと私は思ったんですけれども…。津端先生は、そういったトータルの中で空港の位置づけなりあり方を考えるべきじゃないかということだったわけです。

いずれにしましても伊勢湾を中心にした周辺は、いい意味の連帯感がなければいけませんし、私はある程度役割分担という言葉で表現しましたが、生きていくためのそれぞれの役割を持って、そしてその中で一体的に、連帯的にどうしていくかということを十分議論しなければいけない、そういう感じがするんです。

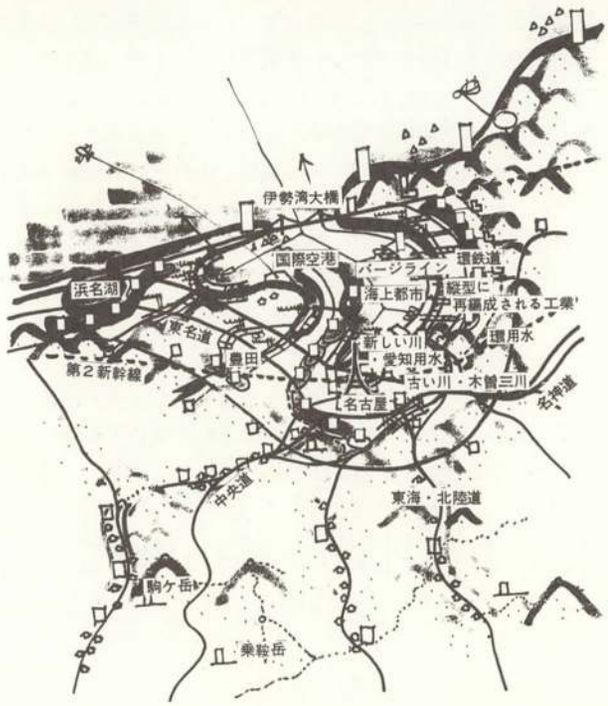
上野　「ネットワーク論」というと長くなりますので、ひとつの例を申し上げますと、名古屋花巻線というのがこの間新設されましたが、そうすると、岩手県の安い野菜が沢山名古屋地区に入ってきて、この辺の野菜が俄然太刀打ちできなくなってきた。これはひとつ、野菜だけの問題ですけれども、そういうふうな結果になりかねないんですよ、さっきネットワークのことを無視して議論をすれば。

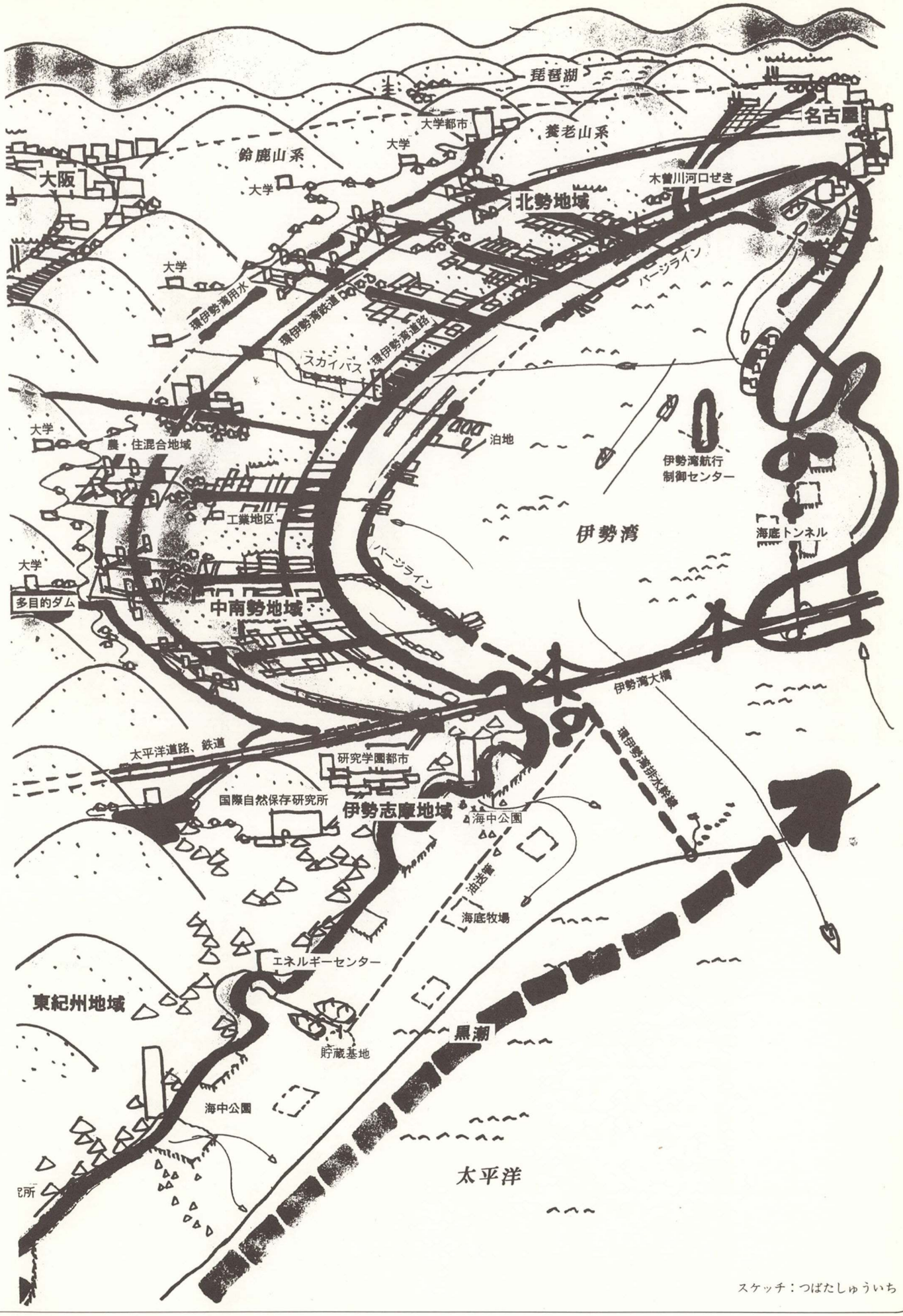
中島　長時間貴重なお話を拝聴させていただきありがとうございました。





今の伊勢湾　　写真提供：名古屋港管理組合

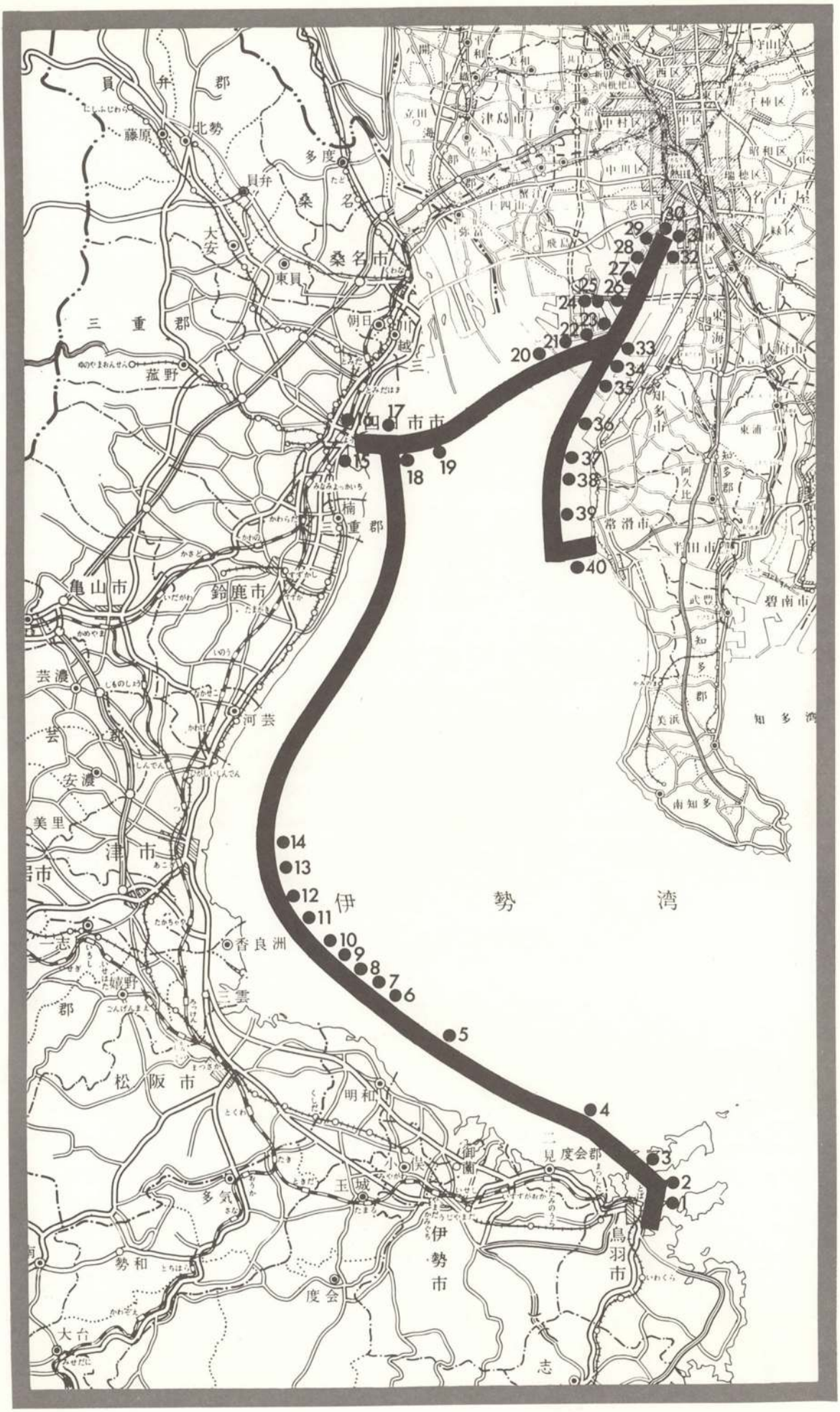




スケッチ：つばたしゅういち

伊勢湾から都市をみる ヘルポルタージュ・伊勢湾クルーズ〉

日本建築協会東海支部



伊勢湾クルーズ周航経路(番号は写真撮影位置を示す)

伊勢湾から都市をみる〈ルポルタージュ・伊勢湾クルーズ〉

盛田輝勇　(住宅管理協会)
高橋大善　(愛知工業大学)
福田泰造　(福田建築設計事務所)
山本正直　(住宅・都市整備公団)
中村裕明　(興和新薬)

伊勢湾は直接太平洋に面し、南北およそ100km、東西およそ40kmの規模である。名古屋港を最奥部とし、奥へ行くほど狭くなる形状で、このため伊勢湾台風の際の高潮による被害は極めて甚大であった。

ここまでの「伊勢湾をめぐる」座談会や報告にあるように、伊勢湾は1960年代を境に、その姿を大きく変えて、いわば工業化された湾岸となってしまった。

「海へのロマンや海からの恵み」を意識できる余裕が生まれるまえに、伊勢湾岸を流通経済上のメリットから、工場群に明け渡してしまったことは、時代の流れから致し方のないことかも知れないが、東海地方の市民にとって、日常生活のうえでの海との関わりが非常に小さいものとなっている遠因でもあろう。

これらの反省から、とくに工業化の著しい名古屋港や四日市港では、市民と港との関わりが生まれるよう、国際展示場・ガーデン埠頭構想(名古屋港)やスポーツ公園の併設(四日市港)が試みられている。

工業化→公害発生→公害防止といった、かつての日本の高度成長時代がもたらした内湾の典型的姿としての伊勢湾が、現在どんな姿に変貌しているかを海側からみたいと考えて、このルポを行った。

周知のように、世界の古い都市では、海と生活との関わりが深く、コペンハーゲンの人魚姫、ヘルシンキ港の自由市場、上海のガーデンブリッジ等にみられるように、現在でも内港と港は確実に市民に親しまれている。こんなことが伊勢湾にあろうと予想していたわけではないが、それでもどこかにそんな姿を見かけられたらという願いもあった。

鳥羽ヨットクラブのご好意により２日がかりで伊勢湾を巡る機会を与えられたことは、貴重な経験であったし、海からも都市をみなければいけないというスケール感の示唆を得たことは何より重要であった。

伊勢湾クルーズの印象は、産業港であることは承知していたものの、伊勢湾北部の余りに非人間的な風景に失望するとともに、その圧倒的な煙突群や工場群に息の詰まる思いであった。やはり、海という自然と人工物である工場群との間に、なんらかの計画的配慮を絶え間なく持ち込んでいかなければと感じた。

本年１月号の大阪湾特集を参考にさせていただいたが、大阪湾でも大阪南港から泉南方面まで同様のことが指摘されていたが、伊勢湾北部ではもっと人々の生活が感じられない状況であった。

〔伊勢湾クルーズ周航経路〕1985年(対面の地区参照)

10月11日(金)、12日(土)
鳥羽ヨットクラブ所属の「志摩号」にて実施。天候は両日とも、曇天時々雨。周航距離120km。

10月11日(金)
9:00 鳥羽安久志を今にも泣き出しそうな曇天の中を出港。神前燈台をまわって外海に出たところで、西風に乗り帆走に移る。二見ケ浦で浅瀬に乗り込みそうになった以外は順調。昔ながらの松林の続く海岸線をみながら、松阪沖に向かう。
12:30 松阪沖を通過。津を過ぎたあたりから風が止み機走に移る。揺れと、のんびりした風景のため、高橋・福田は船酔いを体験。
17:00 薄暮の中、四日市コンビナートの始まる塩浜、磯津浜を通過し、18:30ごろ四日市港入港。
19:00 四日市ヨットハーバー係留。四日市ヨットハーバーは、四日市スポーツ公園内にあるが、その対岸まわりはすべてコンビナートである。船中泊。

10月12日(土)
8:00 名古屋港に向け出発。桑名沖から名港までの　　は、木曽三川の出口のため広範囲に浅瀬が展開し、岸に近づくことができず。悪天候と重なり、はるか霞む状況で眺めるのみ。
10:00 名古屋港の高潮防潮堤を抜け、金城大橋に向かうところで、保安庁の巡視艇の検問をうける。
12:00 名古屋港の玄関であるポートビルをみる。海上からのポートビルは思いのほか目立たず、意外であった。
13:30 大型船のタグボートによる接岸風景をみながら名港を東口から出る。
14:30 新舞子沖を通過。多数のウインドサーフィンの練習風景をみながら常滑鬼崎へ向かう。
15:30 常滑市鬼崎ヨットハーバー着。
山本・中村両氏はここで小休止の後、鳥羽まで残り、60kmを帆走されたとのことである。

〈鳥羽〉

鳥羽周辺は、伊勢神宮、二見ケ浦、志摩と相まって、マリンスポーツをはじめとする海洋関係の一大保養地である。緑多い、入り組んだ海岸線が変化ある自然景観を形作り、海側からみても心安まる風景といえる。

しかし、多くのホテルや保養所が山腹から山上にかけ登っており、これら密集地には違和感を覚える。ホテルからの眺望は素晴らしいと思われるが、逆に海側からは決して美しいものではない。


①伊勢湾フェリー――鳥羽↔伊良湖↔師崎を周航している。


②鳥羽のホテル群――ホテル側からの眺望は素晴らしいが、海側からは、人間の厚かましさがみえてくる。


③鳥羽港外――一歩外に出れば、変化に富む素晴らしい景色。


④二見ケ浦――海上から眺めたとき、とても名所たり得ない景観。陸側の名所。

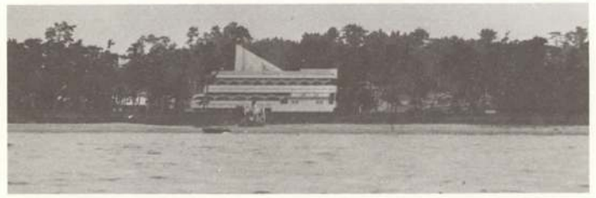
〈松阪〉

二見ケ浦を過ぎたあたりから松阪港までは、昔ながらの松林が続く海岸線で、途中の「大淀」という地名のように、立干網(タテホシアミ)の竹棹が何本も海中に立っている、のんびりした風景である。しかし、松阪沖まで来ると、硝子工場の大きな４本の煙突やセメント会社の巨大なサイロ群が、ランドマークのようにみえてくる。海岸線近くには、どこまでも続く「のりそだ」が果てしない。

松阪市内は、海側からは際だった建物は見当たらず、無雑作に積まれたテトラポッドの防波堤ばかり目立っている。


⑤大淀沖――沖合いから人家のみえる数少ない場所。


⑥松阪市街遠望


⑦松林と保養所――某企業の保養所である。海にまつわる大胆な造形は松林を背景として、ランドマークになり得る。


⑧立干網

〈津〉

⑨松阪付近の工場――左は大阪セメントのサイロ群、右はセントラル硝子の煙突。手前は「のりそだ」。

津市の沖に近づくと、建設途上と見受けられる日本鋼管が視野に入ってくる。津シップヤードであるが、巨大で直線的な鉄骨の建方は、海上からは刺激的である。その沖合いでは、　　の漁船が操業中で、周囲に海鳥が無数に群らがり、好対照であった。

津市内には、海上からも目を引く建物がいくつかあり、素人目にも津市であることがわかる。松林の続く海岸線と、背後の鈴鹿山脈とにはさまれて、温和な都市景観とみえる。

⑩操業中の漁船

⑪日本鋼管――比較的新しい。背後でも建設が進んでいる。

⑫津シップヤード

⑬津市街遠望

⑭三重大学医学部付属病院

伊勢湾から都市をみる〈ルポルタージュ・伊勢湾クルーズ〉

〈四日市港〉

鈴鹿市沖を通過したあたりから四日市コンビナートがみえ始める。薄暮と悪天候のため写真撮影不能。塩浜や磯津浜から四日市港まで続く、石油化学系の工場や貯蔵タンクの群れは、鈴鹿までの昔ながらの海岸線と異なり、全く人間を寄せつけない景観である。巨大な煙突からは、かつてのブタンによる炎は姿を消したものの、吹き出す白煙はやはり、四日市全体の空を白く覆っていた。海の色も、昔ほどではないそうだが、夜目にもきれいとはいい難い。

防潮堤をまわって四日市港に入ると、工場群の姿は暗闇に消え去り、巨大煙突などで点滅するランプの鮮やかさと色の豊富さは感動的で、都市の夜景とは異なり、スピルバーグ監督の描くSF映画さながらの夜景に見とれてしまった。美しいものには棘があるというが、美しい夜景の実態が昼間醜悪なコンビナート群と思うと、狐に化かされた思いがする。


⑮四日市ヨットハーバー――背後に、大阪万博のときのオーストラリア館が、スポーツ公園の中に立っている。ここで船中泊。


⑯ヨットハーバーの対岸――コンビナートの一部で、四日市港周辺は果てしなく、こんな風景が続く。


⑰LPガス荷上場


⑱四日市港入口の防潮堤――早朝から釣りを楽しむ人々が、渡船で渡ってくる。

〈名古屋港〉

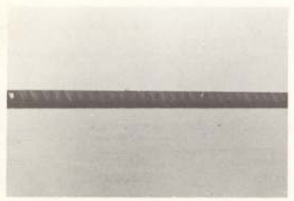

⑲大型船の航行――タグボートの露払いの後で、何万トンかも想像できない大型船がすぐ近くを通過。

四日市港から名古屋港までの間には、大型船が数多く碇泊し、その間をタグボートや小型貨物船が往来している。

名古屋港に入って来て、その海の汚なさとゴミの多さに驚かされる。中部電力名港火力発電所が名古屋港の最初のお出迎えで、「名古屋とは工場なり」という印象で情け無い。

港内に碇泊している大型船の国籍は、ベルギー、パナマ、ソ連などさまざまで、なるほど国際貿易港だなと再確認。名港西大橋、国際展示場のある金城埠頭は「名古屋輸入博」の行われた所で、北較的市民に知られているが、イベント以外に市民がアクセスしてくる要素はほとんどないように見受けられる。

白く美しいシルエットを持つ名古屋港ポートビルは隣接する公園広場や南極観測船「富士」とともに名古屋港のシンボルとしての機能が期待されているが、余りに奥まった位置のため、海側からはその機能が働いていない。市民との接点を求めた結果の立地であるが、図らずも名古屋港そのものと市民がいかに離れた関係にあるかを示している。しかし、名古屋港に入港以来、このガーデン埠頭まで来て、やっと人の温かさを感じることができた。


⑳大防潮堤――伊勢湾台風による高潮被害の教訓をもとに作られた。


㉑チップ荷上場


㉒中部電力名港火力発電所


㉓貯蔵タンクに描かれた魚類の絵


㉔コンテナの積み出し


㉕名港西大橋――世界一の斜長橋


㉖海上保安庁の検問を受ける。


㉗埠頭での魚釣り風景


㉘名港西大橋とドーム型の国際展示場


㉙名港遊覧船「金鯱号」――30分おきに周航している。


㉚南極観測船「富士」


㉛名古屋港ポートビル――背後は港湾会館、右手前は公園広場で、この埠頭を「ガーデン埠頭」と呼んでいる。

〈知多から鬼崎へ〉


㉜乗用車の輸送船

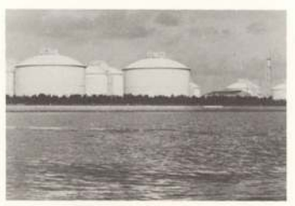
名古屋港東岸から、東海市、知多市へと続く埋立地には、ひたすら倉庫や工場、発電所が並び、その背後にあるであろう都市や山並みが姿をみせることはない。

LPガス貯蔵庫を最後に、これが途切れる新舞子海岸は、古くからの海水浴場として有名であり、当日もウインドサーフィンの帆が多数みられた。その背後には山を切り開いた朝倉団地がみえ、人々の生活が久し振りに感じられた。


㉝IHIの知多シップヤード


㉞穀物倉庫


㉟中部電力知多火力発電所


㊱LPガス貯蔵タンク


㊲新舞子海岸の昔ながらの風景

〈常滑市鬼崎ヨットハーバー〉


㊳大野城と朝倉団地

河和とともに数多くのヨットマンを生んだ著名なヨットハーバーで、「志摩号」の勇姿を改めて見入る。

舵と帆を操って下さった山本、中村両氏に感謝しつつ上陸するも、まだ揺曳感が抜けない。


㊴常滑市街


㊵クルーザー「志摩号」――鳥羽ヨットクラブ所属

〈まとめ〉

案内役となって下さった鳥羽ヨットクラブの山本、中村両氏によれば、伊勢湾に入ることはほとんどないとのことである。

伊勢湾北部は名古屋大都市圏と接するところであるが、その様相は惨めであった。

都市が基本的に必要とする巨大なエネルギーを用意する、あるいは産業の基盤を支えるために、伊勢湾北部の施設群が不可欠であることは理解できるが、土地問題が重要な都市部の目立たない場末を海沿いに追いやるだけでなく、結果として埋立地で海を占領してしまっていることには腹立たしい思いがした。

世界の大都市の港の様子を、日本人はかなり昔から知っていたはずである。知っていることは単なる知識や見聞で、そのことを参考例として実際に応用しようとする良心がなかったのではないだろうか。

（文責：高橋）


盛田氏


福田氏


山本氏


中村氏


高橋氏

〝楮(コウゾ)うつ　三つ拍子こそ　寂しけれ　小原の里の　雪の夕ぐれ〟　　藤井達吉

美術工芸 和紙 ―小原―

東海の建築地場産業●ルポ5

河合建築設計事務所
河合達雄

〝和紙のふるさと〟小原村は、豊田市より車で40分、名古屋市から1時間半という山あいに、戸数1200戸、4600人余りの人々が住んでいます。この地は昔から和紙原料の楮の成育に適しており、古く室町時代から紙の村として知られてきました。

しかし、戦後における生活様式の変化により、全国的に和紙の需要が減少するなか、故藤井達吉翁が小原和紙の良質なことに着目し、その素材を生かすとともに、芸術創造の要素を加えて、今日の美術工芸和紙に発展させたもので、現在では人間国宝でもある岩野市兵衛氏、安部栄四郎氏をはじめ、20名ほどの日展入選歴をもつ工芸和紙作家を生みだしています。

和紙の施設

小原村には和紙工芸館があり、そこでは工芸和紙を2時間ほどで来館者が自ら製作できる施設があり、製作工程が理解できるようになっています。また和紙展示館には、愛知県をはじめ、岐阜県、長野県、滋賀県、三重県等21府県の全国和紙展示品があり、色紙、冊子、金封、折のし、こけし、うちわ、屏風、銘々皿、楊子、日傘、障子紙、名刺入、ハンドバック、紙羽織、帯等の展示をはじめ、工芸和紙による襖をはめた座敷、屏風、掛軸などが展示されています。

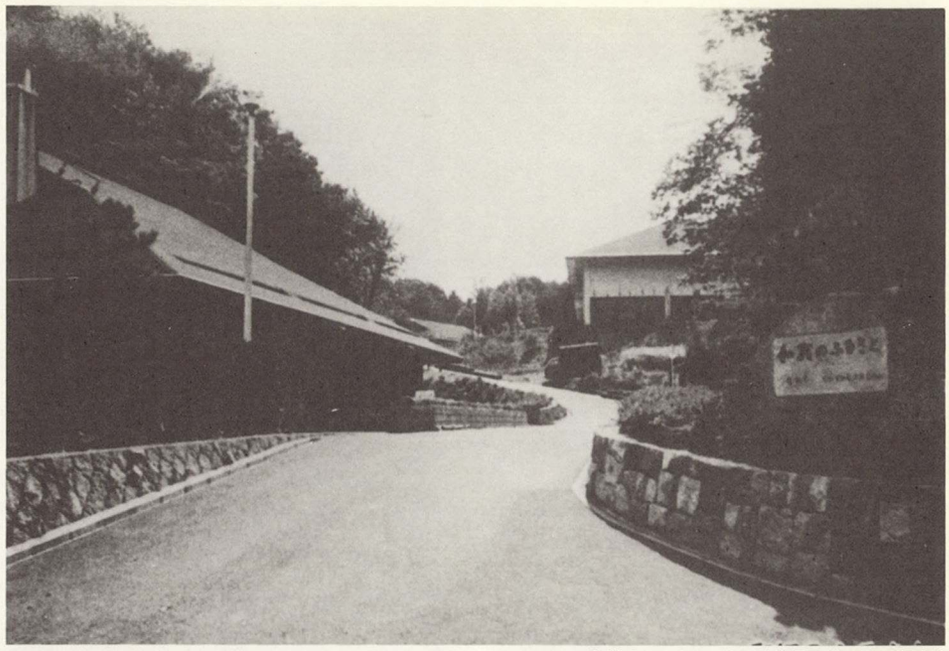
和紙の展望

小原における和紙は、現在では、障子和紙等産業用の和紙は皆無で、藤井達吉翁が求めたような芸術的付加価値製品としての和紙であり、戦後における和紙そのものの需要から考えれば、産業用和紙として生計を立てることは難しく、少数精鋭（20名ほど）による伝統的和紙の保存、芸術的進化へと自らその進路を変え、一つの和紙文化として、その進むべき道を見出してゆこうとしています。

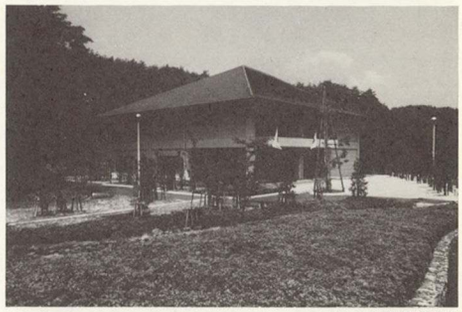
和紙製作工程

1. 楮（桑科）を刈り取り(秋)、束ねて3～4時間蒸す。
2. 〝かんぞかしき〟――皮をはぐ。自然乾燥させ、やわらかくする。
3. 〝たくり〟――黒皮をむき取る。
4. 〝あくぬき〟――ソーダ灰を用いて、3時間ほど煮る。
5. 〝ちりとり〟――清流で、繊維の中の節等を手で取り除く。
6. 〝楮打ち〟――石のたたき台の上で、楮がもちのようになるまで樫の木棒でたたき、やわらかくときほぐす。
7. 〝ざぶり〟――漉舟の中で強くかくはんし、舟水(トロロアオイの根を叩いて出る透明な粘液)を混入する。
8. 〝スコテ〟――冬の冷たい清流の中で、紙漉きを行う。
9. 〝加工〟――冬日の中で自然乾燥させて作成。

東海の建築地場産業ルポ1～4は前回の「東海特集」(昭和60年2月号)に「三州瓦」「常滑焼」「瀬戸やきもの」「岐阜赤坂の大理石」を記載。今回はその続篇です。



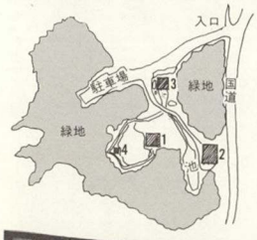
和紙のふるさと　右：和紙展示館　左：休憩所



和紙展示館



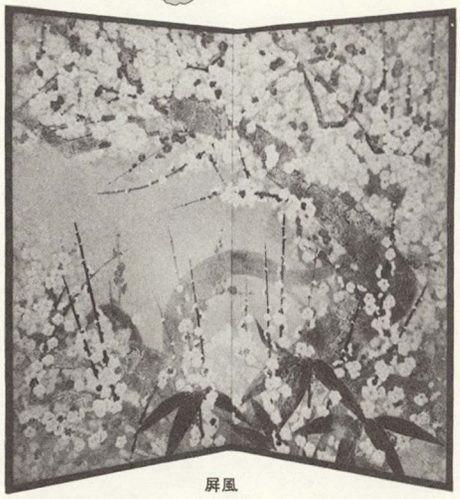
実習風景



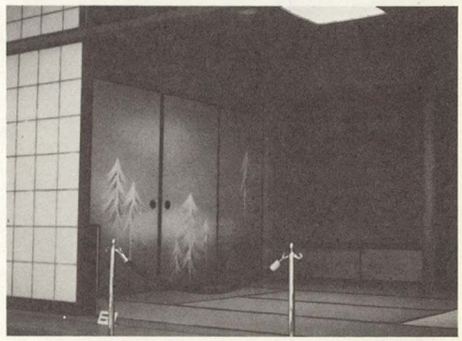
和紙のふるさと配置図
1. 和紙展示館
2. 和紙工芸館
3. 休憩所
4. あづまや



和紙展示館内部



屏風



和紙ふすま

美濃焼 —多治見— (東濃地方)

東海の建築地場産業●ルポ 7

野平木材設計部部長
後藤　博

美濃焼の伝統

美濃焼はすでに平安時代に優れた製陶地として知られ、意識して初めて釉薬を施したものと言われる陶器を作った。それらは平安灰陶（白瓷）と呼ばれており、優美で気品に富んだ技術の製品であった。

また鎌倉時代の山茶碗を経て室町時代には古瀬戸、黄瀬戸風の陶器が作られるに至り、安土桃山時代には、志野、黄瀬戸、瀬戸黒、織部などの茶陶を焼くに至った。なかでも志野は日本が生んだ最高のものといわれる。

美濃焼に一貫して流れてきたものは、温かで大らかで、豊かな焼き物のイメージである。

地元に産出する美濃陶土の特性と、それを、生かし得た技術と、携わる人々の心によって生まれたものであり、それが美濃焼の伝統ではなかろうか。

美濃焼タイルのおこり、発展

美濃焼タイルの最初は、大正２年に長谷川淳一氏が多治見市で創業したのに始まる。たまたま上京中に帝国ホテルの建設中に出くわしタイルの必要性に関心を持つに至ったという。帰郷後の調査で当時ドイツより数十万円の輸入が行われていることを知り、これを多治見で製造しようと自分で乗り出した。日本のタイル自身も明治40年代から製造は始まってはいたが、まだ揺らん時代であった。

大正３年、田中岩次郎氏の建議により長谷川淳一氏は立川元吉氏を技師に迎え、長谷川亮三、今井兼義両氏と共に硬質陶器タイルの製造を始めた。

大正５年、上山貞次氏は前記立川元吉氏を技師に迎え、硬質陶器タイルの製造を始めた。これが今日の上山製陶である。

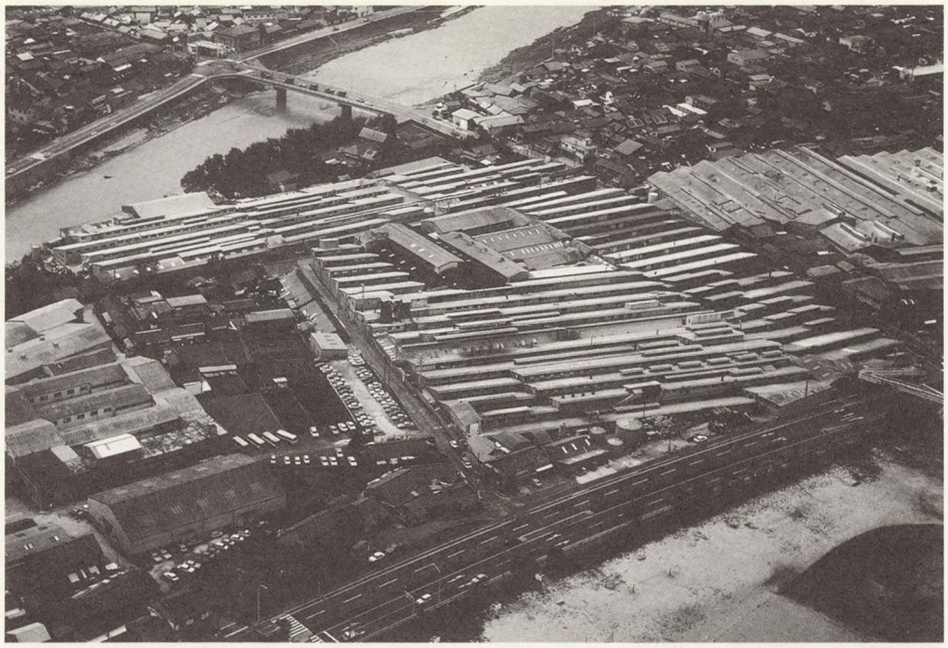
モザイクタイルについていえば、昭和３年に笠原町の山内逸三氏が、初めて施釉磁器モザイクタルを開発したことが大きな発展の始まりである。

その後多治見、土岐、笠原その他にタイル工場が続々とできた。第二次大戦が進展するに従い、工場は軍需品の生産に転換するか、あるいは中止するかの止むなきに至ったが、戦後順次タイル工場に復帰した。戦後いち早く将来の住環境の向上と建築の洋風化に着目し、美濃焼の伝統を現代に生かした美濃焼タイルを開発、独特の美しさをもつ優美なタイル作りに精進してきた。

各種機械設備の導入、自動化、ともに高度な生産技術の開発を推進している。さらに現代工法に対応できるよう、高精度、高品質のタイルの研究にいとまがない。しかし、オイルショック後の低成長時代にあってきびしいふるいにかけられつつあり、新たな転廃業がめだっている。

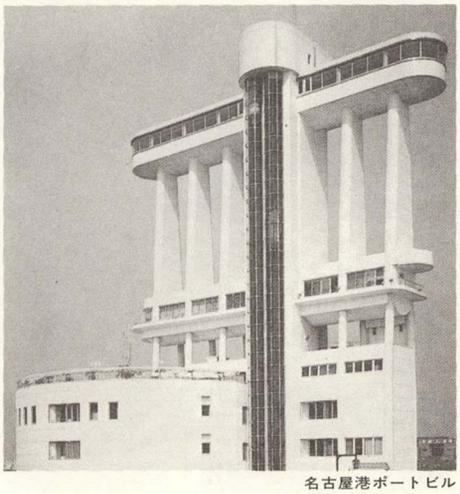
「不確実性の時代」といわれ、経済的にも社会的にも大きな変化が予測されている80年代は、タイル業界にとってもきびしいものがある。

現在のタイル生産品目はモザイクタイル、外装タイル、内装タイル、床タイル、すべて生産されている。企業数は全国の約80%をこの地において占めている。出荷量は約40%、国内出荷においても約27%（いずれも昭和59年度生産量tonによるシェアより）というデータが示す通り、かなりの生産量を誇っている。

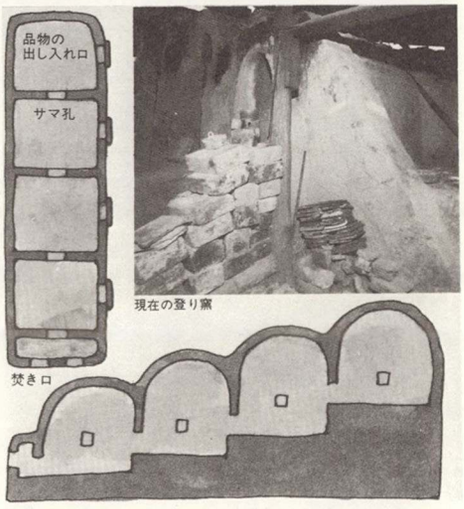


多治見市有力タイル工場全景

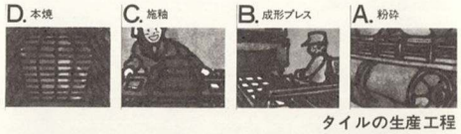
伝統工芸的な美濃焼のイメージの向上とともに、より親しまれる製品を目ざして地元メーカーと流通関係者も一体となって、市場調査、商品開発に取り組み、消費者ニーズを敏速、的確に把えた製品づくりをすること——これが美濃焼タイルの今後の道ではなかろうか。



名古屋港ボートビル



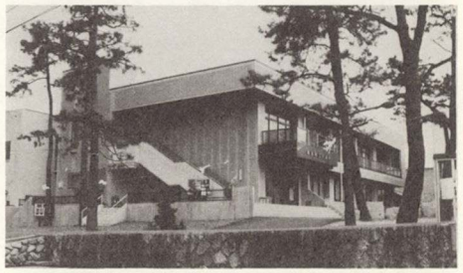
登り窯



タイルの生産工程



瑞浪市陶磁器会館



瑞浪商工会議所—レンガタイル使用（設計施工　野平木材）

参考資料
- 美濃陶業五拾年史
- 美濃焼の魅力——美濃焼全国キャンペーン実行委員会
- 瑞浪市立図書館（水垣氏）
- 全国モザイクタイル組合（深田氏）

石 —岡崎—

東海の建築地場産業●ルポ 6

岡崎の建築士
加藤正彦





岡崎近辺の花崗岩産出略図

徳川家康と三河武士の発祥の地として知られる岡崎の歴史は古く、縄文、弥生時代から矢作川流域を中心として発展し、その後、鎌倉時代に足利氏が三河の守護になった頃から、足利氏、松平氏、徳川氏の隆盛と共に発展していった。

岡崎石工業の起源は、さだかではないが、室町時代後期1453年、西郷稠頼(つぎより)が、岡崎城を築いた時、岡崎みかげを多く使ったのが、工業としてのおこりと伝えられる。

その後、1590年、家康が秀吉によって関東に移封された時、岡崎城主となった田中吉政が、東海道を城下に導き城下町を整備する時、優秀な石工を河内の国から移住させたのが、岡崎石工業の始まりであると言われている。

*

発展していった理由には、つぎの3点があげられる。

① 矢作川流域は大部分が加工に適したやわらかくてねばりのある花崗岩地帯で、宇寿石、三河みかげと呼ばれる青味がかった青石、中目石、白石、白みかげ、荒目石などが大量に採掘されたこと。

② 江戸時代になって諸大名の参勤交代の時、徳川家ゆかりの神社仏閣等にこの地で買い求めた灯籠等を上納するようになり、領主、社寺の保護のもと諸条件に恵まれたこと。

③ 矢作川の水運が利用でき、江戸、大坂への輸送に便利であったことなどである。

*

岡崎石工業は、茨城県真壁町、香川県庵治町と並んで全国の三大産地の一つにあげられ、その技術は全国一といわれ、岡崎の石製品は、全国にその名が知られている。

ただ建築との関わりについては、建築資材の生産量は少なく、建物空間をひきたてる灯籠、彫刻などの工芸品と墓石が主である。

このことは、室町中期以降、社寺が多く建立され、足利氏、松平氏、徳川氏、およびその家臣たちゆかりの社寺が多く、そのことからも多分に関係があるように思える。

当地区の原石は、額田郡一円、岡崎市常盤町、豊田市松平町、西加茂郡藤岡村から産出するもので、他に国内では茨城、香川、外国からでは、韓国、米国、インド、中国、スウェーデン、ブラジル等から輸入している。

現在は生産額の半数近くが輸入品となっている。ちなみに灯籠、彫刻等は国産品の石材が、墓石・石碑等は外国産が、ほとんど使われている。

生産割合は墓石50%、灯籠30%、彫刻物・石垣等20%とみられ、現在では墓石の比率が伸びている。生産体制は総体の70～80%が受注生産で、在庫としてはもちにくい産業製品となっている。

また、近年機械化が進み、その割合は作業工程のうち、灯籠については、70%程度、彫刻物については40%程度、墓石については90%以上であり、機械化もこれで限界に近いと言われている。

*

業態の特徴としては、たいした設備も必要なく、一人でも製造できるため、熟練した従業員が一人立ちして始める場合も多く、従業員9人以下の事業所は、90%以上とみられる。



織部型灯籠



六角雪見型灯籠



十三重の塔

そこで体質改善をねらいとして、昭和41年矢作地区に岡崎石製品工業団地(組合員数74社)、続いて昭和51年稲熊地区に岡崎石製品工場公園団地(組合員数48社)が建設された。それでも数としては一部で、6割近くはそのままである。

昭和58年度現在では、4名以上の事業所99社、3名以下の事業所(1人も含める)138社、総従事者数1052名、出荷額694,135万円、これは愛知県の総出荷額の大部分を占める。

製品の販売先は、灯籠・彫刻物の70%程度は北陸、関西方面の造園業者や仲介人へ、また墓石は需要者への直接販売が多い。

昭和54年には、通産大臣指定の伝統的工芸品として振興計画のもとに、国から補助を受け、後継者育成事業等に取り組んでいる。その数は、237社のうち134社、387名となっている。

*

今後の課題としては①一人でもできる手工業であるため機械化、集団化には疑問があること、②若年の就業希望者が少なく従事者の高齢化が予想されること、③韓国、中国等の低コストの製品が日本市場への進出を虎視眈々と狙っていることなど、問題が多い。

岡崎市としては、これらの問題解決のために数々の行政指導と補助金の交付を行い、伝統ある地場産業の発展育成に努力しているが、岡崎の石工業自体、小型手工業形態で、機械化はあまり望めないし、そのような体制においては、近代産業の中で生き残る道として、質を落として薄利多売するか、工芸品として蓄積された技術をより発展させるか、加工技術を生かして建築資材の道に歩むのか、暗中模索の状態である。ただ、伝統の中に埋もれてしまうのは避けなければならないだろう。

*

ここで石灯籠について、少し触れてみる。

本来石灯籠は仏教伝来と共に伝わった。これは本尊に灯明を献ずる意味からつくられたものである。その後、民衆信仰の現れであろうか、常夜灯という形で町そのものの目印を兼ね建てられた。それが庭園の中に登場するのは、桃山時代以後で、茶式を体系づけした利休による茶庭(露地)という特殊の庭の中に、夜の茶会の照明のために用いられるようになった。

最初は社寺の献灯の廃物利用から始まり、茶庭にふさわしい雅味のある小型のものが考案されるようになる。その後、大庭園の苑路や築山また、池辺建物近くに庭景を添えることが主となるように用いられてきた。

それが一般的に住宅の中にも入ってきた。

形は様々であるが、社寺向け(献灯用)として、春日型、太秦型、灯明寺型、善導寺型、柚之木型、報恩寺型、平等院型、白太夫型、二月堂型、小町型、湯谷型、宮立型、元興寺型、また茶庭向けとして、織部型、珠光型、大仏型、筈屋型、遠州型、道しるべ型、有楽型、寄せ石型、長閑堂型などである。

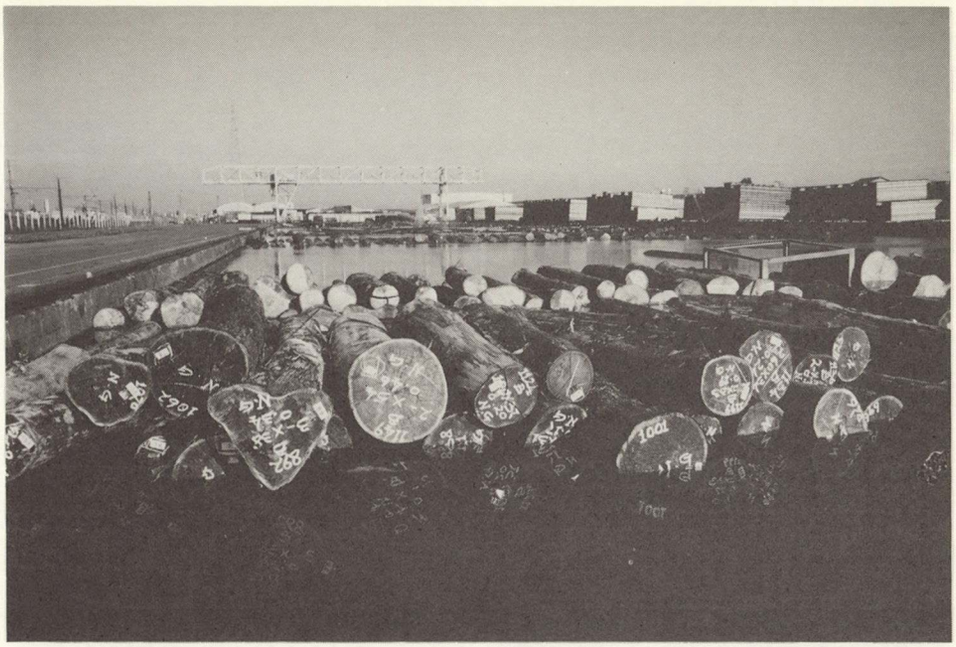
今日では主として観賞用として小型でわれわれにやすらぎを与えてくれる雪見灯籠、織部灯籠に人気がある。

(資料:岡崎市商工課　鈴木氏;岡崎矢作石工団地パンフレット)

精密木工
—浜松—

東海の建築地場産業●ルポ8

賛同人建築研究所
大澤　稔



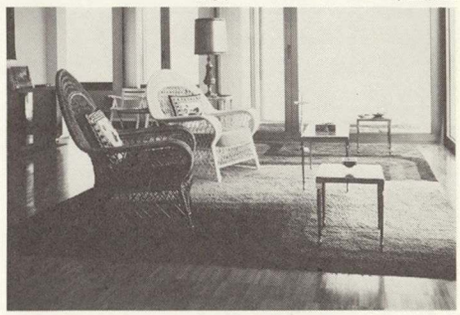
貯水池の木材（日本楽器天竜工場）



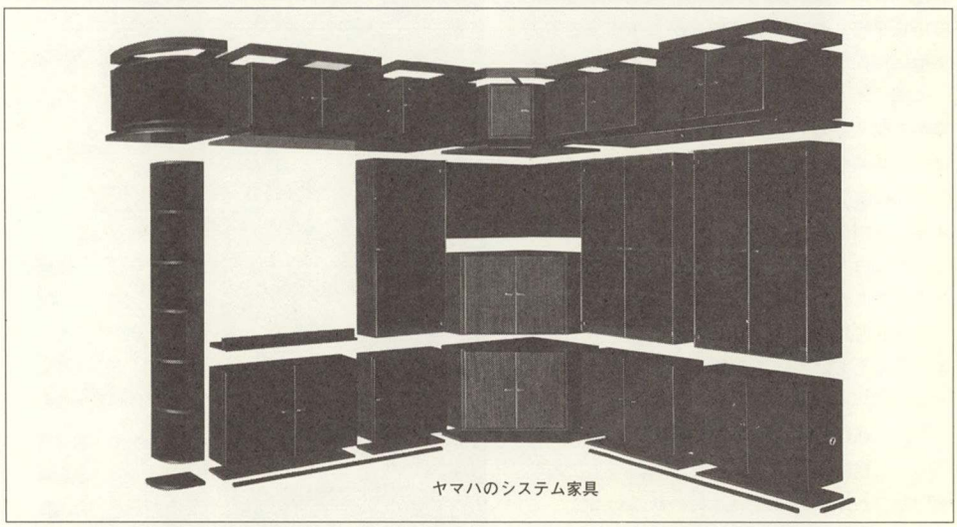
塗装



木工加工



天竜プレパークを使った床



ヤマハのシステム家具

「精密木工」という分野の建築地場産業が浜松市にあるなどと、聞いたことがないといわれる方もあると思う。しかし、私が浜松市に住む建築家の一人として、つねづね感じていたのは、浜松地方には木工技術の分野で非常に優れたものがあり、建築地場産業といえるものになっているのではないだろうか、そして、工業化が進む建築産業界にあって、今後ますます要求が高くなる分野であり、育成する価値のあるものだということである。

浜松市は繊維、オートバイとともに、楽器の町として知られている。日本楽器、河合楽器などで作られるピアノは、わが国の生産台数の90%以上を占めている。しかも、こんにちでは国際的な評価も高く、ショパンコンクールにヤマハ、カワイのピアノが使用されるようになっているのであるが、この楽器製造技術は、精密木工そのものである。

この木工技術とともに、ピアノ等の塗装技術も発達し、こんにちではそれが家具の製造技術に活かされている。この楽器製造を中心とした木工技術の裾野は広く、木材加工機械の分野にまで及び、庄田鉄工、平安鉄工等のＮＣルーターは世界を市場として浜松から出荷され、最近では、中国最大の家具製造工場の木工機械を庄田鉄工がシステムとして全面的に引き受け納入している。

このように、浜松における精密木工は、木工機械から塗装技術まですべてが揃っているのであるが、こうした産業が発達した背景として、天竜川の存在を見逃すことはできない。

明治以来、日本の三大美林の一つといわれた天竜材は、浜松市の中心から東に約６kmの天竜川沿いに集められ、楽器製造用ばかりでなく、建築用材としても全国各地に送られてくるのである。天竜川上流の良質な木材が容易に入手でき、しかも山中とは違い気候も温暖で、交通の便も良い浜松地方では、木工技術が、職人芸としてだけでなく、近代産業として発達する要素が十分にあったと考えられる。

浜松の木工産業は、楽器会社の下請けを中心に発達したためであろうか、家具等では箱物といわれる分野のものが多い。その精度の高いことは業界でもよく知られている。

造り付け家具等が組み立て家具になり、家具のシステム化が進むにつれて、浜松の精密木工技術が、建築に活かされる機会が多くなると思う。その意味で、代表的なものに、日本楽器のシステム家具がある。もっとも、日本楽器のシステム家具は、古くは戦前から組み立て家具として本棚などが作られ、今でも立派に使用されている。浜松市内には各メーカーの下請けとして組み立て家具を作っている工場も多く、木工と塗装は分業化されている。こうした木材加工技術は家具だけでなく、天竜木材の天竜プレパークや、Ｑブロックのように寄せ木の床材としても現れている。

木材は、その木が大地に根を張って生きていた年月だけ生きつづけるという。豊かな自然の中にどれだけしっかりと根を張ったかが、その木の命なのである。金属やプラスチック材で工場生産された建築部品が多く使われている中で、最近、木材の良さが見直されてきたことをうれしく思っているが、建築の工業化が進む中で、木材も建築部品として工場で加工されたものが、現場に持ち込まれ、組み立てられるようになってきている。十分に乾燥された原木の管理から始まる精密木工の分野が、建築の中で大きな役割を果たすようになりつつあり、浜松の精密木工が建築地場産業として育ちつつあることを感じている。

構造の頁

135
免震構造のすすめ(その2)
—免震構造の問題点—

多田　英之

免震構法には、いろいろなやり方があるが、建築の場合は、基礎絶縁方式（Base Isolation System）が単純明快で最も良いと思う。この方法は、基礎部分の絶縁で地盤と建物が大きくずれる代わりに、建物はひとかたまりになってゆっくり動くので、建物内部には大きな力がかからず、有害な変形があまり起こらない。問題は、建物を丸ごと支えながら10cm～数10cmも動いて、しかも地震が終わったら元へ戻るような強力にしてやわらかなバネをどうして作るかである。この点を解決してくれたのが、ゴムと鉄板のサンドイッチ構造であるアイソレーターである。

*

アイソレーターの秘密は、鉛直方向の重さを支えるバネ強さが、水平方向に地震力を逃がすためのバネのやわらかさの500倍から1000倍もあるということにある。私の実験でも、直径50cmのアイソレーターで鉛直荷重の載荷力は1000ton以上、水平変形能力は250ton載荷で、35cm以上を記録している。

アイソレーターだけでは、建物はゆっくり、長くゆれるので、振動エネルギーを吸収し、減衰性を高め、振幅を減少させるためにダンパーを使う。ダンパーには鋼材の弾塑性変形を、粘性体の粘性抵抗を、鉛や合金の剛塑性を利用するものなどいろいろ考えられるが、それぞれに利点と欠点がある。

要は、設計時に信頼できる定量性、材料の長期安定性、施工の難易、経済性等が判定の基準となる。

アイソレーターを使った耐震設計の利点についてまとめてみると、大体、以下のようになる。

① 建物の振動の様子が、地盤の種類や地震の種類と大半切り放され、独自の動きをするので、振動理論を使って解析する場合にも扱いが簡単で、略算と、精密計算との差が少なくなる。その分、地震時の建物の動きを的確に予測でき、構造計算の時間と労力が少なくなる。

② アイソレーターの配置とダンパーとの組み合わせは自由に行えるので、重心と剛心とのずれの調整は容易であり、振動理論から不適当とされるような不整形の平面でも割合気楽に扱える。

③ 建物に生ずる内部応力は、地震のための増分はわずかで、それらはほとんど材料の安全率の中で吸収されてしまう程度のもので、安全性は維持される。

④ 建物の周期が伸び、ゆっくり大きくゆれるので、建物の骨組や、補助的な部材（手摺りや間仕切り、天井など）は大きな力を受けずにすみ、建物内部の家具や器物は自然の状態で、落下や破損の恐れはなくなる。

⑤ とくに地震に弱いとされるレンガ造、ブロック造、その他プレファブ造等の建物でも十分安全性が期待でき、あまり地震のことにわずらわされず建設できる。このことは、建物によっては地震のない地域で可能な建物を、そのまま大した耐震補強もせずに地震地帯にも建てられることになる。

⑥ 杭、ピアー等の地業は、建物の鉛直荷重を対象として設計すればよいことになる。上部構造からの水平方向の拘束は少ないので、杭頭にかかるせん断力は小さく、地盤の内部ひずみによる横変形を考慮して設計することになる。

⑦ 建物の建設費用は幾分少なくてすむ。設計の仕方ではずい分安くなることはわかっている。これは安全の質が今までのやり方と異なるので、ちょっと比較がむずかしい。

*

基礎免震の方法にも泣きどころがある。

① 大体10階建程度以下の建物に使って効果があるもので、もともと固有周期の長い建築物（超高層建築など）には効果は少ない。

② アイソレーターの主役であるゴムの耐久性について、確たる証拠がない。ゴムの専門家は構造骨組の材料に決して劣らない寿命があると言っている。私の経験でも、アイソレーターとして成形されたゴムは、コンクリートなどに比べて耐久性、変形性能、品質の信頼性等格段にすぐれている。ただし、熱とオゾンに弱い。建築構造材料としての経験がない上にイメージがよくない。それで今のところ一定の点検年限を設けて、取り替えが利くようにせざるを得ない。

③ 大地震ともなれば、建物は20cmや30cmぐらいは動くかも知れない。（私は20cm以下で十分やれると思っているが…）この分、建物周囲に余地がいる。

④ 点検、取り替えのため基礎の空間が二重になる。(この空間は利用可能ではあるが…)

⑤ まだ、住み心地が確かめられていない。これは地震がくるまでわからない。アイソレータの利きをよくすると強風ぐらいでゆれるかもしれない。これを止めるために安全装置を考えるが、これが利いている間は在来通り、建物を地盤にしっかり固定した場合と同じになる。この安全装置の利かせ具合が案外むずかしい。人間に個人差があるように、建物にも個性がある。これをどう調整すれば一般に納得してもらえるかは、これからの問題である。

⑥ よく上下動を問題にされるが、建築強度の上では心配ない。もちろんアイソレータは上下方向のバネは非常に強いので、上下動はそのまま、建物に伝わる。しかし、建物はいつも下の方向へ地球の引力を受けているので、上下動で2～3割、力が増えても大したことはない。むしろ、水平動で建物はこわれていると考えている。ただ振動は大部分伝わる。上下動も水平動と同じようにうまく逃げさせようとする研究も行っており、明るい見通しをもっているが、本格的な実験は未着手の状態である。

⑦ 法規制による障害、これが最も大きな泣きどころである。どんどん建てて、どんどん経験を積む必要があるのに、手続きが繁雑で、なかなか実行させてくれない。日本建築センターというところは変に慎重で、設計の視点で技術を評価する能力に欠けている向きがあるのではないかと思われる節がある。余り強調すると、とんでもないところでまた締めつけが強くなると困るので、このくらいにしておく。

*

以上、免震構造の問題点を拾いあげてみたが、もう一つ重要な点を指摘しておきたい。

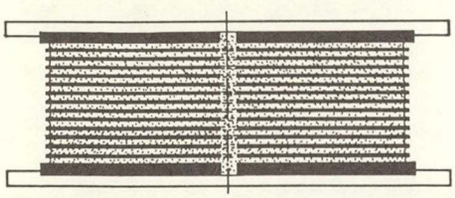
私は、この技術をフランス人Delfosse氏の業績に学び、約10年おくれて研究を開始した。以後、フランスのRichly，ニュージーランドのSkinner，Tyler，英国のLindley，Derham，アメリカKelly，ギリシャIkonomouなどの研究を見ながら確実に自らの目と、手と、そして設計力を用いて実験研究を積み上げてきた。原理はモデル化をすれば単純そのもので、振動に関する基礎理論で十分対処できる程度のもので、解析は構造家にはさしたる困難はない。しかし、問題は具体的な物をどう作り、どう定量化し、どう設計に反映させるかの実践的研究である。

最近、ようやく建設界に免震開発の気運が高まりつつある現状を見て喜んでいる次第である。

免震建築の生命はアイソレーターとダンパーである。その素材と、製造過程と、品質管理と、そしてその物性とは、設計者たるもの自らの経験によって確かめ理解しておかなければならないものではなかろうか。

最近の分業姿勢のゆきすぎか、あるいは効率追求のあげくの果てかわからないが、勝手に自分の責任範囲を決め、人に押しつけ、自らは設計者を名乗る態度を数多く見かける。設計技術にとって経験は不可欠である。その経験の過程における諸々の失敗、予期せぬ現象等が蓄積されて技術力となるのである。したがって、解析モデルと現物とのずれ、設計と解析との関係における相互の数値レベルについて、確認の上、免震建築に取り組んでもらいたいと願う。

（ただ　ひでゆき　福岡大学工学部建築学科教授）



免震アイソレーター　S_{40}-500×7-14

設備の頁

133 VAV空調ユニット

西沢　敏夫

VAVユニットは空気式セントラル空調システムで、同一空調系統に負荷の相違がある複数の個室の室温を任意に設定し、設定した室温を正確に維持するために空調機から送風される調和空気量をおのおのの個室の空調負荷に追従させて制御することを目的とした、ターミナルユニットである。

機器は空調機・ダクト・VAVユニット・ルームサーモスタットにより構成される。

VAVユニットによる室温維持プログラム

ルームサーモスタットが設定した室温とそのときの室温との差を検出し、制御プログラムにより、室温を維持するために必要な調和空気量をVAVユニットに指示する。VAVユニットは、指示された空気量を室内へ給気するように、ダンパー等で制御をする。(図－1)

VAVユニットの種類

室内への給気量制御方法により、VAVユニットは2種類に大別される。

① バイパス式VAVユニット

空調機からの送風量は常に一定であり、低負荷時に余剰となった調和空気は、ユニットの出口側に設置したバイパス口より還気ダクトに直接戻す。

② 絞り式VAVユニット

指示された空気量が室内へ給気されるよう、ダンパーで絞り込むので、必要風量のみが送風される。

VAVユニットの選択

① バイパス式は、送風量が一定である。

送風機制御設備が不要であるので、パッケイジ空調機によるVAV空調が可能である。したがって、設備コストは低いが省エネルギー効果は期待できない。

② 絞り式VAVユニット

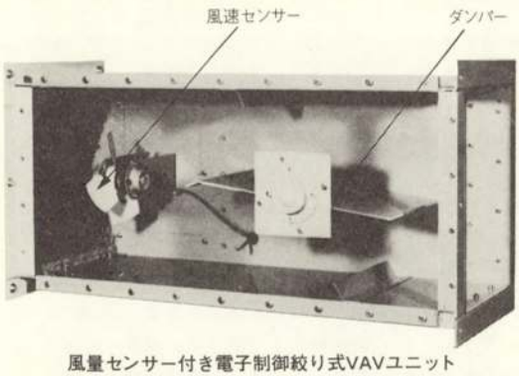
この型式は送風機制御を必要とするので、設備費は高いが、適切な送風機制御を行うことにより、年間送風機動力の大幅な省エネルギーが可能である。熱源の省エネも含めると、単一ダクト空調システムとの設備費の差を短期間で償却可能である。(図－2)

VAV空調システムの技術検討点

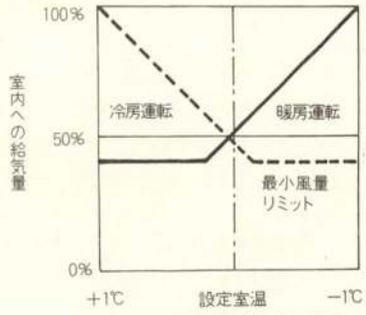
VAVユニットの選定にあたっては、風量制御精度が高く、圧損の小さいもの、耐久性あるものを選定することが必要である。またシステム全体の制御としては、調和空気量を制御して室内設定温度を維持するので、低負荷時の循環空気量と外気量の関係を考慮する必要がある。また最小循環空気量を確保するために、VAVユニットにリミットを設置する場合が多く、負荷が極端に低い場合はリミットが作動して室温制御が不可能になる場合がある。これは負荷状態により送風温度を変更するなどの制御が必要である。

さらにこのシステムは送風機能力を調節するので、ダクト全域の静圧が変化して、外気量－排気量のアンバランスが発生したり、外気風速に影響されて過不足の状態が起こり、VAV空調システムの特徴を失わせる結果となるので、VAVユニットもさることながら、トータル的な視野での検討が最も重要である。

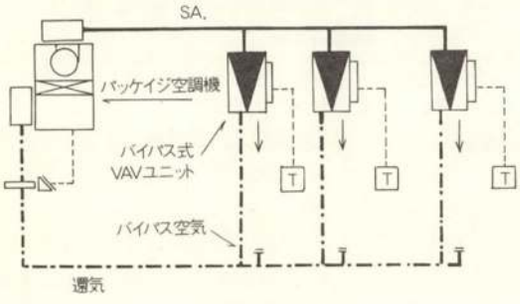
(にしざわ としお　東プレ株式会社空調機器部営業課長)



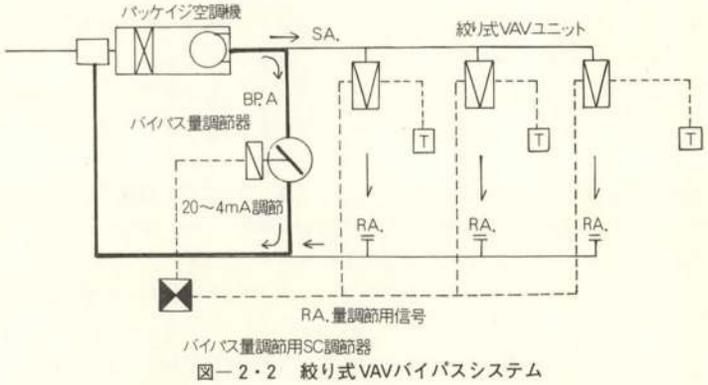
風量センサー付き電子制御絞り式VAVユニット



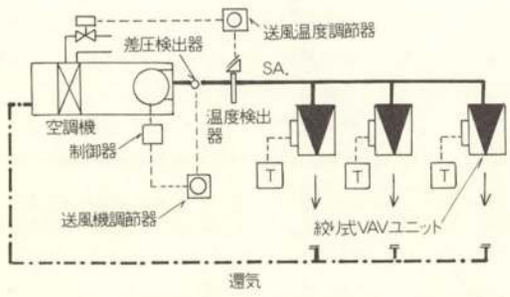
図－1　給気量制御プログラム



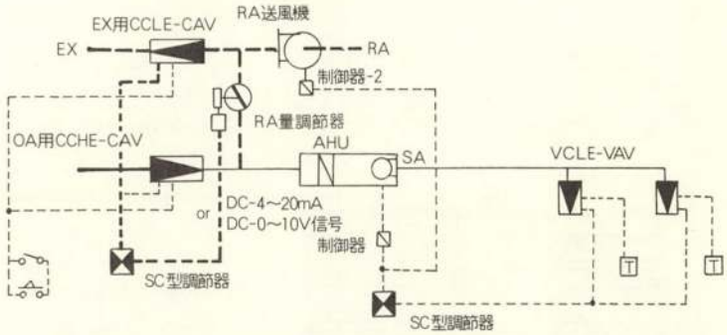
図－2・1　バイパス式VAVによるシステム



図－2・2　絞り式VAVバイパスシステム



図－3　絞り式VAV システム



図－4　外気～排気、還気Fan制御を含めたトータルシステム

VAVと送風機制御・外気制御のネックを解決。

VAVで20%～70%省エネ

VAVCOW VAVシステム

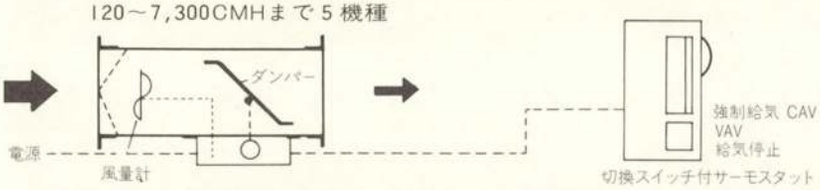
（国内、海外特許・実用新案出願中）

省エネ 省価格 工事騒音 保守 環境

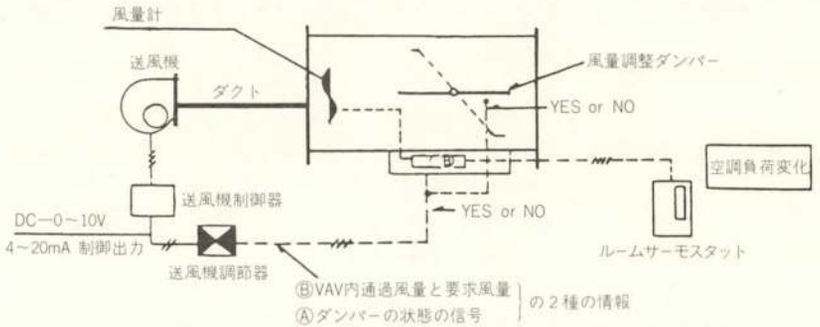
- ◉低圧損VAV……VCHE型
  - ※VAV圧損最大2mmAq
    送風機動力の減少　20～40%
- ◉送風機の最適最低静圧制御VAV……VCLE型
  - ※負荷に比例し風量、静圧の制御信号を出す
    30～50%
    低価格……工事簡略
- ◉外気　排気バランス制御
  - ※外気負荷の省エネ　30～70%
  - ※排気送風機の省エネ
  - CO_2モニターと連動
- ◉ダクトレス空調
  - ※建物高さ低減……建築費低減
  - ※低静圧送風で送風機の省エネ
  - ※諸建築法規に有利
  - VAVダクトレス
  - 定風量ダクトレス

絞り形—VAVバブコンVCHE型（電子比例制御）

120～7,300CMHまで5機種



省エネ低騒音VCLE型VAV空調システム



●VAVを送風機制御のセンサーに利用し最適制御をします。

	年間動力費	20	40	60	80	100%
単一ダクトシステム	804,960円					
東プレVCLE型システム	222,912円					
従来のVAV制御システム—1	374,616円					
従来のVAV制御システム—2	510,840円					

バイパス形VAVバブコンVCE型（電子比例制御）

※パッケイジ空調機に適用可　※美術品の保管、美術館、博物館　※録音スタジオ、放送局スタジオ試聴室、etc　※低負荷時でも吹出速度が不変

地区販売店

大阪地区　タイセイ㈱：06(975)1692
名古屋地区　昭興金属㈱：052(262)4611
広島地区　日機工業㈱：082(241)9171
北海道地区　朝日物産㈱：011(261)1511
新潟地区　㈱電友舎：0252(60)6161

Topre 東プレ株式会社
（旧社名　東京プレス工業株式会社）
本　　社　東京都中央区日本橋3—12—2　☎03(271)0711(代)
大阪営業所　京都市伏見区横大路天王後19—1　☎075(622)2748(代)
東証一部上場・シロッコファン・エアードライヤー・自動車部品・冷凍車

施工材料の頁

133
ホール・イン工法
—鉄骨埋込形柱脚の施工法—

高橋泰彦／柏原康則

1. 従来の埋込形柱脚の施工法

建築基準法が改正されて以来、S造やSRC造の建物では、構造性能の良い、柱の鉄骨を基礎ばりの中に埋め込む形式の柱脚（埋込形柱脚）が採用されることが多くなってきた。

この形式の柱脚は、通常、図—1の順序で施工され、

(1) 着工から鉄骨建方までの期間が短く、鉄骨製作期間が工程上支障をきたす場合がある。
(2) 鉄骨建方のためにトラック桟橋が必要である。
(3) コンクリートの打設回数、手間が多い。
(4) 鉄骨のために山留親杭の引き抜きがむずかしい。
(5) 鉄骨柱脚まわりの基礎ばりの配筋が多少複雑である。
(6) 建物の一部分の鉄骨建方を後まわしにすることがむずかしい。

などの問題点が報告されている。

そこで、大林組は在来方式のこれらの問題点を改善した施工法を開発し、ホール・イン工法と名付けて実用化した。

2. ホール・イン工法とは

2.1 施工法の概要と順序

ホール・イン工法の概要は図—2に示すとおりで、基礎ばり打設時に柱脚部を箱抜き状態にして柱建方用の穴を確保し、その穴に柱鉄骨を挿入して建方を行った後、柱まわりに後打ちコンクリートを充填することによって埋込形柱脚を完成させる方法である。

SRC造の建物の施工写真㋑～㋭をまじえて、ホール・イン工法の施工順序を説明すると、

① 捨てコンクリートの打設
② 柱主筋、フープの配筋
③ フープのまわりにラスシートの巻き付け
④ 基礎ばりの配筋（写真㋑）
⑤ アンカーボルトの据えつけ
⑥ 基礎ばりの型枠の組み立て
⑦ 基礎ばりのコンクリートの打設（写真㋺）
⑧ 基礎ばりの型枠撤去と埋め戻し
⑨ ベースモルタルの施工（写真㋩）
⑩ 鉄骨の建方、アンカーボルトの締め付け、建入直し（写真㋥）
⑪ 鉄骨ジョイントの本締め
⑫ 柱建方穴に後打ちコンクリートの充填（写真㋭）
⑬ 床配筋、床コンクリートの打設
⑭ 2節以降の鉄骨建方

となる。

図—1と比較することにより、③⑫の作業が在来の方式には含まれないこと、⑤⑦⑩の施工順序が著しく異なっていること、がわかる。

2.2 ホール・イン工法の特徴

第一の特徴は図—2のように、埋込形柱脚でありながら、基礎ばりのコンクリート打設後に鉄骨の建方ができることである。これによって、柱まわりの後打ちコンクリートの充填という作業がふえるものの、前述した在来の方式の問題点がほとんど解消され、施工的にかなり有利になっている。

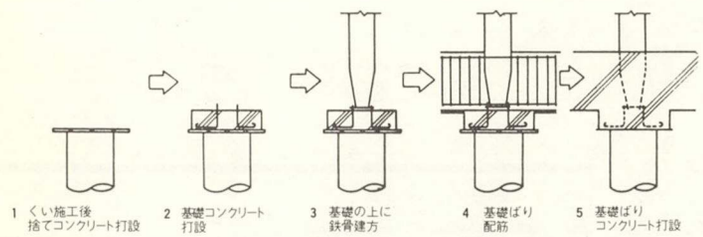
つぎに、アンカーボルトの位置が柱の底面から側面にかわる。すなわち、写真㋩、㋥のように、柱建方穴に隣接する基礎ばり上端面にセットしたアンカーボルトで柱のフランジに取り付けたブラケットを締め付けることにしている。柱の軸力処理のほかに、柱の横倒れ防止や建入直しにも利用する。不要ならば、後打ちコンクリートが硬化した後で切断することもある。

また、ホール・イン工法では、柱のフープの外側にラスシートを巻き、柱建方穴の型枠としている。この型枠によって、穴の内部は写真㋺のように完全な粗面となり、後打ちコンクリートと基礎ばりとの継ぎ目には、一体性が確保できる。ただし、建方穴の内部に基礎ばり主筋を定着することはむずかしく、建物外周部の側柱では穴が多少弱点となる恐れがある。そこで、中柱と同等の性能が得られるような各種補強法を考案し、状況に応じて最も適切な方法を選択して、側柱の柱脚に適用することができるようにした。

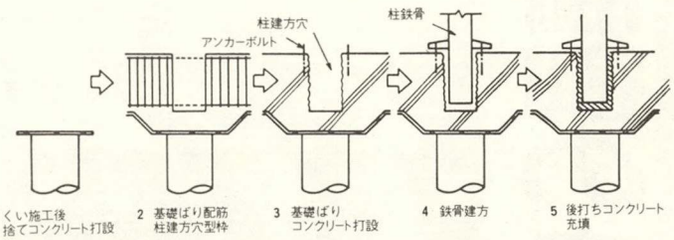
2.3 ホール・イン工法の実績

模型実験によって、ホール・イン工法で施工した柱脚の耐力、変形能力などの構造性能は、在来の方式によるものと全く差がないことを確かめており、地階のないS造およびSRC造の建物に対して、すでに30例以上の施工実績ができている。また、今後、ますます使用されるケースが多くなると考えている。

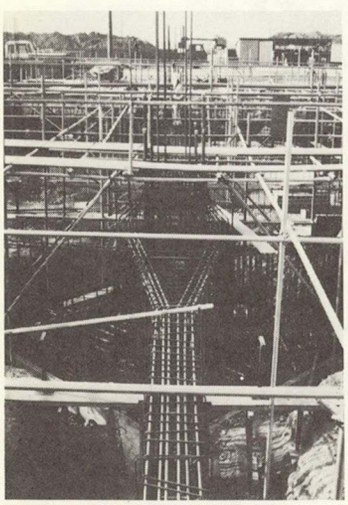
（たかはし　やすひこ　株式会社大林組技術研究所
かしわばら　やすのり　株式会社大林組東京本社設計第三部）



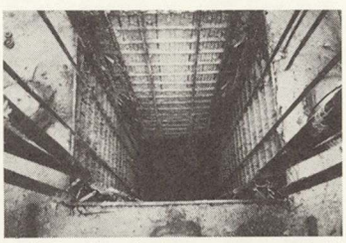
図—1 在来方式の施工順序



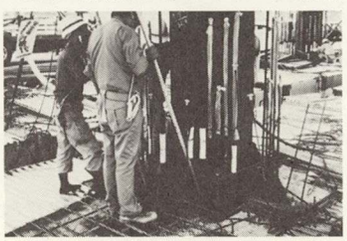
図—2 ホール・イン工法の施工順序



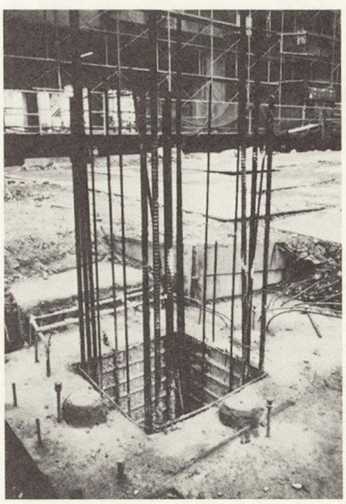
写真㋑ 基礎ばりの配筋



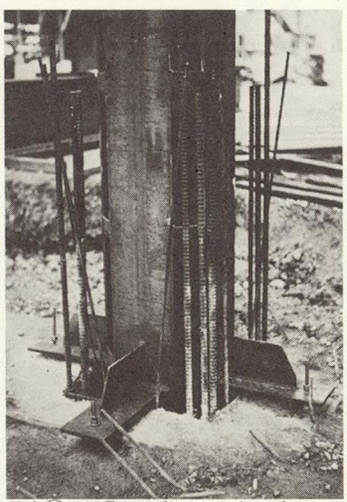
写真㋺ 基礎ばりのコンクリートの打設



写真㋭ 柱建方穴に後打ちコンクリートの充填



写真㋩ ベースモルタルの施工



写真㋥ 鉄骨の建方、アンカーボルトの締め付け、建入直し

編集後記メモ

■われらの敬愛する日本建築協会名誉正会員村野藤吾先生が昨年11月におなくなりになって、はや１カ年がすぎました。関西に本部をおく日本建築協会の「建築と社会」としても、追悼の意味もかねて、この際、村野さんのすぐれた資質やスケッチの一端でも、特集として組み、生前のご協力に応えることができれば幸いだと考えました。実は、村野先生の没後一周年を機に、先生の特集を組みなさいとサゼッションされたのは、浦辺鎮太郎さんです。この意をうけて、佐野正一会長の積極的賛成をもえて、村野漾、水谷穎介、辻野純徳、出江寛、狩野忠正の各氏に特別編集幹事をお願いして、編集を進めてまいりました。村野さんの生々しい話もだされ、いくつかの構成案もだされましたが、紙数の都合もあり、つぎの３本の柱で企画を構成したものです。

①の柱としては、スケッチとして、大規模建物というより、中小建築のスケッチのプロセスがよく分かるものとして、「南大阪教会」のスケッチのプロセスを選定し、原寸大で収録しました。

②の柱としては、村野先生が単体だけでなく、大阪の下町の街の計画にも参画していたことがあまり知られていないので、この際記録しておこうということです。

③の柱としては、工事現場で職人さんや関係者との間に真剣なやりとりがあり、そのエピソードを収録してはということで、10人ぐらいの候補者をえらびましたが、結局、模型作成者、照明関係者のインタビュー記事も含めて、４人にしぼりました。

以上が、この特集の経緯ですが、村野さんの姿の断章として、それが少しでもにじみでておればと念じております。あらためて村野さんのごめいふくをお祈りしますとともに、ご協力下さいました各位に厚くお礼申しあげます。

■日本建築協会東海支部が支部復活25周年を迎え、この12月７日に名古屋で記念祝賀会が行われます。この折に、参集者に本号の「建築と社会」の東海特集を支部の記念号とともに送ることになっています。本特集は、支部の特別編集委員会で検討された結果、１月号の大阪湾物語特集に刺戟されてか、「伊勢湾」をめぐる問題をとりあげることになり、本文は座談会や伊勢湾クルーズで構成しています。これを機会に、今後、名古屋を中心とする東海地方に大いに会員をふやし、活発に活躍したいと期待するものです。

■本号に「第32回青年技術者特集」を収録する予定でしたが、上記２特集をどうしても11月号にセットするため、経費の都合上、止むなく、青年技術者特集号は、12月号に順延させていただきます。応募者、すいせん者、選衝委員会の皆さん、その他関係者にご寛容とご了承を願うものです。なお内容については一切変更ありません。

■この数カ月間、雑誌が遅延してごめいわくをおかけしていることをおわびいたします。頁数をふやし、内容を良くし、若い層にも読んでもらえる魅力ある雑誌にしたいと念じています。すでに、「Gallary」の頁をはじめ、「書評」の頁などを新設し、そのほか来年より巻頭グラビア頁なども考え、本文特集の複数建て、カラー頁の増加など、誌面刷新を含めて、その充実をはかっていこうとしていますが、何せ発行費用はすべて広告収入にたよらざるを得ない現状で、まことに矛盾した編集体制のもとに悪戦苦闘している次第です。グチになりますので、これ以上申しませんが、財政面でのご協力をぜひお願いいたします。

■投稿欄ですでに、先輩たちの声を３号にわたって多数のせさせてもらいましたが、これからは、その先輩たちの声をうけて、あるいはのりこえて、20代、30代の若い層が、応えていく時代です。ぜひ、若い人の入会、あるいは若い人の声を雑誌に届けて下さるようお願いします。その方策こそ問題だといわれると思いますが、よい手だてはありませんか、あるといって下さいよ。

（松井記）

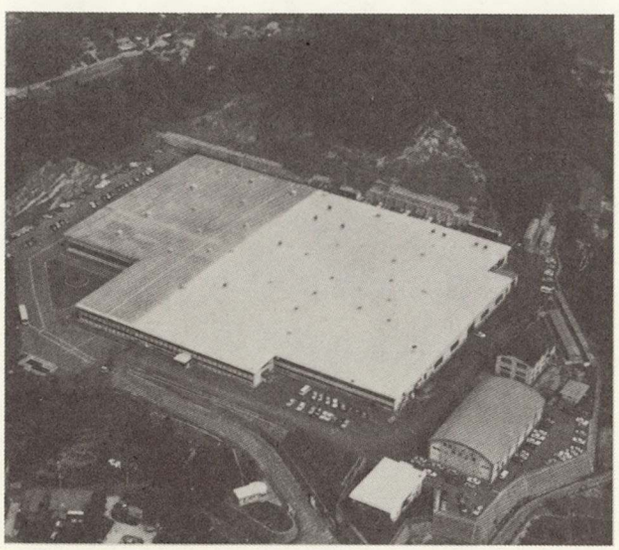
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

東海特集号用PR

何時でも何処でも頼りになるゴムアス
新設にも補修にも，何んでもこなすゴムアス。
ゴムアスファルト

タフネス防水





ゴムアスファルト防水工事業協同組合
東京都品川区南大井1−7−4
TEL03(761)4378

昭石化工株式会社
東京都品川区南大井1−7−4
TEL03(761)4291

東京営業所　03(761)4271
大阪営業所　06(341)6395
名古屋営業所 052(231)6568
新潟営業所 0252(25)2331
福岡営業所 092(291)0008
仙台出張所 0222(67)5319
札幌出張所 011(251)7912
広島出張所 082(283)9226

日本建築協会

月間の動き

昭和60年９月分

理　事　会

常任理事会
25日　4時～5時　於本会会議室
出席者　佐野会長ほか14名
議事　(1)建築関係団体合同忘年懇親会開催の件
(2)会員実態調査報告の件
(3)入退会者承認の件
(4)創立70周年記念事業企画の件
(5)報告事項

編　集　委　員　会

第３回法令分科会
2日　2時～4時半　於本会会議室
出席者　広江幹事ほか３名
議事　(1)法令コーナーと用語解説コーナーの企画
(2)61年５月号法令特集の企画

第６回作品作風小委員会
4日　6時～10時　於本会会議室
出席者　北村副委員長ほか５名
議事　(1)掲載状況報告と新建築調査表の選定
(2)「Gallery」内容報告・検討
(3)作品月評欄、作品ニュース欄の検討
(4)その他

第２回書評委員会
10日　6時～8時　於本会会議室
出席者　太田隆信氏ほか５名
議事　10月号以降の書評頁の企画と検討

第６回委員会
12日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか５名
議事　(1)９月号「都市と健康・スポーツ」特集および「接合―人体と建築にみる―」特集報告
(2)10月号「これからの住空間」特集および「日建設計創立35周年記念・作品集」特集報告
(3)11月号「第32回青年技術者」特集、「村野藤吾追悼集」、および「日本建築協会東海支部復活25周年記念号」の件
(4)「屋根」特集報告―施工材料分科会―
(5)９月号以降の特集の組みかえ
(6)小委員会の報告（投稿欄・巻頭グラビア）
(7)来年の表紙スケッチについて
(8)収支状況報告

「村野藤吾追悼」特集第４回編集幹事会
20日　6時～8時　於本会会議室
出席者　出江　寛氏、狩野忠正氏、辻野純徳氏、水谷頴介氏、笹木　篤氏
議事　(1)南大阪教会の図面の選定
(2)「村野藤吾と大阪の町のかかわり」の構成案
(3)エピソード聞きとりの対象者の特定

第32回青年技術者選衡委員会
24日　1時～4時　於本会会議室
出席者　井上委員長、寺本敏則・徳岡昌克・森内盛一郎・溝神宏至朗・金多潔・須賀好富・池山壮一郎・荒井清・浅田孝夫・藤田孝吉の各委員

第６回広告企画小委員会
24日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか６名
議事　(1)９月号「都市と建築・スポーツ」特集広告収入報告
(2)10月号「日建設計創立35周年記念」特集および「接合―人体と建築にみる―」特集広告経過報告
(3)11月号「第32回青年技術者」特集、「村野藤吾追悼」特集、「日本建築協会東海支部復活25周年記念・伊勢湾物語」特集広告経過報告
(4)12月号「屋根」特集・「これからの住空間」特集報告
(5)収支状況報告

第６回投稿欄小委員会
25日　6時～8時　於本会会議室
出席者　中馬副委員長ほか２名
議事　10月号以降の企画、その他

「設計者のプロフィール」インタビュー
5日　寺嶋繁久氏　於Sim建築事務所
6日　上田信也氏　於日建設計
27日　谷山　隆氏　於コンコード建築設計事務所

事　業　委　員　会

若い会員の集い企画分科会
2日　7時～9時　於ヤマギワ大阪店
出席者　岡幸男氏、大川主査ほか４名
議事　個展の企画について

第４回若い会員の集い小委員会
3日　6時半～9時15分　於本会会議室
出席者　石川副委員長ほか10名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)本年度第２回以降の企画、その他

第５回広報小委員会
4日　6時～9時　於本会会議室
出席者　掃部幹事ほか８名
議事　本年度の事業企画、その他

第４回見学会小委員会
5日　6時～8時　於本会会議室
出席者　正楽井副委員長ほか５名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)８月の見学会実施報告
(3)９月以降の見学会企画、その他

第４回委員会
12日　0時半～1時40分　於本会会議室
出席者　三品委員長ほか６名
議事　(1)各小委員会の事業報告ならびに事業計画
(2)'85建築関係団体合同忘年懇親会
(3)次回開催日

若い会員の集い打合せ
16日　2時～7時　於芦屋
出席者　山形・石川両副委員長、三好主査ほか１名
「芦屋文化村」見学企画および現地下調査。

若い会員の集い企画分科会
24日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　大川主査ほか３名
議事　「岡幸男氏の個展及び講演会」の企画

広報研修分科会
25日　6時半～8時　於本会会議室
出席者　奥主査ほか２名
議事　(1)「目神山の家々を訪ねて」の企画
(2)見学スケジュール、会告原稿の検討、その他
26日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　原見副委員長、掃部・木場両幹事ほか３名
議事　本年度の研修会の企画、その他

広報教室分科会
27日　6時～9時10分　於本会会議室
出席者　原見副委員長、奥村幹事ほか３名
議事　(1)「教室」の企画
(2)その他

出　版　委　員　会

第５回委員会
17日　4時～5時　於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか６名、学芸出版社
議事　(1)選書とプロのノウハウの経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定
(3)その他

建　材　委　員　会

19日　3時半～5時半　於本会会議室
出席者　牧田委員長ほか14名
材料説明：レミファルトT／担当：元木委員
議事　今後の検討建材

講　習　会

建築工事実務講習会（神戸開催）
19日　9時～17時　於神戸市立中小企業会館
科目講師
●施工計画　大林組本店建築工務部次長　金田　宏氏
●仮設見積　大林組本店建築工務部工務課長　安立　俊夫氏
●積算業務　竹中工務店大阪本店見積課長　黒川征一郎氏
聴講者　30名
共　催　本会・兵庫県建築士会

見　学　会

守口都市計画河原地区第一種市街地再開発事業の見学
20日　2時～4時30分　於守口市河原町
参加者　52名
■建築施設Ａ棟概要
設計監理　守口市都市再開発部、㈱久米建築事務所
施　工　鹿島建設㈱・㈱大林組共同企業体
■建築施設Ｂ棟概要
設計監理　守口市都市再開発部・㈱安井建築設計事務所
施　工　㈱竹中工務店・㈱銭高組共同企業体、清水建設㈱、不動建設㈱共同企業体

建　築　ク　ラ　ブ

10日　8時～9時半　於大阪グランドホテル
当日は、京都精華大学学長笠原芳光氏より、「建築の宗教性―白井晟一をめぐって―」と題して、白井氏の建築についての一考察を伺った。

建築業務基準委員会

25日　2時～4時　於日本建築士会連合会
出席者　構成団体各委員、建設省石川、西尾両氏
議事　建築業務基準について（継続）

建築防災関係法令研究連絡会

24日　11時～2時半　於日本建築家協会
出席者　構成団体各委員
議事　(1)危険物規制について
(2)建基法と他法の整理、統合の一般的基準
(3)次回開催日

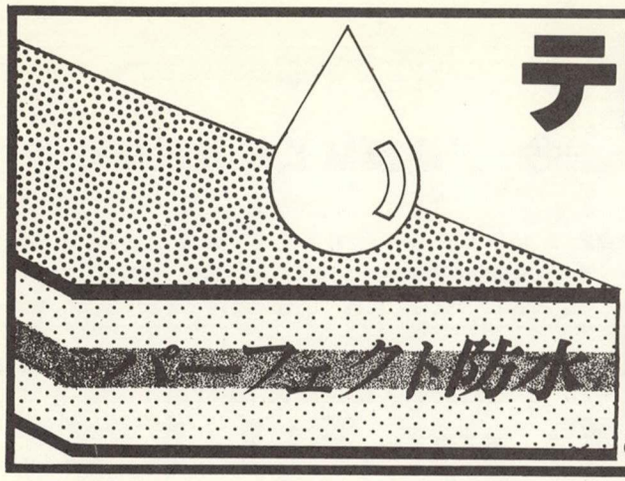
９　月　の　入　会　者（敬称略）

〔団体会員２社〕
㈱Sim建築事務所　　都島工業高等学校建築科

〔個人会員27名〕

板根政廣（鴻池組）	茨木葆彦（鴻池組）	今井好夫（鴻池組）
内門　勉（鴻池組）	片渕義明（鴻池組）	鬼頭　城（鴻池組）
北村安則（鴻池組）	七角晃郎（鴻池組）	竹内義彦（鴻池組）
竹田三夫（鴻池組）	辻井政文（鴻池組）	西村克也（鴻池組）
林　澄男（鴻池組）	山上武宏（鴻池組）	飯田正信（松村組）
江崎　誠（松村組）	遠藤正雄（竹中工務店）	川北　英（竹中工務店）
寺田高久（竹中工務店）	前川　清（竹中工務店名古屋支店）	太田保俊（関西電力学園）
小嶋耕司（シルバースター）	土屋壽満（スマ・ブライトマート研究所）	林　和久（日建設計）
林　良裕（野村建設工業）	福岡芳明（近畿地方建設局）	山辺秀夫（大林組）

〔訂正〕本誌昭和60年10月号112頁上段の広告㈱小野工業所の本社住所をつぎのように訂正するとともに謹しんでお詫びします。**東京都墨田区石原４丁目12番１号**



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーパータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8—4—9	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6—1—41	電話06（391）1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1—3—30	電話0487（74）2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

■防火・防煙シャッター　■軽量シャッター
■ステンレスシャッター　■クリスタルシャッター
■アルミニュームシャッター　その他特殊シャッターの製造

アフターサービスの24時間態勢完備

鈴木シャッター工業株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号	電話大阪	06（市外局番）371（代表）4151～6
北陸営業所　金沢市長田町119番地	電話金沢	0762（市外局番）65—5135～6
神戸営業所　神戸市長田区大橋8-4-7	電話神戸	078（市外局番）611—7971 631—2021

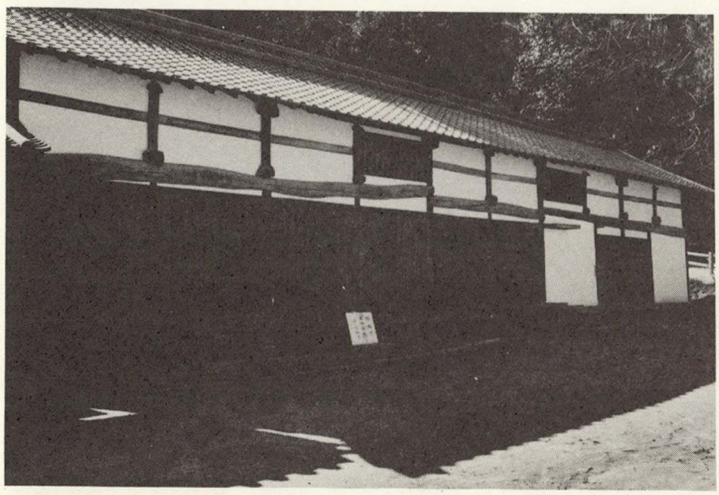
防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎（943）6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市





空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話 (434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話 (302)2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話 (352) 1131 (代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話 (667)3431 (大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生
防災・汚水処理 設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944(代)
神戸市中央区下山手通6-2-8 電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03—344—1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06—363—1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222—61—3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052—581—8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082—247—4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092—761—3795
出張所　青森・秋田・宇都宮・千葉・川崎・横浜・富山・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

大阪電気暖房株式会社

本店・大阪本社　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　〒550 電話(06)441-8231(大代)
東京本社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104 電話(03)535-5251(大代)
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・神戸・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号 (オートセンタービル1.2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768—5031代表
メンテナンス部　電話 大阪(06)768—1655 1代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル2〜4階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262—3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2 (日本ビル)
電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号 (新大ビル)
電話 (06) 344—6031 (代)
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話 (03) 279—5671 (大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

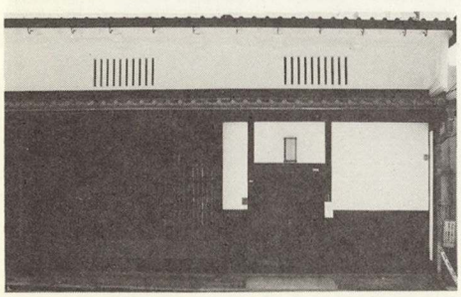
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

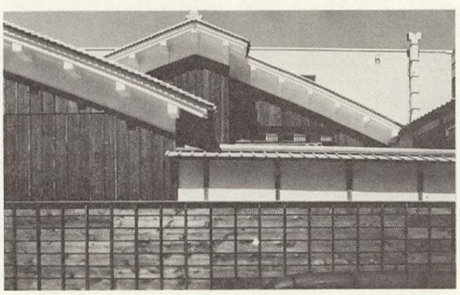
三機工業株式会社

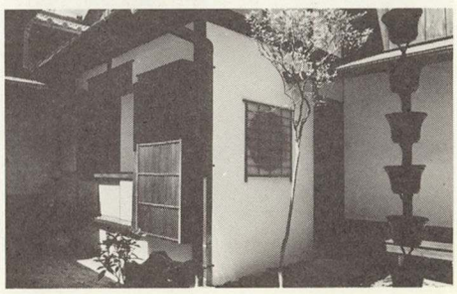
取締役社長　玉置純治郎
大阪支店長　杉浦敏郎
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪(202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営業所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

cleanair
—年中 秋のすがすがしさ!

創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06—441—5171(大代表) 〒550







商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—344—1851(大代)　大阪本社 ☎06—448—3603(代)
大阪支社 ☎06—448—5851(代)　名古屋支店 ☎052—211—1535(代)　中国支店 ☎082—247—5541
九州支店 ☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　給排水衛生　搬送機設備　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06—364—6661(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03—211—8511(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352—3501(代)
三重支店　津市栄町2—111　電話(0592)26—3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53—7431(代)
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22—9738(代)

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372)2511　(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

Carrier

冷暖房はキャリア
CARRIER

東洋キャリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

MODAIR

空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靭本町3—1—27　TEL(443) 8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支店　名古屋・福岡

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992(26)4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城 沖縄印刷団地　☎0988(55)6100

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

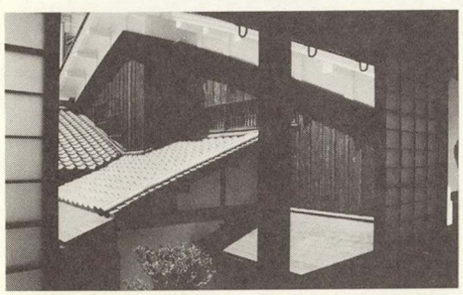
大晃設備株式会社

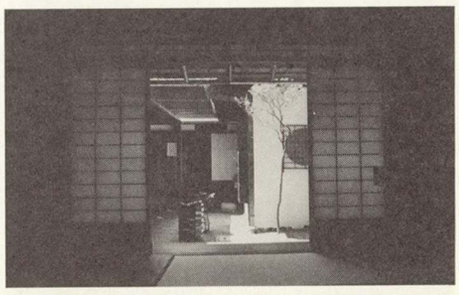
本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06—313—1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9—3　電0720—49—2128

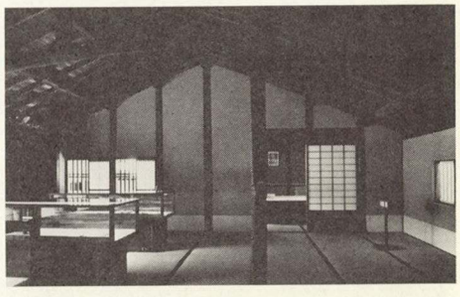
空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1—6—8　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支店　東京・名古屋・福岡
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山







電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0 6 6 5 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・滋 賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
営業所・出張所 全国主要都市2ヶ所

総合設備工事《設計・施工》
建築・電気・通信・送電線・プラント・計装・空調・土木

住友電設株式会社

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

本社 大阪市福島区福島7－22－8 Tel 06-452-1151(大代)
東京 東京都港区芝2－2－17 Tel 03-454-7311(大代)
支社 福岡・広島・名古屋・神戸・京都

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364)1471
TELEX 523－3287
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504)0231
TELEX 222－6724
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991)5131
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本 社 〒550 大阪市西区西本町1－13－33
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天理市丹波市新町50

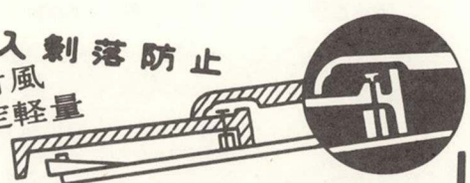
電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06－364－3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

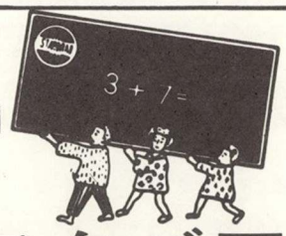
雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区難波中一－三－一八
TEL 〇六－六四一－五〇六五



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

岡田ペーパー株式会社
O.P.Co
大阪市西区北堀江２丁目５番20号
ＴＥＬ　06－531－4601(代)
06－541－2305(代)
フロアーサンディングシステム関連商品
研磨材料　＆　研磨機器
布紙ペーパー　＆　ジスクペーパー

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
製造元　日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元　ポゾリス物産株式会社
本　社／東京都港区六本木３－１６－２６　☎ 03-582-8811
大阪営業所／大阪市東区北浜３－７　☎ 06-202-3294

デンカCSA　デンカセメント
セキサンバイル(S M.AC.PC.RC)
カネライトフォーム.ALC.鋼材
建築材料一式
浜宗産業株式会社
代表取締役 濱岡　浩
本　社　〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野
ＴＥＬ　(07727)2－２２２０(代)
舞鶴営業所　〒624　舞鶴市福来１６０-1
ＴＥＬ　(0773) 76－0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社　本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
(膨張性混和材)
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
(グラウト用無収縮材)
●デンカキューテックス……コンクリート躯体の漏水補修に
(止水・補修用急硬セメント)
●デンカES……地盤補強用薬液注入
(土質安定用急硬材)
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
(製品用超高度混和材)
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）２７２－８５０１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
株式会社トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１

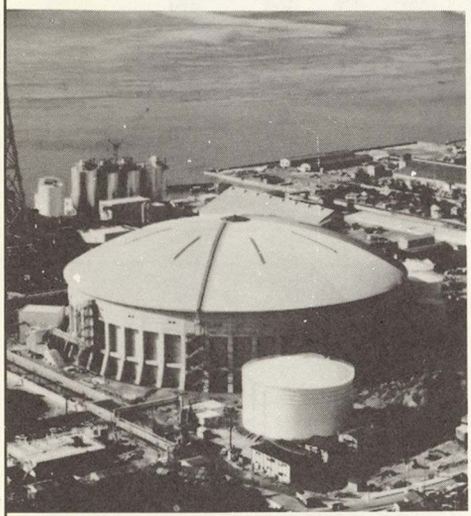
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)



電発竹原火力石炭庫屋根に採用

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・其の他

※ カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
営業部　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北

No. 413　1月号

月刊 建築技術

12月17日発売！
予価 1,500円

株式会社 建築技術
〒160 東京都新宿区北新宿
1-8-1 中島ビル
☎東京 (363) 4211(代)

特集 混和材料 ア・ラ・カルト
こんくりいと・グルメ集

1. 混和材料のあらまし……河野 俊夫
2. 混和剤のかがく……工藤 矩弘
3. あわを入れてみよう さらに水を減らしてみよう(ＡＥ剤・ＡＥ減水剤)……佐藤 次郎
4. シェフもてこずる特製スパイス(高性能減水剤・流動化剤)……福士 勲
5. ふくらしこを入れよう(膨張材)……神保 和己
6. しおは有害(鉄筋防錆剤)……清水 俊彦
7. プラスチックをまぜよう(ポリマーディスパージョン)……大浜 嘉彦
8. みずもれをなくそう(防水剤)……重倉 祐光
9. クイックサービス(促進剤)……黒田 武
10. スローサービス(遅延剤・超遅延剤)……大塩 明
11. つなぎこも材料のうち(シリカヒューム・無機質微粉末)……河野 清

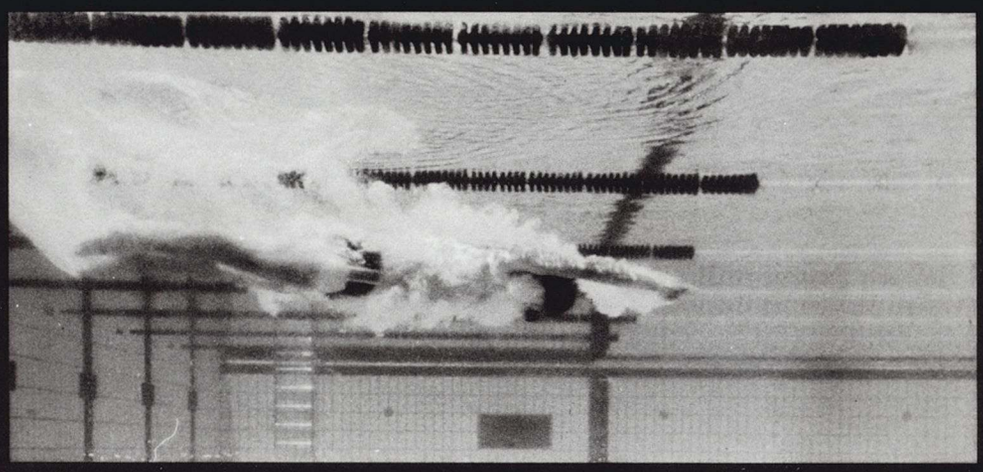
今回は、おいしいコンクリートの料理を召上がっていただきます。グルメがそろっている現場実務者のために、または、コンクリート料理の一般常識として、それぞれのシェフたちがすばらしい腕をふるって、いろいろの混和材料を使った一品料理に仕上げています。楽しいイラスト入りでだれにでも理解できる内容になっています。

GaiL
Architectural Ceramics

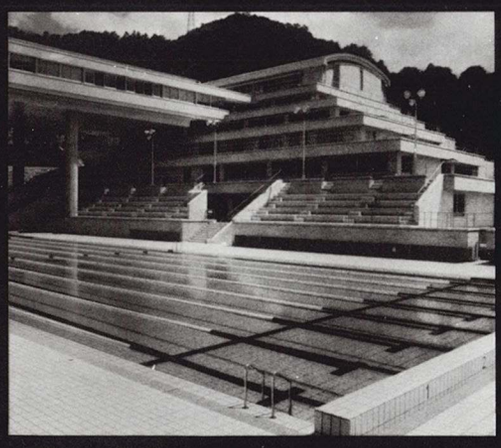
歩くまえに泳げと……プールに実現した科学の水。

ヘルシー感覚を満喫させるセラミック・プール。ただ水を張ってあるプールではなく、こころと体をすみずみまでもてなす志野陶石のプール哲学。

人工的に——だから飲めるまでに美しい水を
人工的に——だから自然に負けぬ造形美を
人工的に——だから人間にとって最も安全に



松山商科大学プール



創立20年 ACTS
タイルは いま 新時代

志野陶石 プール関連施設部

京都:〒604 京都市中京区御池御幸町西・北側 ☎075-222-2311代
東京:〒105 東京都港区虎ノ門1-17-3第12森ビル7F ☎ 03-580-9189代

建築と社会　第66輯第11号
昭和60年11月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

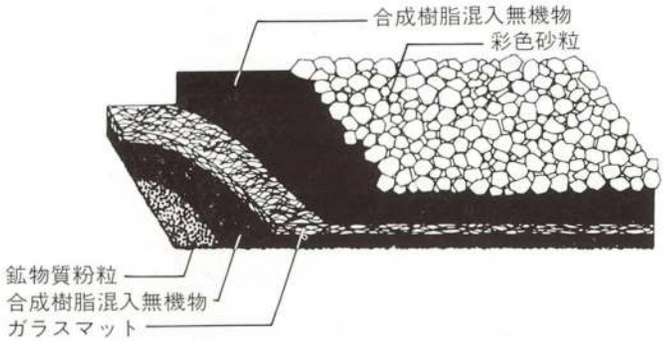
三星フネンシングル

サティオン 光と影のモニュメント
新しい屋根との出会い

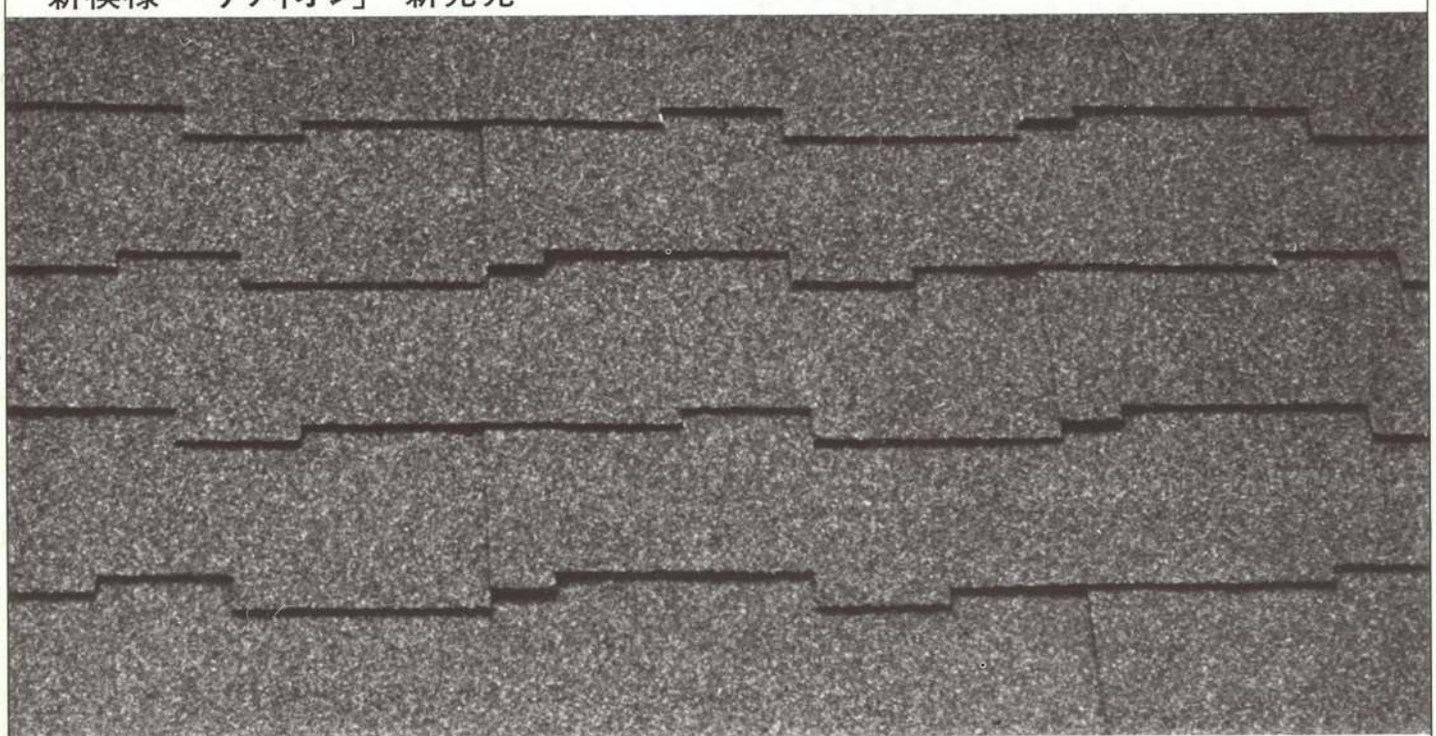
特 長

- ●法定不燃材です。
- ●きわめて信頼性の高い防水効果。
- ●地震に強く、安全。
- ●軽量で、なじみがよく曲面にも施工可能。
- ●すぐれた耐候性、耐変色性。
- ●抜群の寸法安定性。
- ●美しく、ソフトな外観。
- ●十分な耐風圧性。

構 成



新模様 「サティオン」 新発売



建築デザインの多様化は、一面で屋根表現の多様化ともいえますが、田島のアスファルトシングル〝三星シングル〟は、発売以来30余年、そのすぐれた材質と特性で、現代建築の発展にユニークな1ページを築いてきました。この実績をベースに独自の開発技術を結集して、いま、建築界の長年の夢であったシングルの不燃化を実現！

◉カタログを用意しています。
企画係までご請求ください。

地震に強く・柔かく・すぐれた屋根システム

特許 三星 不燃シングル

建設大臣認定 不燃(個)第1552号

田島ルーフィング株式会社
西日本三星シングル工事協同組合

大阪 〒550 大阪市西区京町堀1-10-5
電話（06）443-0431

東京 〒101 東京都千代田区岩本町3-11-13
電話（03）862-8531

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1-の1-の3の2100 電話大阪06(348)0635
（表紙デザイン・吉引顕久）
振替口座大阪1-三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九五〇円（送料共）